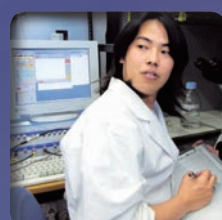


知と自由への誘い

# KYOTO UNIVERSITY 2006



京都大学 大学案内  
2006



# 京都大学の基本理念

京都大学は、創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ、多角的な課題の解決に挑戦し、地球社会の調和ある共存に貢献するため、自由と調和を基礎に、ここに基本理念を定める。

## 研究

京都大学は、研究の自由と自主を基礎に、高い倫理性を備えた研究活動により、世界的に卓越した知の創造を行う。

京都大学は、総合大学として、基礎研究と応用研究、文科系と理科系の研究の多様な発展と統合をはかる。

## 教育

京都大学は、多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる。

京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する。

## 社会との関係

京都大学は、開かれた大学として、日本および地域の社会との連携を強めるとともに、自由と調和に基づく知を社会に伝える。

京都大学は、世界に開かれた大学として、国際交流を深め、地球社会の調和ある共存に貢献する。

## 運営

京都大学は、学問の自由な発展に資するため、教育研究組織の自治を尊重するとともに、全学的な調和をめざす。

京都大学は、環境に配慮し、人権を尊重した運営を行うとともに、社会的な説明責任に応える。

(平成 13 年 12 月 4 日制定)





[写真] 京都大学のシンボリック建物である「百周年時計台記念館」と、  
京都大学のシンボルマークの題材となったクスノキ

# Index

京都大学の教育が ————— 2  
目指すもの。

[学術的教養] ③

[文化的言語力] ④

[基礎的知力] ⑥

◎誌上ゼミナール

ポケット・ゼミ ————— 8

◎さらなる飛躍へ

留学生交流 ————— 15

大学院進学 ————— 18

ベンチャー起業 ————— 20

就職支援 ————— 22

◎学生生活サポート

図書館 ————— 26

京都大学生生活協同組合 — 28

学生生活を支援する ——— 30

制度や施設

クラブ・サークル ————— 32

学部紹介 ————— 34

総合人間学部 ③4

文学部 ③8

教育学部 ④2

法学部 ④6

経済学部 ⑤0

理学部 ⑤4

医学部 ⑤8

薬学部 ⑥4

工学部 ⑥8

農学部 ⑦2

教員の研究テーマ紹介 — 76

入学者選抜要項・学生募集要項の請求方法 — 92

多様な入学制度／京都大学オープンキャンパス — 93

キャンパスマップ・交通案内 ——— 96

# 京都大学の教育が 目指すもの。

「即戦力を求める傾向の強い社会的風潮に流されることなく、  
教養が豊かで人間性が高く、  
社会でリーダーとして活躍できる人材の育成を希求しています。」

京都大学高等教育研究開発推進機構長 丸山 正樹



丸山 正樹

京都大学高等教育研究開発推進機構長

1969 (昭和 44) 年 京都大学大学院理学研究科数学専攻修士課程修了。  
1990 (平成 2) 年 京都大学理学部教授  
1999 (平成 11) 年 京都大学大学院理学研究科長 (平成 13 年 3 月 31 日まで)  
2003 (平成 15) 年より現職。  
2004 (平成 16) 年より京都大学副学長を兼務。

京都大学の教育課程は、本学の基本理念にあるように「多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる」ことを実現すべく用意されています。京都大学は百年以上の歴史を誇る総合大学であり、殆どあらゆる学問分野に多彩な教員を擁しています。この教育課程の下で教員集団は、「教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する」ため、幅広く深い教養教育、学問の先端を学ぶための土台とも言える確かな基礎教育、多様な分野にわたる専門教育、

さらには第一線の研究者教育まで、質の高い教育に携わっています。

京都大学の 10 学部はそれぞれ固有の伝統と歴史、個性ある教育・研究目標を持っており、お互いの協力と調和を根幹としながら切磋琢磨し、総体として強い教育・研究力を実現しています。文学部や理学部のように「虚学」といわれる分野を中心とする学部よりも、法学、経済学、工学、医学、農学など「実学」教育に力を注いでいる学部が大勢を占めていますが、即戦力を求める傾向の強い社会的風潮に流されることなく、教養が豊かで人間性が高く、社会でリーダーとして活躍できる人材の育成を希求しています。

## 京都大学の教育課程

京都大学は、自由闊達な気風を求める「自由の学風」を歴史的に育てており、その教育課程は、学生個々人の自発自啓を基本精神として、教養教育と専門教育を系統的に編成したものになっています。

各学部における4年間(医学部は6年間)の一貫性を持った教育カリキュラムに基づいて、学生は早い時期から自ら学ぶ姿勢を身につけ、積極的に研究活動に携わることができず。

本学では、教養教育を全学的な立場から企画・運営する責任組織として、「高等教育研究開発推進機構」を設置しています。「機構」においては、本学が掲げる教養教育の目的を達成するため、幅広い基礎教育の充実、外国語教育の改善、学生の自主的な勉強意欲を引き出す教育環境の活性化に取り

組んでいます。

各学部が専門教育と共に重視している教養教育は主に「全学共通科目」に具体化され、A群(人文・社会系科目)、B群(自然科学系科目)、C群(外国語科目)及びD群(保健体育科目)の区分のもとに、基礎から高度な内容にわたって多種多様な科目が提供されています。これをもとにして各学部は卒業に要する単位数を定めていますが、それらの科目選択は基本的には学生の自由意志に委ねられています。

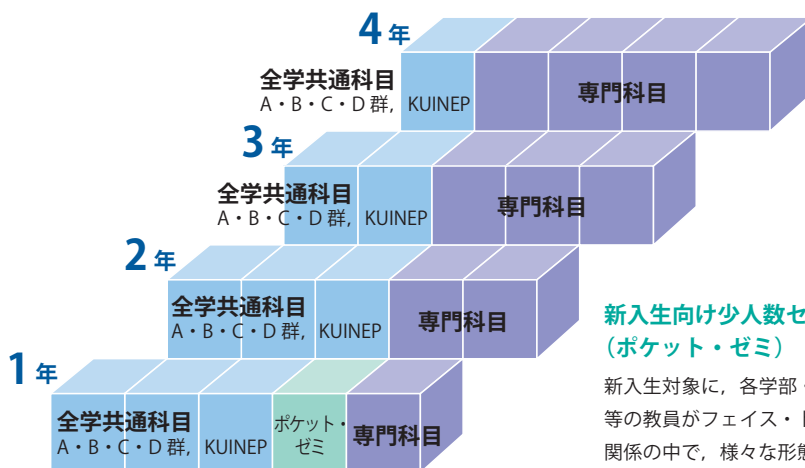
## 新入生向けガイダンスの実施 (全学共通教育)

全学共通教育(教養教育)の全学的な責任組織である高等教育研究開発推進機構では、全学部(10学部)の新入生を対象とした「全学共通教育に係る新入生向けガイダンス」を実施しています。



このガイダンスにおいて、本学の教育課程及び「自由の学風」に根ざした教育理念や学生個々人の自学自習を基本精神とした教養教育の目的・目標等を紹介し、さらに総合大学としての特徴を生かして各学部、研究科、研究所及びセンターから提供される932科目に及ぶ多様な全学共通(教養)科目について、その選択の仕方や適正な履修方法の説明を行っています。

このガイダンスにおいて、本学の教育課程及び「自由の学風」に根ざした教育理念や学生個々人の自学自習を基本精神とした教養教育の目的・目標等を紹介し、さらに総合大学としての特徴を生かして各学部、研究科、研究所及びセンターから提供される932科目に及ぶ多様な全学共通(教養)科目について、その選択の仕方や適正な履修方法の説明を行っています。



### 全学共通科目

平成17年度は、人間・環境学研究科と理学研究科を中心に、各学部、研究科、研究所及びセンター等から932科目の提供があり、内訳は次のとおりです。

A群(哲学・思想、歴史、文明、芸術・言語文化、行動科学、地域・文化学、社会科学等の系列科目): 351科目

B群(数学、物理学、化学、生物学、地球科学、情報科学等関連科目): 373科目

C群(英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、イタリア語、スペイン語、朝鮮語、アラビア語、日本語[留学生対象]): 89科目

D群(健康科学・スポーツ実習等): 8科目

国際教育プログラム(KUINEP): 20科目

国際交流科目: 2科目

各群共通: 89科目

[全学共通科目について詳しく知るには]  
高等教育研究開発推進機構  
共通教育推進部教務掛  
<http://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/>  
e-mail: [kyomu881@mail.adm.kyoto-u.ac.jp](mailto:kyomu881@mail.adm.kyoto-u.ac.jp)

### 専門科目

学部科目(専門科目)は、各学部の教育方針に基づき、1年次から学部の専門科目を配当しています。なお、他学部の専門科目も受講することができます。

\*学部の専門科目については、学部紹介のページをご覧ください。

### 新入生向け少人数セミナー (ポケット・ゼミ)

新入生対象に、各学部・研究科・研究所・センター等の教員がフェイス・トゥ・フェイスの親密な人間関係の中で、様々な形態の授業を行うものです。異なる専門分野の教員と接することにより視野を広げ、人間・社会・自然について深く考える力を養成することになります。

授業は、歴史、地理、古典の講読や環境・資源・宇宙・医学等の最先端の研究結果の紹介、野外実習など総合大学ならではの豊富なメニューです。

平成17年度は、「海岸生物の生活史」、「地球を測る」、「医療と薬」、「ブラックボックスを開けよう」、「チンパンジー学集中実習」等146科目を開講しています。(各学部の特色あるポケット・ゼミの内容を、8ページから13ページに紹介しています。)

**学生個々人が  
学問と向き合うことを通して、  
高い自律性、優れた価値基準、  
豊かな人間性の獲得を目指す。**

本学の教養教育の目的 [学術的教養]

本学の教養教育の目的「文化的言語力」

# グローバル社会における 指導的活躍の基盤となる、 異世界文化理解と 外国語運用力の修得。



【写真】 CALL 教室における外国語授業

「学術的教養」は、深い思考とこれに裏付けられた豊かなコミュニケーションによって生きたものになります。そしてこれは高度な言語力に支えられます。あらゆる学術的活動や社会的活動がグローバル化を特徴としている今日、地域や民族文化の固有性の認識を基礎としつつ、国境の壁を越えて共通の言語による対話を可能にする高度で文化的な言語力を修得することが求められます。本学の教養教育においてはこの「文化的言語力」の修得を重視します。言語力の修得は、大学

の限られた授業時間のみで達成できるものではないことはいまでもありません。学生諸君の日常的な自学自習を促進するための、学習法や教育方法・教材等の工夫・改善を進めていくことを目標としています。

## 語学学習システム等による 外国語教育

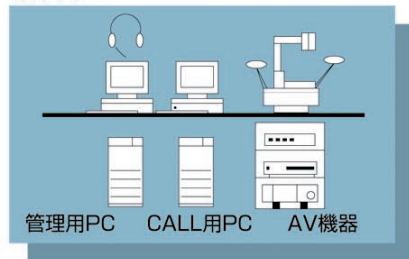
外国語実習等では、外国人教師（英語：15名、ドイツ語：3名、フランス語：6名、

中国語：15名、ロシア語：1名、スペイン語：2名、イタリア語：2名）による授業を行っています。

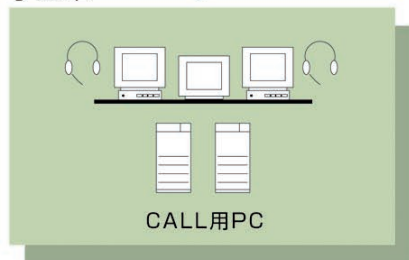
また、英語や仏語等では、2回生向けとしてコンピュータ支援型英語学習（CALL: Computer-Assisted Language Learning）のクラスを設けています。これは、最新教育システムを駆使して、個々の学生の能力にみあった徹底的な読解、作文、ヒアリング能力の総合的な向上を図るものです。

CALLと呼ばれているコンピュータを利用

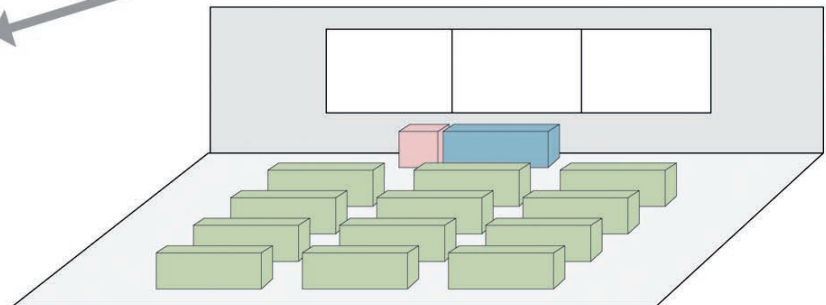
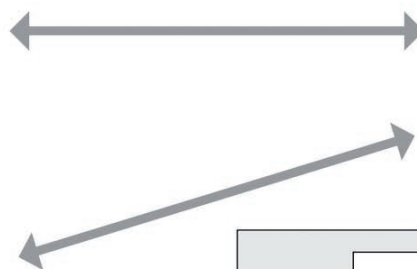
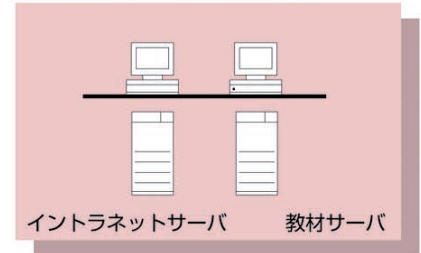
### 教官卓



### 学生卓



### CALL用サーバシステム



CALL教室システム概念図

した外国語の学習支援は、情報環境機構により運用されている語学学習システムで、コンピュータによる音声や画像などのマルチメディア処理技術を活かした外国語学習環境の構築を推進しています。学術情報メディアセンター南館内に語学実習 CALL 教室を展開し、全学共通教育の外国語科目を中心に語学教育の支援活動を行っています。

CALL 教室は、教員卓、学生卓 (60 台)、AV システムからなる CALL システムで構成



[写真：上] CALL 教室の学生用ブース

[写真：下] CALL 教室の教員卓

されており、主に外国語の授業に利用されています。

教員卓、学生卓にはネットワークにつながった PC に、ヘッドセットマイクロフォン、MD レコーダ、CCD カメラ (301 教室) 等の周辺機器や、DV、VHS、DVD、MD、Hi8 などの各種メディアに対応する AV システムが備えられており、マルチメディアを利用した外国語学習に適した環境となっています。また、コースウェアマネジメントソフトウェアが導入されており、教員が教員卓のヘッドフォンから学生のヘッドフォンへ直接話しかけることや、学生卓にビデオの映像を配信することなどが簡単な操作で行えるため、普通教室での授業よりも効率的な授業が可能になっています。

### 京都大学国際教育プログラム (KUINEP)

海外の協定校より迎えた 30 余名の留学生とほぼ同数の日本人学生に、学際的・先端的なテーマを学際的な講師陣が英語で講義を行っており、学部によっては卒業に必要な単位 (1-2 単位) に認定しています。

平成 17 年度は、「日本の法と政治」、「情報と社会」、「エネルギー・資源」等 20 科目を開講しています。

### 国際交流科目

国際交流科目は、本学学生の海外留学や、海外研修を促進するために平成 17 年度から設けられ、提供を希望する学部・研究科あるいは研究所と留学生センターが協力して企画する全学共通科目です。この科目は海外の大学等で研修を行い、現地の自然・政治・経済・文化・歴史などを学ぶことを目的とします。

平成 17 年度は、「中国の社会・経済・文化」、「変容する東南アジア-環境・生業・社会」の 2 科目を開講しています。



[写真] KUINEP 講義風景

教育環境のさらなる充実を目指して①

## 自主的な学習を支援する施設



[写真] Student Research Room の様子

### Student Research Room

学生が自主的に学習できる静かな空間を提供することを目的に「Student Research Room」を吉田南総合館北棟地階に平成 16 年 4 月に設置しました。10 時から 19 時までの開室時間に多くの学生が来室しています。

### CALL 自律学習コーナー / CALL Learning Space

学術情報メディアセンター南館オープンスペースラボラトリー内には、「CALL 自律学習コーナー」を展開しており、語学教材を自習できる端末を設置しています。

CALL 自律学習用端末では、センターで開発された *Introduction to the Beauties of Kyoto* を始め、本学教員が開発した英語、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国・朝鮮語などの自律学習用外国語

教材、またライセンス取得済みの市販教材の一部の学習をすることができ、学生にとっては必須の環境となっています。

また同じく語学の自習用として、吉田南総合館北棟 2 階に設けられた「CALL Learning Space」では、ヘッドセットと CALL 授業 (外国語教育参照) のテキストがインストールされた Windows 自習用端末を 20 台、ティーチング・アシスタントの常時配置で学習を支援しています。



[写真：上] CD-ROM 版 CALL 教材

[写真：左] CALL 自律学習用端末の利用風景

担当掛：情報環境部 情報基盤課 教育・語学システム支援グループ



〔写真〕 オープンスペースラボラトリー（学術情報メディアセンター南館）

# 学術研究の専門家として、 また社会における指導的活動の 強固な基盤となる幅広い 基礎知識・技術・技能の修得。

## 本学の教養教育の目的〔基礎的知力〕

伝統的に築きあげられてきた個別学問領域は、情報技術の革命的な発展によって変革期にあるといえます。このような現状において、異分野間で語り合うことができる共通の基盤を確立することが不可欠になっています。それぞれの専門に関わる学術の基礎を幅広く修得するとともに、自然科学分野における人文・社会分野の基礎的知識や判断基準、文系分野における自然科学の知識・素養の獲得は、教養教育の重要な部分です。「基礎的知力」とはこれを指しています。学生の学習歴が多様化し、蓄積の幅や一貫性が必ずしも十分でない今日、諸分野の基礎のバランスある修得を目指した伝統的な共通基礎教育の強化が目標になります。

## 情報教育

京都大学では、理工系学部のみならずほとんどの学部において基礎情報処理教育が行われています。その内容はいわゆるコンピュータに関する読み書き能力を中心としたものです。理工系学部によってはこれらの教育を専門基礎科目として、あるいは、全学共通科目のB群科目としていますが、文系学部ではさらに初歩的なレベルからの教育も

行っています。

また、実践機関として学術情報メディアセンターがあり、情報リテラシー教育支援、語学教育支援、遠隔講義支援、コンテンツ作成支援等を行い、全学共通科目を中心としながら、各学部での専門教育におけるメディア技術をも促進しています。

## 情報環境機構による情報サービス

京都大学では教育研究などさまざまな活動を支えるために必要な、高い安全性と利便性を備えた先端的な情報環境を構築・運営することを目的に情報環境機構が設けられており、学術情報ネットワークや大型計算機システムなどさまざまなサービスを提供しています。中でも教育用コンピュータシステム、語学学習システムそして遠隔講義支援サービスは学生の皆さんにとって、京都大学での学習を支えるサービスです。

## 教育用コンピュータシステム

教育用コンピュータシステムではネットワークに接続されたパーソナルコンピュータ約1,200台を情報環境機構・学術情報メディアセンター南館内の演習用マルチメディア設備を備えた教室や学内19箇所のサテライト端末室に展開するとともに、その一部は利用者がいつでも使える自習用端末として、学術情報メディアセンター南館、附属図書館、総合人間学部・人間環境学研究科図書館内に設置してオープンスペースラボラトリー(OSL)として運用しています。これらの端末ではWindowsとLinuxの2系統のオペレーティングシステムが利用可能です。またオフィスソフトのほかプログラミング言語の処理や統計処理、数式処理など大学での学習に必要なさまざまなソフトウェアが導入されています。さらに、利用者には電子メールのアカウントが与えられ、WWWブラウザを利用したWebメールシステムにより学内だけでなく、学外からもメールの読み書きが行えます。このようなサービスにより、授業と自習とに統合的な情報環境を提供するとともに、電子メールやWWWを利用したコミュニケーション環境を提供しています。

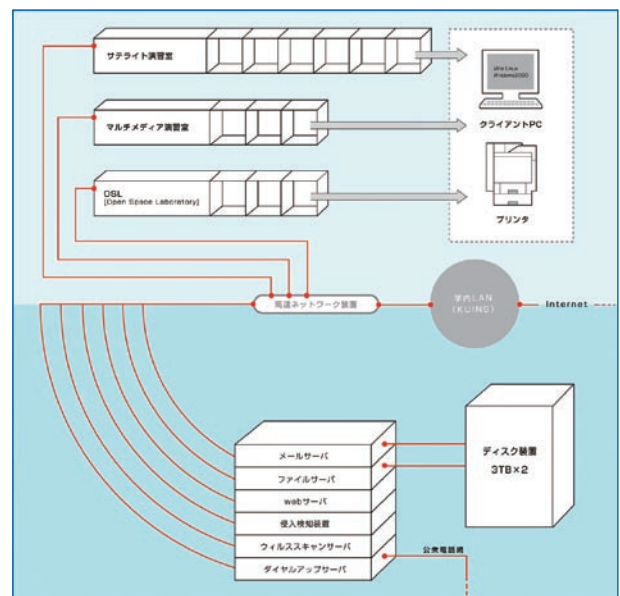
### 教育用コンピュータシステム・OSLの

サービス時間

月～金曜日：10:00～20:00

土曜日：10:00～17:00（試行中）

担当掛：情報環境部 情報基盤課  
教育・語学支援グループ



〔図〕 教育用計算機システム システム構成図



遠隔講義支援サービス

遠隔講義支援サービスでは、学術情報メディアセンターをはじめとする学内の遠隔講義用施設を利用して、国際遠隔講義、大学間遠隔講義、キャンパス間遠隔講義など、様々な遠隔講義の支援を行っています。カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) との共同で両校の学生がネットワークを介して一緒に授業参加できる遠隔講義を1998年から継続しているのに加え、台湾との遠隔講義、中国、マレーシアとの3ヶ国同時進行型遠隔講義、インドネシア、タイとの国際シンポジウムなど、新しい講義やセミナーも



【写真：上下とも】国際遠隔講義義風

次々に開設されています。国内の他大学（慶応義塾大学、広島大学、東京電機大学など）との遠隔講義も開講されており、他大学の学生と同時に講義を受けることのできる機会も広がりました。

これらの遠隔講義の多くは全学共通科目として開講されており、学年や学部にかかわらず受講できる体制となっています。さらに、桂キャンパスの開設にともなって、吉田、桂、宇治各々のキャンパスを結ぶ高精細遠隔講義システムも運用が開始されました。開講されている講義をキャンパス間の移動なしに受講できるため、受講科目選択の幅が広がっています。このほか、衛星回線を用いた遠隔講義システムSCSの運用を行っており、国内の多数の大学・研究機関を結んだ遠隔講義、会議を支援しています。

担当掛：情報環境部 情報基盤課  
データベース・遠隔講義システムグループ

OCW@KU プロジェクト

京都大学ではアメリカマサチューセッツ工科大学 (MIT) 及び東京大学、大阪大学など国内の6大学と共同でOpen Course Wareを始めます。これは、京都大学で行われている講義の

資料をWWWで公開するものです。京都大学を受験される受験生、京都大学で勉強したい社会人の人々に対して、大学でどのような講義が行われているかの一端を公開し、興味を持ってもらうことを目的としています。京都大学に入学すればこのような講義が受けられるのだと言うことを予め知っていただいで、学生生活を有意義に送っていただけるよう掲載する講義資料の数を徐々に増やしてゆきますので、OCW@KUに注目してもらって、アクセスしてください。京都大学の知的世界を楽しむだけでなく、進路を決める上での重要な情報も発見できるでしょう。

URL <http://ocw.kyoto-u.ac.jp/>



【写真】OCW@KU プロジェクト ホームページ

教育環境のさらなる充実を目指して②

全学共通教育教務情報システムの開発



【写真】KULASIS 画面

KULASIS- クラス (全学共通教育教務情報システム)

高等教育研究開発推進機構では、全学共通科目にかかる全ての教務情報のWEB化に取り組んでいます。このシステムの名称は、学生から募集した結果KULASIS (クラス) に決定し、学生サービスの充実を目的として開発していま

す。具体的には、以下のシステムが稼動しています。

- 掲示板システム
  - ブラズマディスプレイの掲示板
- 各学部設置している全学共通教育用掲示板からは休講情報・教室変更等が閲覧できます。

WEB 掲示板

インターネットに接続しているパソコンがあ



【写真】プラズマディスプレイ掲示板

れば、学内・学外 (パスワードが必要) から「プラズマディスプレイの掲示板」の情報 + α の閲覧することができます。24時間アクセス可能ですので、いつでも情報を取得できます。

WEB 掲示板画面表示あります。

◎ 学生用マイページ

マイページとは、学生個人の全学共通科目に関する教務情報を公開するWEBページです。具体的には、学生各々が履修している科目についての休講情報、教室変更、さらには定期試験の時間割、レポートの提出期限の情報を得ることができます。携帯電話でも利用可能ですので、学生は手軽に情報を取り入れることができます。

◎ WEB 履修登録システム

平成17年度後期より、WEBによる履修登録を行います。このシステムにより、今まであった窓口での混雑解消やシンプルな履修登録が実現されます。

# 入学直後からスタート。 ゼミ形式により、 学問への視野を広げる 「ポケット・ゼミ」



## Pocket Seminar

【誌上ゼミナール】

ポケット・ゼミは、新入生対象に各学部・研究科・研究所・センター等の教員がフェイス・トゥ・フェイスの親密な人間関係の中で、様々な形態の授業を行うものです。異なる専門分野の教員と接することにより視野を広げ、人間・社会・自然について深く考える力を養成することになります。

授業は、歴史、地理、古典の講読や環境・資源・宇宙・医学等の最先端の研究成果の紹介、野外実習など総合大学ならではの豊富なメニューです。

ここでその一部についてゼミの内容をご紹介します。

【写真】 ポケット・ゼミの様子（工学部）

## 「野外生物学」 総合人間学部

自然生態系の理解は、野外で生物に接してその生態を十分に観察することから始まる。

ポケットゼミ「野外生物学」は、教室内の講義や時間に制約のある学生実習だけでは体得することの難しい、自然条件下における生物を対象とした調査研究の進め方を、野外での調査活動を実践することによって体得することを目指す。

野外に出る前に、まず、研究室で事前調査や討議をおこない、どのような研究課題に取り組み、どのような研究計画をたて、どのような方法を用いるのかを検討する。すでに研究に取り組んでいる大学院生との交流を通してアドバイスを受けるとともに、最近の研究論文等を「研究」し、必要な情報を集めることによって、研究計画の立て方や試料やデータの採り方を学び、各自が興味をもつ問題について研究計画などをたててみる。どのような生物の、どのような現象を、どこで、どのような方法で、どの程度の期間おこなうのか。極力、具体的に計画をたてる。また、少人数であることを生かして、各々の研究計画を互いに批判して、計画などの問題点を検討する訓練を積む。期間や、費用には制約があるが、毎週決められた時間ですまされなければならない実習とは違う調査計画を実行するところは集中講義によるポケットゼミの利点だと言える。さらに、野外調査に必要な道具の調達や安全対策の準備をおこなう。このよう



写真：「林冠部での果実の観察・採集」

な準備段階を経たあとで、いよいよ、実際に野外調査をおこなう。調査後は、野外で得た試料・データをもとに、その解析をおこない、一定の結論を得るという作業をおこなう。

このように、このゼミでは、最終的に短期間の野外調査をおこなって、生物学・生態学の課題にとりくみ、事前調査や計画立案から調査準備・実行、データ解析から結果のまとめまでの、一通りの調査研究活動を体験することによって、

野外生物学の研究の進め方を具体的、実践的に修得することを目指している。



人間・環境学研究所  
市岡 孝朗 助教授  
専門分野：生物環境動態論

## 「社会を読む—大衆文化に見るジェンダー」 文学部



「テレビやアニメ、歌が好き、雑誌をよく読む、など、この分野が好きな人に参加してほしい。」——このゼミナールの受講者募集のときに掲げた条件だ。高校までなら遊びか趣味としか見られないような事柄が、大学では立派な研究テーマになりうるということ、まず知ってほしい。大学の知の特徴は、自由であるということ。自由な知の対象は何でもいい。切り込み方によって、思わぬ対象から人間や社会の真実が見えてくる。

社会学専修の教員の担当するこのゼミナールでは、「社会を読む」ことをめざしているが、具体的には大衆文化におけるジェンダー（女性・男性などの性別）の表象されかたを糸口にして、「社会を読む」実践をしている。日本のマンガ

やアニメ、ドラマなどの世界的人気を反映して、いまや大衆文化研究は日本社会研究の花形だ。

さて、ゼミは、担当教員の「模範演技」というか、わたし自身が行った戦後女性雑誌の分析から始まった。「主婦の友」「女性自身」「ノンノ」などに登場した女性や男性の画像から、何が読み取れるかという研究である。ジェンダーに注目しつつも、男女の役割や関係ばかりではなく、社会や家族の変化、その時代の国際関係までもが見えてくる。しかし、既婚女性が短パンをはいた80年代の写真を見せながら、戦後主婦像の崩壊を話していたら、参加者は「あまり驚かない」と言う。そうか、この世代にとっては、こういう主婦像も逸脱的とは見えないのだ、つまり主婦像は崩壊ではなく変容しただけかもしれない、と少し考え直した。ゼミでは学生からヒントをもらうことも少なくないのが嬉しい。

それから、参加者たちの発表が始まった。「新聞に見る構造化された性差別表現」「女性芸人はなぜ少ないのか」「流行歌の歌詞に見るジェンダー」「朝の連続テレビ小説からみる現代家族と社会」「ビジュアル系音楽と自殺系サイト」「エヴァンゲリオンとうる星やつら」「ポピュ

ラー音楽とテクノロジー」等々、さまざまなテーマへの挑戦が続く。

発表に対しては、たっぷり討論する。「流行歌にも新聞にも、性別によって定型の表現が多用される。」「しかしそれは区別であって、差別ではないのではないか。」「いや、ステレオタイプがあること自体が女性も男性も息苦しくしている。」「女性芸人が少ないのは、笑いと『女らしさ』が同居しにくいせい。」「おもしろい女性、僕は好きだけど。」議論の内容はまだ素朴かもしれないけれど、ここで見つけた問題関心を、さまざまな分野の学問につなげて、4年間かけて深めていったらいい。

ポケットゼミは、さまざまな学部の学生が混ざって受講するので、日頃なかなか出会えないタイプの学生どうしが、意見を戦わせられるのも面白い。女性も男性も、中国やタイ、イスラエルからの留学生も参加している。大学に入ったばかりの、受験勉強の縛りから解き放たれて、意欲と好奇心に溢れ、発想がやわらかい時期に、ぜひ経験してみしてほしい。



文学研究科行動文化学専攻  
落合 恵美子 教授  
専門分野：家族社会学、ジェンダー論、歴史社会学、特に近代家族論

## 「教育の詩学」入門 教育学部

旧約聖書の「格言の書（箴言）」のなかに次のような言葉がある。

「私には、わからない3つのことがある。私の知らない4つのことがある。  
天をかけるわしの道、  
岩をはうへびの道、  
海を走る舟の道、  
乙女に向かう男の道。」

鷺には鷺にしかわからない道、蛇には蛇にしかわからない道がある。舟にはその舟を操る船頭にしかわからない海の道がある。そして、恋する男がたどるのは、乙女と結ばれた運命の糸を信ずることだけが頼りの道。

昔から、木を扱う者はみな木こりも木彫の職人も、木の性を知り、木の声を聴け、といわれてきた。また、自然を相手に仕事する者はみな農夫も漁師も空や海や山の表情を読み、風の匂いを嗅ぐことができなければならなかったという。見えにくいところにもものを見たり、聞こえないはずのところにも音を聴く—こんなことがはたして可能なのだろうか？それは普通の人間ではもはや退化してしまった動物的本能とでもいうべき能力か、それとも超人的な特殊な才能なのか？近代科学の落とし子ならば、そんなのは実証不能、検証不可能な「人間の単なる錯覚の産物さ！」と笑って言い捨ててしまうかもしれない。いや、それで結構！近代科学の実証主義、

客観主義、論理主義では割り切れない、そんな世界を相手にするのが「詩学」なるものの使命なのだから。

人は見えにくいところにもものを見だし、聞こえないところに音を聴く力で己の生を支えてきた。逆境にあつて、それを人生の終わり、不幸として苦しみ続けるか、いや、そこにこそ幸福へと続く道程の始まりを感じるか—逆境を苦しむのも楽しむのも人の知恵ひとつで決まる。

見えにくい未来に何を託し、何を、何を聴こうとするか—一人は未来をデザインすることで文化を生み出してきたともいえる。人はものを生み出すことで生きてきたのではなく、ものを生み出す力によって生きてきたのかもしれない。

人に宿るそんな力の謎を、言葉というもののもつ不思議な力、その魔力を通して探るのが、ここでの「教育詩学」のポケットゼミである。現在、法学部、文学部、教育学部、医学部から合わせて9名がこのゼミに参加している。

受験街道まっしぐらで大学までたどり着くまでに、型にはまって硬直しがちになった頭や感性をもみほぐし、言葉への新鮮な感覚を取り戻すために、まずは、感覚のリフレッシュが「詩学入門」の第一段階。普段から気になっている



流行語、陳腐な表現を集めて分析したり、同じ本を1日で読み上げたり、そのなかの10行を2日かけて読み返したり—言葉への繊細な感覚と文章へと向かう読み手のリズムや呼吸の調整法をトレーニング中である。そして、トータルな感触、心地の訓練には、畳敷きの研究室での正座、一本歯の下駄を履いての歩行訓練。「不安定のなかの安定を探る」ことを通して、猥としてはいけない不安定の中にあるからこそ掴める安定感を体験し、「心、意」を「身」に帰す修行の真っ最中である。

教育科学専攻 教育学講座

鈴木 晶子 教授

専門分野：教育哲学・思想史

## 「刑事法入門」 法学部



### テーマと目的

犯罪や非行に対応する刑事法制度の概略を理解し、そのあるべきすがたを考察する。犯罪や非行がニュース報道で取り上げられない日はないが、そこには、報道する側の取捨選択、物語構築とともに、多くは警察に始まる刑事機関の諸活動が介在しており、その根拠規定として、刑法、刑事訴訟法、少年法などの刑事法がある。犯罪事件報道等や犯罪・非行の理解、刑事システムの批判的考察には刑事法的知識が不可欠である。

### ゼミの進め方

新聞やニュースで報道された具体的事件を選んで、その刑事法的側面を検討することと、一年間の統計的数値のなかにそれを位置づけて全体的側面から、刑事法制度の運用とあるべきすがたを考察する。参加者各自の興味に応じて、具体的ニュースを取り上げるか、配付資料に基づいて統計的全体像や制度を扱うかを選んで、準備を進めたうえで、日程に従い、報告し、全員で議論するという伝統的なゼミのスタイルを踏襲する。

### 具体的ゼミ内容

神戸小学生殺傷（酒鬼薔薇）事件と少年法制度、岡山金属バット母殺し事件と精神鑑定、責任能力制度、刑事法における人権保障と犯罪対応、児童虐待の防止等に関する法律の成立と検討課題、刑事裁判と陪審・参審制度、死刑制度と死刑囚の処遇、オウム事件とオカルト犯罪、などを報告テーマに、犯罪捜査、刑事事件報道から、死刑の是非まで白熱した議論を行ってきた。今後も魅力的なテーマが目白押しである。

法学研究科

吉岡 一男 教授

専門分野：刑事学

## 「ネットワーク産業の未来」 経済学部



本ポケットゼミでは、情報通信やエネルギーのようなネットワーク産業の未来と一緒に考えています。日本のブロードバンド・インターネット環境は世界一といわれるが、本当に毎秒100メガビットの情報を送る世の中が来るのだろうか。日本の半分の電力供給は原子力に依存しているが、このようなエネルギー供給は持続可能性を持っているのだろうか。例えば、このような問題を一緒に考えています。毎回報告者を決めて、自由に自分の調査した事柄を報告してもらい、報告内容に関して、全員参加型で自由討議します。従って、相手の意見をよく聞き、自分の意見を伝え、相互理解の上に問題に対する処方箋までたどり着くというプロセスが重要です。また、実地調査を重視し、実際の企業施設見学会等も予定しています。原子力発電の仕組みを知らない人間が原発批判をしたり、光ファイバを使ったサービスを目にしたことがない人間がIT企業を起こそうとしても、誰も信じてくれません。このポケットゼミでは自分の目で見えることを重視しています。

平成17年度は工学部から2名、経済学部から2名、総合人間学部から1名の参加がありました。それぞれ毎回工夫されたプレゼンテーションが行われ、その後活発な議論が繰り広げられました。ポケットゼミでは、文系の学生と

理系の学生がほぼ半分ずつ出席し、それぞれの立場から意見交換できるところが特徴です。工学部の学生が経済原理の重要性を学び、経済学部の学生が最新技術の動向に触れることは、それぞれの将来にとっても意義深いことです。さらに言えば、進んでポケットゼミに参加するような学生は、受験勉強で燃え尽きた学生とは異なり、大学で新しい知識の獲得に燃えている前途有望な若者という印象を受けます。大学教員としても、こうした元気のよい京大生と一緒に議論できることは元気の源になります。

わが経済学研究科・依田研究室では、ブロードバンドやエネルギーの分野において先駆的な研究成果を世の中に出し、実際の経済政策にも貢献しているところです。そしてその主役は経済学研究科のみならず、さまざまな他学研究科から参加してくれる大学院生・若手研究者たちです。ポケゼミ参加者が、近い将来、我々の研究活動の一端を担ってくれることを期待しています。



経済学研究科  
依田 高典 助教授  
専門分野：現代経済学

## 「活動する宇宙」 理学部

## ポケゼミのあらし

本ポケゼミでは、テキスト「活動する宇宙」(裳華房, 1997年)を半年かけて輪講し、夏休みに飛騨天文台で2泊3日の合宿ゼミを行なっている。テキスト「活動する宇宙」は、20世紀後半に明らかになった宇宙・天体の激しい活動現象を身近な太陽から100億光年先のクエーサーや宇宙ジェットに至るまで、丁寧に解説した本であり、基礎から始めて学問の最先端まで触れることができる。ゼミの定員は8名。ゼミでは毎週、1人の学生が1章(20ページくらい)を担当し、内容をレジュメにまとめ、1時間ほどかけて解説する。

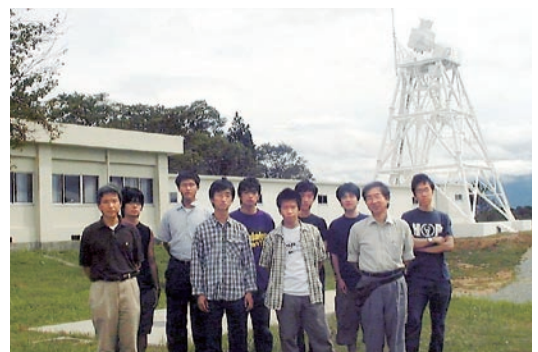
## テキストは難しい

元々このテキストは学部の3、4回生や大学院生向けに書かれているので、大学に入りたての1回生には、かなり難しい。しかし、それを承知でテキストに採用したのには理由がある。京大に入る学生がいかに優秀といえども、高校までは手取り足取りの教育しか受けていない。答えのわかっていない問題や予備知識が十分与えられていない教科書や授業は受けたことがない。しかし、大学とはそもそも答えがわかっていない問題を研究するところなのだ。講義や実習も予備知識が親切に与えられるとは限らない。そのような状況でいかに答えを見出し、問題を解決するか、それを学ぶのが大学である。

高校や予備校のように教材もヒントもすべて与えられた上での学習ではなしに、右も左もわからない状況の中で、手探りで教材やヒントを自分で探しながら勉強することが要求される。それを大学に入りたての1回生から学んでもらいたい。そういう思いから、1回生には難しいテキストを選んだ。もちろん、担当教員がいくらでも解説や補足ができるゼミ形式ならではの選択である。また、このテキストは担当教員がテキストの編者や著者に加わっているため、内容は良くわかっており、学問の最先端を生き生きと伝えるのにもっともふさわしい本と言える。実際、ゼミでは途中から担当教員によるスライドショーが始まったり、また、二人の教員による研究談義が始まったりする。テキストは学問入門のための触媒に過ぎない。

## 夏の飛騨天文台合宿

夏の飛騨天文台合宿(写真参照)は、学生にとって最も楽しい経験だ。飛騨天文台の最先端の望遠鏡や設備を見学し、天気が良ければ、太陽や星の観望もできる。運が良ければ、満天の星空に堂々たる天の川を見つけ感動して涙する女子学生もいたりする。合宿ではゼミ発表も



写真の説明：飛騨天文台合宿の際(2004年8月)。新設の太陽磁場活動望遠鏡(SMART)が後ろに見える。左端が嶺重教授、右から2人目が柴田教授。

重要行事。各人が自分の興味で自由に選んだ宇宙関係の話題の自由研究発表をやる。夜になると、自炊で準備した夕食は毎回コンパ状態と化す。半年間同じゼミに出席していたのに、合宿のとき初めて親密に言葉を交わす学生達もいる。一度驚いたのは、小学生のときに同じクラスにいたことが夏季合宿で初めて判明した学生達がいたこと。合宿とはそういう人と人との交流の場なのかもしれない。

理学研究科附属花山天文台  
柴田 一成 教授  
専門分野：  
太陽宇宙プラズマ物理学

基礎物理学研究所  
嶺 重慎 教授  
専門分野：宇宙物理学

## 「医療事故を考える」 医学部

医療事故は現在国民の関心事であり、2000年に出版されたCommittee on Quality of Health Care in America Institute of Medicineの報告では、アメリカでの医療事故による死者は交通事故による死者を上回ると推計され、損失は総医療費の数%に上ると推定されています。医療以外のhigh-risk産業、たとえば化学工業、原子力産業、航空産業などにおいては、第二次世界大戦中からシステムの信頼性工学が研究され始め、safety reporting systemの確立とその分析をおこなうことによって、安全性を高めてきました。Frontline operatorsによるインシデントレポートは、事故要因の産業衛生学的観点からの分析を進展させ、組織要因を明らかにし、probabilistic risk assessmentによる事故防止対策の構築に貢献してきました。私たちは医療においてもこの手法が適用できないかと考え研究してきました。医療が他のhigh-risk産業と異なるところは、対象が意思を持った人間であり、かつその状態が刻々と変化し、それにつれて業務量も業務内容も変化してくるという点にあります。この点を考慮しつつインシデントレポートを用いて組織要因を簡便に明らかにするために、human reliability analysisを適用したリスク分析システムを開発し、多くのインシデントレポートを分析した経験を下に、

毎回の授業を進めていきます。

教材には、「TO ERR IS HUMAN Building a Safer Health System (INSTITUTE OF MEDICINE)」、「Managing the Risks of Organizational Accidents (JAMES REASON)」, 報道される医療事故、実際のインシデントレポートなどを使用します。医療現場の詳細についての解説を行い、学生の理解を深めていきます。また、実際の現場を見る重要性から、京都大学医学部附属病院の看護部門、薬剤部門の協力を得て、病棟の見学、薬剤部の見学を行ない、医療安全の取り組みを紹介していただきます。さらに近年増加している医療過誤の裁判はどのような経緯で行われるのかを知るために、実際に弁護を担当しておられる法律事務所の見学も取り入れて、弁護士の意見を拝聴し、質疑応答を行う時間も取り入れています。

全員が意見を出しながら事故の奥に潜む組織要因を考え、対策方法を考えることにより、将来医療業務に従事する学生には、自らも安心して働ける作業環境を作り出して行く一助となり、直接には医療業務に従事しない学生におい



写真：京大病院を見学する受講生

ても、自らの生活周囲のリスクを認知し、安全な社会を構築していく一助となると考えています。



社会健康医学系専攻環境衛生学  
小泉 昭夫 教授

専門分野：産業衛生学、  
環境衛生学、遺伝疫学

社会健康医学系専攻環境衛生学  
井上 佳代子 講師

専門分野：産業衛生学、  
環境衛生学、遺伝疫学

## 「薬の有機化学」 薬学部



### 授業のテーマと目的

医薬品が開発されるまでの探索から設計・合成までを眺め、薬の化学の面白さと難しさを探る。

### 授業計画と内容

現在使用されている医薬品の歴史的な流れを理解しながら、なぜ有機化合物が医薬品として機能するのか、なぜ副作用を抑えるのが難しいのかなどについて調べ、考え、理解してもらう。

また、最新のテクノロジーとメソドロジーを駆使した医薬品開発の一端を紹介する。



薬学部では教員8名によるリレー方式でポケット・ゼミを行っています。

### 担当教員

所属部局	職名	氏名	分野名
薬学研究科	教授	富岡 清	薬品合成化学
薬学研究科	教授	藤井 信孝	薬品有機製造学
薬学研究科	教授	本多 義昭	薬品資源学
薬学研究科	教授	竹本 佳司	薬品分子化学
薬学研究科	助教授	飯田 彰	薬品合成化学
薬学研究科	助教授	伊藤 美千穂	薬品資源学
薬学研究科	助教授	宮部 豪人	薬品分子化学
薬学研究科	講師	柳田 玲子	薬品分子化学

## 「絵画の化学」 工学部



## 授業のテーマと目的

イタリア・ルネサンスを代表する巨匠レオナルド・ダ・ヴィンチは、画家を本業としていましたが、彼が残したノートには、工学、医学、天文学、流体力学、幾何学などの自然科学から音楽に至るまで、多様な分野に対するおびただしい量のアイデアが図解入りで書き記されています。彼の好奇心がおもむくところは一ヶ所に止まることなく、恐らくは自ら工夫した実験を繰り返しながら、森羅万象の謎に迫ろうとした様子を、このノートは活写しています。

古くから有名・無名の画家たちは自分のイメージを表現するために、最適な画材を選択するとともに独自の表現技法を完成させながら、絵画という芸術世界を創造してきたのでし

う。これらの画家たちは自然を絵画に写し取るために、多かれ少なかれ自然現象を注意深く観察したに違いありません。それは、感性で自然を受け入れる知覚と理性で自然を解き明かそうとする思考力の協同作業であったといえるでしょう。

このポケットゼミでは、一枚の絵画を前にしてその芸術性を鑑賞するだけでなく、優れた自然の観察者である画家が試行錯誤を繰り返しながら到達した独自の表現技法にも着目し、「化学」あるいはもっと広く「科学」の切口で絵画の技法に迫ろうとしており、簡単な実験も実施しています。

2005年度「絵画の化学」の講義風景の一部を以下に紹介します。

## ものの形と光がつくる色=構造色の不思議 (4月20日)

モルフォチョウの輝く翅の色は、翅の表面の微細な構造による光の干渉、回折、散乱に関係しており、コンパクトディスクの鏡面が虹色に見える現象と同じ原理が働いていることを学びました。また、光の三原色と色の三原色の違いを明らかにし、ペーパークロマトグラフィーを用いて水彩マーカーの黒色から赤色、黄色、青色を分離できることを実験で確かめました。

## 錯覚の絵画=だまし絵 (5月11日)

「平面の正則分割」という独特の作風で知られる M.C. エッシャーを採り上げ、三次元空間の周期的構造を明らかにする結晶学の影響を強く受けた作品群の特徴を学びました。また、錯視現象を利用した「だまし絵」に含まれる基本的なテクニックを紹介し、明暗や色彩の対比、形の配置によって実際とは異なった明るさや色、あるいは形に見える錯視現象を実験で確かめました。

## 染め草の化学 (6月8日)

万葉集の巻一に収められている額田王の有名な和歌「あかねさす紫野行き標野行き野守はみずや君が袖振る」に出てくる幻の野草「ムラサキ」の根から採れる紫根には、漢方薬や紫色の染料として古代より珍重されてきたシコニンが含まれています。今では絶滅の危機に瀕しているムラサキですが、細胞培養によってシコニンが製造されるようになってきました。身のまわりの草に含まれる染料について学んだこの日の講義風景が写真撮影されました。



工学研究科  
物質エネルギー化学専攻  
**西本 清一** 教授  
専門分野：励起物質化学

## 「中央アジアの砂漠化に学ぶ環境保全」 農学部

## 20 世紀最大の環境破壊

「アラル海が消える!」20 年ほど前から囁かれていたことが、旧ソ連の崩壊とともに徐々に姿をあらわしてきた。砂漠に灌漑水路を巡らせ水田や綿花栽培を中心とした農地への転換が図られて 20 年余り。古来天山の雪解け水を集めた雄渾の大河シルダリアは灌漑水採取のために痩せ細り、河口の先に広がるべきアラル海はその湖岸を 100km 以上も後退させた。その結果、かつて渡り鳥が羽を休めた河口湿地生態系と地域の主要産業である漁業は崩壊し、残された住民は飲料水質の悪化などにより健康を蝕まれてつづつある。そのような大きな犠牲を払って構築された農業生産システムも、不適切な灌漑により土壌の塩類集積(砂漠化)が進行した結果、耕作放棄された農地が 100 万 ha を数え、20-30% の作物収量の低下を招いており、離農を余儀なくされた農民も数多い。この 20 世紀最大ともいわれる環境破壊から何を学び、これから何をなすべきか?

## 学際的な研究アプローチ

90 年代初頭から私たちは環境科学、土壌学、水文学、水産学、林学、農業経済学、疫学、栄養学などの専門家からなる研究チームを組織し、現地カザフスタンの科学アカデミー、大学、NPO 研究者や農業、医療セクターの実務家、地域住民とともに、この問題の解析と解決

のための共同研究に取り組んできた。環境問題の解決には、従来確立されている学問体系や研究方法に則った堅実かつ深化した研究が必要であることはいうまでもないが、それに加えて、それぞれの分野の研究者が相互に成果を共有し、地域環境と住民のために必要かつ適切な「出口」を見いださうという共通認識が不可欠である。私たちが学際的な研究アプローチを取る所以である。

## 現場で伝える次世代へのメッセージ

私たちはこの研究との取り組みを次世代に引き継ぐ一つの機会としてポケゼミを選んだ。問題の重大さ、社会への広範な啓蒙の必要性に鑑みるならば、ポケゼミは必ずしも適切な方法ではないかもしれない。今回の 1 回生 6 名という少人数の参加者とともに、現地に赴き、安全に土壌・植生・水質などの環境調査と地域住民へのインタビューを実施し、ゼミの実効を上げるためには、参加者に倍する引率者および現地サポーターを投入する必要がある。これは私たちにとっては大きな経済的かつ時間的な負担であることは事実である。しかし、環境問題とその研究のあり方を共有するためには、さらに次世代の研究者を養成するためには、単なる講義の



ような座学では不十分である。研究の面白さ、重要性、困難さや悩み、さらには現地の環境や住民の叫びをも感じてもらうためには、やはり「現場」が必要であり、そこで伝わるメッセージこそが次世代の研究者を創る「種」となるのではないかと考えている。これこそ、フィールドワークの伝統に根ざした「京大ならではの」ポケゼミ、ではないだろうか。さて、参加者の後日談が楽しみである。



地球環境学堂・農学研究科  
**小崎 隆** 教授  
専門分野：陸域生態系管理学 (土壌学)

# 国際的な感覚を磨き、 また独創的かつ先駆的な 資質を身につけ、 未来を担うさらなる飛躍へ



〔留学生交流〕

〔大学院進学〕

〔ベンチャー起業〕

〔就職支援〕

京都大学は、日本を代表する研究大学として学問の探究や自己研鑽を目指す皆さんを様々な面から支援します。

それぞれが各分野において輝かしい業績を誇る大学院・独立研究科での教育や研究、あるいは本学留学生との交流や自らの海外留学は、未来を担う皆さんの大きな糧となるに違いありません。

また就職にあたっては、皆さんの資質が最大限に発揮できることを願った情報提供や説明会・セミナーの開催などを数多く行っています。

さらに「起業家」として社会の新たな地平を目指す方に対しても、充実した体制と設備により積極的な支援活動を行っています。

〔写真〕 大学院での研究風景（工学研究科）



# 留学生交流



【写真】 吉田キャンパス内の留学生との交流施設「KI・ZU・NA（きずな）」

留学生との交流や、海外への留学を通して相互の教育・研究水準を高めるとともに、異文化理解、国際協調精神を身につける。

留学生交流は、相互の教育・研究水準を高めるとともに、国際理解、国際協調の精神の醸成、推進に大きな役割を果たしています。更に、開発途上国の場合はその人材要請に協力するなど、国際貢献のための重要な国策とされています。京都大学では、現在76ヶ国から約1,200名の留学生を受け入れ国際色豊かなキャンパスとなっています。

近年、留学生交流の新たなニーズとして、大学に在籍しながら1年程度の短期間外国の大学に留学する短期留学が活発化しており、本学においてもこの留学を積極的に支援し、その施策を展開しています。

## 京都大学国際教育プログラムについて (KUINEP [Kyoto University International Education Program])

このプログラムは、海外の学生交流協定を締結している大学から学部学生を1年間受け入れて本学の学生とともに英語で教育することにより、本学学生の国際性を育成し、留学生との相互交流を活発にすることを目的としたものです。

開講科目は20科目で、本学の全学共通

科目として提供し、単位を認定します。正規課程学生も履修できます。

## 短期留学推進制度について

この制度は、大学間の学生交流協定等に基づき海外の大学へ派遣される学生に対して我が国が奨学金を支給し、諸外国の大学との留学生交流の一層の拡充を図ることを目的として設けられたものです。

毎年、11月頃に募集(※)を行い、書類選考及び必要に応じ面接を行い受給候補者を決定します。(採用数は若干名)

(※) 募集期間は変更することがあります。

## 授業料等を不徴収とする大学間学生交流協定校への派遣留学について

この制度は、海外の大学との学生交流協定に基づいて本学の学部又は大学院に在籍しつつ、概ね1年以内の1学期又は複数学期、協定校で教育を受けて単位を取得又は研究指導を受けるものです。

毎年、10月及び1月に募集(※)を行い、書類選考及び必要に応じ面接を行い派遣留学生を決定します。

京都大学が学生交流協定を結んでいる相手は、15か国26大学3大学群あります。京都大学を通じて出願手続きができ、留学先では授業料等を支払う必要はありません。

## 授業料等を不徴収とする大学間学生交流協定による派遣留学(交換留学)に関するQ&A

### Q1：学生交流協定とは何ですか？

学生交流協定は、学生の交流(交換留学)についての取り決めで、①在籍する大学に授業料を納めることにより派遣先大学での授業料等が免除されることや②留学先で修得した単位の一部を在籍する大学で修得したものと認める単位互換などについての取り決めをしています。

## Q2: 派遣留学(交換留学)とは何ですか?

国際交流を促進するために、学生交流協定に基づいて、互いに学生を留学させあうシステムのことです。京都大学に在籍しつつ、1学年以内の1学期又は複数学期のあいだ、京都大学が協定を結んでいる海外の大学に学位取得を目的としない留学をし、教育を受けて単位取得し、又は研究指導を受けるものです。

## Q3: 語学力・学力はどのくらい必要ですか?

留學生生活を円滑に過ごすための必要最低限の語学力は、渡航前から必要ですし、また留学すれば自然と語学力が高まるというものでは決してありません。日本の学校へ進学する場合と同様、留学にも一定以上の学力が必要です。1回生の時から十分な準備をし、派遣留学の応募書類提出時には、基準を満たしているようにしてください。

英語圏への留学のための語学力証明書にはTOEFLが使われることが一般的です。

非英語圏への留学についても日常生活で、読む・聞く・話す・書くことができ、教育のため授業の聴講及び研究指導を受けることのできる程度の力は最低限必要です。

## Q4: 派遣留学(交換留学)の準備にはどのくらいの期間がかかりますか?

派遣留学(交換留学)を希望する学生は、留学を希望する一学年前に、所属の学部を通じて学内選考用の申請書(日本語)を提出することが必要です。協定校が提供する資料の中から、自分の専攻領域に合ったプログラムや履修したい講義を持つ大学を事前に自分で調べてから、学内選考用の書類を提出する必要があります。

派遣留学(交換留学)は、年度により募集日程及び協定校に多少変更がありますが、毎年10月及び1月ごろに募集を行います。

学内選考を通過した学生は、その後、留学希望先の大学の願書に加えて、推薦状、留学目的、研究予定等を記した書類を提出することになります。

## Q5: 派遣留学先で取得した単位は、京都大学で認定されますか?

留学先で修得した単位を本学で修得した単位として認める単位認定制度があります。

## Q6: 一募集期に、複数の大学に応募できますか?

できません。なるべく多くの学生に留学の機会を与えるために、派遣留学希望先は1校に絞っていただいています。

## Q7: 大学の情報・資料はどこで入手できますか?

協定校から定期的に送られてくる資料は、留學生ラウンジに保存してありますので、自由に閲覧できます。そこにはないものは、各校のインターネットサイトで見てください。

## Q8: 派遣留学(交換留学)するための奨学金はありますか?

協定校への派遣留學生を対象とした奨学金として、次の奨学金・助成金制度があります。

- ①独立行政法人日本学生支援機構の短期留学推進制度(派遣)  
奨学金 月額80,000円
- ②京都大学教育研究振興財団からの助成を受けて、京都大学が実施する京都大学「留学派遣」  
渡航費の一部助成

## 京都大学留学フェア

学生みなさんに海外への留学を身近に感じてもらうため、「京都大学留学フェア」を毎年11月に開催しています。このイベントで

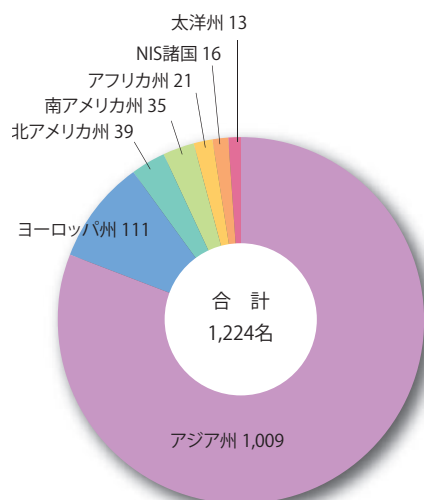
は、大学の正式な留学プログラムの紹介だけでなく、ブリティッシュ・カウンシル、オーストラリア大使館、中国大使館、ドイツ文化センター、日米教育委員会などの各国文化機関・団体の協力を得て、アメリカやフランスの各国留学情報、学部・大学院留学、インターンシップ留学、ボランティア留学、語学研修まで、さまざまな留学情報を入手することができるほか、各国の留学情報に詳しい相談員からアドバイスを受ける事ができます。

また、留学を経験した先輩方に集まってもらい、どのようにして先輩達が留学を志し、そのために準備をし、実際にどのような経験をして来たかを聞くことができるコーナーには大変な人気があります。2004年には約900名もの参加者があつまったこのイベントは、2005年も11月に開催される予定です。海外留学に少しでも関心のある方には、ぜひ参加してもらい、留学を考えるきっかけにして欲しいものです。



【写真】「京都大学留学フェア」における留学相談コーナーの様子

## 外国人留學生受け入れ状況(平成17年5月1日現在)



## 大学間学生交流協定校への派遣実績一覧(平成16年度)

国名	大学名	人数
大韓民国	ソウル大学校	1
シンガポール共和国	シンガポール国立大学	1
オーストラリア	ニューサウスウェールズ大学	1
フランス共和国	ストラスブール大学連合	5
	グルノーブル大学連合	1
ドイツ連邦共和国	ベルリン自由大学	1
	ミュンヘン大学	1
	ハイデルベルク大学	1
	フンボルト大学	2
オランダ王国	ユトレヒト大学	2
スウェーデン王国	ウプサラ大学	2
スイス連邦	ローザンヌ大学	1
カナダ	トロント大学	2
	ケベック州大学学長協同協議会	4
アメリカ合衆国	ジョージワシントン大学	1
	カリフォルニア大学	6
10カ国	13大学3大学群	32

その他、学部独自の学生交流協定に基づく留学、個人手続きによる短期語学研修、大学院生を中心とした調査等、年間千件を超える海外渡航が京大大学生により行われています。

[スウェーデン]

## ウプサラ大学留学体験



(留学時)

工学研究科 修士課程1年

前田 剛 さん

2003年9月～2004年6月

スウェーデン・ウプサラ大学に留学

「なんでスウェーデン?」とよく聞かれます。「ノルウェーだっけ?」「フィンランドだっけ?」「バルト三国の辺でしょ。」と、なかなか覚えてもらえません。日本から飛行機で約半日、人口900万、日本よりはるか北に位置する小国で、私は約10ヶ月の学生生活を送りました。

なぜスウェーデンに決めたのか。それは私が留学に行こうと決めた動機に関連しています。それは、『全く違う環境』に身をおきたかったからです。大学4年間を安穩と暮らしてきて、変化を求めての旅立ちでした。そうして辿り付いたスウェーデン、そしてウプサラは日本の街とこれといった違いはありませんでした。もちろん緑が多いとか、寒いかコンビニがないとか、こまごまとしたことは違いましたが、電気も

水道もあるし、お金があれば大体のものは揃いました。ただ、そこに暮らす人々、一緒に生活する仲間達はそれぞれに違いました。と同時に人間はみな同じでした。出身国、肌の色、信じる神、幸せの定義、将来の夢、それぞれに違いました。日本での常識が、むこうでは非常識だったりもしました。でも、皆で酒を飲み、騒ぎ、語り、遊ぶ時は同じでした。皆、ご飯を食べ、友と語り、勉強し、遊びに行く。私がウプサラに行って学んだことの中で一番大きかったのは、多様性でした。自分と他人との違いに気付き、それを認めることができた時、壁は消え去ります。これから留学に行こうと考えている皆さんには、是非実体験を通した学びを得に行ってください。

# 在学生に聞く留学生体験記

[オーストリア]

## ウィーン大学留学体験

わたしの研究は、1920年代のオーストリアにおける学校改革を教育方法学の視点から明らかにすることである。同国の教育に関する研究は日本では非常に乏しく、資料も限られていたことから、やはり現地において研究することが必要だと考えた。幸運にも京都大学はウィーン大学と協定を結んでいること、また海外での研究を評価して下さる指導教官の田中耕治教授に強く勧められたこともあって、派遣留学を決心した。

ウィーン大学教育学研究科では、わたしのために研究室を用意して下さるなど、非常によい待遇をしていただき、これ以上ない研究環境で研究することができた。また同研究科のグルーバー教授は学外の先行研究者をご紹介くださるなど、わたしの研究に大変興味を持っていただき、喜んで貴重な資料を提供していただいたりもし

た。このような環境にあつて、自分の研究の意義あるいはこれからの方向性というもの、大学内外の専門家と話すことによって再度確認できたことがこの留学の成果だと考えている。

さらに、学外の活動として印象に残ることとして、ウィーン郊外の公立小学校に週一度通ったことがあげられる。わたしの研究のもう一つの柱ともいえる授業研究のためである。この学校で教員および子どもたちと過ごした時間は、ひとり古い資料に埋もれながらの文献研究中心の生活に彩りを与えてくれ、同時に教育方法学研究の原点を再認識する貴重な経験であった。

ウィーンは芸術の街。街中が美術館である。美術館巡り、オペラやウィーン・フィルといった楽しみがある。偶然のことから、指揮者の小澤征爾氏にお目にかかれたことも一生の思い出である。



(留学時)

教育学研究科 博士後期課程2年

伊藤 実歩子 さん

2003年10月～2004年6月

オーストリア・ウィーン大学に留学

# 大学院進学

京都大学では、近年の学問の高度化や学才領域の発展、社会の複雑化に対応するために、大学院の重点化と、独立研究科の新設を進めてきました。これに伴い大学院進学者の割合は年々増加の傾向にあり、平成17年（2005）3月に2,775名が学部を卒業しましたが、その内、59.7%が大学院に進学しました。

進学先については、基本的に学部と関連した大学院へ進学することが一般的ですが、異なる大学院へ進学することも可能です。また、学部を持たない独立研究科へは、様々な学部出身者が集うこととなります。

また、一部の学生においては、他大学の大学院へ進学する人もいます。

## 大学院のカリキュラム

本学大学院各研究科の標準修業年限は5年であり、博士前期課程（前期2年の課程、本学大学院では修士課程と呼んでいます）と博士後期課程（後期3年の課程）に区分しています。ただし、医学研究科は標準修業年限が4年の、アジア・アフリカ地域研究科は5年一貫制の区分をしない博士課程、地球環境学舎地球環境学専攻は修士課程修了者を対象とした後期3年の課程だけの博士課程です。

教育課程については、定められた単位（修士課程及び医学研究科博士課程では30単位、博士後期課程では各研究科により定められている）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けて、研究論文の審査と最終試験に合格すると修士もしくは博士の学位が授与されます。

## 開かれた大学院を目指して

現在、グローバル化時代の進展に伴い、職業を持つ社会人のリフレッシュ教育の推進が要請され、各種の制度が整備されています。これらの制度には社会人特別選抜、高度専門職業人養成大学院等のコースがあります。本学大学院においては、社会人特別



## 学部教育で身につけた知識や技術をより深め、次世代を担う研究者・実務者をめざす。

選抜は文学研究科、教育学研究科、法学研究科、経済学研究科、医学研究科、工学研究科、エネルギー科学研究科、情報学研究科及び地球環境学舎で実施されており、高度専門職業人養成大学院は医学研究科で従来の修士課程とは区別された大学院修士課程として社会健康医学専攻を平成12（2000）4月に設置しています。

また、「留学生受入れ10万人計画」が要請されており、本学大学院においては、留学生特別選抜として教育学研究科、法学研究科、経済学研究科、薬学研究科、工学研究科、エネルギー科学研究科、アジア・アフリカ地域研究研究科、情報学研究科及び地球環境学舎で実施しています。

## 独立研究科

独立研究科とは、その名のとおり学部を持たない大学院です。

人間・環境学研究科は、自然、人間、

文化、文明にかかる諸学問分野の連携を通じて、新たな人間像と文明観・自然観の確立を目指す研究を充実発展させ、「専門知」、「統合知」によって人間および環境の問題に先見性と広い視野から対処しうる高度な研究者・実務者の養成を目指しています。

エネルギー科学研究科、情報学研究科および生命科学研究科では、それぞれの掲げる複合的学域の創出・深化に携わる研究者の養成を主眼にした大学院教育の体系化を目指しています。

アジア・アフリカ地域研究研究科では大学院5年一貫教育でフィールドワークを重視し、地域研究者や国際貢献できる実務者の育成を目的としています。

地球環境学舎は、地球環境問題の解明と解決のために、環境安定とそれを支える人間活動の双方に資する新たな文明理念と科学技術知を構築すること、そしてそれを現実世界に適用しうる人材育成を行うことを目的として平成14年に設置されました。

## 法科大学院について

社会の大きな転換期にある現在、法や法の精神をよりいっそう社会の中に定着させることが強く求められています。そのためには、裁判制度の改革なども必要になりますが、とりわけより多くの法律家（法曹）を養成することが不可欠です。法科大学院制度は、そうした課題に応えるために構想されたものであり、本学でも、このような社会的要請に応えるため、平成16年4月に法科大学院を開設し、現在390余名が就学しています。

法学研究科・法学部は、わが国における法学・政治学の研究・教育の中心的拠点としての役割を果たしてきましたが、法科大学院においても、自主・独立の精神と批判的討議を重んずる伝統を継承し、自由闊達な教育環境の中で、法制度に関する原理的・体系的な理解、緻密な論理的思考能力、法曹としての高い責任感を涵養し、社会の抱える構造的な課題や最先端の法問題に取り組むことのできる総合的な法的能力の育成を図ります。また実務的課題にも対応した教育を充実させるため、実務経験の豊富な多くの実務家教員を迎えたところであり、研究者教員と実務家教員が連携しつつ、理論と実務を架橋する高度な教育を通じて、法の精神が息づく自由で公正な社会の実現のため、幅広い分野において指導的な役割を果たす創造力ある法曹を輩出したいと考えています。

## 学部第3学年から大学院への入学について

大学院工学研究科、エネルギー科学研究科、情報学研究科及び地球環境学舎では、大学に3年以上在学した者で、志望研究科が所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認められた者に、大学院修士課程の出席資格を認めています。

これは、大学院修士課程への入学を希望する学生で、かつ、成績が優秀な者には、早期に大学院での教育・研究指導を受けて、専攻分野における研究能力を養うことを目的とするものです。

また、優れた研究業績を挙げた者には、大学院修士課程では1年以上の在学期間で修士の学位が、博士後期課程に1年以上（修士課程の在学期間と合わせて3年以上）の在学期間で博士の学位が授与されることもあります。

## 大学院への進学（●印は主な出身学部を紹介しています）

出身学部名	総合人間学部	文学部	教育学部	法学部	経済学部	理学部	医学部	薬学部	工学部	農学部
<b>研究科名</b>										
<b>文学研究科</b> 文献文化学専攻 思想文化学専攻 歴史文化学専攻 行動文化学専攻 現代文化学専攻	●	●								
<b>教育学研究科</b> 教育科学専攻 臨床教育学専攻		●	●							
<b>法学研究科</b> 法政理論専攻 国際公共政策専攻 法曹養成専攻（法科大学院）	●	●		●						
<b>経済学研究科*</b> 経済システム分析専攻 経済動態分析専攻 現代経済学専攻 ビジネス科学専攻					●					
<b>理学研究科</b> 数学・数理解析専攻 物理学・宇宙物理学専攻 地球惑星科学専攻 化学専攻 生物科学専攻	●					●				●
<b>医学研究科</b> 生理系専攻 病理系専攻 内科系専攻 外科系専攻 分子医学系専攻 脳統御医学系専攻 医科学専攻 社会健康医学系専攻							●			●
<b>薬学研究科</b> 創薬科学専攻 生命薬科学専攻 医療薬科学専攻								●		
<b>工学研究科</b> 社会基盤工学専攻 都市社会工学専攻 都市環境工学専攻 建築学専攻 機械理工学専攻 マイクロエンジニアリング専攻 原子核工学専攻 材料工学専攻 航空宇宙工学専攻 電気工学専攻 電子工学専攻 材料化学専攻 物質エネルギー化学専攻 分子工学専攻 高分子化学専攻 合成・生物化学専攻 化学工学専攻	●								●	
<b>農学研究科</b> 農学専攻 森林科学専攻 応用生命科学専攻 応用生物科学専攻 地域環境科学専攻 生物資源経済学専攻 食品生物科学専攻	●									●
<b>人間・環境学研究科</b> 共生人間学専攻 共生文明学専攻 相関環境学専攻	●	●								
<b>エネルギー科学研究科</b> エネルギー社会・環境科学専攻 エネルギー基礎科学専攻 エネルギー変換科学専攻 エネルギー応用科学専攻	●								●	●
<b>アジア・アフリカ地域研究研究科</b> 東南アジア地域研究専攻 アフリカ地域研究専攻						●				●
<b>情報学研究科</b> 知能情報学専攻 社会情報学専攻 複雑系科学専攻 数理工学専攻 システム科学専攻 通信情報システム専攻	●					●			●	
<b>生命科学研究科</b> 統合生命科学専攻 高次生命科学専攻	●					●		●		●
<b>地球環境学舎</b> 地球環境学専攻 環境マネジメント専攻	●	●							●	●

\*経済学研究科は、平成18年4月から「ビジネス科学コース」を再編成し、専門職大学院等の設置を予定しています。



〔写真〕法科大学院における模擬裁判による授業

# ベンチャー起業

## 京都大学 VBL

ベンチャー支援の京都大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー（VBL）は、全学の教育・研究施設として工学研究科を主体に、情報学・理学研究科、化学研究所等の教員・博士研究員および大学院生・学生を含む横断的で柔軟な運営組織から形成されています。「先進電子材料開発のための原子・分子アプローチ」を教育研究テーマとして掲げ、次世代の産業を支える基盤技術である研究開発プログラムの推進と、ベンチャー精神に富んだ創造的人材ならびに起業家マインドを持った若手研究者の育成を通して、本学の国際イノベーション機構（IIO）内の組織として、大学を核としたイノベーション創出活動を展開します。

2003年にはVBL内に、京都大学の教員や院生などの起業家の活動の場として、「京大ベンチャーズ」を開設しました。

さらに京大の学生・教員・職員を対象としたベンチャー起業支援システムとして「特許相談室」と「起業相談室」を開設し、特許取得方法やベンチャー起業ノウハウを無料で相談できる場を提供しています。

また、独創性とベンチャー精神に富んだ若手育成のための教育プログラムとして「新産業創成論」や「先端電子材料学」を開講し、そしてハイテクベンチャーの種となる技術アイデアの創出と特許化を支援するため、院生・学生・そして高校生を対象とした「関西テクノアイデアコンテスト」を毎年開催しています。

このようにVBLは、特許・起業相談室、各種講義などの試策を通してベンチャー起業支援を行うと共に、全学の教育・研究・基盤技術創成のための中核的推進拠点として機能しています。



【写真】京都大学 VBL 外観



【写真】京大発学生ベンチャー「ロボ・ガレージ」の高橋智隆さんとロボット群

## 自らのアイデアを具現化し、 ベンチャー起業を志す人を 様々な面からサポートします。

### 起業を目指すみなさんへ （教育活動について）

VBL主催の講義、「新産業創成論」では、新産業創出への最近の動きおよび大学における取り組みを概論するとともに、ベンチャーの動向・企業経営、特に注目される学生起業のベンチャーや京都ベンチャーの内実、およびハイテクベンチャーの基盤となる知的財産権（特許）、今後の産学連携の在り方・戦略に関して、この分野で活躍されている実際の企業の経営陣・弁理士・研究者の方をお呼びし、受講生との討論を主体に行っています。

また、将来の産業・科学技術の発展の担い手となる起業家や研究者育成の一環として、ハイテクベンチャーの種となる技術アイデアの創出と特許化を支援するため、院生・

学生・そして高校生を対象とした「関西テクノアイデアコンテスト」を財団法人近畿地方発明センターと共同で毎年開催しています。

### ベンチャー起業支援システム

VBLでは独自のベンチャー起業支援システムを展開しています。そのシステムでは、「特許相談室」と「起業相談室」の2つの相談室を深い連携のもと推進し、ベンチャー起業を志す人のサポートを行っています。

特許相談室では、毎週火曜または金曜日に文部科学省・経済産業省認定団体である「(株)関西TLO (Technology Licensing Organization)」より特許アドバイザーに来館いただき、京大全学の教官・職員・学生を対象として知的財産（特許）に関する個別相談に無料で応じています。

技術特許・ビジネス特許の申請相談に加え、発明の新規性、市場性のコンサルティングや先行技術調査などを無料で相談することができます。現在までに90件を超える特許申請、約30件が企業による通常実施またはオプション契約されるなど活発な活動状況です。

起業相談室では、京都市サーチパーク(株)プロジェクト企画室より専門アドバイザーに毎週水曜日の午後に来館いただき、事業計画・法人設立や、大学発ベンチャー起業に不可欠な兼業申請等手続、経営チーム、資金調達方法、スペース(ラボ・オフィス)、アドミニストレーション、マーケティング、パブリックリレーション(PR)について無料で相談することができます。



ベンチャー起業家に聞く

## 「京大ベンチャーズ サイエンス・グラフィックス有限会社の設立」

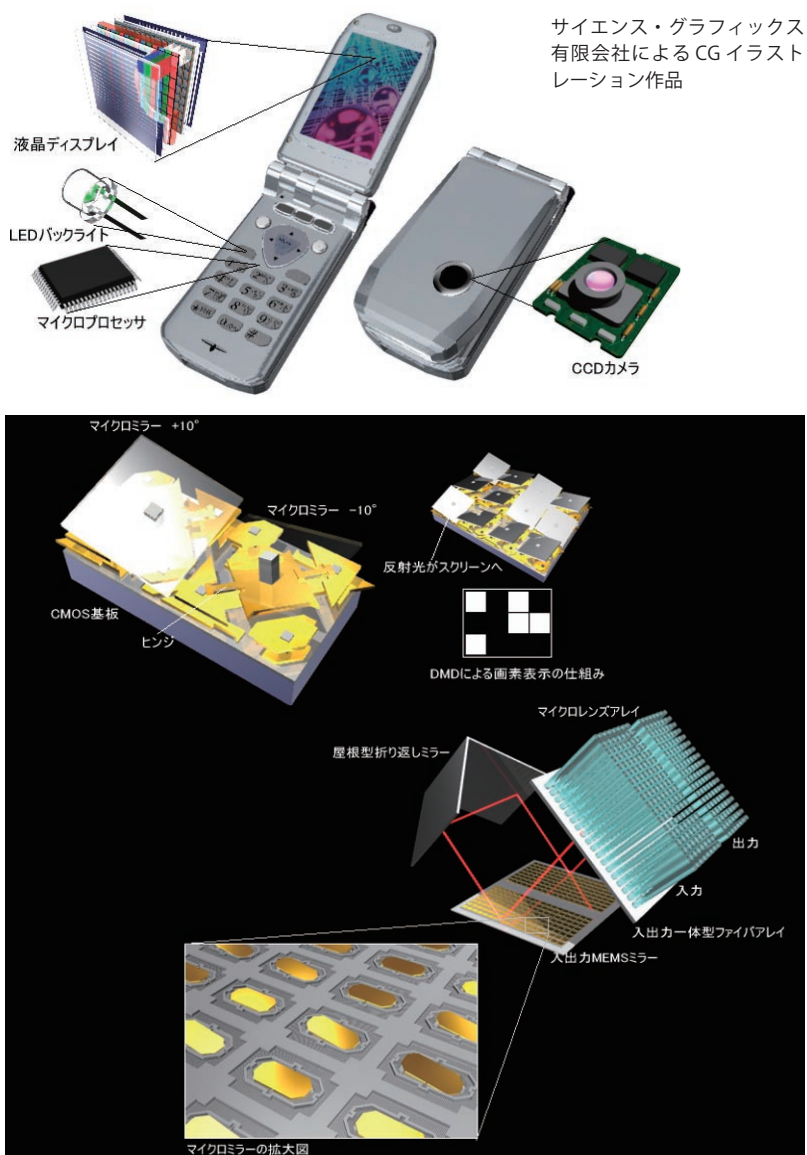
学部生の頃より科学技術を伝えることに興味があり、CGによる映像化やサイエンスライターとしての活動を行って来ました。さらにこの内容で事業を推し進めるために、2004年12月に京都大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーを拠点に「サイエンス・グラフィックス有限会社」を設立しました。おかげで、個人事業者時代では考えられなかったようなところから仕事のお誘いをうけるなど、最近では事業の広がりを感じています。



大学院工学研究科・合成生物化学専攻  
修士課程2年

**辻野 貴志** さん

(2004年工学部工業化学科卒)



# 就職支援



【写真】就職セミナー「マスコミ就職ガイダンス」

## 企業、組織での実務者として 社会での活躍を目指すために。

### キャリアサポートセンター

我々や企業を取り巻く経済状況に好転の兆しがあり、求人状況にもやや明るさが見えつつありますが、各企業においては、より優秀でかつ自社に合う学生を求める傾向を一層強めてきており、学生にとっては依然厳しい状態が続いています。一方、学生側も就職に対する希望が多様化しており、学生の希望と企業側の求める人材とのマッチングをいかに図るかが大きな課題となってきました。

また、大学院への進学率が高い本学では、学生自身が自分の進むべき道（将来の進路・職業）について早い時期から考えていくことは、充実した学生生活を送るうえで重要なことであると考えています。



【写真】キャリアサポートセンターの様子

キャリアサポートセンターでは、学生の就職活動を支援するため、各種就職関連ガイダンスや就職相談の実施に加え、各種企業資料・会社案内（パンフレット）、求人情報、OB・OG名簿、就職関連書籍・ビデオ・CD、企業主催のセミナー・説明会開催情報及びインターンシップ募集情報の収集・閲覧を行っています。就職関連書籍・ビデオ・CDについては貸し出しも可能です。

近年の就職活動においては、インターネットの活用が不可欠なものとなりつつあることから、キャリアサポートセンターに就職情報検索用のパソコンを数台設置し、学生が自由に利用できる環境を整えています。

### ガイダンス等の開催

就職活動の概要を紹介する「就職ガイダンス」、企業の人事担当者を招いて企業概要や求める人材像等について説明を受け、併せて業界研究を行うことを目的とした「企業ガイダンス」の実施のほか、個人又は少人数を対象とした自己分析講座、ビジネスマナー講座、エントリーシート添削指導、模擬面接指導などを実施・開催しています。また、学部1・2回生向けに将来のキャリアについて考える「キャリアデザイン講座」も実

施しています。

### 就職相談室の開設

就職情報企業から就職指導の専門家を相談員として招き、就職・進路にかかる様々な相談に対応しており、専門的立場から適切なアドバイスを行っています（予約制）。気軽に、また、何度でもご利用いただけます。

行事名	実施回数 (日数)	のべ参加者数 (人)
就職ガイダンス	6	1,568
企業ガイダンス	16	2,141
キャリアデザイン講座	2	28
合同企業説明会	4	3,172
公務員・公社関係 各種ガイダンス等	13	1,161
国家公務員Ⅰ種採用試験 対策講座（有料）	2	41
SPI 模擬テスト（有料）	2	52
就職セミナー： ビジネスマナー等	2	44
就職セミナー：各種講演会等	5	403
就職セミナー：自己分析指導	8	39
就職セミナー： エントリーシート添削	14(日)	66
模擬面接	14(日)	52
就職相談室	87(日)	302
計		9,069



【写真】国家公務員Ⅰ種採用試験模擬面接の様子

### インターンシップ

#### — 実社会体験を学びに活かす —

インターンシップは、学生が在学中に企業・団体等の現場において実社会を体験する貴重な学びの機会です。

### 京都大学におけるインターンシップの活用

本学では、就業体験を通してキャリアアップを目指す在学生に対して、多種多様なインターンシップについての情報提供を行っています。



ます。国内の国公立・民間研究機関，地方公共企業体や民間企業等における現場での貴重な経験を，大学における学びに活かせるようサポートします。毎年多くの在学生在がインターンシップを体験し，近年は，外国の研究機関や企業におけるインターンシップに積極的に参加する在在学生も増えています。本学では，このような学外でのインターンシップを授業に採用し，学外の国公立・民間機関等で行った就業体験を単位として認定する制度を取り入れている学部（学科）や研究科もあります。

#### インターンシップの効果

社会の現場での就業体験を通して，次のような効果が期待できます。

- ・ 責任感や人間関係を学び，人間的に大きく成長することができる。[人間的成長]
- ・ 働くことに対してのイメージがより具体的になり，目的意識を持った就職活動を行える。[修業意識の高揚]
- ・ 自らの学生生活を振り返る良い機会となり，今，自分が何をすべきかが見えてくる。[学習意欲の向上]

#### インターンシップの類型

- ・ 学外実習等の授業科目とする場合。  
→単位として認定します。
- ・ 学校行事等，大学等における活動の一環として位置づける場合。  
→単位認定しません。
- ・ 企業等が実施するインターンシップのプロ

グラムに学生が個人的に参加する場合。  
→単位認定しません。

#### 海外インターンシップ

世の中のグローバル化が進み，国際的な広い視野やコミュニケーション能力を身に付けることのできる海外インターンシップへの関心が高っています。

海外インターンシップ体験を希望する学生を支援するため，京都大学内においては，以下の2つの委員会が活動しています。

#### 「外国での研修に参加しよう！」

##### —京都大学イアエステ学内委員会

君達の中で，外国へ行ってみたくが，語学研修だけでは物足りない！

そうかといって直接留学に踏み込むのは少し怖い！と考えている人はいませんか？

君たちにぴったりなのが IAESTE（イアエステ）の提供する外国研修（海外インターンシップ）です。

インターンシップとは，学生時代に企業などで就業体験を行うことで，「社会で働くこと」を身近に体験できる実践的な機会です。

IAESTE は世界的な規模で，主として理工農業系学生の外国の企業，大学，研究機関での交換研修（2～3ヶ月）を実施している機関です

(<http://www.iaeste.or.jp/>)。

「京都大学イアエステ学内委員会」は，京都大学内でこのイアエステ活動に関する情報提供と相談，派遣生募集とサポート，外国から研修に来る学生との交流などを行っています。興味のある人は是非ご連絡ください（連絡先：i-df@iaeste.office.or.jp）。

#### 「皆さんも一緒に活動しませんか？」

##### —アイセック京都大学委員会

アイセックは，世界約 90 の国と地域に活動拠点を持つ世界最大規模の学生 NPO であり，国際平和と人材の育成を目指し「海外研修生交換事業」「企画事業」も行っています。アイセックの海外研修生交換事業を通して，毎年約 3,000 名の学生が多種多様なインターンに参加しています。

(<http://www.aiesec.jp/>)

アイセックでは自分たちで活動を創っていくうちにたくさんの人と出会います。例を挙げると，インターンシップで日本に来たトルコ人，バングラデシュで農業研修をしている同世代の学生，台湾のアイセックで活動している人，インドへインターンシップに行った人...etc. 価値観の多様性や社会の可能性に触れる場をアイセックは提供してくれます。

あとは皆さんの積極的な姿勢と社会への好奇心次第です。アイセックは学生団体です。皆さんも一緒に活動しませんか？  
(連絡先:kyoto@aiesec.jp)

#### [海外インターンシップ体験談]

## 途上国でのインターンシップ

私は昨年（当時 3 回生）にバングラデシュにある財団法人オイスカへ行き二ヶ月間のインターンシップをしました。私が参加したのは，日本でメジャーな企業インターンではなく，NGO での農業インターンであり，毎日鶏の世話や草刈りなど畑での農作業を行いました。

最貧国といわれる国を見てそこで働き生活したことは，今の私のものの考え方に少なからず影響を与えています。私はもともと環境問題に興味を持っていましたが，以前よりも幅の広がった思考を通して，先進国からだけでなく発展途上国からの環境問題へのアプローチについてもっと勉強

し，自分の伝えられる範囲でさまざまな人にそれを伝えていきたいと思います。同時に，今後は国際協力のこともより学んで，また実践的な活動をしていけたらよいと考えています。

3 回生の進路を決める時期にあつて，自分がやりたいことについて考えることができたのは非常によかったと思います。文化的背景の違う人と親しんだり，海外へ出て暮らす日本人達と話したりすることから大いに刺激を受けました。常に前向きで，「できない」と言わずに挑戦すること，その大切さを今まさに実感しています。



総合人間学部 4 回生

小端 あゆ美 さん

# [資料] 卒業生の産業別就職状況について

平成 17 年 3 月卒業生の産業別就職状況（医学部をのぞく）

産業	学部	総合人間学部		文学部		教育学部		法学部		経済学部		理学部		薬学部		工学部		農学部		男子計	女子計	総合計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
農業																				0	0	0	
林業																	1			0	1	1	
漁業																				0	0	0	
鉱業																				0	0	0	
建設業		1						1	1							5		1		8	1	9	
製 造 業	食品・たばこ			2	1	1		1	1									2		6	2	8	
	繊維工業・衣服				1			1	2	2								1		4	3	7	
	印刷・同関連業	1		7	3	1											1			9	4	13	
	化学工業・石油	1	1		1			2	2	4				1	2			2	2	10	8	18	
	鉄鋼・非鉄・金属	1		1				1		2							4			9	0	9	
	一般機械器具												1				3		1		5	0	5
	電気・機械器具			3	1			4	2	3	3	2					9			21	6	27	
	電子・デバイス		1	1						3							1			2	4	6	
	輸送用機械器具	1		1	1			3	2								3			8	3	11	
	精密機械器具	1						1									5			7	0	7	
その他			1	2	3											2			6	2	8		
電気・ガス・水道業				1	1			4		8	1					4			17	2	19		
情報通信業		13	3	13	7	2	3	9	4	5		2				11	1	5	2	60	20	80	
運輸業		1		3	2			2	2	7	1					5	1	1		19	6	25	
卸売・ 小売	卸売業	3	1	1				7	2			1				4				15	4	19	
	小売業		1			1		2					1					1		4	2	6	
金融・ 保険業	金融業	5	1	3	1		3	22	1	27	4	3				3		5	1	68	11	79	
	保険業					1		6	3	7		1				1		2		18	3	21	
不動産業		1						1								1	2	1		4	2	6	
飲食店・宿泊業				1				1								2				4	0	4	
医療・ 福祉	医療・保健衛生			1																1	0	1	
	社会保険福祉介護																			0	0	0	
教育学 習支援	学校教育			1	7	1	1					1				2		1		6	8	14	
	その他	2	1	1	1	2	1	4				1					1		2	10	6	16	
複合サービス事業																				0	0	0	
サー ビス 業	法務					1			1			1						1		3	1	4	
	学術・開発研究															2				2	0	2	
	宗教																			0	0	0	
	その他	2		4	7	4	2	5	2	67	17	3				5	1			90	29	119	
国家公務		3	3	2	3		4	25	5	4		1				1		3	2	39	17	56	
地方公務		1	5	7	7	1		15		5		1	1			1				31	13	44	
上記以外		2	1					1	1	7	3					1				11	5	16	
総合計		57		100		32		152		177		19		4		83		36		497	163	660	
男子計	女子計	39	18	54	46	18	14	118	34	148	29	17	2	2	2	75	8	26	10				

# 日々の学習・研究、 情報や環境、さらには 経済面や心身の健康など 多面的にサポート



〔図書館〕

〔生活協同組合〕

〔学生生活支援〕

附属図書館をはじめとする京都大学の図書館・図書室では、学習・研究が必要とする充実した資料と落ち着いた環境を皆さんに提供するとともに、情報化時代に対応したシステムの開発や教育支援活動を展開しています。また、学生生活をより豊かに、そして安全で安心なものとしてもらうために、京都大学の各部局においては様々な制度や施設を充実させています。

さらに、京都大学生生活協同組合においても学生生活の経済的負担を軽減するため、また健康的な生活を送ってもらうための各種サポート活動を行っています。

〔写真〕 カフェテリア食堂「セレネ」（桂キャンパス）



〔写真〕 附属図書館閲覧室

## 充実した資料の蓄積と、情報技術による学術情報サービスにより、学習支援・研究支援を行っています。

### 〔教育・研究における図書館の役割〕

#### 附属図書館

附属図書館は学習支援と研究支援機能を持ち、学生、教職員をはじめ、学術情報を必要としている人々に広くサービスを行っています。IT時代にふさわしい図書館をめざして、情報リテラシー教育、新入生のためのオリエンテーション、留学生のためのオリエンテーション等各種講習会を実施しています。

蔵書は下の表に示されているように、附属図書館では約86万冊、全学で約600万冊所蔵しており、創立より105年にわ

たる歴史から、国宝に指定されている「(鈴鹿本)今昔物語集」をはじめ、古文献資料、特殊文庫、全集ものコレクション等、貴重なものが数多くあります。また、理工学系のセンター館として国内未収集の学術雑誌を東京工業大学と連携して収集し、全国の研究者の利用に供しています。また、学外からインターネットを介して京都大学附属図書館ホームページにアクセスして、見開き右側のページにあるようなデジタル化した貴重資料を見ることが出来ます。ホームページでは京都大学が所蔵

#### 蔵書数（平成17年3月31日現在）

部局名	蔵書数			所蔵雑誌種類数		
	和書	洋書	計	和雑誌	洋雑誌	計
附属図書館	588,452	273,272	861,724	12,680	8,065	20,745
全学	3,089,028	2,928,602	6,017,630	39,325	41,768	81,093

注：全学の蔵書冊数に附属図書館の冊数含む

している図書や雑誌を検索することができるほか、電子ジャーナルと文献データベースは、学内からアクセスできるようになっています。

#### 館内の施設・設備等

閲覧室	1,100席
1階	端末コーナー 参考図書、雑誌、新聞、常設展示、ラウンジの各コーナー
2階	開架図書と閲覧室
3階	情報端末室、メディア・コモン、AVホール
地階	書庫

#### 利用者用パソコン

学術情報メディアセンターのオープンスペースラボラトリーとして80台のパソコンおよび情報コンセント64口があります。このパソコンの利用にあたっては学術情報メディアセンターへの登録が必要です。

#### 蔵書検索システム

京都大学の蔵書は、京都大学OPAC（オーバック：オンライン蔵書検索 Online Public Access Catalog）で検索できます。京都大学OPACはインターネットで公開していますので、どこからでも検索できます。

URL <http://kensaku.libnet.kulib.kyoto-u.ac.jp>

京都大学OPACは京都大学の蔵書約600万冊のうち約230万冊が検索できます。検索のページのキーワード欄に書名・著者名等を入力し、検索をクリックするとヒットした書名と京都大学の何処の図書館で所蔵されているか知ることができます。最近では、中国語の簡体字やハングル等、多様な文字の表示もできるようになりました。

#### メディア・コモン (Media Commons)

附属図書館に、映像や音楽が楽しめる「メディア・コモン」があります。DVDをはじめ多種のメディアに対応できるように

構想され、勉強や研究に必要な映像や音声情報を活用できるほか、学生や教職員が読書や勉強で疲れた頭を映像や音楽でリフレッシュすることができます。

ガラス張りの広さ240m<sup>2</sup>のスペースに、



[写真] メディア・コモン (Media Commons)

DVD やビデオ・カセットが見られる1人用個人ブースが16席、窓越しに時計台や吉田山を見ながらCD、カセットを聴くことができる1人用ソファが8席、DVDで映画など50インチの大型プラズマ・ディスプレイ画面で迫力ある映像を楽しむことのできる4人用AVコーナーが2ヵ所等合計32席があり、さらに5.1チャンネルスピーカーを装備したメディア・シアター(防音設備付/10席)などがゆったりとした空間に配置されています。

京都大学文学部卒業生である故片田清氏寄贈のCDコレクション、4,870枚のほか、DVDが約300点(映画、ドキュメンタリー、音楽)、ビデオ約760点(ドキュメンタリー、言語)などが置かれています。

## 京都大学の学習・研究活動を支える図書館・図書室群

- 附属図書館
- 附属図書館宇治分館
- 人間・環境学研究所総合人間学部図書館
- 人環・総人図書館分室
- 文学研究科図書館
- 教育学部図書室
- 法学部図書室
- 法学研究科附属国際法制文献資料センター
- 経済学部図書室
- 経済学部調査資料室
- 理学部
- 中央図書室
- 数学教室図書室
- 物理学教室図書室
- 宇宙物理学図書室
- 地球物理学図書室
- 化学教室図書室
- 動物学教室図書室
- 植物学教室図書室
- 地質学鉱物学教室図書室
- 生物物理学教室図書室
- 医学図書館
- 医学部保健学科図書室
- 薬学部図書室
- 工学部
- 共通図書室
- 地球系土木図書室
- 建築系図書室
- 物理系図書室
- 航空宇宙工学図書室
- 電気系図書室
- 化学系図書室
- 工業化学科図書室
- 資源工学図書室
- 農学部
- 中央図書室
- 生物資源経済学専攻司書室
- 大学院エネルギー科学研究科図書室
- 大学院アジア・アフリカ地域研究科
- アフリカ地域研究専攻図書室
- 大学院・情報学研究科図書室
- 人文科学研究科図書室
- 人文科学研究科附属漢学情報研究センター
- 再生医科学研究所図書室
- 基礎物理学研究所図書室
- ウイルス研究所図書室
- 経済研究所図書室
- 数理解析研究所図書室
- 原子炉実験所図書室
- 霊長類研究所図書室
- 東南アジア研究所図書室
- 学術情報メディアセンター図書資料室
- 放射線生物研究センター図書室
- 生態学研究センター図書室
- 環境保全センター図書室
- フィールド科学教育研究センター
- 森林系図書室
- 瀬戸臨海実験所図書室

**京都大学電子図書館** >> <http://ddb.libnet.kulib.kyoto-u.ac.jp/exhibit/hp/>

食書資料画像

国宝 鈴鹿本「今昔物語集」

**京都大学所蔵資料でたどる年表**

このように京都大学は、国語の教科書に載っているような古典作品や、歴史上の重大な出来事に関する資料を多数所蔵しています。

BC500

『論語』

500

『伊勢物語』

1000

『源氏物語』

1500

付喪神『御伽草子』

1800

『日本植物誌』  
-シーボルト来日



【写真】 本部構内の正門横にあるカフェレストラン「カンフォアラ」

## バランスのとれた食生活や、書籍・文具・日用品など、生協は生活のすべてをサポートします。

### 【京都大学生協同組合】

学内の各キャンパスには、京都大学生協同組合が運営するカフェレストラン、食堂、ショップなどがあり、京都大学での勉学・教育・研究生活を幅広くサポートしています。

#### 朝食から夕食まで、食生活をしっかりサポート

生協食堂では安全で安心な食材を使用し、栄養バランスの取れた豊富なメニューで、朝食から夕食時間帯までの食生活をサポートしています。レシートへの栄養価

表示や、食生活や健康に関する情報の提供、食生活相談や体力測定など、学生の食の自立を応援し、健康への関心を高める企画に取り組んでいます。

#### 書籍からパソコン、文具など、勉学・研究生活をしっかりサポート

講義に必要な教科書や専門書、雑誌から文具類やパソコンまで、大学での勉学や研究に必要なとされる商品、サービスを提供しています。特に書籍・雑誌は生協組

合員の特典として定価の10%引（CDは15%引）で提供し、大変喜ばれています。

#### 安全で安心な大学生活をサポート

行動範囲や社会的責任の広がる大学生活、事故や病気などの「万が一」に備えるため、「学生総合共済」に取り組んでいます。安い掛金で大学生活にぴったりの保障が自慢です。京都大学では約70%の学生・院生が加入し、給付金額は1年間（03年10月～04年9月）で758件、約3,456万円でした。事故や病気にあわないための予防活動や情報提供にも力を入れています。

#### 京都大学の内外でも大好評、「京都大学オリジナルグッズ」

最近急増している京都大学への観光客や修学旅行生などから人気の京都大学オリジナルグッズも生協で販売しています。手頃なボールペン・レポート用紙・Tシャツ・タオルなどから、贈答に最適のクリス



【写真：左】 ショップルネ内のパソコンコーナー



【写真：右】 同じく書籍コーナー

京大大学生生活協同組合各施設の営業時間

キャンパス（学部）	施設の名称		営業時間（平日）	取扱内容等
吉田キャンパス 北部構内 (理・農)	北部生協会館	食堂部	8:20～21:00	1階:カフェテリア食堂, 2階:喫茶(計250席)
		購買部	10:00～18:00	文具・食品・日用品の販売等
本部構内 (文・教・法・経・工)	中央食堂		8:00～21:00	カフェテリア食堂, 喫茶(計396席)
	時計台生協ショップ		10:00～20:00	文具・食品・日用品の販売等 (薬品・クリーニングは10:00～17:00)
	京大ショップ		10:00～17:00	京大オリジナルグッズ, 教員図書等
	コンベンション・サービスセンター		10:00～17:30	JRチケット発券, イベントサポート, アルバイト紹介
	生協本部	組合員センター	10:00～17:00	生協加入・脱退・共済給付申請
	正門カフェレストラン「カンフォーラ」		9:00～22:00	カフェレストラン(計100席)
吉田キャンパス 吉田南構内 (全学共通・総人)	吉田食堂		10:30～16:30	1階, 2階:カフェテリア食堂(計587席)
	吉田ショップ		8:30～19:00	文具・食品・日用品の販売, 教科書販売等
吉田キャンパス 医学部構内 (医・薬)	南部生協会館	食堂部	10:00～17:00	カフェテリア食堂, 喫茶(計174席)
		ショップ	10:00～18:00	文具・食品・書籍などの販売
吉田キャンパス 西部構内	カフェテリア「ルネ」		11:00～22:00	カフェテリア食堂(計494席)
	ショップルネ	パソコンコーナー	10:00～19:00	パソコン本体・パーツ・周辺機器
		書籍コーナー		教科書・参考書などの専門書, 一般書, 雑誌等, スタディガイド
		旅行, プレイガイド		海外・国内旅行, プレイガイド等
ルネ南側別館		11:00～17:00	住まいの斡旋, リサイクル用品	
宇治キャンパス (各研究所)	宇治生協会館	食堂部	11:00～20:00	カフェテリア食堂(計168席)
		購買部	10:30～18:00	文具・食品・日用品の販売等, JRチケット発券
桂キャンパス	桂Bクラスター キャンパスショップ		10:00～18:00	文具・食品・日用品の販売等, JRチケット発券
	桂Bクラスター カフェテリア食堂「セレネ」		11:00～21:00	カフェテリア食堂(計126席)
	桂Bクラスター カフェ「アルテ」		9:00～20:00	喫茶(展望デッキ席もあります。計244席)
	桂Aクラスター ショップ		10:00～20:00	文具・食品・日用品の販売等, JRチケット発券

詳しくは京大大学生協ホームページ <http://www.s-coop.net> をご覧ください。

タル用品や時計のほか、「食べられるオリジナルグッズ」として喜ばれている八つ橋, かわらせんべい, 飴などもあります。また京大教員が考案した元素記号の立体周期表「エレメンタッチ」なども大学らしいと評判です。

京大受験生や, 新入生も応援しています。

生協では京都大学を受験する皆さんの宿泊の手配も行い, 安心して受験していただけるようお手伝いをしています。受験の不安を和らげるなど, 受験生のサポートには在校生があたっています。

また毎年3月には新入生の住まい探し

[写真] 百周年時計台記念館内にある「京大ショップ」。京都大学オリジナルグッズや京都大学の教員が執筆した書籍が購入できます。



や生活用品の購入ができる「新入生センター」を開設し, 京都大学での新生活がスムーズに始まるお手伝いをしています。

ほかにも, 京都大学オープンキャンパスでのキャンパスツアー開催や各種相談コー

ナーの運営などを通して, これから京都大学を目指す人々へのサポート活動にも力を入れています。

# 学習・研究に安心して取り組んでもらうために。

## [学生生活を支援する制度や施設]

### 身体に障害がある方たちへのサービス

本学では、身体に障害があつて、受験及び就学上の特別な配慮を必要とする入学志願者のための相談を常時行っています。受験及び就学上必要な特別措置等について協議いたしますので、ご相談ください。また、進路上の相談にも応じています。

なお、相談の内容によっては対応に時間を要することもありますので、この相談を希望する方は、出願前の早い時期に、志望する学部の教務掛へ照会してください。(照会先については、92 ページを参照してください。)

### 履修相談

本学では、新入生を対象としたガイダンスを実施しています。全学共通科目については、高等教育研究開発推進機構が4月入学時に「新入生向けガイダンス」を開催しています。専門科目については、各学部において新入生向けガイダンスの実施や教務掛の窓口において履修相談にに応じています。

(全学共通科目については、共通教育教務掛 [Tel.075-753-6508 ~ 6511] に照会してください。専門科目については、92 ページの各学部教務掛に照会してください。)

### 経済的に困難な方たちへのサービス 入学料・授業料免除等

#### (1) 入学料免除

入学前1年以内において、出願者の学資負担者が死亡し、又は出願者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、入学料の納付が著しく困難であると認められる方について、出願者本人からの申請により選考の上、全額又は半額を免除する制度です。

#### (2) 入学料徴収猶予

経済的理由により入学料の納付期限までに納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる方及び入学前1年以内に出願者の学資負担者が死亡し、又は出願者若しくは学資負担者が風水害等の災害を

受け、入学料の納付期限までに納付が困難であると認められる方について、出願者本人からの申請により選考の上、入学料の徴収を猶予する制度です。

#### (3) 授業料の免除

本学では「授業料免除」と「授業料免除京都大学特別枠」という二つの免除制度があります。

「授業料免除」は経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる方及び入学前1年以内に出願者の学資負担者が死亡し、又は出願者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、授業料の納付が著しく困難であると認められる方について、出願者本人からの申請により選考の上、各期ごとに全額又は半額を免除する制度です。「授業料免除京都大学特別枠」は出願資格として学業優秀を条件としないこと、後期授業料(前期は実施しません。)の全額を免除することが「授業料免除」と異なっています。

(問い合わせ先: 学生部厚生課学資担当 Tel.075-753-2536)

#### 入学時に要する納付金 (平成17年度)

入学料	授業料
282,000円	(前期分のみ) 267,900円 (年額) 535,800円

\*入学時に改定されることがあります。  
\*納付金は、全学部において同額です。

#### 奨学金制度

学業成績や人物が優れかつ健康であつて、経済的な理由により就学が困難であると認められる場合に奨学金を申請することができます。

#### 日本学生支援機構奨学金

高校在学中に大学進学後、貸与を受けよう并希望する方に予約採用が、進学後に採用を希望する方に在学採用の申請方法があります。

なお、第1学年(編入学の入学年次を含む)において希望により、4月の基本月額に定額(300,000円)を増額して貸与する制度があります。

申込のできる方は、国の教育貸付け(国

民生活金融公庫の教育ローン)を申し込んで貸付を受けることができなかった方が申込みます。

#### 貸与月額 (平成17年度)

	自宅通学者	自宅外通学者	採用数(注)
第一種奨学金(無利子貸与)	45,000円	51,000円	234名
第二種奨学金(きぼう21プラン)(有利子貸与)	3・5・8・10万円のうちから選択		278名

(注)平成16年度1年次在学採用数

#### 地方公共団体奨学金及び民間団体奨学金

本学には、日本学生支援機構奨学金以外に地方公共団体奨学金及び財団法人、公益法人、民間企業等の出資による民間団体奨学金などの多様な奨学金制度があります。

募集等の条件は団体により種々異なりますが、募集時期はほとんどが4月~6月の間です。

なお、都道府県市区町村の教育委員会で取り扱っているケースも多いので、直接出身地等の教育委員会に問い合わせるのもよいでしょう。

奨学金を貸与或いは給付されている在学生は、大学院生を含めて約350名います。

毎年約80団体より募集があり、約50名が新規に採用されています。

#### 小口短期貸付金(学生援助会)

学生部厚生課では、病気や不慮の事故、家庭からの送金の延着、その他の急な出費に対し、最高5万円まで無利子で短期間(1~6カ月以内)の貸付融資を行っています。

なお、金額によっては、あらかじめ保護者等を保証人とする債務保証書を提出する必要があります。

(問い合わせ先: 学生部厚生課学資担当 Tel.075-753-2536)

#### 学生寄宿舍

本学の学部学生が入居できる学生寄宿舍は、右ページ上の表の3寮です。いずれも大学の近くにありまので、便利で



学生寄宿舎一覧

	吉田寮	熊野寮	女子寮
収容定員	147名	422名	35名
対象学生	男子・女子	男子・女子	女子
建物構造	木造 2階建(3棟)	鉄筋コンクリート 4階建(3棟)	木造モルタル塗 2階建(2棟)
居室様式	和室	洋室	洋室
食堂の設置	無	有	無
寄宿料(月)	400円	700円	400円
光熱水料等	2,000円から3,500円(各寮により異なります)		
通学時間(※)	徒歩約5分	徒歩約15分	徒歩約7分

※吉田キャンパス本部構内までの参考通学時間

安価に生活することができます。詳しくは、学生部厚生課へお問い合わせください。

(問い合わせ先：学生部厚生課寮務担当 Tel.075-753-2539・2540)

下宿・アパート等の紹介サービス

学生部厚生課では、入学手続の日から下宿・アパート等を紹介しています。風呂は無く、台所・トイレも共同ですが、その分、部屋代も安価で、4.5畳で15,000円、6畳で20,000円前後のものを紹介しています。

また、京都大学生活協同組合では、アパート・マンション等の紹介をしています。(問い合わせ先：学生部厚生課厚生企画掛 Tel.075-753-2533)

アルバイトの紹介サービス

学生部厚生課では、主に家庭教師・祭礼行列員等のアルバイトを紹介しています。

祭礼アルバイトは、京都の三大祭(葵祭、祇園祭、時代祭)等で、行列に参加したり、山車を引いたりするもので、学生生活の思い出にもなり、学生に好評のアルバイトです。

なお、その他一般のアルバイトは、京都大学生活協同組合で紹介しています。(問い合わせ先：学生部厚生課厚生企画掛 Tel.075-753-2533)

健康管理について

保健管理センター

本学学生の健康の保持と増進を図り、最適な健康状態で充実した学生生活を過ごしてもらうために、健康管理を専門的に行う施設として保健管理センターを設置しています。

センターには専任の医師と看護師がおり、定期並びに臨時健康診断や保健指導などの予防医療、応急処置などの初期診

療、その他健康に関するあらゆる相談を行っています。病院などとは異なり、ちょっとした不安や疑問を解決するためにごく気軽に受診することができます。また、検査や投薬も受けられます。個別の相談や診療は正門西側カフェレストラン・カンフォーク奥の保健診療所で受け付けます。

保健診療所

保健診療所では、下記各科の専門医が、本学学生の傷病診療と健康相談・精神衛生相談を行っています。

- (a) 診療科名
  - 内科 眼科 皮膚科 耳鼻咽喉科
  - スポーツ整形外科 神経科 歯科
- (b) 診療受付時間
  - 10:00 ~ 12:30, 14:00 ~ 16:30
- (c) 休診日
  - 土曜日, 日曜日, 国民の祝日及び年末年始(12月29日~1月3日)
  - は全日休診です。
  - なお、臨時休診日(定期健康診断実施日等)は、その都度受付の掲示板に掲示しています。
- (d) 料金
  - 学生の健康相談・精神衛生相談及び正課中における傷害についての初診時の料金は無料です。傷病診療(薬価, 検査料, 処置料その他の経費)は実費となります。
  - (各科の診療などの問い合わせ先：Tel.075-753-2405〈内科〉またはTel.075-753-2404〈受付〉)

学生教育研究災害傷害保険

学生が、「急激」かつ「偶然」に「外来」の事故を被った場合の災害補償を全国的な補償救済措置として制度化されたもので、本学では、教育研究活動中等の不慮の災害事故補償のため、保険料も低額な本保険への全員の加入を強く勧めて

います。

また、インターンシップ、教育実習、介護体験、ボランティア活動等において学生が万が一相手にケガをさせたり物を壊したりした時に備えて賠償責任保険を付帯することができます。

(問い合わせ先：学生部厚生課厚生企画掛 Tel.075-753-2533)

京都大学学生健康保険組合

京都大学では、昭和25年より本学学生が、風邪やケガで学内の医療機関で治療等を受けた場合、学生相互に医療費を補助することを目的とした、学生健康保険組合を設置しています。

この保険組合に加入すると学内の医療機関(京都大学保健診療所及び医学部附属病院)で受診した1年間に支払った医療費の総額が1万円までは50%を補助し、これを超えた場合は超えた額の10%を補助します。入院の場合は90日を限度に1日につき100円です(入院期間中の医療費の補助は非適用)。組合費は1年間500円で全員が加入されるようお勧めします。

(問い合わせ先：学生部厚生課厚生企画掛 Tel.075-753-2534)

カウンセリングセンター

京都大学では、学生が学生生活を送る上で出会う様々な悩みや問題を相談できる場所として、カウンセリングセンターを設置しています。大学は、単に知的な学習・研究のための場ではなく、全人格的な成長・発達のための場であるべきものです。しかし学生生活の中で、自分だけでは抱えきれない問題が生じてくることもあるかもしれません。友人や家族にさえ話しにくい内容の場合もあるでしょう。そういう時のために、カウンセリングセンターがあるのです。

カウンセリングセンターでは、心理学(臨床心理学・相談心理学・青年心理学など)を専門とするスタッフが相談に応じています。現在、1年間に約500人の学生が相談に訪れ、のべ4,000回から4,500回に上る相談面接がなされています。

(カウンセリングセンターの詳細については、ホームページをご覧ください。

<http://www.kyoto-u.ac.jp/counseling/>)

# Club & Circle Activities

課外活動を通して、さらに充実した学生生活を。

[多彩なクラブ・サークル活動]



1



3



2

## 文化系サークル (99 団体)

### 【音楽・ダンス系】

音楽部交響楽団  
軽音楽部  
音楽研究会  
合唱団  
グリークラブ  
アカペラサークル・CRAZY CLEF  
ギタークラブ  
マンドリンオーケストラ [写真④]

吹奏楽団  
リコーダー同好会  
E.M.B.G.  
軽音サークル・こんべいとう  
軽音サークル・ZETS

吉田音楽製作所  
民族舞踊研究会  
ALL 京大舞踏研究会  
アマチュアダンスクラブ

### 【芸術・古典系】

劇団ケッペキ  
劇団ペーパームーンシアター  
映画部  
映画文化研究会  
シネマ研究会  
雪だるまプロ  
漫画研究部  
アニメーション同好会  
創作サークル「名称未定」

美術部  
美術研究会  
陶芸部

写真部  
書道部 [写真②]  
能楽部親世会 [写真⑤]  
能楽部宝生会  
能楽部金剛会  
能楽部狂言会  
心茶会  
落語研究会  
囲碁部  
奇術研究会  
将棋部  
遊劇隊

【宗教系】  
キリスト者学生会  
基督教共助会  
平和哲学研究会  
古典に学ぶ会  
原理研究会

【人文・社会・自然系】  
クイズ研究会  
RPG 研究会  
SF 研究会  
唯物論研究会  
京大に在籍する在日韓国・  
朝鮮人学生の集い  
韓国文化研究会  
京都大学韓国人留学生会  
京都大学留学生会  
アフリカ研究会  
京都ムスリム協会  
歴史研究会  
地理同好会  
鉄道研究会  
バス研究会  
天文同好会  
粋な科学の会

生物科学の会  
ころぼっくる  
野生生物研究会  
都市公害問題研究会  
環境ネットワーク 4R の会  
環境サークルえこみっと  
社会科学研究会  
機械研究会  
E.S.S.  
エスペラント語研究会  
児童文学研究会・紙風船  
点訳サークル  
手話サークル [写真①]  
グッドサマリタンクラブ  
さいもんめ  
放送局・KUBS  
現代社会研究会  
アジア連帯! 学生キャンペーン  
刑事法研究会  
探検部

【その他】  
学生平和委員会  
人権研究センター  
ユネスコ学生クラブ  
ユニセフクラブ  
アイセック  
全学学生自治会同同学会  
西部講堂連絡協議会  
文化サークル連合  
応援団 [写真④]  
11 月祭全学実行委員会  
京都大学新聞社  
京大学生新聞会  
京都大学生協学生委員会  
京都大学院生協議会



4



5



6



7



8



9



10



11

体育会所属の運動部 (48 団体)

- 合気道部
- アーチェリー部
- 居合道部
- ウェイトリフティング部
- 空手道部
- グライダー部
- 硬式庭球部
- ゴルフ部
- サッカー部
- 自転車競技部 [写真⑩]
- 柔道部
- 少林寺拳法部
- スキー競技部
- 相撲部
- ソフトボール部
- 卓球部
- バスケットボール部
- バーベル部
- ハンドボール部
- フィギュアスケート部
- ボウリング部
- ボクシング部
- ライフル射撃部
- ラグビー部
- アイスホッケー部
- アメリカンフットボール部 [写真⑨]
- ウィンドサーフィン部
- カヌー部
- 弓道部 [写真⑦]
- 剣道部
- 硬式野球部 [写真⑧]
- サイクリング部
- 山岳部
- 自動車部
- 準硬式野球部
- 水泳部
- スピードスケート部
- ソフトテニス部
- 体操部
- 馬術部 [写真⑥]
- バドミントン部
- バレーボール部
- フィールドホッケー部
- フェンシング部
- ボート部
- ヨット部
- ラクロス部 [写真⑪]
- 陸上競技部

体育会に所属していない  
体育系サークル (38 団体)

- 京都を歩く会
- 散策の会
- オリエンテーリングクラブ
- ワンダーフォーゲル部
- フリークライミングクラブ
- 神陵ヨットクラブ
- 硬式庭球同好会
- 硬式庭球同好会・フリーク KIDDY KIDS
- フレームショット
- 京大ソフトテニスサークル
- テニスサークル・JUST OUT
- 京大 T.C.T
- スキー同好会・スノーパンサー
- 基礎スキークラブ・ラスカル
- 青城サッカークラブ
- 飛翔会
- 持久走同好会
- メイプル・
- バスケットボール同好会
- バスケットボールサークル・フリークラブ
- バスケットボールサークル・L.E.D
- バレーボールサークル・JUSTICE
- 剣道同好会・指薪会
- 天之武産合気会
- 空手同好会
- 東洋医学拳法京都大学支部
- 太極拳同好会
- 圓和道部
- ソフトボール同好会・プレッシャーズ
- 卓球同好会 SMASH × SMASH
- バドミントンサークル・レモンスカッシュ
- アルパトロスゴルフ同好会
- アウトドアサークル・DOWN HILL
- バードマンチーム・シューティングスターズ
- 京大フィッシングチーム BREEZE
- チアリーディングサークル TREVIS
- 有機農業研究会

平成 16 年度第 43 回  
国立七大学総合体育大会

第 43 回国立七大学総合体育大会が平成 16 年 7 月 17 日 (土) の開会式を挟み、平成 15 年 12 月 6 日 (土) の「アイスホッケー」を皮切りに平成 16 年 8 月 12 日 (木) の閉会式まで、27 競技種目にわたり北海道大学の主管で開催されました。

本学は、順調なスタートを見せ、少林寺拳法・陸上競技男子・卓球男子・フェンシングが 1 位になるなど健闘いたしました。地元北海道大学が各種目優位に試合を進め、点数を上げていく中、後半戦思うように点数が伸びず、追いつけが実らず今年も 2 位を確保するに終わりました。

(国立七大学総合体育大会は、北海道大学・東北大学・東京大学・名古屋大学・京都大学・大阪大学・九州大学の国立七大学の学生が相集い開催されている伝統ある学生スポーツ大会です。第 38 回・39 回・40 回大会において、本学は 3 連覇を達成しました。)

- 【課外体育施設】
- 北部グラウンド
  - 北白川スポーツ会館
  - 馬場 (厩舎)
  - 吉田南グラウンド
  - テニスコート
  - 総合体育館
  - 総合体育館附属プール
  - バレーコート
  - 弓道場
  - アーチェリー場
  - 相撲場 など

- 【学外の施設】
- 白馬山の家
  - 白浜海の家
  - 笹ヶ峰ヒュッテ
  - 志賀高原ヒュッテ など



## 学部概要

本学部は、平成4年10月1日に法令上設置され平成5年4月に第一期生を迎え入れた、京科大学で最も新しい学部です。

新学部を「総合人間学部」と名付けた理由は、本学部の研究・教育が、自然と調和した人間の全体的形成を目標とするものだからです。「総合人間学」とは、心理や思想といった内面、あるいは身体面からだけでなく、政治・経済・文化・歴史といった社会環境、さらには物質や生物などの自然環境との関係を含めて、人間存在のあらゆる面に光を当てようとする学問です。すなわち、人間と人間をとりまく世界を総体的に捉える新たな学問の確立が、総合人間学部にも与えられた課題なのです。

現代社会の危機感の中にあるわれわれが、人間自身を最大のテーマとして取り上げるのは、ここにこそ人類生存や文明の可能性が求められるからです。このような根本的な問題の追究は、従来のように高度に専門化された研究だけでは不可能でしょう。京科大学の自由な学風と伝統のもとに、既存の個別科学の枠を越え、より多様で総合的な学問の場を提供することを、本学部はめざしています。

その後、総合人間学部は、平成15年4月に大学院人間・環境学研究科に直結する学部として再編され、それに伴い、時代適応性の高い1学部1学科制をとり、総合人間学科の下に、人間科学系、国際文明学系、文化環境学系、認知情報学系、自然科学系の5学系構成としました。

5学系全体で120名の入学生は、最初の1年間ほどの学系にも属しません。そして、自由に広い学問分野に触れた上で、2年進級時に自らの学系・主専攻を選択します。その際、前期日程「文系」、前期日程「理系」、および後期日程のいずれの入学試験を経たかは問われません。また広い視野を持つ創造性豊かな人間を育成する目的で、本学部は副専攻の制度を設けています。これは各自の主専攻の他に、異なる学問分野を系統的に履修することによって、幅広い専門知識を身につける制度です。副専攻を選択し、所定の単位を修得した場合は、卒業の際に、学士の学位記とは別に主専攻・副専攻を明記した専攻認定書が発行されます。

### 【総合人間学部が望む学生像】

このような本学部の基本理念に共鳴し、積極的に総合人間の開拓を志す学生。また文系・理系の既成の枠に縛られることなく、多様化する21世紀国際社会のリーダーたらしめる学生。未知の分野・未踏の地を恐れず限りない好奇心をもてる学生。学を究めるためにはいかなる労苦もいとわず、その先に見えてくる新たな光に無上の喜びを感じることできる学生。そのような学生が門をたたくことを望んでいます。

## 総合人間学部の教育

### 5つの学系

総合人間学部には、5つの学系があります。

人間をめぐる現代の複雑な状況は、過去の人間について蓄積された叡智の上に、人間についての根源的、総合的理解を緊急に行う必要性を提起しています。このような必要性に応えるため、思想、社会、文化の3方面から人間の総合的な把握がなされねばなりません。この3側面から現代の人間を系統的に学ぶことによって、従来存在しなかった新しいタイプの人材を養成するため、「人間科学系」が設置されています。

世界のグローバル化が進む状況のなかで、西洋ならびに近代主義と、非西洋とその固有の文明を複眼的に捉えることが要請されています。近代主義を主として社会科学領域や歴史文化研究の側面から分析し、いち早く近代化した日本のあり方を検討するとともに、東アジアとの比較を行うことによって国際的で新しい文明の理念を構築するために、「国際文明学系」が設置されています。また世界各地の固有の民族性や地域性、人間にとって基本的な居住の視角から各文明の特質を解明し、文明相互の交流を理解するために「文化環境学系」が設置されています。

今日、人間と機械の情報処理の問題を総合的に学ぶことは、焦眉の急務となっています。脳の機能とは何かから、人間の認知、行動発言、言語機能の探求、その基礎にある情報科学と数理科学にいたるまで深く学ぶために「認知情報学系」が設置されています。さらに自然を理解し、人間と自然の共生を保持するために、多様な自然現象を物理科学、物質科学、生物科学、地球科学的手法によって探求し、自然現象の構造や基本原理を明らかにする必要があります。自然科学の諸分野の基礎を学ぶとともに、自然と人間の共生関係を維持するための自然観・物質観念を養成するために「自然科学系」が設置されています。

以上5学系から総合人間学部・総合人間学科が構成され、それらのダイナミックな連携のもとでの教育と研究をめざしています。

### 専攻の決定

前期日程「文系」、前期日程「理系」、後期日程という入学試験の形態にかかわらず、本学部入学生はすべて、入学後1年間、どの学系にも分属しません。自由な学風のなかで、幅広い学問分野に触れ、自分の専攻する分野を見極めた上で、2年進級時に主専攻を決めて、学系に分属されます。

### 4年一環教育

柔軟で広い視野をもつ知性の涵養を目的とした全学共通科目と、総合人間学部固有の授業科目を、4年間を通じて有機的に結合させたカリキュラムで実施します。大学院「人間・環境学研究科」の教員が、総合人間学部の学部教育を担当し、指導教員となっています。また、卒業研究指導教員とは別に、教員アドバイザー制度を設け、履修上の指導と学生生活上の相談に応じます。

### 副専攻制度

総合人間学部では、広い視野を持ち創造性豊かな人間を育成する目的で、主専攻のほかに、副専攻の制度を設けています。副専攻は、各自が所属する学系の専門分野以外の特定の分野以外の特定の分野を系統的に履修する制度です。これによって、専門以外の分野にも深い知識と素養を身につけることができます。副専攻は、指導教員とよく相談の上、各自で選択します。副専攻を修得したことに対しては学士の学位記とは別に副専攻名を記した認定書が発行されます。

### 大学院「人間・環境学研究科」

総合人間学部の大学院進学志望者の多くは、「人間・環境学研究科」を受験して進学しています。また、本学の他の各研究科や他大学の大学院に進学することもできます。

「人間・環境学研究科」には、次の3専攻が設けられています。

**共生人間学専攻**

本専攻では、「人間相互の共生」という視点をふまえて、社会や文化の中に生きる人間存在のありようを探求し、人間同志が共に生きるなかから生まれる諸問題を解決できる人材を育成するための教育研究を行ないます。このため、人間社会論講座、思想文化論講座、認知・行動科学講座、数理科学講座、言語科学講座及び外国語教育論講座の6講座を設置しています。

**共生文明学専攻**

本専攻では、自然と人間・社会とを対峙させ、自然を制御することを文明の営みとしてきた西欧文明、及び自然との共生を文明の営みとしてきた地球上の他の文明を考察することによって、「文明相互の共生」を可能にする方策を探求し、関連する諸問題を解決できる人材を育成するための教育研究を行ないます。このため、現代文明論講座、比較文明論講座、文化・地域環境論講座及び歴史文化社会論講座の4講座を設置しています。

**相関環境学専攻**

本専攻では、従来の科学・技術・産業に内在する「開発」の論理を見直し、人類を含めた生態系の、全体としての存続に寄与することを志向する「人間と自然の共生」の論理を学問的営為に根づかせるべく、そのための新しい科学・技術のあり方を探求し、それとともに自然と人間との共生を図る新しい社会システムのあり方を模索し、関連する諸問題を解決できる人材を育成するための教育研究を行ないます。このため、共生社会環境論講座、分子・生命環境論講座、自然環境動態論講座及び物質相関論講座の4講座を設置しています。

**さらに詳しく知るには**

- 総合人間学部のホームページ <http://www.h.kyoto-u.ac.jp/>
- 入学についてのお問い合わせ 総合人間学部教務掛 (tel.075-753-6506)

**在学生からのメッセージ**



**「総合人間学部」**

1回生  
平岡 淳さん

高校時代から漠然と「人間」というものに興味のあった私は、総合人間学部の「人間」という言葉に惹かれてこの学部を志望しました。しかし、一口に「人間」とは言ってもそのアプローチは様々あります。(これは、大学に入って痛感しました) そのため、研究を行うにあたってあるひとつの専門分野を定めていくことになります。総人では、分野の枠を超えて様々な学問を学べるため、専門を選ぶ際に選択肢を狭められることはありません。同時に、専門の分野に固執しすぎる事の無い、広い視野(=教養)を養うことができます。このような総人の環境は、まさに「人間」というテーマを学ぶのに最適だと私は思います。私もこの総人で視野を狭めすぎることなく、より具体的に自分が学びたいことを求めていると思います。



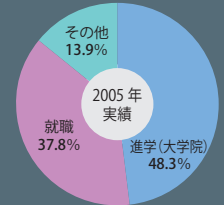
**総人での出会い**

1回生  
丸木 伸洋さん

僕は入学してまだ間もないですが、総人の魅力は？と聞かれれば、それは友達や授業の多彩さだと答えます。総人には、学部の性格上から、本当に色んなことを考えている人が入学していて、彼らと付き合ううちにいつの間にか自分もその人の世界に引っ張られてしまいます。そうやって、自分の知らない世界を見ることが出来たり、様々な価値観に触れることが出来たりします。色んなものに触られる反面、迷うことも沢山あります。でもそういった迷いを通して行う探求の過程は、何にも替え難い経験になっていると感じます。総人という無限の可能性を秘めた学部を舞台にして、色んな興味を持つ友達や、様々な分野を研究されている先生に囲まれながら自分の可能性を探ってみませんか？みなさんの入学を大学で心待ちにしています。

**卒業後の進路**

- ・進学  
約5割が人間・環境学研究科等の大学院へ進学します。
- ・就職  
就職者の約2割が官公庁や教育機関、また約3割がマスコミやIT関連といった情報通信業への就職でその方面への躍進が見られます。  
その他化学・電気・機械等のメーカー、金融業、人材派遣等のサービス業、タレント等その就職先は総合人間学部の性質上多岐に渡っています。



就職先の例  
総務省、厚生労働省、大阪府庁、沖縄県庁、京都市教育委員会、NHK(日本放送協会)、読売テレビ、毎日新聞社、富士通、UFJ銀行、東京三菱銀行、中外製薬、日本航空インターナショナル、日本国際協力センター

**総合人間学部で取得可能な資格**

総合人間学部では、高等学校、中学校、養護学校の教育職員になることを目指す学生は、教育職員免許法の定めにより、所定の単位を修得し、所定の手続きを行えば免許状が取得できます。また、博物館等の専門職員となるための学芸員の資格も、博物館法の定めにより、他学部の科目を修得することで、取得することができます。  
総合人間学部で取得できる教育職員免許状の種類及び教科：中学校一種(国語、社会、数学、理科、保健体育、英語、ドイツ語、フランス語)、高等学校一種(国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、情報、英語、ドイツ語、フランス語)

**卒業生からのメッセージ**



**京都大学を目指されるみなさんへ**

2005年卒業  
国土交通省勤務  
山崎 庸右さん

平成17年に国土交通省に入省し、現在、政令改正などを通じて法令や行政の基本を学んでいます。毎日多忙ですが、その分やりがいがあり、充実した日々を送っております。  
私が京都大学を目指したのは、高校が自由な校風でしたので、大学にもその自由さを求めたことと、歴史ある京都の街で大学生活を送りたかったからです。  
実際とても自由な雰囲気、好奇心や創造力が培われ、また多くの素晴らしい友人や先生達に出会えました。そして、本校は自主性を重んじているので、自ら問題を見つけ、それを解決しようとする姿勢が養われ、これが現在の仕事においても大いに役立っております。  
自ら様々なことについて学習したいと思っている方は、ぜひ京都大学の門戸をたたいてみてください！きっとあなたの人生が輝くはずですよ！



2005年卒業  
中日新聞社勤務  
鈴木 和歌奈さん

私は、京都が大好きという理由で京大に入りました。  
大学は、鴨川、大文字山、神社仏閣、古本屋、老舗カフェ、古い町屋などに囲まれており、情緒にあふれています。そんな学生の町で教授を囲んで夜遅くまで語ったり、友達とバカなことを言って飲み明かしたりしながら4年間を過ごしました。  
京大は自由な学風を掲げている通り、学生が「これをやれ」と強制されることは滅多にありません。しかし、逆に何か勉強したいと思ったら教授、友人、資料、図書館などの環境は最高のものが揃っています。私もよく学部を跨いで授業やゼミに出ました。そして、それがジャーナリズムの道へ進むきっかけになりました。今思えば、京大で学んだこと、思い出、そして出会った友人や教授は宝物です。  
一人でも多くの方が晴れて京大の門をくぐり、充実した大学生活を送れるよう願っています。

## 学系紹介

### 人間科学系

本学系は、既存の人間についての知を踏襲しつつ、より包括的根底的な人間理解を目指す。その道筋として三つが考えられる。第一は「思想」の方向で、人間存在の哲学的、倫理的な説明ならびに芸術などの創造行為の思想的、歴史的説明がなされる。第二は「社会」研究の方向で、社会的存在としての人間の形成や社会行動について実証的、理論的研究がなされる。第三は「文化」研究の方向で、文学や映画などの文化現象について歴史的社会的研究がなされる。「思想」、「社会」、「文化」の三方向はさらに以下の六分科から成り、それらは相互に有機的に連関し、人間についての知を刷新して、新たな総合的学構築を目指す。

人間存在論、創造行為論、人間形成論、社会行動論、文芸表象論、文化社会論

### 国際文明学系

「タコツボ化」した社会諸科学や人文諸学が現代社会の直面する深刻な諸問題の解決に十全な有効性を発揮し得ないという指摘がなされるようになってすでに久しい。

学生諸君には、本学系が提供する社会科学系諸分野あるいは日本・東洋・西洋の歴史と文化に関する人文系諸分野のなかから特定のものを主専攻として選択しその研究に従事する一方で、関連諸学を領域横断的に学び、言葉の真の意味での「ユニバーシティ」で学んだ人間であれば当然に体得すべき高度で幅広い教養(リベラル・アーツ)と柔軟な思考に裏づけられた専門知の修得を心がけていただきたい。

「何をどう学ぶか」を自分自身で設計したいと願う意欲的で主体的な学生よ、来たれ。

### 文化環境学系

文化環境学系では、近代文明のグローバル化が進展する現代にあって、その基層単位をなす世界各地固有の民族性や地域性、人間社会にとって基本的な居住の諸相の実態と、将来的な意義を見定める視座の確立を追求します。また、各文明の地域的特性を多角的に比較しながら、文明相互の交流とその文化的所産、さらには文明の自己相対化の諸相を複眼的な視点から解明します。

教育方針としては、文明に関して日本人の常識が必ずしも世界の常識ではないこと、文明はたえず交流変化しつつ、その自己同一性は長く保たれるという複雑な存在であることを理解させ、文化や環境の諸問題を研究する上で、現場で学ぶことの重要性を身につけさせます。

授業は、大学院・人間環境学研究科の以下の研究分野に属する教員によって行われます。

多文化複合論、地域文明論、文明交流論、文化人類学、地域空間論、環境構成論

### 認知情報学系

脳、身体、言語、数理情報などに関する研究をとおして、人間の多様な創造世界に関する理解を深めることが本学系の目的です。

人間同士、あるいは人間と環境との関わりは、脳、身体、言語等をインターフェイスとして行われています。環境の認識と環境への働きかけは脳内の認知機構と行動制御機構によって実現されるものです。人間相互のコミュニケーションは言語システムを媒体に行われ、それを媒介する計算機の情報処理には複雑な数理機構が関与しています。

本学系では、脳の機能から、人間の認知、行動発現、言語機能、そしてその基礎となる情報科学や数理科学に至るまで、人間や機械の情報処理システムを総合的に学びます。その過程で、理系・文系という枠を超えた幅広い探究能力と、人間の認知行動の総合的理解に基づく科学的で柔軟な思考能力を身につけることを目指しています。

認知科学、行動制御学、身体機能論、現象数理論、数理情報論、言語情報科学、言語比較論、外国語教育論

### 自然科学系

自然科学系は、物質や生命、地球・宇宙を支配する基本原理やその間の相関関係を理解することを目指した学系です。物理学、有機・無機化学、生物科学、地球科学で構成されています。

それぞれの学問領域が持つ基本的な考え、知識を基礎とし、さらにその間の壁を越えて新しい領域を模索するために必要な教育と研究が行われています。自然科学の基礎に基づく「自然観」と、他の系での学修から得る「人間観」を組み合わせ、各自の「知」を求めることが目標となります。

講義は、大学院人間・環境学研究科の以下の研究分野に属する教員によって行われます。

分子環境相関論、生命環境相関論、生物環境動態論、地球環境動態論、物質物性相関論、物質機能相関論



大気の接地境界層の観測  
都市のヒートアイランド現象のメカニズムを解明するために行なう、バルーンによる大気の鉛直温度分布連続観測

## 専門科目

主専攻	科目
人間科学系	【入門科目】人間科学入門
	【人間存在論関係】自己存在論 A、自己存在論 B、認識人間学 A、認識人間学 B、人間実践論 A、人間実践論 B、環境存在論、環境規範論、自己存在論演習 A、自己存在論演習 B、認識人間学演習 A、認識人間学演習 B、人間実践論演習 A、人間実践論演習 B、環境存在論演習、環境規範論演習、人間存在論特殊講義 A、人間存在論特殊講義 B、人間存在論特別演習
	【創造行為論関係】舞台芸術論 A、舞台芸術論 B、創造行為論演習 IA、創造行為論演習 IB、創造行為論演習 IIA、創造行為論演習 IIB、近代芸術論演習 A、近代芸術論演習 B、舞台芸術論演習 A、舞台芸術論演習 B、創造ルネッサンス演習 A、創造ルネッサンス演習 B、創造ルネッサンス論 A、創造ルネッサンス論 B
	【人間形成論関係】人間形成論、人間形成論演習 IA、人間形成論演習 IB、人間形成論演習 IIA、人間形成論演習 IIB、人間形成史論、人間形成史論演習 A、人間形成史論演習 B、関係発達論、関係発達論演習 A、関係発達論演習 B、精神病理学・精神分析学講義、精神病理学・精神分析学演習 A、精神病理学・精神分析学演習 B
	【社会行動論関係】宗教現象学、生命倫理学、グループ・ダイナミクス実習 A、グループ・ダイナミクス実習 B、人間行動論、社会情報論、人間行動論演習 A、人間行動論演習 B、社会情報論演習 A、社会情報論演習 B、宗教学研究論演習 I、宗教学研究論演習 II
【文芸表象論関係】ドイツ文芸表象論講義 A、ドイツ文芸表象論講義 B、ドイツ文芸表象論講義 A、ドイツ文芸表象論講義 B、英米文芸表象論講義 A、英米文芸表象論講義 B、英米文芸表象論講義 IA、英米文芸表象論講義 IB、英米文芸表象論講義 IIA、英米文芸表象論講義 IIB、英米文芸表象論演習 IA、英米文芸表象論演習 IB、ドイツ文芸表象論演習 A、ドイツ文芸表象論演習 B、英米文芸表象論演習 IIA、英米文芸表象論演習 IIB	
【文化社会論関係】動態映画文化論 A、動態映画文化論 B、制度・生活文化史 A、制度・生活文化史 B、メディア・スタディーズ IA、メディア・スタディーズ IB、ヒストリー・オブ・アイディアズ A、ヒストリー・オブ・アイディアズ B、ヒストリー・オブ・アイディアズ演習 A、ヒストリー・オブ・アイディアズ演習 B、動態映画文化論演習 A、動態映画文化論演習 B、制度・生活文化史演習 A、制度・生活文化史演習 B、メディア・スタディーズ IIA、メディア・スタディーズ IIB、メディア・スタディーズ演習 A、メディア・スタディーズ演習 B	





## 文学部の教育

### 文学部とは？

言うまでもなく、文学部は詩人や小説家を養成する学部ではありません。そもそも、何か特定の職業に就いて生きるための訓練の場所ではないのです。それでは、何をやる所でしょうか。たとえば、人が仕事の手を休め、ふと我に帰って、自分の人生や家族や社会や時代について、ぼんやりと考えを巡らすとき、知らず知らずのうちに文学部の研究領域にそっと触れていると言えます。つまりその人は無意識の内に、人って何だろう、社会とは何かという根源的な問いの前に立っているのです。この種の省察は、生きる上ですぐに役立つものではありません。でも本当は、人が人である限り、大切にしなければならぬものなのでしょう。それを問い、省察し、研究するのが私たちの文学部なのです。

### 多様な研究と学問的伝統

文学部の多種多様な研究を束ねる唯一のキーワードは、人間とその文化的営み。ですからその研究は、人類文化の遙かな起源から現代まで、地理的にはこの日本から始まって地球の全域に及びます。そのため、文学部の広大な研究領域をカバーする系と専修も実に多種多様です。学部生は2年生になる時に6つの系のいずれかに仮分属し、さらに3年生で34の専修のいずれかに分属します。それぞれの専修は、教員と学生（＝学部生＋大学院生）からなる独立した研究室を形成しており、学部生は教員や大学院生と授業等の場を共有することを通して、多くのことを学んでゆきます。さらに研究室の多くは、他大学で研究者として活躍している卒業生を加えた研究会を運営しています。この研究室を中心にした独自のネットワークの裾野が、各専修の学問伝統を支えているのです。

### 国際化と新しい研究者の育成

日本研究であれ、外国研究であれ、国内の評価だけで研究者として認められた時代は終わりました。今では国際交流の活発化によって、哲学、歴史、文学、行動文化学、いずれの分野でも、国際化が進行しつつあります。その中で、日本人研究者は世界の研究者と対等に渡り合い、自分の研究の価値を世界に認めさせ、国際研究水準の引き上げに寄与し、最終的には世界の研究者が、ナショナリズムの垣根を乗り越えて、相互理解の共通基盤に立つよう努めなければなりません。そのために文学部では学部生の段階から、外国留学や外国人研究者との交流、さらには専修横断の学際的な公開シンポジウムなどへの参加を通じて、国際スタンダードにかなった研究者を育てようとしています。

### 文学部の4年間

1年生の時に履修する科目はほとんどが全学共通科目で、ごく少数のものを除いて学部専門科目の履修は2年生になってからです。2年生になるときは、3年生で専修に分属する準備として6つの系に仮分属します。文学部は理工系の学部と比べると規模は小さいですが、先にも触れたように34の専修があり、その研究内容は千差万別といってもよいくらいです。多くの専修での研究内容は皆さんにとっては未知のものですから、どのようにして専修を決定すればよいか、とまどうかもしれません。そこで、2年生では、1年生の秋に行った希望調査に従って系に仮分属し、各専修が開講している入門講義や基礎演習といった学部専門科目を履修して、2年生の秋に希望専修を決定する準備をします。もちろん3年生になって専修に分属する際には、他の系の専修に分属することもできます。2年生で履修する文学部英語や各国語の文献講読は系の分属に

## 学部概要

本学部は、明治39年（1906）9月、文科大学として創設、大正8年（1919）2月文学部と称されることになりました。文科大学開設の年、哲学科が、翌40年（1907）9月史学科、さらにその翌41年（1908）9月に文学科が設置され、45年（1912）5月までには当初の研究体制がほぼ整備されました。それ以後、時代の要求に応じて講座の拡充が行われてきましたが、平成4年（1992）4月より新たに文化行動学科が設置され、4学科、44講座、30専攻となりました。平成7年（1995）4月から4学科を廃止し、新たに人文学科1学科が設置されました。

人文学科設置にあたっては近年の人文科学研究のめざましい発展に即応するとともに、現在人類が共通にもつ様々な特性や、共通に抱える思想的、倫理的、文化的、科学的課題を基礎においた新しい人文学の構築を目指しました。この目的に沿って、より広い学問的視野に対応した哲学基礎文化学系、東洋文化学系、西洋文化学系、歴史基礎文化学系、行動・環境文化学系、基礎現代文化学系の6つの系と、その中に従来の専攻に相当する34の専修学問分野が設置されています。人類の思想や言語文化、歴史、行動さらには文化全般に関する諸学問です。

文学部では、2年生でそれぞれの系に、次いで3年生からは各専修に分属します。各専修とも人間社会についての深い知識と理解を必要とすることから、語学はもちろん、諸学を広く勉学することが望まれます。3・4年生時は、本格的に専門教育を行います。少人数の専門教育が原典に即して行われる場合が多くなります。また、各専修における高度の専門教育と並んで、人文学全体に対するより広い視野を養うため、それぞれの系を単位とした共通の授業も開講されます。卒業に際しては、演習指導をもとにして卒業論文を作成することが必要です。

### 【文学部が望む学生像】

知的な人間活動の基礎を明らかにする、そうした人文学の諸学問に対して強い学習意欲をもち、将来の研究を担う新生を本学部は歓迎します。



従ってクラスが構成されて行われます。これは、各専門分野に関連した文献を読解するためのものです。

3 回生では本格的な専門教育が始まります。各専修に所属して、講義の他、演習や特殊講義といった専門的な授業を履修しますが、中には大学院生と席を並べるものもあります。そのような授業では、大学院生と同じ資格で報告を行ったり、討議に参加することになります。最初は圧倒されてとまどうかもしれませんが、大学院生の真剣な態度から学問研究というものが身近に感じられようになるでしょう。

4 回生では、卒業論文の作成が勉強の中心になります。各自が自ら論文のテーマを決定し、資料を集めて分析し、論文にまとめていく過程は、皆さんにとっては初めてのことで、ときには苦しいかもしれませんが、一つのを完成することの重要性を学ぶことができるでしょう。この経験は卒業以後の社会生活にとっても非常に有意義なものです。そして大学院へ進学して研究を進めようと考えている人にとっては、卒業論文が本格的な研究の最初の一步となります。

さらに詳しく知るには

- 文学部のホームページ <http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/index-j.html>
- 入学についてのお問い合わせ 文学部第一教務掛 (tel.075-753-2709)

在学生からのメッセージ



今、できること

日本史学専修3回生  
清田 美季さん

好きなことを好きなように研究できる時間というのは本当に幸せな時間だと思います。でもその好きなことができる自由は、自分一人で作り出したものではないのは当然のことです。私の親は「就職は期待していないから」と言って私を送り出しました。様々な形で多くの人に支えられていることを実感します。私はたまたま日本史という立場から人間をみることを選びました。日本史を選んだことは誰に押しつけられたものではありません。自分を見つめ、他人と対話することで、やりたいことは自然と見えてきます。自分に何ができるかを常に考えるとより楽しい時間を過ごすことができます。与えられた、限られた時間の中でやりたいことをする、そのための環境が整っているのがこの学部だと思います。



イリアスの世界にお入りやす

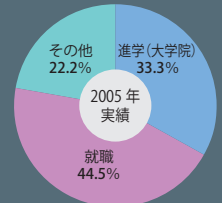
西洋古典学専修3回生  
渡辺 香織さん

私は、今年から本格的に古代ギリシア・ローマ文学を学び始めました。前からギリシア神話に魅力を感じていましたし、せっかく京大文学部に入ったのだから他の大学ではできないことをしたいと思い、この専修を選びました。

馴染みの無い外国語を読み、大学院生と共に授業に参加するというのは、やはり楽なことではありません。しかし、遠いギリシアやイタリアの地で紀元前に生きた人々が書いた物に直に触れるというのは、まるで時空を超えるような不思議で素敵な経験です。根気強く単語を追う作業は、自分の内面を強く成長させてくれると感じることもあります。これは勉強に限ったことではありませんが、「好きである」とことと並んで「自分で選んだ」ということが原動力となり、毎日の活動と向き合うことができるのだと思います。

卒業後の進路

ここ数年は、就職者が45%前後、大学院進学者が35%前後、他大学や各種学校への進学者が15%前後で、男女別に見てもその割合は大きな変化はありません。就職者の特徴としては、これまでは、公務員、教員、マスコミ関係が多数を占めていましたが、最近では通信業に就く割合が高くなってきました。また、一つの企業等に集中して就職するのではなく、幅広い業種に分散しているのが、大きな特徴です。



就職先の例  
NHK (日本放送協会)、紀伊國屋書店、京都市、朝日新聞社、NTT データ通信、NTT (日本電信電話)、中央出版社、日本経済新聞社、デンソー、エム・アイ・ティー (MIT)、名古屋市、毎日新聞社、読売新聞社、大阪府立高校、国立国会図書館、NTT 西日本、JR 東海

文学部で取得可能な資格

文学部では、教育職員免許状の取得を目的とした教職課程をはじめ、博物館学芸員の資格取得の教育課程を設けています。また、地理学専修の卒業生で測量に関する科目を修得し、卒業後1年以上測量に関する実務を経験した者は、測量士の資格を取得できます。他に、教育学部開講の所定の科目を履修することによって、図書館司書、学校図書館司書教諭の資格を取得できます。

取得できる資格：教育職員免許 中学校一種 (国語・社会・英語・仏語・中国語・宗教) 高等学校一種 (国語・地理歴史・公民・英語・仏語・中国語・宗教)

卒業生からのメッセージ



西洋古代哲学史を専攻して

2003年西洋哲学史専修卒業  
京都大学大学院文学研究科博士後期課程在学中  
大木 崇さん

アリストテレスの「自然学」(Physics)を中心に、古代ギリシア哲学を勉強しています。もともと「西洋」や「哲学史」(ましてや「古代」というものにさほど興味があったわけではないのですが、この専攻を選んだ背景には、一、二回生の頃に出席したゼミや講義、あるいは書店でたまたま手にとった雑誌に載っていた論文が、作用因として強く影響しています。やはり、少しでも興味をもった授業や書物には、ひとまず触れておくことをお勧めします。

これからはばらばら、修士論文までの考察を足掛かりとしながら、アリストテレス哲学の他の様々な領域(なにしろ彼は「万学の祖」ですから、フィールドはたくさんあります)にも視野を広げてゆきたいと考えているところです。まあ、私自身かなりの「偏食家」ですから、そう「広く」「深く」というわけにもゆかぬでしょうが、しかしせめて、己の視野の狭さを常に反省する気持ちだけは忘れたくないものです。



勉強をするための基礎を学ぶ自由

1991年国語学国文学専修卒業  
神戸市立工業高等専門学校助教授  
土居 文人さん

興味のあることについて調べるとき資料の探し方、調べたことを整理して分析する方法、自分の考えをまとめて発表し、明晰な文章にして書く方法。思い返すと、私が大学の4年間で学んだのは難解な文学理論ではなく、勉強をするための基礎でした。文学部でこの基礎を身に染み込むまで繰り返し練習した意義の大きさは、修士課程を出て社会人になってから何度も実感しました。

文学部には、興味を満たす知識を得るための資料と機会、そして興味を持ったことについて時間を忘れて調べることができる自由が十分にあります。こんな自由があるのは学生時代だけです。みなさんには、高校を含めた学生時代に、勉強をするための基礎と、自分を動かして勉強することを学んでほしいと思います。社会の役に立つ成果は後で自然についてくるものです。

## 学系紹介

### 哲学基礎文化学系

ここでは、様々な文化圏・言語圏において蓄積されてきた哲学・思想を学び、新しい時代の思想の担い手たらんとする人材を育成する「場」です。そこはまた、社会や他の学問領域において自明とされている事柄が、原点に立ち返って問い直される「場」でもあります。「殺人は悪。」これは現代日本の常識です。でも、その根拠は何でしょう。そもそも「善・悪」の区別には、どんな意味があるのでしょうか。また科学や歴史学は「実証的な学問」を目指しています。しかし、ここで標榜されている「実証性」とは一体何なのでしょう。これらの問いを問うことは、文系・理系の枠を超えた人間の知的営み全般へと眼差しを向けることでもあります。哲学基礎文化学系とは、そんな知的野心あふれる「場」でもあるのです。

哲学、西洋哲学史(古代・中世・近世)、日本哲学史、倫理学、宗教学、キリスト教学、美学美術史(美学・芸術学、美術史学、比較芸術史学)

### 東洋文化学系

東洋文化学の5つの専修の名前から分かるように、「東洋文化学」の「東洋」は、日本、中国、インドのそれぞれを中心とした三つの文化圏を研究対象としています。それらの地域の文学、思想、語学、文化を歴史的に考察して行くのが、本系の主たる研究分野です。ただ、日本の文化は、中国文化の影響が大きく、中国文化はインド文化の影響を受けているので、隣接する国の文化の研究にも注意を払う必要があります。インド古典学では、紀元前から存在する多くの古典から、現代の口頭伝承までを研究対象としており、仏教学では、インドからチベット、中国周辺の仏教の研究を行います。中国関係では、専門教育の前に、中国語の学習をしていることが望ましく、インド古典、仏教学では、サンスクリットなど関係諸語、また英語、フランス語、ドイツ語の習得を重視しています。

国語学国文学、中国語学中国文学、中国哲学史、インド古典学、仏教学

### 西洋文化学系

西洋文化学系は、ヨーロッパおよびアメリカの文化と社会について、主として文学と言語の視点に立って研究教育を行っています。取り扱われる時代は、古典古代から中世、近代、現代までと広範囲にわたっています。どのような研究対象を選ぶにせよ、文献資料の正確な読解と整理が研究の基礎となるため、まず最初に十分な語学能力を養うことが大切です。また図書館には貴重な文献が多数所蔵されており、有効に活用することができます。西洋文化学系は次の7つの専修からなり、それぞれの文化圏の文学、言語、芸術、思想、社会に関心をもつ学生諸君を待っています。

西洋古典学、スラブ語学スラブ文学、ドイツ語学ドイツ文学、英語学英文学、アメリカ文学、フランス語学フランス文学、イタリア語学イタリア文学

### 歴史基礎文化学系

歴史基礎文化学系は、日本史学・東洋史学・西南アジア史学・西洋史学・考古学の5つの専修科目によって構成されています。文献史料を主な材料とする前四者と考古学では、研究方法は大きく異なりますが、いずれも人類社会の発展の状況を時間軸に沿って跡づけ、考察しようとする点では共通しています。また、文献・史料を読み解く基礎学力を重視し、演習・実習の授業の充実に努めている点も5専修の共通点です。

文学部の図書室だけでなく、附属図書館・博物館や人文科学研究所などの近隣の施設に豊富な史料が所蔵されています。また、他の系で行われている授業—たとえば、地理学や現代史学、東西の古典語など—を合わせて学ぶことにより、人類文化の営みを総体的にとらえる視点を獲得することができます。とても恵まれた学習環境にあると言えるでしょう。

日本史学、東洋史学、西南アジア史学、西洋史学、考古学

### 行動・環境文化学系

心理学専修では、心の動きを実験を通して研究しています。基礎心理学、実験心理学、基礎行動学の分野では認知を中心とする基礎的領域を扱い臨床心理学は含みません。

言語学専修では、言語を記述的・歴史的研究を通して研究しています。言語学、動態言語学、調査言語学の分野では記述・理論言語学、比較言語学、個別言語分析などを扱っています。

社会学専修では、社会を実証的分析を通して研究しています。社会学、社会人間学、比較文化行動学の分野では資料に基づく社会学、家族社会学、フィールドワーク研究を扱っています。

地理学専修では、地理を形成・比較分析を通して研究しています。地理学、地域環境学、環境動態論の分野では歴史資料に基づく地理学、地域現象を対象とした研究を扱っています。

各専修ではそれぞれの分野について固有の基礎的な方法を修得することが不可欠です。講義内容を十分理解するために、1, 2 回生から入門的講義、演習、実習や講読の必須科目を設定しています。

心理学、言語学、社会学、地理学

### 基礎現代文化学系

基礎現代文化学系は、科学哲学科学史、二十世紀学、現代史学、情報・史料学という4つの研究分野からなる小さな系ですが、現代の文化と社会について、人文学の視点から考察することを目指しています。現代は、人類史においてもっとも大きな変貌を遂げた時代だと言われます。その変貌を捉えるために、哲学や歴史、思想、文学といった従来の研究分野のみならず、映像や科学、情報といった現代文化を特徴づけるものではあるが、これまで人文学ではあまり扱われてこなかった分野にも視野に入れ、私たちの生きている現代をつねにグローバルな視点に立って考える学際的な研究を行っています。

科学哲学科学史、二十世紀学、現代史学、情報・史料学

## 専門科目 (学部共通科目)

1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
サンスクリット(2時間コース)、現代インド語(ヒンディー語)	博物館学I、博物館学II、博物館学III、博物館学実習、ギリシア語(2時間コース)、ギリシア語(4時間コース)、ラテン語(2時間コース)、ラテン語(4時間コース)、スペイン語(初級)、スペイン語(中級)、イタリア語(初級4時間コース)、イタリア語会話(中級)、朝鮮語(初級)、朝鮮語(中級)、サンスクリット(4時間コース)、チベット語(初級)、アラブ語(初級)、ポーランド語(初級)、モンゴル語、オランダ語、満州語、英語、英語論文作成法	ヘブライ語、イラン語(初級)、チベット語(中級)	

専門科目 (系別科目)

系	1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
哲学基礎文化学系		系共通科目(哲学)講義,系共通科目(西洋古代哲学史)講義,系共通科目(西洋中世哲学史)講義,系共通科目(西洋近世哲学史)講義,系共通科目(日本哲学史)講義,系共通科目(倫理学)講義,系共通科目(宗教学)講義,系共通科目(キリスト教学)講義,系共通科目(美学)講義,系共通科目(美術史学)講義,西洋哲学史講読,日本哲学史講読,美学美術史学講読	哲学特殊講義,哲学演習,西洋哲学史特殊講義,西洋哲学史演習,日本哲学史特殊講義,日本哲学史演習,倫理学特殊講義,倫理学演習,宗教学特殊講義,宗教学演習,宗教学講読,キリスト教学特殊講義,キリスト教学演習,キリスト教学講読,美学美術史学特殊講義,美学美術史学演習Ⅰ,美学美術史学演習Ⅱ,美学美術史学演習Ⅲ	卒業論文(哲学),卒業論文(西洋哲学史),日本哲学史演習,卒業論文(日本哲学史),卒業論文(倫理学),卒業論文(宗教学),卒業論文(キリスト教学),卒業論文(美学美術史学)
東洋文化学系	系共通科目(サンスクリット語学サンスクリット文学)講義,系共通科目(インド哲学史)講義,系共通科目(仏教学)講義	系共通科目(国語学)講義,系共通科目(国文学)講義,系共通科目(中国語学)講義,系共通科目(中国文学)講義,系共通科目(中国哲学史)講義,国語学国文学講読,中国語学中国文学講読,中国哲学史講読,インド古典学演習,インド古典学講読	国語学国文学特殊講義,国語学国文学演習,中国語学中国文学特殊講義,中国語学中国文学演習,中国語学中国文学外国人実習,中国哲学史特殊講義,中国哲学史演習,インド古典学特殊講義,インド古典学演習,インド古典学講読,仏教学特殊講義,仏教学演習,仏教学講読Ⅰ,仏教学講読Ⅱ	国語学国文学演習,卒業論文(国語学国文学),中国語学中国文学演習,卒業論文(中国語学中国文学),卒業論文(中国哲学史),卒業論文(インド古典学),卒業論文(仏教学)
西洋文化学系	系共通科目(西洋文化学)講義,系共通科目(西洋古典学)講義,系共通科目(イタリア語学イタリア文学)講義	系共通科目(スラブ語学スラブ文学)講義,系共通科目(ドイツ語学ドイツ文学)講義,系共通科目(英語学)講義,系共通科目(英文学)講義,系共通科目(アメリカ文学)講義,系共通科目(フランス語学)講義,系共通科目(フランス文学)講義,スラブ語学スラブ文学講読,ドイツ語学ドイツ文学講読,ドイツ語学ドイツ文学外国人実習,英語学英文学講読,英語学英文学外国人実習,アメリカ文学講読,アメリカ文学外国人実習,フランス語学フランス文学講読,イタリア語学イタリア文学講読	西洋古典学特殊講義,西洋古典学演習,西洋古典学講読,スラブ語学スラブ文学特殊講義,スラブ語学スラブ文学演習,スラブ語学スラブ文学講読,スラブ語学スラブ文学外国人実習,ドイツ語学ドイツ文学特殊講義,ドイツ語学ドイツ文学演習Ⅰ,ドイツ語学ドイツ文学演習Ⅱ,ドイツ語学ドイツ文学演習Ⅲ,英語学英文学特殊講義,英語学英文学演習Ⅰ,アメリカ文学特殊講義,アメリカ文学演習Ⅰ,フランス語学フランス文学特殊講義,フランス語学フランス文学演習Ⅰ,フランス語学フランス文学演習Ⅱ,フランス語学フランス文学演習,フランス語学フランス文学外国人実習,イタリア語学イタリア文学特殊講義,イタリア語学イタリア文学演習,イタリア語学イタリア文学外国人実習	卒業論文(西洋古典学),卒業論文(スラブ語学スラブ文学),卒業論文(ドイツ語学ドイツ文学),卒業論文(英語学英文学),卒業論文(アメリカ文学)Ⅱ,卒業論文(アメリカ文学),卒業論文(フランス語学フランス文学),卒業論文(イタリア語学イタリア文学)
歴史基礎文化学系	系共通科目(考古学)講義,系共通科目(先史学)講義	系共通科目(日本史学)講義,系共通科目(東洋史学)講義,系共通科目(西南アジア史学)講義,系共通科目(西洋史学)講義,日本史学講読,東洋史学講読,西洋史学講読,考古学講読,考古学実習	日本史学特殊講義,日本史学演習Ⅰ,日本史学実習,東洋史学特殊講義,東洋史学演習Ⅰ,東洋史学演習Ⅱ,東洋史学演習Ⅲ,東洋史学演習Ⅳ,東洋史学演習Ⅴ,東洋史学演習,東洋史学実習,西南アジア史学特殊講義,西南アジア史学演習Ⅰ,西南アジア史学講読,西南アジア史学実習,西洋史学特殊講義,西洋史学演習Ⅰ,西洋史学演習Ⅱ,西洋史学演習Ⅲ,西洋史学講読,西洋史学実習,考古学特殊講義,考古学演習Ⅰ,考古学演習Ⅱ	日本史学演習Ⅱ,日本史学実習,卒業論文(日本史学),卒後論文(東洋史学),卒業論文(西南アジア史学),西洋史学演習Ⅵ,卒業論文(西洋史学),考古学演習Ⅲ,卒業論文(考古学)
行動・環境文化学系	系共通科目(言語学)講義Ⅰ	系共通科目(心理学)講義Ⅰ,系共通科目(言語学)講義Ⅱ,系共通科目(社会学)講義,系共通科目(地理学)講義,心理学実習Ⅰ,心理学実習Ⅱ,言語学基礎演習,社会学特殊講義,地理学講読,地理学実習	系共通科目(心理学)講義Ⅱa,系共通科目(心理学)講義Ⅱb,系共通科目(心理学)講義Ⅱc,系共通科目(心理学)講義Ⅱd,系共通科目(心理学)講義Ⅱe,心理学講義,心理学特殊講義,心理学演習Ⅰ,心理学演習Ⅱ,心理学講読,心理学実習Ⅲ,言語学特殊講義,言語学演習,言語学卒論演習,社会学特殊講義,社会学演習,社会学講読,社会学実習,地理学特殊講義,地理学演習Ⅰ,地理学講読	卒業論文(心理学),卒業論文(言語学),社会学演習,卒業論文(社会学),地理学演習Ⅱ,卒業論文(地理学)
基礎現代文化学系		系共通科目(科学哲学)講義,系共通科目(科学史)講義,系共通科目(情報・史料学)講義,系共通科目(二十世紀学)講義,系共通科目(現代史学)講義,系共通科目(日本現代史)講義,系共通科目(基礎現代文化学)基礎演習Ⅰ,系共通科目(基礎現代文化学)基礎演習Ⅱ,系共通科目(基礎現代文化学)基礎演習Ⅲ,系共通科目(基礎現代文化学)情報技術演習,系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅰ,系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅱ,系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅲ,系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅴ,系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅵ	系共通科目(基礎現代文化学)講読Ⅳ,科学哲学科学史特殊講義,科学哲学科学史演習,情報・史料学特殊講義,情報・史料学演習,二十世紀学特殊講義,二十世紀学演習,現代史学特殊講義,現代史学演習	科学哲学科学史演習,卒業論文(科学哲学科学史),二十世紀学演習,卒業論文(二十世紀学),現代史学演習,卒業論文(現代史学)

## 教育学部の教育

### 教育学部が求める学生像

20世紀は教育が学校中心に機能した学校教育社会でした。しかし、21世紀は学校社会だけでなく、社会のさまざまな場所と一人ひとりの人生のさまざまな局面とにおいて、人間形成の喜びがゆるやかにネットワーク化される「人間形成社会」が出現すると予想されます。これからの教育学は、この「人間形成社会」の展開過程で必要になる、新しい種類の〈教育〉を創造するという課題に取り組みなければなりません。

そのため、教育学部では、人間と社会について深い関心と洞察力をもち、柔軟な思考と豊かな想像力に富む学生を求めています。

### 学部教育の方針

教育学部においては、一般教育と専門教育を有機的に関連させながら、現代人にとりわけ必要とされる、広い視野と異質なものへの理解、多面的・総合的な思考と批判的判断力を備えた「人間らしさを擁護し促進する態度」を啓啓するための高度な一般教育と幅広い専門教育を行っています。

### 学部4年間のカリキュラム概要

教育学部生については、1回生の必修科目として「教育研究入門」「情報学」を開講しています。また、全学の学生を対象にして、教職科目をはじめ、毎年継続的に多くの「全学共通科目」として講義及び少人数ゼミ等の教養教育科目を開講しています。

教育学部は、平成10年度から1学科（教育科学科）3大学科目（系）で教育編成を行っています。これは、教育の総合的理解が必要な学部段階では、教育に関する諸科学の修得に重点を置いた幅広い基礎教育を重視し、ゆるやかに専門的分化を図ることを目的としたものです。

それぞれの大学科目（系）における教育内容は、以下のとおりです。



## 学部概要

京都大学教育学部は昭和24年5月31日、新制京都大学が発足すると同時に設立され、同年7月1日第1回の入学者を迎えました。

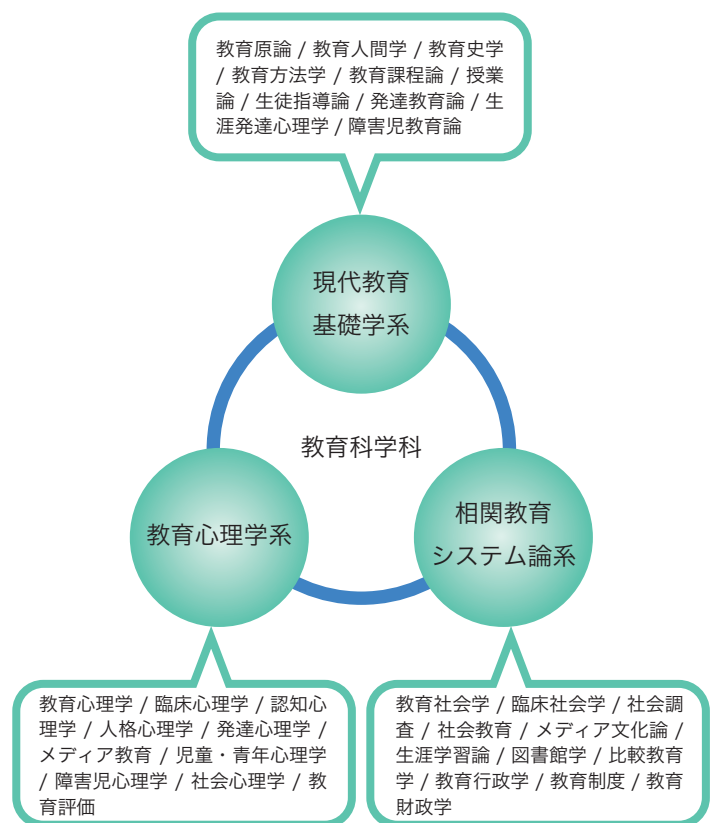
教育学部の起源は、明治39年9月、京都帝国大学開設と共に設置された教育学教授法講座に発しており、同講座は昭和28年8月教育学部に移管されるまで、47年間にわたって文学部哲学科に所属し、その講座名からもうかがわれるように、教育学における原理と方法、理論と実践の統一を重視して、斯学の研究と教育に貢献してきました。

教育学部は、戦後の学制改革にあたって、教育という広範で複雑な諸現象とその学問的基礎となるべき教育諸科学の重要性をふまえて、この教育教授法を基礎とし、教育諸科学の総合的な研究・教育にあたる学部として発足しました。

このように教育学部は、教育諸学科の研究とその教育を任務とする学部として設けられましたが、同時に学部発足以来、本学の全学部学生のために、教育職員を養成するための教職課程の運営と教育に当たると共に、現職教員の再教育にも力を注いでいます。

また、戦後の社会の急速な変化に伴う青少年の発達上の問題にかかわる教育相談と治療を行うため、それまでの実践的蓄積を基に、昭和55年から心理相談室が開設され平成9年4月には、それを発展させた臨床教育実践研究センターが設置されました。

最近では教育心理学系スタッフを中心に、21世紀COEプログラム「心の働きの総合的研究教育拠点」を推進し多様な研究活動を行っています。「イメージと表象の性質と機能」「身体化された心」「文化・社会的環境との相互作用」「進化と生涯発達」という4つのテーマを軸に、国際シンポジウムやワークショップの開催、海外からの客員研究員の招聘、院生の海外派遣などさまざまな企画が実施されており、基礎研究から臨床実践まで包含しています。



教育学部では、入学者選抜試験により毎年60名が入学しており、当初は主として基礎となる教養科目を履修しますが、次第に専門科目や高度一般教育としての教養科目を受講することができます。

入学当初は所属する系を特定せず、各自が学習を進めながら最も適した道を探して、3年次に系への分属を決めます。

平成6年度(1994)から2年次学生に対し、分属オリエンテーションを実施し、学生の希望分属を尊重しつつ、調整を図っていますが、系によっては分属試験を課す場合があります。

## その他

昭和58年度(1983)から、いったん他の教育分野で専門教育を受けた者、あるいは大学卒業後社会経験を積んだ者で再度本学部に入学者が近年増加しているのを受けて、一般社会人を含めた国内外の他大学卒業者を対象に第3年次編入学試験を行い、毎年約10名が編入学しています。

### さらに詳しく知るには

- 教育学部のホームページ <http://www.educ.kyoto-u.ac.jp>
- 入学についてのお問い合わせ 教育学研究科教務掛 (tel.075-753-3010)

## 在学生からのメッセージ



### 自分なりの「教育」

教育科学科2年生  
内海 圭吾さん

今私が興味を持って勉強しているものの一つに、認知心理学があります。その中で、人間は白紙の状態では生まれてくるのではないと学びました。「教育学」に関心をもち、この学部に入学者私は「教育」の万能性を否定されたことに少なからず動揺しました。しかし、人間がある程度において、その性格などを遺伝子に規定されているかもしれないという考えを無視することなく、これからの「教育」を考えていかなければならないでしょう。

幸いなことにこの学部には支えてくれる教員や先輩、友人が数多くいます。その支えを力に私は自分なりの「教育」を求めてもがき続けようと思います。



### 教育という切り口を持って

教育科学科4年生  
西坂 萌さん

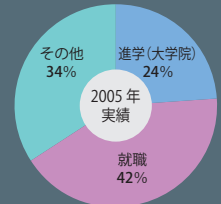
教育学部は小さな学部ですが、学問の領域にとらわれず、「教育」という切り口であらゆることを学ぶことができます。

「教育」というのは誰もが経験するものであり、人間性の生成にも深く関わってくるものです。勿論決まった答えなど無く、「教育」は各々にとって違った意味を持つ存在になり得ます。そこが教育学の魅力であると思っています。

私は今、教育史学を勉強していますが、100年も前に現在の教育問題と本質的には同様の議論が数多く行われていたりします。教育を取り巻く環境は変わっても、教育の本質は変わらないのだと実感させられます。教育が本来目指すものは何なののでしょうか。それを解き明かすことは、人間そのものにも迫る大きなテーマであるように思います。

## 卒業後の進路

教育学部の平成16年度卒業生は76名で、そのうち32名(約42%)が就職しています。その中には教育(学校)関係に就職し、教師等になった人も数名います。また、18名(約24%)は大学院に進学しています。残りの26名(約34%)は聴講生等です。



就職先の例  
NHK, 講談社, NTTドコモ関西, NTTデータ, エスアイソリューションズ, マネックス証券, モルガンスタンレー, 旭硝子, 日本ハム, ジェイ・フロード, ベネッセコーポレーション, 静岡銀行, 家庭裁判所調査官

## 教育学部で取得可能な資格

本学部の修学期間内に教育職員免許法に定められた科目の必要単位を修得し所定の手続きをすれば、教育職員免許状の中学校1種、高等学校1種免許状を取得することができます。また、中学校、高等学校の免許状を取得し、免許法に定められた特殊教育に関する専門教育科目の必要単位を修得すれば、養護学校教諭1種免許状を取得することができます。

その他修学期間中に法律に定める科目の必要単位を修得すれば、それぞれ社会教育に関する指導・助言を与える社会教育主事、博物館の資料収集、保管展示及び調査研究などの仕事に携わっている学芸員、図書館法に規定している図書館において図書に関する職務に携わる図書館司書の資格を取得することができます。また教育職員免許状を有する者が図書館学に関する科目の必要単位を修得すれば、学校図書館司書教諭の資格を取得することができます。

## 卒業生からのメッセージ



### 「最良の選択」

1999年卒業  
(株)ニヤクシステムサポート勤務  
榎原 陽子さん

私が京都大学に入学者した動機は、「京都で一人暮らしがしたい」という軽いものですが、人生のうちで最も良い選択だったとしみじみ思います。

まず、大学時代はとても楽しかったです。特に教育学部は人数が少ないためクラスの仲がとてもよく、皆で食堂や学部校舎の地下で色々話したり、授業後にお酒を買い込んで鴨川の三角州で朝まで飲んだりしていました。

また、先生方はとてもすばらしいばかりです。私は恥ずかしながら親論のときぐらいしかまともに勉強をしなかったのですが、とても親身になって指導して下さいましたし、今でも交流させて頂いて「知的であることの美しさ」を感じさせて下さっています。

また何より良いのは、同級生たちが立派になっていっている。「自分もがんばろう!」というモチベーションがつねに高まることです。私は大学時代も卒業後もかなりフラフラしていましたが、そのおかげで色々考える事ができ、今は「税理士」という目標にむけて仕事と勉強に励んでいます。



### 中途半端な元教育学部生より

2003年卒業  
(株)世界思想社教学社勤務  
塚本 匠さん

教育学部生だと言うと、決まって聞かれるのが「教師になるの?」という質問でした。私はそのつもりがなかったので、「では何故?」ということになりますが、子供の頃から当たり前に受けてきた教育という営みや、学校という空間の特異性に、興味や疑問を抱いたという素朴な理由です。

とはいえ、教育について熱く語るのには、なんとなく気恥ずかしいところがあり、結局授業もロクに出ずにクラブやバイトに精を出す毎日でしたが、「教育社会学」のゼミは、そんな私を温かく受け入れてくれました。卒論は「優等生」にも「フル」にもなりきれない「中途半端な人々」という微妙なテーマを設定しましたが、これが案外ウケたのが大きな自信となりました。なにより、調査・研究のおもしろさを教えてくださった担当の先生方やゼミ生のみなさんに感謝しています。

# 大学科目 (系) 紹介

## 現代教育基礎学系

現代教育基礎学系は、哲学、思想、歴史、心理学などに基盤を置く専門分野から構成され、教育に関わる事象について、学校教育はもとより家庭教育、社会教育など広い領域を視野に入れた研究・教育を行っている。教育についてのものの考え方や見方が、どのようにして形成されるのか、人間の生成、成長発達はどうのように捉えられるのか、実際の学校教育において、授業はどのような仕組みや方法で行われているのか、その教育内容はどんな原理で構成されているのか、など教育活動の基礎を様々な研究方法やアプローチを通して教授する。

教育の現場やフィールドとして人間の活動領域を捉え直し、教育学についての幅広かつ周到な識見を備えた専門家を育てるためのカリキュラムを提供している。

教育原論、教育人間学、教育史学、教育方法学、教育課程論、授業論、生徒指導論、発達教育論、生涯発達心理学、障害児教育論

## 教育心理学系

教育心理学系では、教育心理学、認知心理学、臨床心理学を中心に充実したカリキュラムが組まれ、他学部の心理学系教室とも連携して活発な教育・研究活動が行われている。

教育心理学では人の発達の特徴、教授-学習法、知能、メディア教育など、教育活動に密接にかかわる心理学的諸側面に関する知識の習得とその応用をめざす。認知心理学では、記憶、推論、意思決定、他者理解、共感といった高次認知過程の諸側面に関する主要な理論や知見を学習し、さらに心理実験・調査等を実施して各自の研究をまとめる。臨床心理学では人格の形成、心理療法の諸理論、心の健康とストレス等に関する基礎知識を習得し、種々の心理検査の実習を通して臨床実践に役立つ手法を身につける。教育心理学系では、心の仕組みとはたらきについての幅広い識見と柔軟な思考力の育成を基本としつつ、大学院進学希望者の指導にも力を入れており、教育心理学・認知心理学・臨床心理学の研究者をめざす人、大学院修了後に臨床心理士の資格取得をめざす人にも適した教育カリキュラムを整備している。

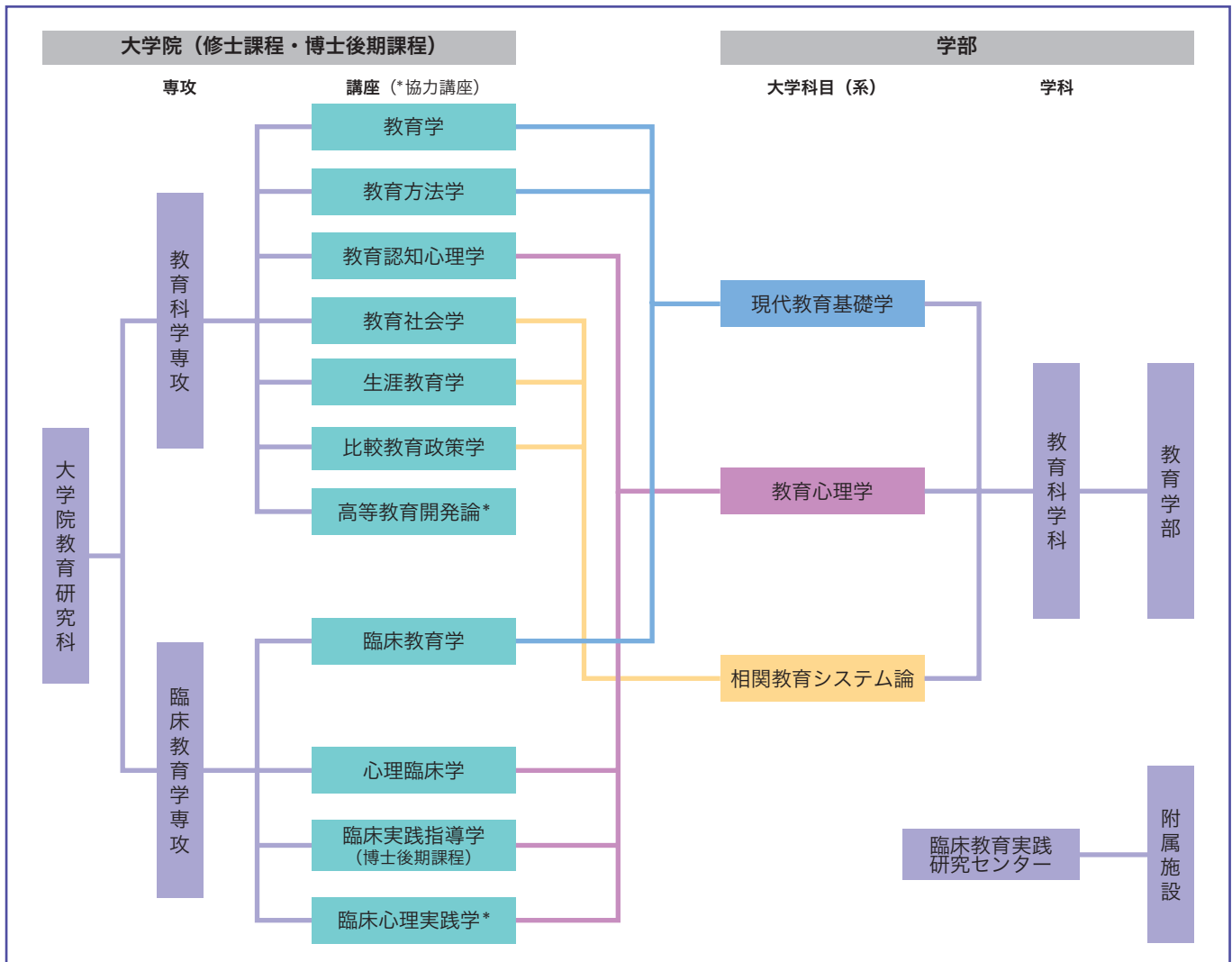
教育心理学、臨床心理学、認知心理学、人格心理学、メディア教育、発達心理学、児童・青年心理学、障害児心理学、社会心理学、教育評価

## 関連教育システム論系

21世紀は単に学校だけが教育にかかわるのではなく、社会全体が人間形成社会になり、そうした社会での教育の柔軟なありかた、ネットワーク化が課題になります。関連教育システム論系は、こうした方向を視野に入れて、教育と社会との結びつきを創造的に探求することを目的にしています。教育社会学では、人間の社会形成にかかわる集団の教育作用について研究するとともに、学歴社会、青少年問題、教育変動などの諸問題を社会学の手法を用いて分析しています。生涯教育学では、図書館やメディアを含んで、生活のなかでの多様な学習のあり方を、とりわけ国際的・歴史的な観点から理論的、実践的な研究をしています。比較教育政策学では、国際的視野に立って、教育制度、政策、実践、理論などの比較考察をしています。また政策科学的視点からは、具体的に教育行財政についての立案などを行っています。学部教育においては、これからの社会と人間に求められている重要な課題を意識したカリキュラムを提供し、特に少人数のゼミや講義に特徴があります。

教育社会学、臨床社会学、社会調査、社会教育、メディア文化論、生涯学習論、図書館学、比較教育学、教育行政学、教育制度、教育財政学

# 教育学研究科及び教育学部における研究・教育の概略図



専門科目

大学科目(系)	1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
現代教育基礎学系	教育研究入門Ⅰ, 教育研究入門Ⅱ, 情報学Ⅰ, 情報学Ⅱ	教育原理Ⅰ, 教育原理Ⅱ, 民族と教育, 教育史概論Ⅰ, 教育史概論Ⅱ, 教育史概論Ⅲ, 教育史, 教育学基礎演習Ⅰ, 教育学基礎演習Ⅱ, 遠隔教育演習, 臨床教育学基礎演習Ⅰ, 臨床教育学基礎演習Ⅱ, 臨床教育学概論Ⅰ, 臨床教育学概論Ⅱ, 身体教育学, 教育方法論, 発達教育論Ⅰ, 発達教育論Ⅱ, 学校論ゼミナール, 生徒指導論, 精神保健Ⅰ, 精神保健Ⅱ, 教育生理学Ⅰ, 教育生理学Ⅱ, 障害児教育の教育課程論, 教育方法学基礎演習ⅠA・ⅠB, 教育方法学基礎演習ⅡA・ⅡB, 教育心理学実習A, 教育心理学実習B, 心理学統計実習A, 心理学統計実習B, 教育人間学概論Ⅰ, 教育人間学概論Ⅱ, 教育課程論Ⅰ, 教育課程論Ⅱ, 障害児教育指導法Ⅰ, 障害児教育指導法Ⅱ, 小児の発育生理と衛生Ⅰ, 小児の発育生理と衛生Ⅱ, 健康教育学Ⅰ, 健康教育学Ⅱ	教育情報学, 教育学専門ゼミナールⅠ, 教育学専門ゼミナールⅡ, 教育史専門ゼミナールⅠA・ⅠB, 教育史専門ゼミナールⅡA・ⅡB, 教育史文献講読演習Ⅰ, 教育史文献講読演習Ⅱ, 教育史実習, 臨床教育学講読演習Ⅰ, 臨床教育学講読演習Ⅱ, 臨床教育学専門ゼミナールⅠ, 臨床教育学専門ゼミナールⅡ, 教育方法専門ゼミナールⅠ, 教育方法専門ゼミナールⅡ, 発達教育専門ゼミナールⅠ, 発達教育専門ゼミナールⅡ, 教育方法講読演習Ⅰ, 教育方法講読演習Ⅱ, 発達教育講読演習Ⅰ, 発達教育講読演習Ⅱ	
教育心理学系	教育研究入門Ⅰ, 教育研究入門Ⅱ, 情報学Ⅰ, 情報学Ⅱ	人格心理学概論Ⅰ, 人格心理学概論Ⅱ, 認知心理学概論Ⅰ, 認知心理学概論Ⅱ, 児童・青年心理学講義, メディア教育概論, 教育認知心理学基礎演習B, 知覚心理学講義B, 知覚心理学講義A, 発達心理学講義B, 発達心理学講義C, 社会心理学講義, 文化心理学講義, 臨床教育学基礎演習Ⅰ, 臨床教育学基礎演習Ⅱ, 教育心理学実習A, 教育心理学実習B, 心理学統計実習A, 心理学統計実習B, 教育心理学概論Ⅰ, 教育心理学概論Ⅱ, 臨床心理学概論Ⅰ, 臨床心理学概論Ⅱ, 障害児心理学講義Ⅰ, 障害児心理学講義Ⅱ, 教育認知心理学基礎演習A, 臨床教育学概論Ⅰ, 臨床教育学概論Ⅱ, 発達教育論Ⅰ, 発達教育論Ⅱ	教育情報学, 乳幼児発達論, 発達心理学講義C, 認知心理学講義Ⅰ, 認知心理学講義Ⅱ, 比較心理学講義, 神経生物心理学講義, 多変量解析論, 乳幼児の心理学, 教育心理学コロキアムⅠA, 教育心理学コロキアムⅠB, 教育心理学課題演習Ⅰ, 認知心理学課題演習, 臨床心理学課題演習, 教育心理学講読演習Ⅰ, 教育心理学講読演習Ⅱ, 臨床心理学講読演習Ⅰ, 臨床心理学講読演習Ⅱ, 臨床心理学実習Ⅰ, 臨床心理学実習Ⅱ	教育心理学コロキアムⅡ, 教育心理学課題演習Ⅱ
相関教育システム論系	教育研究入門Ⅰ, 教育研究入門Ⅱ, 情報学Ⅰ, 情報学Ⅱ	教育社会学概論Ⅰ, 教育社会学概論Ⅱ, 臨床社会学概論Ⅰ, 臨床社会学概論Ⅱ, 社会学講義, メディア文化論, 生涯学習概論Ⅰ, 生涯学習概論Ⅱ, 社会教育計画論Ⅰ, 社会教育計画論Ⅱ, 同和・人権教育論, 図書館情報学概論Ⅰ, 図書館情報学概論Ⅱ, 図書館サービス論, 資料組織論, 図書館資料各論, 学習指導と学校図書館, 学校経営と学校図書館, 読書と豊かな人間性, 比較教育学概論Ⅰ, 比較教育学概論Ⅱ, 教育行政学概論Ⅰ, 教育行政学概論Ⅱ, 憲法第一部, 憲法第二部, 行政学, 財政学, 教育法学, 相関教育システム論基礎演習ⅠA, 相関教育システム論基礎演習ⅠB, 相関教育システム論基礎演習ⅡA, 相関教育システム論基礎演習ⅡB, 情報サービス論, 情報サービス論演習, 情報検索演習, 資料組織論演習Ⅰ, 資料組織論演習Ⅱ, 情報メディアの活用, 相関教育システム論基礎演習Ⅲ	教育情報学, 教育社会学講義, 教育社会史, 現代教育社会論, 図書館経営論, 図書館資料論, 比較教育学講義, 行政法Ⅰ部, 教育行政学, 教育経営学Ⅰ, 教育経営学Ⅱ, 教育社会学専門ゼミナールⅠ, 教育社会学専門ゼミナールⅡ, 社会調査Ⅰ, 社会調査Ⅱ, 生涯教育・図書館情報学専門ゼミナールⅠ, 生涯教育・図書館情報学専門ゼミナールⅡ, 比較教育学専門ゼミナール, 教育政策学専門ゼミナール, 相関教育システム論講読演習Ⅰ, 相関教育システム論講読演習Ⅱ, 相関教育システム論講読演習Ⅲ	

教職科目

1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
	教職教育論, 教育学概論Ⅰ, 教育課程論Ⅰ, 比較教育学概論Ⅰ, 教育人間学概論Ⅰ, 比較教育学概論Ⅱ, 教育社会学概論Ⅰ, 教育行政学概論Ⅰ, 教育行政学概論Ⅱ, 教育心理学Ⅰ, 教育心理学Ⅱ, 教育心理学Ⅲ, 授業心理学Ⅰ, 授業心理学Ⅱ, 教育方法論, 道徳教育論, 教育課程論Ⅱ, 教育学概論Ⅱ, 特別活動の理論と実践, 教育人間学概論Ⅱ, 教育社会学概論Ⅱ, 生徒指導論, 生徒指導の精神と具体的方策, 教育相談, 国語科教育法Ⅰ, 国語科教育法Ⅱ, 社会科教育法Ⅰ, 社会科教育法Ⅱ, 地理歴史科教育法, 公民科教育法, 数学科教育法Ⅰ, 数学科教育法Ⅱ, 理科教育法Ⅰ, 理科教育法Ⅱ, 英語科教育法Ⅰ, 英語科教育法Ⅱ, 保健体育科教育法Ⅰ, 保健体育科教育法Ⅱ, 商業科教育法, 工業科教育法, 農業科教育法, 情報科教育法Ⅰ, 情報科教育法Ⅱ, フランス語科教育法Ⅰ, フランス語科教育法Ⅱ, ドイツ語科教育法Ⅰ, ドイツ語科教育法Ⅱ, 中国語科教育法, 水産科教育法, 宗教科教育法, 民族と教育, 同和・人権教育論, 発達教育論Ⅰ, 発達教育論Ⅱ	教職総合演習, 教育実習Ⅰ	教育実習Ⅱ, 障害児教育実習, 教職教育, 職業指導



## 法学部の教育

### 卒業までの単位取得の仕組み

法学部を卒業するためには、各科目を履修し、試験で合格点をとる必要があります。法学部の試験は100点満点で採点され、60点未満は不合格となります。合格した場合、各科目の授業時間に応じて単位が与えられます。

本学は、夏休みを境に、1年を前期と後期の2学期に分けるセメスター制を採用しており、外国語および保健体育科目を除き、半期週1時間の科目は2単位、半期週2時間の科目は4単位となっています。卒業に必要な単位数を構成する科目は、教養科目と専門科目とに分かれます。教養科目は半期2単位が原則であり、専門科目には、2単位科目と4単位科目（週2時間）とがあります。卒業するためには、教養科目を46単位以上、専門科目については、演習2単位を含む84単位以上を取得しなければなりません。

## 学部概要

法学部は、明治32年（1899年）に法科大学として創設されました。それ以来、すでに33,200余名の卒業生を世に送り出しています。

創設期の教授陣は、東大法科をトップクラスで卒業した者を中心に30代の新進気鋭の学者から成っていました。彼らは、自由な学問研究を尊び、ドイツの大学に範を求めて、東京帝国大学とは異なる大学のあり方を模索しました。明治32年から行われた卒業論文制度とそれに関連した演習の必修化は、そうした模索の成果です。今では、そのような制度はそのままの形では残っていませんが、演習を重視するとともに、自由選択の余地をできるだけ広げ、学生の自主的学修を奨励するという伝統は、脈々と受け継がれています。

発足時の講座数は23でしたが、戦前すでに32講座に達し、戦後の経済・社会の急激な変容、文化・科学の著しい進展に対応して次第に拡充をとげ、昭和58年度には、大講座2を含め39講座を擁するにいたりました。平成4年度からは、研究・教育の国際化・学際化・高度化に対応して、従来学部配置されていた講座を大学院に配置した21の大講座へと再編するとともに、この大学院講座の担当者が学部教育を兼担するかたち組織変更がなされました。平成16年4月には、法科大学院の設置にともない、大学院全体の組織に大きな変更がなされ、12の大講座に再編されました。

また、平成15年度には、本学部・大学院の「21世紀型法秩序形成プログラム」が文部科学省「21世紀COEプログラム」の一つに採択され、大きな補助金を得て、活発な研究が続いています。

法学部は、国家や社会のあり方を見直したり、組織を運営するときに必要な基礎的知識を養成することを目的としています。今日、世界も日本も大きな転換を迎えつつあり、それに伴って様々な問題が生じています。こうした状況に対応して新しい制度を設計するためには、互いの文化を尊重し交流することのできる豊かな国際感覚のもと、法律や政治の仕組みに関する専門的な知識と、社会全体を視野に収めながらそれらを組み合わせる構想力を養わなければなりません。法学部は、こうした能力を備えた人材を育成するために、豊かな教養と法律学・政治学の基礎的知識を提供することを使命としています。

### 【法学部が望む学生像】

法学部では、世界・国家・社会の様々な問題に対する強い関心を持ち、多方面にわたる学力、とりわけ社会科学に関する基礎的な学力を備え、論理的思考力にすぐれた学生を求めています。

### 第1・第2学年では主として教養科目を学ぶ

教養科目は、一般教養科目、外国語科目、および保健体育科目からなり、これらの科目は、「全学共通科目」として提供されます。

一般教養科目は、人文・社会科学系科目と自然科学系科目からなります。例をあげれば、人文・社会科学系科目は、哲学、心理学、社会学、歴史学、文学、経済学、政治学、法学等に属する科目群からなり、自然科学系科目は、数学、物理学、化学、生物学等に属する科目群からなります。卒業するためには、人文・社会科学系科目から5科目20単位以上、自然科学系科目から2科目8単位以上取得しなければなりません。

外国語科目は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、イタリア語からなり、英語を6単位以上、その他の外国語のうち一つを8単位以上取得しなければなりません。外国語の単位の計算は、他の科目に比べて2倍重いものになっています。また、第一学年における外国語科目は、原則として学部のクラス単位で開講されます。

保健体育科目は、講義と実技それぞれ2単位、合計4単位まで履修することができますが、人文・社会科学系科目または自然科学系科目で代替することもできます。

これらの教養科目は、卒業までのどの学年においても履修することができますが、実際には、主として、第1および第2学年で履修するようにカリキュラムが編成されています。なお、本学では、1年生のことを1回生、2年生のことを2回生と呼びます。

### 高学年になるほど専門科目の授業が増える

1回生に配当される（つまり1回生のみが受講・受験することができる）専門科目は、通年4単位の外国語講読（英語）と、半期2単位の、法学入門、政治学入門、家族と法、司法制度論のみです。外国語講読は、原書講読方式による少人数教育を旨としており、クラス単位で開講されます。

2・3回生配当科目は、憲法第一部、憲法第二部、刑法第一部、民法第一部、国際機構法です。その他の専門科目は、原則として3・4回生配当科目ですが、2回生も一定限度内で受講・受験できる2・3・4回生配当科目というものもあります。2・3・4回生配当科目のうち、民刑事法関連科目としては、刑法第二部と民法第二部があり、ほかに政治関連科目（政治原論、政治過程論、比較政治学、アメリカ政治、国際政治学、国際政治経済分析、政治史、日本政治外交史、政治思想史、行政学、公共政策等）と基礎法関連科目（法理学、法社会学、法制史科目）があります。政治関連科目と基礎法科目については、2科目に限り履修を認めることになっています。

3・4回生配当科目としては、憲法・民法・刑法の各分野の科目のほか、



行政法、国際法、刑事訴訟法、民事訴訟法、商法、労働法、外国法等の科目と政治学の各科目があります。経済学部の一部の科目も受講・受験できることになっています。

演習は3・4回生に担当され、半期2単位で、4単位まで履修できます。少人数クラスで周到な予習に基づいた活発な討論が行われることが期待されています。

### 科目選択の自由と主体的学習

こうしたカリキュラム編成の趣旨は、1回生・2回生では、専門科目を勉強する前提として必要な広くかつ深い教養を身につけることを主たる目標とし、専門科目の勉強も、法律学については、中心科目の基礎的部分と基礎法科目の一部のみの学修にとどめ、政治学についても、その一部を学修するにとどめ、専門科目の本格的な勉強は3回生以上から始めることを推奨するという事です。必修科目はありませんので、このような趣旨を踏まえ、自分なりにどのような科目を選択し、学習計画を練っていくかは、すべて学生各自の主体的判断に任されています。もっとも、専門科目については、学生に対し堅実な学習を促すため、キャップ制を採用し、各学期において登録できる専門科目の単位数に上限を設けています。

#### さらに詳しく知るには

- 法学部ホームページ <http://kyodai.jp/>
- 入学についてのお問い合わせ 法学部第一教務掛 (tel.075-753-3107)

### 在学生からのメッセージ



#### 目標を持って

学部3回生  
石井 周作さん

本学では学生の自主性が尊重されています。それは法学部においても同じであり、目標や夢を持った人々が集い、お互いがお互いを高めあっています。その結果、本学部の卒業生は法曹界や官公庁、企業など様々なフィールドのトップで活躍しているのです。また、環境的にも知性あふれる教授陣、蔵書豊富な図書館など恵まれたものが用意されています。それをどれだけ活用し、自分のものとするかは学生一人一人にかかっているのです。大学生活はそれぞれの夢に近づくための大切な時間です。どのように使うかは自由であり、サークル活動やバイトに費やすのも良いものだと思います。ただ有意義に過ごすためには、目標を持つことが肝要です。



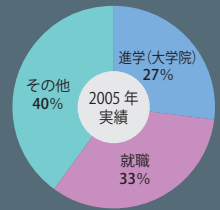
#### 「求める」ことが求められる場

学部4回生  
畑山 明彦さん

法学部では高校までの「与えられた」学修ではなく、自ら「求める」学修が必要となります。そして法学部は、求めれば必ず応えてくれる所でもあります。法学部は学科の区別が無く、法学、政治学を問わず学ぶことができます。また、経済学部の講義も履修可能で、社会の構造について広く様々な角度から学ぶことができます。さらに、文系最大の学部だけあり、多様な考え方もつ学生と知り合えることももちろん、ゼミ等では教授のご自宅に招いていただきたりするなど、教授と直接交流を深める機会もあります。このように、法学部は様々な「機会」にあふれた学部であるといえると思います。しかし、それらの「機会」は求めなければ得られないものでもあります。その意味で、自分から「求める」ことが求められているといえるでしょう。そして、受身から脱し、自ら求めて得たものはきっと、人生においてもかけがえのないものになると思います。

### 卒業後の進路

卒業生の進路は、司法修習生、国家・地方公務員、民間企業、法科大学院を含む大学院への進学など多方面にわたっていますが、なかでも、平成16年度より開学した、全国各地の法科大学院へは、進学者の約80%が進学しています。また、民間企業への就職先としては、金融・保険業が比較的多いですが、業種を問わず幅広くなっています。



### 法学部で取得可能な資格

法学部では、教育免許状の取得を目的とした教職課程を設けています。また、法学部以外の学部が開講する科目を修得することにより、その学部で取得できる資格や、受験資格が得られることがあります。

取得できる資格の例：教育職員免許状（中学1種社会・高校1種公民）

### 卒業生からのメッセージ



#### 京都大学法学部での4年間を振り返って

2003年卒業  
第58期司法修習生  
牛島 武人さん

京都大学法学部の魅力を端的に語るとすれば、自由な学風のもと、見識の高い教授陣から多くを学び、個性豊かな学生に囲まれて、学問のみならず、人間的な豊かさや幅広さを養うことができることにあると思います。

自主性を重んじた法学部の教育課程と、これを運営される教授陣により、各人の興味や関心に応じて、様々な分野について広く学ぶこともできれば、1つの分野について段階的・体系的に深く学ぶこともできます。そのため、卒業後の進路も多岐にわたり、多方面の能力・知識を活かしていくこともできれば、専門分野で能力を発揮していくこともできると思います。

また、個性豊かな学生が多く、それぞれが問題意識や将来の目標をもって取り組んでおり、在学中のみならず、卒業後もお互いに尊敬し、いい刺激を与えつつ、各分野で活躍する一生の友人が数多くできることも大きな魅力です。

卒業後、司法修習生としてこの1年を過ごし、様々な人や事件に出会うなかで、法学部での4年間を振り返ってみると、そこで得たものは、いずれもかけがえのない財産だと切に思いますし、今後法律実務家として歩んでいくなかで、それは益々大きな意味をもってくると思います。

皆さんも、このような素晴らしい環境のもとで、充実した大学生活を送られてみてはいかがでしょうか。法学部での学生生活を通じて、皆さんの期待以上のものが得られることと思います。



#### 自ら学ぶという能動的姿勢

2004年卒業  
外務省経済協力局政策課  
吉田 昌泰さん

法学部において最も印象深いのはゼミ活動であり、国際政治学ゼミでイラク戦争を題材にディベートをしたことが今でも記憶に残っています。教官の先生の指導の下、ゼミ生仲間と活発に議論を交わし、自分の知的好奇心を存分に満たすことができましたし、その際の問題意識は、私の職業選択に多大な影響を与えたように思います。

実社会で働く現在、能動的に考え行動することが求められますが、法学部で学んだことが活かされています。なぜなら、学生の自主性を尊重する京大法学部では、受講科目を自分で選択しなければなりませんし、ゼミでは自分の意見を考えて述べる事が期待されているからです。自ら学ぼうとする能動的姿勢をもって、法律や政治の素養を培い、自分の意見ひいては自分自身を形成していくことができる、それが京大法学部だと私は思います。

## 教員紹介

### 木村雅昭教授（比較政治学）

国家に関する歴史社会学的研究。現在は国家と民族に関して取り組んでいます。

### 棚瀬孝雄教授（法社会学）

現代法秩序の研究。

### 櫻田嘉章教授（国際私法）

生活関係の国際化に伴い、私人の間で発生する法律問題を解決するための基礎及び応用理論。

### 徳田和幸教授（民事訴訟法）

民事訴訟における手続保障のあり方、多数当事者訴訟に関する諸問題等についての研究。

### 初宿正典教授（憲法）

近代以降のドイツ憲法史にヒントを得つつ、日本国憲法の諸問題を特にドイツ憲法と比較しながら研究しています。

### 小野紀明教授（政治思想史）

特に20世紀の西洋政治哲学を哲学や芸術思潮と関連させながら研究している。他方で、今日の社会的問題に積極的に対応しようと試みる現代規範理論も、政治思想史を基礎として考察しています。

### 大石眞教授（憲法）

民主制・議会制度を中心とした憲法学の研究を行うとともに、日本憲法史や宗教法制などを考察しています。

### 寺田浩明教授（中国法制史）

伝統中国における法（成文法や裁判や契約）のあり方を比較法史的視点から研究しています。

### 真淵勝教授（公共政策）

日本官僚制の研究。とくに経済官庁が対象である。ゼミでは市町村合併や年金など、近年話題になっている政策テーマが取り上げられています。

### 村中孝史教授（労働法）

雇用されて働いている人たちの労働条件や、労働組合をめぐる法律関係について、教育・研究を行っています。

### 亀本洋教授（法理学）

正義論と法学方法論を中心に、法理学または法哲学と呼ばれる分野の研究と教育を行っています。

### 岡村忠生教授（税法）

国際課税の諸問題、特に多国籍企業への課税や、個人所得課税の基本問題について、研究を進めています。

### 鈴木基史教授（国際政治経済分析）

国際紛争・協調の実証的・理論的分析。

### 塩見淳教授（刑法）

市民の安全確保と自由領域の保障とをともに充たしうるような刑法を求めて研究・教育を行っています。

### 大嶽秀夫教授（政治学）

1980年代以降の日本政治の動向とくに行政改革と政党再編の政治過程とその影響。

### 西村健一郎教授（社会保障法）

社会保障の法理論。

### 森本滋教授（商法）

会社法の比較研究・金融関連法の研究。

### 河上倫逸教授（西洋法制史）

ヨーロッパ近・現代法を歴史的文明現象として把握し、その比較研究。法の歴史的・社会理論の構築。

### 位田隆一教授（国際法）

国際開発法の研究の完成を旨とすと共に、国際法の観点から生命倫理の研究と実践を進めています。

### 林信夫教授（ローマ法）

ローマ社会における契約法を中心に、法の実態、展開過程の歴史的メカニズムの解明に取り組んでいます。

### 伊藤之雄教授（日本政治外交史）

日本の政党政治や外交の発達過程や近代・現代国家の展開と共に、伊藤博文・原敬などの有力政治家を考察しています。

### 木南敦教授（英米法）

アメリカ合衆国の法制度について比較という観点を取り入れて研究しています。憲法、信託法、小切手法といういる取り上げています。

### 新川敏光教授（政治過程論）

福祉国家の構造、その発展と再編の政治について、比較論的に研究しています。

### 浅田正彦教授（国際法）

国際法の諸問題につき軍縮や武力行使を素材として研究を行い、国際法全般にわたって教育を行っています。

### 酒巻匡教授（刑事訴訟法）

刑事手続法の基本問題。

### 洲崎博史教授（商法）

保険契約法の基本問題。

### 山本敬三教授（民法）

現代契約法の基礎的研究。

### 服部高宏教授（ドイツ法）

現代ドイツにおける法形成過程に関する研究。ケアの法制度化をめぐる諸問題に関する研究。

### 中森喜彦教授（刑法）

犯罪論の体系的構築。

### 吉岡一男教授（刑事学）

犯罪現象の包括的理解にもとづいて、刑事法や刑罰など刑事制度を中心に、犯罪対応のあるべき姿を検討しています。

### 芝池義一教授（行政法）

国や地方自治体が行っている行政活動のための法制度、例えば情報公開制度や環境アセスメント制度、さらにこれら個別の制度を分析するための「行政法の一般理論」について研究しています。

### 錦織成史教授（民法）

とくに、不法行為、損害賠償の分野を中心に研究しています。

### 岡村周一教授（行政法）

行政訴訟法その他行政法の諸問題の研究。

### 的場敏博教授（政治学）

現代日本の政党政治を、①戦後日本の政党政治の流れの中に、②他の先進民主主義国との比較の中に位置づけています。

### 山本豊教授（民法）

契約の内容規制、消費者契約、電子契約など現代契約法の先端的問題の研究。

### 松岡久和教授（民法）

不動産物権変動論、金融・担保法、不当利得法などを具体的な各論の中心に置き、最終的には民事財産法の構造をどう捉えるかを研究しています。

### 川瀨昇教授（経済法）

独占禁止法と証券取引法を中心に経済法の全般を法と経済学的手法も利用しつつ分析しています。

### 潮見佳男教授（民法）

民事責任の基本問題。

### 山本克己教授（民事手続法）

民事手続法の基本問題。

### 前田雅弘教授（商法）

株式会社の適切な管理運営を確保するために、法はどうあるべきかという問題を中心に研究しています。

### 北村雅史教授（商法）

企業の健全性確保の見地から、経営者の義務・責任や経営機構に関する会社法のあり方について研究しています。

### 伊藤孝夫教授（日本法制史）

日本法制史全般にわたる諸問題、日本近代法の形成と展開。

<p><b>秋月謙吾教授 (行政学)</b></p> <p>中央地方関係にかかわる官僚制の研究。</p>	<p><b>横山美夏教授 (民法・フランス法)</b></p> <p>契約に関する基礎的な法律問題について、フランス法と日本法とを比較検討しながら研究しています。</p>	<p><b>中西寛教授 (国際政治学)</b></p> <p>国際政治の歴史的展開。</p>
<p><b>佐久間毅教授 (民法)</b></p> <p>権限のない者がおこなった契約などの取引の効力をどのように考えるべきかを、主に研究しています。</p>	<p><b>笠井正俊教授 (民事訴訟法)</b></p> <p>民事訴訟における審理の在り方、専門的知見を要する訴訟に特有の問題等を中心に研究を進めています。</p>	<p><b>唐渡晃弘教授 (政治史)</b></p> <p>ヨーロッパ政治外交史、とくに民族問題と国民国家の研究</p>
<p><b>酒井啓宣教授 (国際法)</b></p> <p>国連の平和維持機能を国際法の観点から研究しています。</p>	<p><b>土井真一教授 (憲法)</b></p> <p>憲法の基本原理、とりわけ法の支配と権力分立論について、研究を行っています。</p>	<p><b>毛利透教授 (憲法)</b></p> <p>民主主義と表現の自由の基礎理論、統治機構改革、憲法訴訟論などを研究しています。</p>
<p><b>高山佳奈子教授 (刑法)</b></p> <p>因果関係や故意・責任能力といった犯罪の成立要件、および犯罪に対する刑罰のあり方を研究しています。</p>	<p><b>中川英彦教授 (企業法務及び国際取引法)</b></p> <p>企業活動と法の接点、法と実務との乖離、その解決方法はどうかなど、法と実務の架け橋を探求しています。</p>	<p><b>村上光鶴教授 (刑事裁判実務)</b></p> <p>刑事手続法の理論と実務の架け橋、裁判員裁判の実施を巡る諸問題等について、教育と研究をしています。</p>
<p><b>松田一弘教授 (知的財産権法)</b></p> <p>特許要件、審決取消訴訟について研究しています。</p>	<p><b>上子秋生教授 (行政実務)</b></p> <p>我が国の地方公共団体の行政活動および運営に関する法制度についての研究を行っています。</p>	<p><b>本多正樹教授 (企業法務)</b></p> <p>金融取引、金融制度に関連する法的諸問題の研究</p>
<p><b>森川伸吾教授 (中国法)</b></p> <p>対中直接投資並びに日中間の企業取引及び紛争処理に関連する法律問題を研究しています。</p>	<p><b>山田文助教授 (民事手続法)</b></p> <p>民事紛争解決手続(訴訟外手続を含む)について、制度論的・法解釈論的なアプローチで研究しています。</p>	<p><b>中西康助教授 (国際私法)</b></p> <p>国際民事手続法の基礎理論及び欧州統合における法の役割について研究しています。</p>
<p><b>橋本佳幸助教授 (民法)</b></p> <p>不法行為法を中心に、民事財産法の直面している現代的諸問題について研究・教育を行っています。</p>	<p><b>待鳥聡史助教授 (アメリカ政治)</b></p> <p>議会と大統領が別個に選ばれる「二元代表制」下で、政策決定に大きな権限を持つ議会の研究を行っています。</p>	<p><b>堀江慎司助教授 (刑事訴訟法)</b></p> <p>伝聞法則をはじめとする刑事証拠法を中心に、刑事手続法全般について研究、教育を行っています。</p>
<p><b>島田幸典助教授 (比較政治学)</b></p> <p>英独を中心とする欧州諸国制の比較的研究。</p>	<p><b>深澤龍一郎助教授 (行政法)</b></p> <p>行政機関が裁量権限を行使することによって発生するさまざまな法的問題について研究を行っています。</p>	<p><b>船越資助助教授 (法社会学)</b></p> <p>批判法学の法・社会理論</p>
<p><b>戸田暁助教授 (企業法務)</b></p> <p>証券取引法などの企業法の理論と実務に関する諸問題について研究を行っています。</p>	<p><b>稲森公嘉助教授 (社会保障法)</b></p> <p>社会保障の法理論及び法制度について、主に医療保障のしくみを中心に研究を行っています。</p>	<p><b>齊藤真紀助教授 (商法)</b></p> <p>会社における関係者間の利害調整枠組みの研究。</p>
<p><b>奈良岡聰智助教授 (日本政治外交史)</b></p> <p>大正期を中心とする近代日本の政党政治、政官関係、日英関係について研究しています。</p>	<p><b>増田史子助教授 (国際取引法)</b></p> <p>国際商取引法、とくに国際運送を中心に、貿易取引の私法的規整について研究しております。</p>	<p><b>愛知靖之助教授 (知的財産法)</b></p> <p>特許法、とりわけ特許発明の技術的範囲画定に関する諸問題を中心に研究を行っています。</p>
<p><b>アリスティアスウェール助教授 (国際公共政策)</b></p> <p>主に明治期の政治思想・行政学を研究してきたが、最近是新古典の政治経済学と新公共経営を分析しています。</p>	<p><b>西村泰雄助教授 (著作権実務)</b></p> <p>著作権政策、教育活動における著作物等の利用に係る権利制限の在り方及び利用許諾システムについて</p>	<p><b>濱田毅助教授 (刑事法)</b></p> <p>刑事手続法と刑事実体法について、実務(特に検察実務)の観点から、研究及び教育を行っています。</p>

## 専門科目 (平成 17 年度開講分)

法学部専門科目	経済学部開講科目	演習
憲法第一部、憲法第二部、行政法第一部、行政法第二部、税法、社会保障法、国際法第一部、国際法第二部、国際機構法、刑法第一部、刑法第二部、刑事訴訟法、刑事学、民法第一部、民法第二部、民法第三部、民法第四部、商法第一部、商法第二部、経済法、民事訴訟法、国際私法、国際取引法、労働法、法理学、法社会学、日本法制史、西洋法制史、ローマ法、東洋法史、英米法概論、ドイツ法、政治原論、政治過程論、比較政治学、アメリカ政治、国際政治学、国際政治経済分析、政治史、日本政治外交史、政治思想史、行政学、公共政策、法学入門、政治学入門①、政治学入門②、司法制度論、家族と法、日本政治思想史、特別講義(中国法、外交史、現代中国論、法学基礎文献)、特殊講義(企業法務)、外国書講読(英)、外国文献研究(英・独・仏)、演習	経済原論 IA、経済原論 IB、経済原論 IIA、経済原論 IIB、経済政策論 A、経済政策論 B、財政学 A、財政学 B、経済史 A、経済史 B、労働経済論 A、世界経済論 A、金融論 A、金融論 B、統計学 A、統計学 B、経営学原理 A、会計学原理 A、会計学原理 B、社会政策論 A、公共経済学 A、公共経済学 B	憲法、行政法、税法、社会保障法、国際法、国際機構法、刑法、刑事学、民法、商法、経済法、国際私法、労働法、法理学、法社会学、日本法制史、ローマ法、東洋法史、英米法、ドイツ法、政治原論、政治過程論、比較政治学、国際政治学、国際政治経済分析、政治史、日本政治外交史、政治思想史、行政学、公共政策



## 経済学部の教育

### 第1学年で学ぶこと

第1・第2学年では「全学共通科目」と呼ばれる教養科目を主として履修します。これと並行して第1学年では、経済学部が提供する「入門科目」を受講し、経済学の基本を学ぶことになります。入門科目には、「マクロ経済学入門」、「ミクロ経済学入門」、「社会経済学入門」、「基礎統計学」、「経済史・思想史入門」、「現代経済事情」、「経営学入門」、「会計学入門」、「情報処理入門」があります。これら9つの科目の概要については、2ページ後に紹介しています。

### 第2学年から学ぶこと

第2学年からは経済学の専門科目を受講することができます。専門科目は、「専門基礎科目」と「専門科目」に分かれています。「専門基礎科目」として、マクロ経済学、ミクロ経済学、社会経済学、計量経済学、経済統計学、経済史、経済学史、経済思想など経済学の基本となるもの、国の経済活動に関わる経済政策や財政学、資金の流れに関する金融論、経営学の基礎である経営学原理、企業の仕組みに関する経営組織論、企業が顧客に対してどうすればよいかを考えるマーケティング、企業を営むために必要な資金を考える経営財務論や会計学などがあります。「専門科目」としては、今日の経済・経営の分野において必要とされる多数の講義が用意されています。これら「専門基礎科目」と「専門科目」はすべて選択科目であり、必修科目はありません。さらに、経済学や経営学の専門科目だけでなく、隣接分野である法学・政治学科目を含めて幅広い分野から、自分自身の興味と関心に応じて、自主的に受講科目を選択することができます。

### 少人数ゼミナール

京都大学経済学部で重要な役割を果たしているのは演習（ゼミナール）です。指導教員の指導のもとで、少人数の学生同士で、様々な具体的なテーマについて報告・討論しながら、問題の本質を捉えるべく共同で学習します。ゼミナールにおいて、自発的な参加意欲や勉強意欲をつちかい、コミュニケーション能力を高めることができます。ゼミナールでの主体的な勉強を通じて身につけた能力は、一生役立つと思います。第2学年からゼミナールに参加することができます。ゼミナールは各教員が特定のテーマで毎年各学年10名を募集し、指導します。第3学年進級時に、所属ゼミナールを変更することも認められています。ゼミナール参加者は、第4年次に卒業論文を提出することができます。

### 「自学自習」と学問の自由

大学での勉強は基本的に「自学自習」です。つまり自分で問題を見つけ、自分でものを考え、自分でその解決を見つけ出すことが求められます。また、大学を支える基本原理は「学問の自由」です。自由があるから多様な考え方が生まれ、科学は進歩し、社会の要請に応えることができるのです。自由な学問を行うためには学問の伝統のなかで育てられてきたものをしっかり勉強する必要があります。自由に絵を描くためにはしっかりとデッサンの修行を積み重ねなければならないことと同じです。経済学の考え方を学ぶことができれば、社会のどのような立場にあっても迷うことなく判断できる力を得ることができると思います。このような意味で、自由に学ぶことのできる場所が京都大学経済学部です。

## 学部概要

### 伝統性と先端性の統合

本学の経済学部は1919（大正8）年に法学部（法科大学）から別れて誕生しました。法学部の時代にもすでに1899（明治32）年から経済学関連の講義がスタートしていましたから、その歴史は日本でも一、二という伝統をもっています。この長い歴史の間に京都大学経済学部は、多数の著名な研究者を輩出し、また個性的な実業界のリーダーや各方面で活躍する優れた人材を送り出してきました。さらに、本学部はたえず先端的な分野の拡充をはかってきました。最近の例をあげると、2002年に、大和証券グループの協力を得て、金融・証券システム寄附講座を開設しました。また、同年、現代中国経済の調査研究のメッカとすべく、上海センターを設立しました。

### 自学自習と少人数教育の重視

京都大学は自由闊達な気風を求める「自由の学風」を歴史的に育んできましたが、経済学部も学生の自学自習・自発自啓を基本精神としています。学部科目はすべて選択科目であり、必修科目はありません。経済学や経営学の専門科目だけでなく、隣接分野である法学・政治学科目を含めて、幅広い分野から自主的に選択し、自由に学ぶことができます。また、大学院との共通科目や、経験豊かな社会人講師による講義も開講しています。

また、本学部では、創立以来、演習（ゼミナール）制度を重視し、少人数の学生と担当教員による対話型学習システムをつくってきました。ゼミナールは、学生が共同学習と討論を通して最も成長できる場であるとともに、親しい友人をつくる絶好の場です。卒業後もゼミナール単位での同窓会が盛んに行われています。

### 多様性と国際性

本学部は、論文入試をはじめ、留学生入試、外国学校出身者入試、3年次編入学入試など、国立大学のなかで先んじて、多様な入試制度を導入してきました。そのねらいは、多様な経験をもった学生の能力を一層高めるとともに、多様な学生同士が刺激し合いながら相互に切磋琢磨し、豊かな教養と人間性、国際感覚を身につけることにあります。ちなみに、留学生の比率は大学院生を含めると京都大学のなかでは最も高く、国際性にあふれる学部です。

### 【経済学部が望む学生像】

私たちは、このような京都大学経済学部の良き伝統を継承し、そこに新たな歴史の一頁を刻み込む強い意志を持つ学生諸君が門を叩いてくれることを望んでいます。

## 大学院への入学について

最近では、約1割強の学生が大学院経済学研究科に進学します。京都大学大学院経済学研究科には、「博士コース」と「ビジネス科学コース」とがあります。「博士コース」は、経済学・経営学の研究者を育成するためのコースです。修士課程と博士後期課程からなる5年間のコースです。2004（平成16）年度から、修士課程に「ビジネス科学コース」が設置されました。このコースは、産学連携の一層の進展、あるいは実践的な高度専門職業人の養成という時代の要求に積極的に応えることを目的としています。このコースでは、経営戦略、経営管理、会計、マーケティング、といった伝統的な経営学分野でのカリキュラムに加えて、ファイナンス工学、ベンチャー経営、ITビジネス、公共政策など、時代が要求するいくつかの先端的な専門教育を行っています。

### さらに詳しく知るには

- 経済学部ホームページ <http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/>
- 入学についてのお問い合わせ 経済学部教務掛 (tel.075-753-3406)

## 在学生からのメッセージ



### 経済学部って何を勉強する所？

3回生  
長屋 真季子さん

経済学部って何を勉強する所？経済学部では経済史、財政、国際貿易、企業経営など多岐に渡る分野を勉強することができます。私たちが生活する上で関わってくることはすべて経済現象の一部だと言えるでしょう。

経済学部では様々な分野を一通り勉強し、自分が最も興味を持った分野をゼミで専門的に学びます。学内の授業で最も充実した勉強をすることができるのはゼミだと思います。ゼミでは専門分野の勉強だけでなく、教授との距離が近いので教授の人柄にも触れることができます。また院生の先輩方やゼミ生からの刺激を受けることにより、さらに充実したものとなります。ゼミは厳しいですが、厳しいからこそやる気になる、そんな場だと思います。



### 経済学のおもしろさ

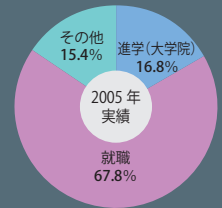
2回生  
真戸原 秀重さん

私の高校生時代、現小泉政権が発足し、平成不況を脱するかのように見え、EU圏内でユーロは確実に浸透し、対米同時多発テロ事件が実行されました。その中で私は日々の出来事と、確実につながっている「経済」とは一体何なのか、そしてまた経済とは、今どのように動いているのかということに、強く興味を抱きました。このことこそが私が経済学部に進んだ理由でした。

現在私が所属しているゼミでは、国際経済学を主に学習しています。ゼミでは基本的な理論の学習の他だけでなく、最新の経済問題の研究も行なわれます。今や経済はグローバル化し、経済活動は国境を越えて地球規模で行われ、ヒト・モノ・カネが自由に行き来しています。日本のFTA、EUやNAFTAの域内統合、人民元切り上げなど為替レートの問題が時事の話題となる今日、国際経済学を学ぶことの重要性は増し、その学習をすることは非常に意義深く、面白いことだと感じています。

## 卒業後の進路

京都大学経済学部はすでに80年余の歴史があり、多数の個性的な人材を社会に送り出してきました。学界のリーダーとして多数の優れた研究者を出してきましたし、政界・実業界のトップリーダーも少なくありません。毎年1割強の学生は大学院へ進学しています。



就職先の例  
三井住友銀行、トヨタ自動車、住友商事、中央青山監査法人、三洋電機、東京電力、東京三菱銀行、農林中央金庫、東京海上火災保険、監査法人トーマツなど

## 経済学部で取得可能な資格

大学を除くすべての国公立、私立学校の教員となるためには教育職員免許状が必要です。

経済学部は教員免許状についての課程認定を受けており、教育職員免許法に定められた所要の単位を修得すれば、次の種類の免許状が取得できます。

高等学校教諭：「地理・歴史」、「公民」、「商業」  
中学校教諭：「社会」

## 卒業生からのメッセージ



### 大学時代に得たもの

1993年卒業  
サントリー株式会社勤務  
田端 昌史さん

高校時代、社会事象の本質を見極めるためには、経済思想からマーケティングまで、もちろんマクロもミクロも、そしてマルクスもある、懐と奥の深い京都大学経済学部で学ぶしかないと思いつき、恋焦がれるように入学を果たしました。

大学生生活で得たものはたくさんあります。かけがえのない恩師、「コイツにはかなわない」と思えるような友人たち。そしてそんな出会いのなかでこそ見えてくる、「自分とは何なのか」という問いに対する（価値観・流儀という意味での）答えなど。

私はいま宣伝企画部で広告業務に携わっていますが、どんな業務も、常に本質を見極め、人との出会いを大事にし、自分なりのこだわりをもって取り組んでいます。そして今でも大学時代に得たものが私の原点、心の支えとしてしっかりと存在しています。



### 「場」としての「経済学部」の魅力

1998年卒業  
JICA フィリピン事務所勤務  
横田 未生さん

進路に迷う高校時代、色々自分なりに考え経済学部を選んだのですが、今思えば、そんなものはどうでもよかったように思えます。格好よく説明することは後からいくらでも可能なのですから。

私は現在フィリピンで開発援助の仕事をしています。中小・零細企業振興のための新規プロジェクトの企画・形成、立上げを担当し、仕事内容はフィリピン政府関係者や他ドナーとの調整・交渉から、プロジェクトのネタ探しの地方回りまで多岐に亘ります。今の仕事と大学で習った「経済学」が特に関係しているとは思いません。しかし、「経済学部」で学んだものは今の自分のあり方に大きく関係しています。多面的なモノの捉え方、異なる意見を否定・攻撃することなく議論する方法。「経済学部」という「場」で、できる限り多くの人や考え方に触れ、自分自身のペースを築いてください。

## 入門科目紹介

### ミクロ経済学

市場メカニズムのもとで経済行動を分析する学問を「ミクロ経済学」と言います。ミクロ経済学の起源は19世紀から20世紀にかけて登場した最大化原理を基礎に置く完全競争モデルまでさかのぼります。しかし現代経済は大企業による寡占化の道をたどり、完全競争の虚構性が批判されるようになりました。そこで将棋のように戦略的に意思決定する「ゲーム理論」が登場しました。ゲーム理論を中心にした現代ミクロ経済学はたくさんの応用経済学の基礎ツールとなっています。医療・福祉経済学、マーケティング経済学、情報・通信経済学、都市・交通経済学、企業・組織経済学、環境経済学のような先端分野で、ミクロ経済学が役に立っています。

### マクロ経済学

マクロ経済学は経済活動を大きな視点から分析する経済学の1分野です。大きな視点というのは、つまり、その分析対象が特定の個人、企業、産業の経済活動ではなく、1国経済や世界経済全体だということです。なぜ経済は好況と不況を繰り返すのか、政府は景気の変動を抑制するためにどのような政策を採ればよいのか、なぜ産業革命以降先進国は産業構造の転換を果たし所得の大きな上昇を達成できたのか、それに対し多くの発展途上国が農業中心の経済構造から脱却できず所得の低い状態にあるのはどうしてなのか、といった疑問をもったことがあるでしょう。マクロ経済学が取り組んでいるのは、これらの疑問により正確な答えを与えることだといえます。

### 社会経済学

もともと「社会経済学」は、スミス、リカード、マルクスなど古典派と呼ばれる人たちの経済理論の名称でした。かれらは、経済分野だけでなく政治や文化などの分野に及ぶ広い社会的視座をもつとともに、数世紀に及ぶ歴史を考察する長期的視野をもっていました。しかし、20世紀に入ると、大量生産技術の成立といった技術面の変化や、巨大企業の出現といった組織面の変化によって、古典派経済理論の有効性は低下しました。このような資本主義の変化をふまえて、新たな理論を作ったのはケインズとカレツキです。現代の社会経済学は、古典派経済学者たちの社会的歴史的視点とケインズとカレツキの理論とを結合して、現代資本主義の構造や制度を分析します。

### 基礎統計学

統計学は元々は国家の為政者が行政のために必要とした、資料を提供するための方法だった様です。人口、所得、耕地面積等の資料を収集し、整理し、一国の国力を測ることなどが当初の目的でした。今日では、データの処理にも幅があり、行政だけでなく、商業、そして、株式や為替におけるような売り買いに直接結びつく統計、など応用は様々です。基礎統計学では、記述統計学と数理統計学によって成り立つ二つの領域を概観します。前者では、物価指数など、実務上よく使われるツールの説明をします。後者では、データに関する様々な推定や、仮説に関する検定を学びますが、多少とも、数学的です。この講義では、このような最も基礎的なツールを学ぶことも、非常に重要です。

### 経済史・思想史

温故知新という言葉を知っていますか？昔のことから新しいことを知る、経済史や思想史とは、まさにそんな学問です。このふたつの分野は、現在の経済社会や経済学を歴史的に眺めることで、経済や社会に関する「忘れ去られた課題」を再発見し、併せて「新しい課題」や「経済学のあり方」を構想します。例えば、ある国が経済大国になる過程の分析からその秘訣や条件そして様々な問題点を学んだり、ある企業の発展・没落から経営とは何かと考えてみたり、また、人間が集団形成するときの諸問題を把握することで理想社会について提言したりします。歴史的な発想を身につけて、当たり前だった日常の「新たな可能性」について一緒に考えてみませんか。

### 現代経済事情

人間の社会を扱う以上は、経済学は経済的・社会的問題の解決という目的意識から無縁ではありえません。これは「政策関心」と言い換えることもできるでしょう。経済政策論、財政学、金融論、社会政策論、世界経済論、公共経済学など、「現代経済事情」の諸講義は、いずれも「現代の社会問題や経済問題を素材に考える」という共通項を持っています。経済問題に対しては通常さまざまなアプローチがあります。複雑な社会現象そのものを理解する際には、やはり総合的・多面的な分析視角が必要となります。「現代経済事情」の諸講義に共通するねらいは、現実の経済問題などへの感受性と複眼的な見方を養うことにあります。

### 経営学

経営学は、広く経営現象を研究する学問です。「経営」とはある目的を達成しようとする事業について、それを計画し、指揮し、管理する活動です。その対象は民間企業の経営が従来の中心でしたが、近年は病院や政府、地方自治体などの社会的部門でもその経営の善し悪しが問題にされるので、広がってきています。企業の経営でさえ単純に利益だけを目的として行われておらず多くの人が利害や欲求の関連の下に動いているので、経営は複雑なシステム現象であり、それを研究する経営学も非常に複雑な理論体系となってきました。経営学は企業だけではなく病院や政府、NPOなどを経営することの難しさとその醍醐味を理解させられると思います。

### 会計学

会計学は、「事業の言語」といわれる会計を対象として発達した学問です。会計の仕方がかわれば事業の見え方もかわるため、どのような考え方に基いて事業活動を認識し表現すべきかという問題が重要になります。会計学は、現実の会計を正確に理解するとともに、望ましい会計について考えてきた学問です。会計は、社会会計・国民経済計算といったマクロ会計と、家計・企業会計・非営利法人会計・公会計といったミクロ会計に分類されます。また、会計情報の利用者の相違によって、企業外部の株主や債権者などに対する財務会計と経営者などのための管理会計に分類されており、それぞれに対応して財務会計学と管理会計学が発達しています。

### 情報処理

情報処理とは人間の意思決定活動であり社会活動そのものです。またインターネットやコンピュータなどの情報通信技術は、このような活動を支援する道具です。今では、情報通信技術の急速な発展が社会を大きく変え、情報通信技術なくしては企業の経営が成り立たなくなってきました。情報処理は、単に、経済学や経営学を学び、理解し、分析するためだけに活用されるものではありません。コンピュータシミュレーションによって社会や組織を解析し、あるいは未来を予測するといった新しい方向も生まれています。情報通信技術と情報処理は、経済学や経営学と深く関係し、今後の発展が期待される分野なのです。

講座・教員一覧

専攻名	講座名	教授	助教授	講師	助手
経済システム分析	経済理論	八木紀一郎 小島専孝 宇仁宏幸	遊喜一洋	ディミター・ヤルナソフ	
	統計・情報分析	大西広 森棟公夫	中島康彦		白井亨
	歴史・思想分析	田中秀夫 堀和生	坂出健 竹澤祐丈		
経済動態分析	比較制度・政策	本山美彦 今久保幸生 岡田知弘 久本憲夫 岩本武和	黒澤隆文 久野秀二	稲葉久子	
	金融・財政	(植田和弘) 古川顯	島本哲朗 諸富徹		
	市場動態分析	橘木俊詔 田尾雅夫 西牟田祐二	文世一		
現代経済学	現代経済学	下谷政弘 西村周三 塩地洋	依田高典 渡邊純子	櫻田忠衛	
	国際経営・経済分析	山本裕美 根井雅弘	菊谷達弥 宇高淳郎		
ビジネス科学	経営管理・戦略	若林靖永 成生達彦	曳野孝	マスワナ・ジャン・クロード	
	市場・会計分析	上總康行 藤井秀樹	若林直樹 澤邊紀生		
	事業創生	末松千尋 日置弘一郎 徳賀芳弘	梶山泰生		
	ファイナンス工学	木島正明	岩城秀樹		
	ビジネス科学	吉田和男	松井啓之		
プロジェクトセンター			北野尚宏		
寄附講座 金融・証券システム	大西匡光 カール・キアエラ	田中敬一			
企業金融	川北英隆	芝田隆志			
ベンチャーキャピタル経営論	濱田康行	砂川伸幸			方川真実

専門科目 (系別科目)

1・2 回生	2 回生～	3 回生～
<p>●入門科目</p> <p>ミクロ経済学入門、マクロ経済学入門、社会経済学入門、経済史・思想史入門、現代経済事情、経営学入門、会計学入門、基礎統計学、情報処理入門</p>	<p>●専門基礎科目</p> <p>ミクロ経済学1、ミクロ経済学2、マクロ経済学1、マクロ経済学2、社会経済学1、社会経済学2、経済史1、経済史2、経済政策論1、経済政策論2、財政学、金融論、計量経済学、経済統計学、経営学原理、経営戦略、経営組織1、経営組織2、マーケティング1、マーケティング2、経営財務、会計学1、会計学2</p> <p>●専門科目Ⅰ</p> <p>社会思想史、日本経済論、公共経済学、世界経済論、社会政策論、経済数学1、経済数学2、経営史、財務会計、管理会計、組織経済論、情報処理論1a、情報処理論1b、情報処理論2a、情報処理論2b</p>	<p>●専門科目Ⅱ</p> <p>経済学史、社会経済変動論、経済哲学、意思決定論、計画理論、経営情報論、日本経済史、アジア経済史、欧米経済史、工業経済論、ヨーロッパ経済論、経済統合論、国際経済学、国際金融論、比較経済システム論、市場経済移行論、労働経済論、農業経済論、国際農政論、地域産業論、地域開発論、金融政策、租税論、公共政策論、地方財政論、財政政策論、金融リスク論、証券投資論、派生証券論、ファイナンス工学、サービス経済論、保険論、医療経済学、交通経済論、情報・通信産業論、現代経済思想、進化経済学、産業組織論、比較経営論、産業・企業成長論、東アジア経済論、現代日本産業論、人的資源管理論、オペレーション・マネジメント、都市経済学、組織調査論、国際経営史、非営利組織経営、流通論、マーケティング・リサーチ、会計監査論、経営分析論、原価計算論、国際会計論、企業家・起業家論、ITビジネス論、国際経営論、ネットワーク経済論、事業創成、ベンチャービジネス論、ベンチャーキャピタル論</p>

大学院連携科目	「特別科目」及び「演習」	留学生対象科目
応用計量経済学、上級計量経済学、上級統計学、上級数理統計学、思想史の方法と対象、データベース構築論、国際財政論、金融システム論、土地経済論、環境経済学、数理経済学、国際マーケティング	外国経済書講読、演習、卒業論文、特殊講義	基礎比較経済論、基礎日本経済論、基礎企業論、基礎国際企業論、基礎組織行動論



## 理学部の教育

### 理学部の教育理念

#### 教育目標

- ・自然科学の基礎体系を深く習得し、それを創造的に展開する能力の養成
- ・個々の知識を総合化し、新たな知的価値を創出する能力の養成

#### 教育の特徴

- ・自由な雰囲気の下で学問的創造を何よりも大切にし、自律的学修が推奨される学風
- ・理学科のみの1学科制
- ・緩やかな専門化を経て、研究の最前線へ

#### 望む学生像

- ・自由の気風を備え、既成の権威や概念を無批判に受け入れない人
- ・自ら考え、新しい知を吸収し創造する姿勢を持つ人

### 理学部の教育方針

1年次・2年次では、主として全学共通科目と理学部学部科目を履修する。

1年次から2年次にかけては、全学共通科目である一般教育科目、外国語科目、保健体育科目などと学部科目である専門基礎科目を主として履修します。これらの科目は、大学院人間・環境学研究科及び理学研究科を実施責任部局として全学部ならびに研究所、研究センターなどにより、全学部の学生を対象に開講されています。また、講義以外にも演習、ゼミナール、講読、実験、実習など様々な形で授業は行われ、これらの科目を履修することによって、専門分野を学ぶための基礎を養うとともに、幅広い学問に接して高い教養を身につけ、人間としての視野を広げるよう工夫されています。

少人数クラスを設け履修を円滑に進める。

系登録するには、所定の科目の単位を2年次の終わりまでに取得する必要があります。必要な単位数や科目履修の進捗などで不明なところがあれば相談できるよう、理学部教員2人が対応する少人数クラス（10名）が設けられています。

3年次から4年次にかけては主として専門科目を履修する

理学部は理学科1学科とし、この学科には5つの系が設けられています。これらの系は、おおよそ次のような専門分野と対応しています。

- 数理科学系：数学
- 物理科学系：物理学、宇宙物理学
- 地球惑星科学系：地球物理学、地質学鉱物学
- 化学系：化学
- 生物科学系：動物学、植物学、生物物理学

系登録は、2年次の終りの時期に行います。3年次では、これらのいずれかの系に属し、その系が担当する課題演習を履修し、4年次においては課題研究（卒業研究）または講究（数学系）を履修します。

全学共通科目に関しては、以下のように大別してA～Dの4群とそれらの組み合わせから成っています。

- A群科目 人文科学及び社会科学系科目
- B群科目 自然科学系科目
- C群科目 外国語科目
- D群科目 保健体育科目
- A・B群科目 科学論など
- A・C群科目 芸術交流論など
- B・D群科目 健康科学など

学部科目としては、専門基礎科目と専門科目とがあります。これらの科目の数は多く、広い分野にわたって履修することが可能です。特に専

## 学部概要

自然はどのようにになっているか、そして自然はなぜそのように成り立っているのか、自然を動かす法則は何なのか、私達人間はしばしばこういう疑問を抱きます。理学部は、答えを誰も教えてくれないような自然への疑問を持つ人達が、自然の声に耳を傾け、疑問を解く喜びとともに、さらなる自然の深い秘密に接することを楽しむ学部です。

理学部は、京都大学の中でも最も長い歴史をもつ学部で創立以来何度かの改革を行ってききましたが、最近の大きな改革は1994年に理学科のみの一学科制が発足したことです。この制度は、多岐にわたる学問分野を学ぶ過程で自らの適性を発見し、それに応じた専門分野の選択を可能にし、同時に従来の学問分野の枠組みにとらわれない人材の育成を意図しています。3年次、4年次において、各専門分野に分かれ、少人数ゼミや実験・実習を通じて更に深く学問的教養を身に付けます。学生の自ら学ぶ意欲を尊重し、育ていく教育方針が基本です。

京都大学理学部は、国内国外において著名な多数の独創的研究者を輩出してきました。その中にはノーベル賞やフィールズ賞のような国際的に最高レベルとされている賞の受賞者も含まれています。

また、理学部には霊長類研究など新しい研究分野を幾つも開拓してきた伝統が今でも息づいています。こうした学問の創造や開拓は、研究や教育に対する自由な雰囲気の中で生まれ育つものであり、一朝一夕でつくられるものではありません。このような環境において、今また、21世紀COE拠点として、5専攻（系）の全てにあたる5つの教育研究計画が評価され、理学部全体で活動しています。



門科目は履修単位の上限はありません。これは広く浅く学ぶことを薦める意図ではなく、年次とともに履修科目の専門化の程度を進めて、自己に適した専門的課題を見つけて、それに関連する分野の科目を重点的に履修し易くするためのものです。

#### 4年次では卒業研究に取り組む

4年次では、数学系では講究と呼び、他の系では課題研究と呼ばれる卒業研究が必須科目になっています。この科目の履修においては、学生は、個別に教員の指導を受け、研究の手法を学びつつ、課題の追求とその結果をまとめる基礎力をつけます。この学習を通じて、専門分野の研究の現場に触れることが期待されています。

#### 学部3年次から大学院への入学について

大学院理学研究科は、数学・数理解析専攻と化学専攻においては、大学に3年以上在学した者で、理学研究科が所定の科目とそれを優秀な成績で単位取得したと認められた者には、大学院修士課程の出願資格を認めています。また、修士課程または博士課程において、特に優秀と理学研究科が認めた者に、それぞれ、1年で修士、または修士課程と合計して3年の在学で、博士の学位が授与されることがあります。

#### さらに詳しく知るには

- 理学部のホームページ <http://www.sclib.kyoto-u.ac.jp/kusci/index-j-top.html>
- 入学についてのお問い合わせ 理学部第二教務掛 (tel.075-753-3637)

## 在学生からのメッセージ



### 自主性が必要！

学部4年生 物理系  
畔柳 竜生さん

初期宇宙での現象の記述には重力の量子化の実現が必要です。アインシュタイン理論により重力が時空のダイナミクスとして記述されたことから予想できるように、重力場の量子化は我々の時空がなぜ四次元かというような時空構造の理解にも不可欠です。

私は一般相対性原理に基づく古典的な重力の記述とゲージ原理に基づく相互作用の量子論的記述の統一的理解である量子重力の定式化に興味があります。物理は積み重ねの学問の代表格なので、これらの分野の一端に触れるにも相当の勉強を要します。しかし、京大ではその分野の世界的権威と話す機会や、また、学年や分野の隔たりなく自主的に開かれるゼミで勉強する機会もあります。望むなら多くを学ぶことのできる、魅力的な大学です。



### 進んで取り組み やり抜く楽しさ

修士課程1年 化学専攻 生物化学  
葦島 維文さん

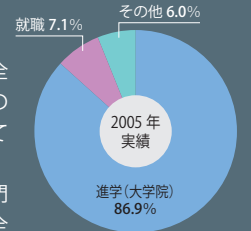
ここ理学部では学科に分かれて入学の募集をしていません。入学後も幅広い自然科学の分野から好きな講義を履修する事ができます。私はものを作る事が好きだったこともあって、化学を勉強しようと思えました。

現在、研究室では遺伝情報を担うDNAのある特異的な配列に対して反応する分子を設計し、合成して、その機能評価をしています。テラーメイド抗がん剤になる可能性を秘めているこの分子を作りながら、これでどういったことができるんだろうと、評価しながら次はこういうものを作ってやろうと夢を描きながら実験しています。また、研究を通してじっくり考えたり、先生や研究室のメンバーと話し合ったりする機会に恵まれ、大きな経験になっています。

## 卒業後の進路

卒業後大学院に進学する者が全体の5分の4以上に達し、博士の学位取得者は毎年100人を越えています。

卒業後民間企業等に就職し専門的・技術的職業に従事する者は全体の10分の1程度です。



就職先の例  
日本電気, 日本IBM, オムロンソフトウェア, 電通, みずほ銀行, 三井住友海上火災保険, 国土交通省

## 理学部で取得可能な資格

理学部では、教育職員免許状の高等学校教諭一種免許状(数学・理科)と中学校教諭一種免許状(数学・理科)の課程認定を受けています。

数理科学系・物理科学系・地球惑星科学系の卒業生については測量法施行令第14条第1項に規定する「相当する学科」としての認定を受けています。

また、学芸員資格についても、必要な科目を修得することにより取得することが可能です。

取得できる資格の例：教育職員免許状(高等学校教諭一種免許状〈数学・理科〉), 中学校教諭一種免許状(数学・理科), 測量士補, 学芸員資格

## 卒業生からのメッセージ



### 理学部で得たもの

1997年卒業  
東京大学大学院理学系研究科物理学教室  
日本学術振興会 特別研究員

吉川 耕司さん

私が理学部に入学して10年以上が経ちますが、今振り返って、現在も変わらない理学部の魅力は、あらゆる面で学生の自主性を促す環境にあると思います。理学部での4年間は、様々な分野を授業や3,4年次での課題演習・課題研究で勉強しました。特に、課題演習・課題研究は教官はあまり口出しせず学生同士がお互いの考えをぶつけ合って問題に対する理解を深めることによって、研究者になるための訓練になったと思います。また、そこで得た知識も然る事ながら、お互いに刺激し合いながら学問に対する動機を高めることができた点で、私にとって非常に有益でした。私の理学部での4年間は、そのような非常に恵まれた環境でのみ得られる貴重な経験ではなかったかと思っています。皆さんも、理学部の素晴らしい環境で研究者への一歩を踏み出してはどうでしょうか。



### 研究者をめざして

2002年卒業  
理学研究科植物学教室博士後期課程2年

遠藤 求さん

理学部には研究者を志望する人がたくさんいます。私もその中のひとりとして入学しました。しかし、学部の4年間は研究者になるための勉強というよりは、全く関係ない分野の勉強やクラブ活動等を通じて自分の幅を広げることに重点を置いていました。この時期に得た交友関係や経験は大きな影響をもっていると思います。自分の時間を十分に持てる学部時代を悔いのないように過ごしてください。現在は大学院で植物の光受容体の研究をしています。自由な校風の中、自分のペースで研究させてもらっていますが、それに伴う自己責任の重さをひしひしと感じながら日々を過ごしています。

## 各系の紹介

### 数理科学系

数学は長い歴史の中で生まれ、立派な体系をもつ学問であり、現代社会における科学技術も支えている。数理科学系では数学全般についての研究と教育を行う。主に19世紀から21世紀にかけて発展してきた現代数学を教える。入門的なものから専門的なものまで取り揃えた講義によって、受験数学では味わうことのできない数学を学ぶことができる。数理科学系の所属教員の専門分野は多岐にわたり、数学のほとんどすべての分野を網羅している。

数論、代数幾何学、複素多様体論、微分幾何学、トポロジー、微分位相幾何学、微分方程式論、函数解析、複素解析、代数解析学、表現論、作用素環論、力学系、非線形数学、確率論、数値解析、計算機数学、保険数学

### 物理学・宇宙物理学系

物理学は、自然界の普遍的な法則を明らかにし、物質の種類や時間・空間・エネルギーのスケールの違いによって様相の異なる様々な現象を、統一的に理解することを目的とする。本専攻は3教室に分かれ、物理第1教室では主に物質の構造と性質について、物理第2教室では時空の基本構造から素粒子、原子核、重力、宇宙論まで、宇宙物理学教室では太陽から宇宙論まで宇宙の様々なスケールでの諸現象について、それぞれ理論、実験、観測等をからめながら幅広い研究を行っている。

不規則系物理学、量子光学・レーザー光学、低温物理学、光物性、固体量子物性、固体電子物性、化学物理・生命物理、非線形動力学、凝縮系の理論、統計物理学、流体物理学、非平衡物理学、原子核・ハドロン物理学、高エネルギー物理学、宇宙線、素粒子論、原子核理論、天体核、太陽物理学、太陽・宇宙プラズマ物理学、恒星物理学、銀河物理学、理論宇宙物理学

### 地球惑星科学系

われわれの生活する地球、地球を取り巻く惑星間空間を研究の対象としている。雲の動きを引き起こす大気の流れ、日本の前に広がる太平洋の奥深くの静かな流れ、地震を起し火山を造る地球内部の変動、オーロラとして見える太陽からの粒子と地球磁場、ヒマラヤをつくり南米とアフリカを引き裂いたマントルの流れ、ダイヤモンドを造り出した高温・高圧の世界、35億年前らん藻として存在した生物はいかなる変遷を経て今見る生物になったか、他の惑星には生物は存在したか、身近で遙かな事柄を研究している。

固体地球物理学、水圏地球物理学、大気圏地球物理学、太陽惑星系電磁気学、地球テクニクス、地球物質科学、地球生物圏史、関連地球惑星科学

### 化学系

化学とは何かを一言で誰にも異論の無いように言うのは難しいのですが、大ざっぱに言えば、原子、分子のレベルで物質の構造、性質、反応の本質を明らかにし、それに基づいて自然を理解し有用な物質の創造を目指す、物質科学の要をなす学問であると言えます。原子、分子、生命から宇宙に至るこの自然界に存在するあらゆる物質を研究対象としますから、知的探求の場としては広大なフロンティアを持っており、その研究方法やスタイルも分野によってかなり異なり、合成、分析、測定の実験中心の分野から、理論と計算が中心の分野まで色々とあります。このように研究対象や研究方法も大変バラエティに富んでいますから、各人の能力や適性に応じて自分に適した研究分野が大変見つけやすい学問分野です。

相関化学、理論化学、物理化学、物性化学、無機化学、有機化学、生物化学

### 生物科学系

生物科学専攻は、細胞内の構造や機能および遺伝子の発現過程といったミクロ研究のみならず、生態学、行動学、系統分類学、人類学など野外のマクロ研究にも力を注いできた。この伝統に培われた野生生物学研究と、最近めざましい分子生物学研究を統合して、世界最高レベルの研究と教育の推進を目指している。

自然人類学、人類進化論、動物系統学、海洋生物学、動物行動学、動物生態学、生態科学I、発生ゲノム科学、放射線生物学、細胞情報制御学、植物生理学、形態統御学、植物系統分類学、植物分子細胞生物学、植物分子遺伝学、生態科学II、ゲノム情報発現学、分子生物物理学、分子進化学、分子生体情報学、神経生物学、分子細胞生物学



## 全学共通科目（専門基礎科目）

### 科目

コンピュータグラフィックス実習A、コンピュータグラフィックス実習B、微分積分学A、微分積分学B、微分積分学統論A、微分積分学統論B、線形代数学A、線形代数学B、線形代数学統論、確率論基礎、数理統計、確率過程論、物理学基礎論A、物理学基礎論B、初修物理学A、初修物理学B、熱力学、振動・波動論、力学統論、電磁気学統論、物理学実験、特殊相対論、基礎物理化学A、基礎物理化学B、基礎有機化学A、基礎有機化学B、無機化学入門A、無機化学入門B、分析化学及び環境化学実験、合成及び測定実験、基礎地球科学IA、基礎地球科学IB、基礎地球科学IIA、基礎地球科学IIB、地球科学実験A、地球科学実験B、Visual地球科学概説、Visual地球科学演習、Field地球科学A、Field地球科学B、生物学実習I、生物学実習II、生物学実習III、生物自然史基礎論A、生物自然史基礎論B、真菌自然史A、真菌自然史B、動物自然史A、動物自然史B、基礎情報処理、基礎情報処理演習、多項式環と計算機代数A、多項式環と計算機代数B、力学系の複素解析入門A、力学系の複素解析入門B、非線形数学、非線形数学セミナー、現代解析学の展開、天体観測実習、宇宙の誕生から生命まで、現代の素粒子像、地球物理学セミナーI、地球生物圏史セミナー、固体地球セミナー、地球テクニクス基礎セミナー、現代化学入門A、現代化学入門B、やわらかな物理学—物質と生命の本質を探る、低温科学A、低温科学B、植物自然史A、植物自然史B、生命現象の生物物理学、現代植物学、基礎生物学A、基礎生物学B、薬学生物学、薬学物理化学（化学熱力学）、薬用植物学、科学英語A、科学英語B、ビーム科学入門、自然災害科学I、自然災害科学II、環境地圏科学ゼミナールII、霊長類学のすすめ、放射性同位元素と放射線の取扱入門、生態科学、コンピュータサイエンス入門、現代の数学と数理解析—基礎概念とその諸科学への広がり、数値計算の基礎

専門科目

1 年生	2 年生	3 年生
線型代数学演習A, 線型代数学演習B, 地球・惑星科学Ⅰ, 地球・惑星科学Ⅱ, 地球・惑星科学Ⅲ, 現代化学セミナーA, 現代化学セミナーB, 大学で学ぶ物理学, 自然人類学A, 自然人類学B	集合と位相, 代数学入門, 幾何学入門, 函数論, 数学基礎演習Ⅰ, 数学基礎演習Ⅱ, 解析力学Ⅰ, 解析力学Ⅱ, 波動と量子論, 熱・統計力学Ⅰ, 物理のための数学Ⅰ, 物理のための数学Ⅱ, 物理学情報処理Ⅰ, 解析力学Ⅰ理論演習, 解析力学Ⅱ理論演習, 熱・統計力学Ⅰ理論演習, 天文学概論, 計算地球物理学, 計算地球物理学演習, 地球連続体力学, 観測地球物理学, 観測地球物理学演習A, 観測地球物理学演習B, グローバルテクトニクス, 地質科学通論, 基礎地質科学実習, 有機化学ⅠA, 有機化学ⅠB, 物理化学(量子化学)A, 物理化学(量子化学)B, 無機化学Ⅰ, 物理化学Ⅱ, 生物化学Ⅰ, 分子生物学Ⅰ, 分子生物学Ⅱ, 分子遺伝学Ⅰ, 海洋生物学, 細胞生物学, 構造生物学, 無脊椎動物学, 植物系統分類学Ⅰ, 生物物理化学, 生体分子科学, 基礎生物学実験Ⅰ, 基礎生物学実験Ⅱ, 基礎生物学実験Ⅲ, 臨海実習第1部	代数学Ⅰ, 代数学Ⅱ, 幾何学Ⅰ, 幾何学Ⅱ, 解析学Ⅰ, 解析学Ⅱ, 微分方程式論, 函数解析学, 代数学演義Ⅰ, 代数学演義Ⅱ, 幾何学演義Ⅰ, 幾何学演義Ⅱ, 解析学演義Ⅰ, 解析学演義Ⅱ, 函数論統論, 数値解析, 計算機科学, 量子力学Ⅰ, 量子力学Ⅱ, 量子力学特論Ⅰ 散乱と半古典近似, 熱・統計力学Ⅱ, 物理実験学Ⅰ(粒子物理), エレクトロニクス, 物性物理学Ⅰ, 物性物理学Ⅱ, 物理実験学Ⅱ(物性), 物理数学特論Ⅰ, 連続体力学, 量子物性論, 電磁気学Ⅲ, 電磁気学Ⅳ, 物理学情報処理Ⅱ, 非線形科学, プラズマ物理, 宇宙物理入門, 物理の英語, 熱・統計力学Ⅱ理論演習, 量子力学Ⅰ理論演習, 量子力学Ⅱ理論演習, 電磁気学Ⅲ理論演習, 電磁気学Ⅳ理論演習, 現代物理学, 物理科学課題演習(原子核物理:素粒子の基本相互作用-量子電磁力学, アインシュタインは正しいか?-EPRパラドックスを検証する-, 原子核と電磁場の相互作用, 粒子の加速, 高強度レーザー, 自然における対称性, 自然界の4つの力, 宇宙X線放射過程, 宇宙ガンマ線放射), 物理科学課題演習(物性物理:相転移, 物質の光応答, X線・粒子線と結晶との相互作用, 電子物性・高温超伝導, プラズマ, 量子エレクトロニクス, 低温物性・超流動, 自己組織化現象のダイナミクス), 基礎宇宙物理学Ⅰ, 自己重力, 基礎宇宙物理学Ⅱ, 電磁流体力学, 基礎宇宙物理学Ⅲ, 輻射/観測, 物理科学課題演習(宇宙物理:天体測光観測, 天体撮像観測, 天体分光観測), 弾性波動論, 地球流体力学, 電離気体電磁力学, 地球熱学, 測地学Ⅰ, 地震学Ⅰ, 海洋物理学Ⅰ, 気象学Ⅰ, 地球電磁気学, 物理気候学, 火山物理学Ⅰ, 地形学, 地球惑星科学課題演習(地球物理:固体地球系, 流体地球系, 重力と地殻変動, 地球内部と地震発生, 地下構造と活構造・地表変動, 地球熱学, 海洋構造と変動システム, 気象学総合演習, 地球磁気圏の構造と波動現象, 気候システムと気候物理), 岩石学Ⅰ, 岩石学Ⅱ, 鉱物学Ⅰ, 鉱物学Ⅱ, 層序学, 地質調査法, 生物圏進化史, 古生物学Ⅰ, 古生物学Ⅱ, 構造地質学, 堆積学, 地球年代学, 岩石レオロジー, 岩石学実験Ⅰ, 岩石学実験Ⅱ, 結晶学演習, 地質科学野外巡検Ⅰ, 地球テクトニクス実験, 古生物学実験, 地球惑星科学課題演習(地質鉱物:地質科学研究法Ⅰ, 地質科学研究法Ⅱ), 生物化学Ⅱ, 生物化学Ⅲ, ケミカル・バイオロジー, 化学実験法Ⅰ, 化学実験法Ⅱ, 無機化学ⅡA, 無機化学ⅡB, 物性化学Ⅰ, 物性化学Ⅱ, 化学統計熱力学Ⅰ, 化学統計熱力学Ⅱ, 有機化学Ⅱ, 有機化学Ⅲ, 化学数学, 物理化学ⅢA, 物理化学ⅢB, 量子化学Ⅰ, 量子化学Ⅱ, 分析化学Ⅰ, 分析化学Ⅱ, 環境化学, 化学演習ⅠA, 化学演習ⅠB, 化学演習ⅡA, 化学演習ⅡB, 化学演習ⅢA, 化学演習ⅢB, 化学演習Ⅳ, 化学演習Ⅴ, 化学演習Ⅵ, 化学実験A, 化学実験B, 化学実験C, 化学実験D, 植物系統分類学Ⅱ, 脊椎動物系統学, 動物行動学, 生態学Ⅰ, 生態学Ⅱ, 人類学第1部, 人類学第2部, 陸水生態学, 放射線生物学, 分子情報学, 理論分子生物学, 発生生物学Ⅰ, 発生生物学Ⅱ, 植物生理学, 動物発生進化論, 植物分子生物学, 分子進化学, 環境生態学, 免疫生物学, 神経生物学, 分子遺伝学Ⅱ, 膜生物学, ゲノム科学, 再生生物学, 数理生物学, 植物分子遺伝学Ⅰ, 生物間相互作用, 植物分子遺伝学Ⅱ, 生物学セミナーA, 生物学セミナーB, 生物学実習A, 生物学実習B, 生物学実習C, 生物学実習D, 生物学実習E, 臨海実習第2部, 臨海実習第3部, 臨海実習第4部, 野外実習第1部, 野外実習第2部, 陸水生態学実習Ⅰ, 陸水生態学実習Ⅱ, 安定同位体実習, 物質の創成と制御

4 年生	卒業研究科目	特別講義
代数幾何学Ⅰ, 代数幾何学Ⅱ, 整数論Ⅰ, 整数論Ⅱ, 位相幾何学Ⅰ, 位相幾何学Ⅱ, 微分幾何学Ⅰ, 微分幾何学Ⅱ, 確率論, 偏微分方程式, 函数解析特論, 解析学特論Ⅰ, 解析学特論Ⅱ, 力学系, 非線型微分方程式, 数値解析特論, 計算機科学特論, 保険数学Ⅰ, 保険数学Ⅱ, 保険数学演習Ⅰ, 保険数学演習Ⅱ, 原子核物理学Ⅰ, 原子核物理学Ⅱ, 素粒子物理学Ⅰ, 素粒子物理学Ⅱ, 重力, ソフトマター, 量子力学特論2場の量子論, 量子力学特論3多体論, 量子光学・光物性, 物理数学特論2, 非平衡統計, 物性物理学3, 物性物理学4, 太陽物理学, 恒星物理学, 銀河・星間物理学, 観測的宇宙論, 惑星物理学, 測地学Ⅱ, 地震学Ⅱ, 海洋物理学Ⅱ, 気象学Ⅱ, 太陽地球系物理学, 陸水物理学, 火山物理学Ⅱ, 活構造学, 鉱物学特論, 惑星科学基礎論, 変成岩岩石学, 地史学, 鉱物学実習, 数理地球科学演習, 地質学機器分析法実習, 地質科学野外巡検Ⅱ, 理論テクトニクス入門, 実験岩石力学, 実験岩石力学実習, 理論テクトニクス特論, 地球年代学実験, 無機化学Ⅲ, 物理化学Ⅳ, 有機化学Ⅳ, 有機化学Ⅴ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●数学 代数学講究, 幾何学講究, 解析学講究, 計算機科学講究</li> <li>●原子核科学 自然における相互作用Ⅰ, 自然における相互作用Ⅱ, 素粒子と原子核, 原子核の世界, 天体核現象, 高エネルギー天体物理</li> <li>●物性科学 不規則系の物性, 光物性, 固体量子物性, 超伝導と磁性, プラズマ, レーザー分光, 低温物理, 化学物理・生命現象の物理, 非線型・非平衡現象の理論, 凝集系の分子分光, 分子集合体および無機化合物の構造と物性, 固体・表面のナノ構造解析, 反応動力学, 化学物理理論</li> <li>●宇宙科学 太陽物理, 恒星物理, 銀河物理, 理論天文学</li> <li>●地球惑星科学(地球物理学) 惑星間空間物理, 地球電磁場, 大気物理, 気候物理, 海洋物理, 地震・地球内部, 測地, 地表変動・固体地球物理・火山物理</li> <li>●地球惑星科学(地質学鉱物学) 地球テクトニクス, 岩石学, 鉱物学, 地層学, 地史学</li> <li>●化学 有機物性化学, 生物構造化学, 量子化学, 理論化学, 分子分光学, 物理化学, 光物理化学, 分子構造化学, 電子スピニ化学, 金相学, 表面化学, 無機物質化学, 有機合成化学, 有機化学, 集合有機分子機能, 生物化学, 遺伝子動態学</li> <li>●生物科学 植物系統分類学, 動物系統学, 動物生態学, 生態科学, 自然人類学, 霊長類行動生態学, 動物行動学, 海洋生物学, 免疫生物学, 動物の発生と進化, 植物生理機能学, 植物の発生生物学・細胞性粘菌における細胞分化と形態形成, 植物分子遺伝学, 植物細胞分化の分子生物学, 分子細胞生物学, 放射線生物学, 細胞分子構造生物学, 分子情報学, ゲノム情報発現学, 細胞シグナル伝達の分子生物学, 神経生物学, 多細胞体構築の分子発生遺伝学, 遺伝子分子生物学</li> </ul>	<p>数学特別講義, 物理科学特別講義, 地球惑星科学特別講義, 化学特別講義, 生物科学特別講義</p>



写真：臨床実習の風景

## 学部概要（医学部が望む学生像）

京都大学医学部は21世紀の医学・医療の発展を担い、人類の福祉に貢献することを自らの使命と考え、この理想を追求する学生を求めています。医学には大きく分けて、基礎医学および臨床医学の研究に携わる分野、多様な疾患に悩む患者の医療に携わる分野、さらに環境・福祉・予防など、広く地球的な視点から人々の健康増進に関わる社会医学分野があります。

医学は生命科学の中心的分野の一つです。医学研究は生命の不思議を解き明かし、その結果知り得た生命の営みの原理に基づき、なぜ病気が起こるかを解明しようとするものです。さらにこの病因解明に基づき、新たな診断法や治療法、およびその予防法の開発に努力を傾けます。このような医学研究の遂行には、真理を追求するための強い好奇心と未知への挑戦心、不屈の精神と忍耐力などが必要です。

医療の原点は「人を愛する」ことにあります。それ故、医療に携わる者には、感性豊かな人間性や人間そのものに対する共感と深い洞察力、および人々の健康を増進し、病める者を救おうという強い意志と情熱が必要です。また現代の医療は多様な職種専門家の連帯あるいは共同作業を要することから、医師には円滑に医療を遂行するための指導力と大きな包容力、ならびに厳しい倫理観が求められます。さらに、医療の進歩と発展に寄与するためには、強い向上心と探求心を持ち続けることのできる人材が求められます。

社会医学は、単に一人ひとりの患者ではなく、我が国あるいは世界の大きな集団を対象として、人々の健康増進を追求する分野です。さらに、このような問題解決のために行政的、あるいは啓発的活動も行う必要があります。このような社会的な要因による医学的問題解決のためには、秀でた社会性と優れた行政的活動能力、および幅広い国際性が要求されます。したがって、この分野では広い視野を持ち、人間社会全体に目を向ける感性、柔軟な思考力と豊かな人間性を持つ人材が望まれます。

京都大学は学生の自主性、自己啓発を教育の主眼として、個性豊かな創造性の涵養を目指しているため、自ら学習課題を発掘し解決しようとする主体性を持った人材を求めています。さらに、京都大学医学部は、多様な能力と幅広い教育背景を持ち、医学・医療の分野で指導的立場に立ちうる人材を集めたいと考えています。このような背景に鑑み、医学に従事する職業的な制約による適性を重視し、高い知的能力のみならず、人間性を含めた総合的に卓越した能力・人格を有する学生の入学を切望するものであります。

## 医学科 科学的医学に支えられた人にやさしい医療

### 医学科の教育がめざすもの

京都大学医学部では、個々の学生の、医師、医学研究者としての資質を最大限開拓し、医学や医療の分野で活躍できる、すぐれたリーダーを養成することをめざしています。

「医師」には高度な専門知識の修得と同時に、その知識を論理的に使いこなす能力、病める患者さんと向き合って病気を治療する感性豊かな人間性や、人間そのものに対する深い洞察力を必要とします。また、何よりも、人々の健康を増進し、病めるものを救おうという強い情熱が必要です。一方、病気の発生機序の解明、新しい診断法や治療法の開発などを旨とする医学研究、制度を改革するための人間社会への深い理解も重要です。京都大学医学部は、このようなすぐれた医療人を育成することをめざしています。

「医学研究者」には、新しい知を開拓するための情熱と、卓抜した能力が必要です。京都大学には、国際的にもすぐれた業績をあげ、卓抜した開発能力を有する指導者が集まっており、研究開発のできる人材を養成する環境が形作られています。

### 生命科学の深淵に触れる基礎医学

第1学年、第2学年では、「全学共通科目」と呼ばれる教養科目を主とした科目の履修が主体となります。しかし、これと並行して、生命科学に関する基礎的な教材に関して、少人数で教員と議論したり、あるいは、人体の理解の基本となる解剖学をはじめとして基礎医学の履修を開始します。

基礎医学の履修は、第3学年では本格的になり、生命科学の深淵に触れる学習を、さまざまな面からすることになります。その中で、特に学生が興味をもったテーマについては、学生が各研究室に所属して、医学研究の現場に直接触れる期間が自主研修として設けられています。世界的な先進的研究を行っている研究室が多く、最新の医学研究を身をもって体験できる機会となっています。

### 実践的な臨床医学教育

臨床医学の教育は、近年、単なる医学知識の習得だけでなく、臨床の現場に適応して責任をもって診療できる人材を育成することが強く求められます。京都大学では、節目、節目において、積極的に臨床教育の改革を進めてきましたが、単に各科が個別の分野の教育をおこなうだけでなく、学生が臨床医学を実践的に学習できるように、医学教育推進センターを設けて、実践的な臨床教育を推進しています。

医学部附属病院は、近年、多くの新しい部門、設備が加わり、基礎医学との橋渡しとしての探索医療センター、地域医療との密接な関係を作り上げ、医療機関同士の連携により医療の効率を上げるための地域医療ネットワークなどが活動しており、診療・治療・教育の場として充実した施設になっています。

また、学外の研修実習病院では、第一線で実際に医療に携わっている経験豊かな医師が臨床教授として学生教育に協力しており、豊富な臨床経験に基づいた少人数教育が行われます。これらを通して、最新の医療に貢献できる、医師の教育が充実したものになるよう改革が進行しています。

#### さらに詳しく知るには

■医学部のホームページ <http://www.med.kyoto-u.ac.jp/>

■入学についてのお問い合わせ 医学部医学科教務掛 (tel.075-753-4325)

## 在学生からのメッセージ



### 「挑戦する自由」

医学部医学科 5 年生  
横田 聡さん

僕は自由な学風に憧れ京都大学を、中でも最も人に近いところで人工視覚の研究ができるであろうということで医学部を志望しました。忙しいといわれる医学部の中でも本学では比較的ゆるやかなカリキュラムのもと大学でも勉強以外に目標を定め、打ち込むことができます。中でも、学生時代から研究室に通う人が多いのが本学の特徴とも言えると思います。現在、僕も網膜の研究をしているグループに参加し研究活動を経験させていただいています。大学から一律に提供されることは少ないですが、学生の積極性には十二分に応えてくれます。先生方や友人に恵まれ、「挑戦する自由」を享受できる環境だと感じています。

## 学科紹介 (医学科)

医師や医学研究者を養成するための教育・実習を基本とします。すべての授業が必須科目で、6年間の授業で、医学全般をすべて学び、経験することになります。基礎医学は、生命科学と医師に必要な解剖学・病理学・法医学・社会健康医学などを学びます。臨床教育は、すべての臨床医学の分野について、授業と臨床実習によって、理論的な基礎と実際の医療現場での活用を学びます。

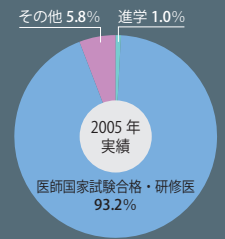
これらを通じて、6年の卒業後、医師国家試験の受験資格が与えられます。また、MD・PhDコースが用意されており、研究に専念することを希望する学生は、第4学年終了後、臨床教育を受けずに大学院へ進学し、基礎医学研究に専念することもできます。

## 専門科目 (医学科)

1 年生	基礎医学生物学, Early Exposure
2 年生～3 年生	組織学, 組織学実習・組織標本作製実習, 肉眼解剖学講義実習, 発生学, 生理学, 生理学実習, 実験動物学, 分子細胞生物学, 分子細胞生物学実習, 神経科学, 脳実習, 免疫学, 微生物学講義, 微生物学実習, 寄生虫学, 病理学総論, 病理学各論・実習, 法医学, 法医学実習, 薬理学・同実習, 放射線生物学・実習, 薬物動態学・毒性学, 医療情報学
3 年生～4 年生	社会・環境・予防医学, 医療学総論, 診断学総論, 治療学総論, 放射線診断学, 臨床検査医学, 循環器病学・心臓血管外科学, 血液病学, 内分泌・代謝病学, 呼吸器病学, 消化器病学, 泌尿器科学・腎臓病学, 臨床神経学 (神経内科学・脳神経外科学), 特殊感染病学, 免疫病学, 整形外科学, 耳鼻咽喉科学, 眼科学, 婦人科学・産科学, 皮膚科学, 小児科学, 加齢医学 (老年医学), 精神医学, 麻酔・集中治療・救急医学, 放射線腫瘍学, 口腔外科学, 形成外科学, 医の倫理, 糖尿病・栄養内科学
4 年生	自主研究
5 年生～6 年生	臨床実習 (血液・腫瘍内科, 内分泌・代謝内科, 循環器内科, 消化器内科 / 光学医療診療部, 呼吸器内科 / 感染症科, 免疫・膠原病内科, 老年内科 / 地域ネットワーク医療部, 糖尿病・栄養内科, 総合診療科, 神経内科, 第一外科, 第二外科, 移植免疫外科, 眼科, 産科婦人科, 小児科, 皮膚科, 泌尿器科, 腎臓内科, 耳鼻咽喉科, 整形外科, 精神科神経科, 放射線科 / 核医学, 麻酔科 / 救急部 / 集中治療部, 脳神経外科, 呼吸器外科, 心臓血管外科, 形成外科, 口腔外科 / 薬剤部, 検査部・感染制御部 / 輸血部, 病理部, 化学療法部)
6 年生	卒業試験

## 卒業後の進路

研究分野によっては大学院に進学する者もありますが、一般的には医師免許取得後、医学部附属病院あるいは研修病院において2年間の臨床研修を受けます。



## 医学科で取得可能な資格

医学科の所定の課程を修了し、卒業した者および卒業見込み者は、厚生労働省が実施する医師国家試験受験資格が与えられます。

## 卒業生からのメッセージ



### 「人を診る」ことの喜びと難しさ

1999年医学科卒業  
京都大学大学院医学研究科脳統御医学系専攻  
大石 直也さん

私は卒業後、神経内科医として様々な難病をかかえた患者の診療に従事し、現在は大学院にて脳の機能を画像化する研究に携わっております。患者を実際に診る臨床医学、病気に対する病因・治療などを研究する医学研究とも、「人を愛する」という医学の原点は同じです。病院ではさまざまな病気を患った患者が、治療を求めてやってきます。患者と接し、治療を行い、よくなった患者の喜ぶ姿を間近で感じることができるのは、医師としてこの上ない喜びです。しかし、現在の医療ですべての患者がよくなるわけではないことも事実です。診療に難渋することも多く、また多くの疑問も生まれてきます。そういった苦難や疑問が医療を進歩させていくのです。「人を愛する」という心を持ち続け、苦難に立ち向かって行く強い意思と情熱、また疑問に対する深い探求心が医学部を志す人には特に重要です。またそういった人にとっては、この上なくやりがいのある分野だと考えます。



### 我々が求められること

2004年医学科卒業  
京都大学医学部附属病院研修医  
下竹 昭寛さん

2年目研修医として附属病院のほうで日々あくせく働いております。医学部の6年間で基礎医学・臨床医学と学びますが、どれも最先端の研究、医療であり、実際自分のすぐ傍で感じることは、学問的興味をかきたてられること間違いありません。その一方で、知識だけではなく、患者と接する能力が求められます。僕自身、まだまだ患者さんの求める医師像には到底及んでいないとは思いますが、この人と接することの基本は、京都大学の自主性を尊重した大学生活の中で多くを学んだと今振り返って思われます。

京都大学では、研究も臨床も自分の選択次第で好きなことができます。同時に、それは社会の求める医療に的確に応えるものでなければならないという責任も感じます。医療・医学は、日々常に自身を更新して一生学び続ける学問だと思います。



### 保健学科教育課程の概要

保健学科は、入学当初よりの専門科目の一部履修やアーリー・エクスポージャー（早期臨床体験）、問題解決型授業、全専攻の学生が合同で学ぶ融合型授業を取り入れています。

修業年限は4年で、その間に全学共通科目、専門基礎科目、専門科目を履修します。いずれの専攻も初めの2年間は、全学共通科目を履修し幅広い教養を身につけます。

全学共通科目と平行し、第IIIセメスターまでに専門基礎科目を必修科目として履修します。そして第IIIセメスターより各専攻別に、専門科目の履修が始まります。また学年進行に伴い病院などにおける臨床、臨床実習を、4学年では卒業研究を行います。

なお、3学年の進学時臨床実習開始前にチェックポイントがあります。定められた単位を修得していない場合は進級、臨床実習への参加ができません。全専攻とも必要単位、望まれる履修科目、専門科目が異なります。各自が全学共通科目、専門基礎科目、専門科目ごとに履修要件、卒業要件を十分に把握しておいてください。

### 授業科目の区分

保健学科の授業科目は、全学共通科目、専門基礎科目、専門科目から成り立っています。全学共通教育は、個々の学問領域を超えた幅広い分野に共通する基礎的な知識および方法を教授するとともに、学生が高度な学術文化に触れることを通して豊かな人間性を育むための教育を実施することを目的としています。専門基礎科目は、医学部保健学科全専攻の学生が個々の専門領域を超えて、医療従事者として共通する基礎的な専門知識を教授するものです。そして専門科目は、各専攻それぞれの専門分野における知識や技術を教授するものです。

学年	1		2		3		4	
セメスター	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
科目	全学共通科目				各専門科目 ・看護学専攻 ・検査技術科学専攻 ・理学療法学専攻 ・作業療法学専攻			
	専門基礎科目 (全専攻共通・必修)							

### セメスター制の履修方法

セメスター制とは、1年を前期・後期の2学期に分けて、各学期ごとに履修科目登録と成績評価を行う制度です。保健学科は基本的にセメスター制をとりますが、各教科実習や臨床実習の実施日時は京都大学全体のセメスター日時と一致しない場合があります。

### 全学共通科目

全学共通科目はA群、B群、C群、D群の4群に区分されます。これをもとに保健学科は卒業に必要な基礎となる科目数と単位数を定めています。各専攻によって、特に履修を要望する科目があります。

### 専門基礎科目

専門基礎科目は医療専門職に進む学生が共通して学ぶべき医学・医療領域のコアカリキュラムと位置付けられる重要なもので、全専攻に共通する専門領域の基礎概念および基礎知識を理解するための科目です。一般教養科目と平行して第Iセメスターより第IIIセメスターまでに、保健学科全専攻の学生は必須単位として共通履修することとなります。

専門基礎科目は生体の基礎、医療の基礎ならびに健康科学より構成され、13科目が含まれその配当単位は合計17単位となっています。全学共通科目として開講される基礎人体構造学、生体制御機構概論、医療情報学、健康人間学の4科目は全専攻の学生に必須単位であり、専門基礎科目としての履修単位とみなされます。

### 専門科目（看護学専攻）

看護学専攻では第Iセメスターから、全学共通科目・専門基礎科目と並行して、看護学の基礎となる「看護学原論」、「生活環境看護学」を学習します。これらの科目は、看護学において基本的な概念となる人、環境、生活、健康に対する理解を深めると共に、看護に対する興味を新たにしたり、各自の看護観を形成したりするための基盤となるものです。第IIセメスターでは、人との関係を形成する上で基本となる「コミュニケーション論」や、援助方法の基礎となる「生活援助学」「生活援助演習」など、より具体的な学習を進めます。

2年次以降は成人、老年、母性、小児、精神、地域の各領域の専門科目が本格的に始まります。ここでは、人体の構造や機能、病理などの専門基礎科目や、基礎看護学の学習を踏まえ、各領域の特性や捉え方、疾患をもつ人や状況のアセスメント、必要な援助方法などを学習します。一部の演習は各領域が共同し、事例を用いたより具体的にフィジカルアセスメントや症状マネージメントをしたり、援助について考え方を習得できるように学習します。

### 専門科目（検査技術科学専攻）

本専攻では1年次において、全学共通科目と並行して専門基礎科目の一部（基礎人体構造学、神経科学総論など）を取り入れています。2年次からは生体のしくみと働き、疾患のおきるメカニズムなどを専門分野ごとに学習を始めます。すなわち、生化学と実習、分子生物学と実習、血液学、微生物学と実習などについて学習します。また情報理工医学系科目として、情報処理工学、医療情報学実習、医用電子工学と実習、医用核磁気学、診療画像学概論などを並行して進めます。3年次では遺伝子検査技術学などのバイオサイエンス関連科目と実習、病理学および病理組織・細胞検査学と実習、移植に関わる感染制御学、生体応答解析学と実習、臨床に則した血液検査学と実習、また生体成分の分析学である臨床化学と実習、情報処理学に関係する実習および種々の生理機能に関する臨床生理学と実習などについて、多くの疾病をモデルとして、それらの病因に対する情報解析方法についてより具体的に学びます。4年次ではこれまでの学習を基礎として、病院実習を通して検査技術科学の広がり学びます。これによって、既に確立された検査技術を修得し、さ

らに発展的にその検査法の改良または新検査法をも開発できるようになること、また、再生医学、移植医療など最先端分野の知識を修得し、先端医療のアウトラインを把握することをめざします。

### 専門科目 (理学療法学専攻)

第Ⅰセメスターから「理学療法総論」を学び、「理学療法見学実習」で実際の理学療法の現場を見学・体験させることによって理学療法への興味を深めた後、第Ⅱセメスターから専門科目として人体構造学、運動機能解剖学などの基礎医学を学んでいきます。

第Ⅲセメスターには疾病概論、外傷・救急概論、病理学総論などの専門基礎科目を中心に学び、その後の専門科目を学ぶ上での基礎づくりを行います。そして第Ⅲセメスターから第Ⅴセメスターにかけては理学療法評価学、各疾患別理学療法学などの専門科目が始まり、それまでに学習してきた基礎医学と臨床医学を結びつけるような講義および実習を行います。

第Ⅵセメスターから第Ⅶセメスターにかけては臨床実習を行い、臨床現場における理学療法の実験を経験します。第Ⅷセメスターは卒業研究と各種セミナー等の演習科目により、さらに理学療法学を深めています。

### 専門科目 (作業療法学専攻)

1年次では、共通科目と専門基礎科目と合わせて、臨床実習Ⅰ(早期臨床体験)により実際の作業療法臨床の場面を見学することで、作業療法への興味を深め、2年次からは、人体の構造と機能および心身の発達について、作業機能開発学講座から作業学、作業分析学、作業学演習Ⅰ、作業療法評価学総論を、作業機能適応学講座から発達障害系病態学、精神医学、老年医学、作業療法治療学の各(身体障害、精神障害、発達障害)領域についての総論を学びます。3年次には、さらにそれらの応用として、作業療法管理運営論、心理社会機能評価学、日常生活援助法Ⅰ・Ⅱ、研究方法論、作業療法治療学の各領域それぞれの各論、高次神経障害作業治療学、高齢期作業治療学、さらにはそれらの技術を習得するための演習・実習を学びます。4年次には、より高度な臨床応用力をつけるために、地域作業治療学、作業療法演習、各領域の適応学原理を選択により作業療法アプローチに重点をおいて学びます。

#### さらに詳しく知るには

- 保健学科のホームページ <http://www.hs.med.kyoto-u.ac.jp/>
- 入学についてのお問い合わせ 医学部保健学科教務掛 (tel.075-751-3906)

## 在学生からのメッセージ



### 語り合うなかで、学ぶことの 意味のひろがり

保健学科看護学専攻2回生  
浅水 翔太さん

皆さんは、「健康」とはどんなことだと考えていますか? 普段考えないことですので、むずかしいかもしれませんね。

保健学科では、どんな授業においても、常に人の心や身体の健康と、そのバックグラウンドについて考えています。

また、私の入学年度から保健学科になったので、多くの他学部・学科の学生と健康について共に学び、語り合う機会が増えました。保健学科で学ぶことは、きっとあなたの健康の概念を変えてくれることでしょう。

だからといって、医療系の授業だけを受講して特定の分野だけを学ぶのではなく、多様な分野の全学共通科目を受講し、教養を深めることが大切です。それによって、将来、医療をリードできる視野の広い医療人になれると思います。この学科には、最高の素材があるので、あなたにとって最高の環境を築いていってください。

## 卒業後の進路

**[看護学専攻]** 医療系(病院、診療所、助産院、訪問看護ステーション、保健所、介護老人保健施設など)、福祉系(健康福祉事務所、老人福祉施設、児童福祉施設、知的障害者援護施設など)、学校(養護教諭)、官公庁、企業、教育研究機関、大学院進学など

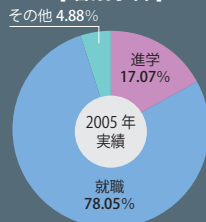
**[検査技術科学専攻]** 医療系(病院、診療所、保健所等)、教育研究機関、大学院進学、製薬等企業・研究所、医療機器メーカー、臨床検査センター、今後は高度先進医療関係、科学捜査研究所、医療・保健行政など

**[理学療法学専攻]** リハビリテーションセンター、国公立病院、私立病院、老人保健施設、肢体不自由児施設、通所リハビリテーション施設、大学院進学、行政機関、教育機関、関連企業など

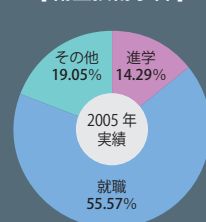
**[作業療法学専攻]** 医療系(病院、診療所、保健所、保健センターなど)、福祉系(児童福祉施設、精神障害者社会復帰施設、身体障害者社会援護施設、老人福祉施設など)、養護学校、関連企業、研究所、保健医療福祉行政機関、大学院進学など

\* 医学部保健学科としては、未だ卒業生がありませんので、以下のグラフは2005年3月の京都大学医療技術短期大学部4学科の卒業生の進路状況を掲載しています。

【看護学科】



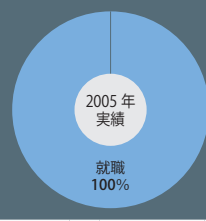
【衛生技術学科】



就職	63	国立・大学付属病院	36
		私立病院	27
進学	14	大学編入	9
		保健師課程	2
		助産師課程	2
		その他	1
その他			5

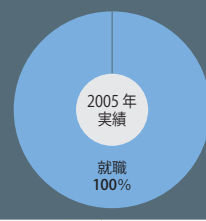
就職	28	病院	22
		企業	6
進学	6	大学編入	4
		臨床工学技術専攻	2
その他			8

【理学療法学専攻】



就職	20	病院	20
----	----	----	----

【作業療法学専攻】



就職	16	病院	16
----	----	----	----

## 保健学科で取得可能な資格

保健学科の所定の課程を修了し、卒業した者および卒業見込み者は、以下の厚生労働省が実施する国家試験の受験資格が与えられます。

**[看護学専攻]** 看護師, 保健師

**[検査技術科学専攻]** 臨床検査技師

**[理学療法学専攻]** 理学療法士

**[作業療法学専攻]** 作業療法士

## 講座紹介 (保健学科)

### 看護学専攻

看護学の対象者は、あらゆるライフサイクルにある個人や家族はもとより、広く地域や国際社会にも及んでいます。また、病気の人だけでなく、疾病の予防や健康増進を含むあらゆる健康レベルにある人に関わっています。既成の枠にとらわれない新しい発想のもとで教育・研究を行い、新たな領域を開拓していくことをめざし、看護学専攻では、教育・研究体制として大講座制をとっています。

#### 1. 臨床看護学講座

臨床看護学講座は、基礎看護学系と臨床看護学系からなっています。基礎看護学系は、看護学の理論や概念を背景に、実践の基盤となるエビデンスの探求や評価手法を開発し、看護学全体の基礎となる知識や方法論の体系化をめざして教育・研究を行います。臨床看護学系は、主として成人期にある人のからだところどころの健康問題に対し、専門的な視点からアセスメントする方法や援助方法を開発し、実践の場で有効に活用できるように、教育・研究を行います。

#### 2. 家族看護学講座

少子化・核家族化が進む 21 世紀において、家族は非常に重要な社会的単位であり、健康生活を維持・増進するための一次的なサポートシステムです。さまざまな家族・社会の形態や環境のなかで、夫婦が自立して次世代を生育育てることに直接あるいは間接的に参加できるよう、支援生活を援助していく方法を教育・研究します。

#### 3. 地域・老年看護学講座

長寿・高齢化社会や少子化社会に対応してサクセスフルエイジング、寝たきり予防、訪問看護等の地域高齢者に対する保健看護活動や地域組織活動、保健医療福祉の連携とネットワーク化等の地域看護の専門的な理論や技術について教育・研究します。

### 検査技術科学専攻

検査技術科学専攻は、近年の細胞生物学、分子生物学、遺伝子医学（遺伝子診断、遺伝子治療）、臓器移植、再生医療などの分野における急速な進歩の結果として生じる臨床検査領域の大きな変化に対応するため、新しい病態検査におけるコメディカル教育を念頭に、医学一般はもちろん、基礎科学、工学的知識の修得と、IT (Information Technology) 革命に対する検査情報ネットワークシステムに関する知識の修得およびこれを実践する技術を教育します。またチーム医療の一員として、先端科学と情報技術に関する十分な知識と技術を有する臨床検査に精通したコメディカルの育成と、先端医療における検査技術と知識を国際的に供給するための幅広い視野を有する人材の育成をその基本的教育理念とします。

#### 1. 基礎生体病態情報解析学講座

基礎生体病態情報解析学講座では、難病、移植、再生、生殖医療等の高度医療を主とする生体情報解析に対応できる検査技術科学を開発・発展させるために、生体からの情報を抽出し遺伝子、分子レベルから細胞、組織レベルにわたる基礎的な生理学的ならびに病理学的情報を分析します。これらの情報を基に病態解明のための分子診断検査、細胞情報解析ならびに形態学的解析技術等を開発し、これに関する教育・研究を行います。

#### 2. 臨床生体病態情報解析学講座

分子生物学、遺伝子工学技術の急速な発展・進歩に伴い、難治疾患に対する高度先進医療の開発が医療現場で大きく進展しています。臨床生体病態情報解析学講座では、移植・再生医療、遺伝子治療をはじめとする先端科学の臨床への展開を支援する臨床検査のエキスペートとして必要な理論や技術について教育・研究します。

#### 3. 情報理工医学講座

IT を駆使した画像診断機器が導入され医療技術が飛躍的に高まっています。情報理工医学講座では、これら診断機器を駆使する上で、その基礎となる基礎科学、工学的理論について教育・研究を行います。さらに、院内、地域の医療情報を医師とともに管理、解析、統合していく方法論について教育・研究を行います。

### 理学療法学専攻

理学療法は、日常生活に必要な基本的動作能力に障害があったり、または障害を引き起こす可能性のある人々に対して社会生活に適応するために必要な援助技術や治療技術を提供する実践科学です。少子高齢化の進んだ今日では、理学療法士の職域は医療現場だけでなく地域医療や福祉の分野などにも急速に拡大し、保健・医療・福祉専門職としてバランスのとれた活動が求められます。また理学療法士は、医療専門職の中でもとりわけ自由裁量に基づいた判断と行動が必要とされ、そのため専門領域の知識や技術の習得だけでなく豊かな人間性と問題解決能力の涵養が必要とされます。

理学療法学専攻は、このような社会的ニーズに応えることのできる理学療法士を養成するために運動機能開発学講座と健康運動機能学講座を設けています。

#### 運動機能開発学講座

運動機能開発学講座では、疾病や外傷などによって運動機能に障害が生じたり、後遺症が残存したもの、スポーツ障害や呼吸循環代謝障害などに対してそれらの回復や軽減を目的とした理学療法を対象にします。

#### 健康運動機能学講座

健康運動機能学講座では、健康な生活を営むために必要な運動機能について定量的、定性的に分析・評価するための方法を確立し、高齢者の保健、障害予防のための運動方法の研究などを対象にします。

本専攻の最大の特徴は、附属病院で実践される先端医療を目の辺りにした臨床教育に学生が自ら参画できる環境にあるということです。理学療法におけるこの領域は世界的にも未知の部分が多く、今後の可能性が注目される場所です。

卒業後は、急性期、療養型の医療機関だけでなく、高齢者の保健・行政機関、リハビリテーションセンター、介護保険事業所、教育、研究機関などに就職し、リーダーとして活躍する事が期待されます。

### 作業療法学専攻

人の日々の生活は、身辺処理や生活管理などの日常生活活動、職業や家事・育児・学業などの仕事関連活動、余暇活動などとさまざまな作業活動によって営まれています。生活の質、健康な生活、社会参加の内容は、そうした作業活動のありように左右され、病や障害はその作業活動に支障を来たし生活に障害をもたらします。病や障害の有無にかかわらず人間の健康な生活を維持し、豊かにするには、日々の生活を構成するさまざまな作業活動の影響・効果を科学的に捉えることが必要です。作業療法学専攻は、健康科学の一環として「作業療法学」を確立し、より高度な専門性を備えた臨床、教育、研究に携わる人材の育成するため、作業機能開発学講座と作業機能適応学講座を設けています。

#### 1. 作業機能開発学講座

作業と人間との関わり、作業が生活に及ぼす影響・意義、など人間の健康生活に必要な作業活動の基本機能を神経筋骨格系の機能的側面、社会心理学的側面から理論的に理解、究明し、心身の障害に対する作業治療学、日常生活や社会生活の援助の基礎となる知識と効果的介入法の教育と研究を図ります。

#### 2. 作業機能適応学講座

精神機能、心理・社会機能、感覚・運動機能、高次神経機能、など人間の健康生活の基本となる機能に障害がある人々に対し、生活を構成するさまざまな作業活動を用いて日常生活の自律と適応、社会参加を図る作業療法に関し、高度な治療原理、問題解決法の考案・実施に関する臨床教育と研究を行います。



## 全学共通科目 (保健学科)

学科	科目
看護学専攻	健康心理学, 健康教育論, 人間健康科学概論, 分子細胞生物学, 医療有機化学 A, 医療有機化学 B, 神経科学総論 A, 神経科学総論 B
検査技術科学専攻	健康心理学, 健康教育論, 人間健康科学概論, 数学基礎 A, 数学基礎 B, 初修物理学 A 又は物理学基礎論 A, 初修物理学 B 又は物理学基礎論 B, 医療有機化学 A, 医療有機化学 B, 神経科学総論 A, 神経科学総論 B, 分子細胞生物学, 物理学実験, 分析化学及び環境化学実験, 情報科学概論, 基礎情報処理演習
理学療法学専攻	健康心理学, 健康教育論, 人間健康科学概論, 神経科学総論 A, 神経科学総論 B, 人間発達学, 健康運動学, 分子細胞生物学, 医療有機化学 A, 医療有機化学 B, 情報科学概論, 基礎情報処理演習, 初修物理学 A 又は物理学基礎論 A, 初修物理学 B 又は物理学基礎論 B
作業療法学専攻	健康心理学, 健康教育論, 人間健康科学概論, 神経科学総論 A, 神経科学総論 B, 人間発達学, 健康運動学, 分子細胞生物学, 情報科学概論, 基礎生物学 A, 基礎生物学 B

## 専門科目 (保健学科)

専攻	1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
看護学専攻	看護学原論, 生活環境看護学, 看護援助学, コミュニケーション論 (人間関係論), 看護援助学演習 I, 生活健康実習	生体防御看護学, 看護援助学演習 II, 生活援助実習, 成人看護対象論, 成人看護学 I, 成人看護学 II, 成人看護学演習, 精神看護学概論, 母性看護概論, 母性保健論, 小児看護概論, 小児保健学, 生育医療学, 在宅ケア論, 老年看護学, 保健福祉行政論, 地域看護学概論, 地域看護診断学, 保健看護政策論, 保健行動学習論, 地域看護活動論 I, 地域看護活動論 II	成人看護学実習, 精神看護学演習, 精神看護学実習, 母性看護学演習, 小児看護学演習, 家族看護学, 母性看護学実習, 小児看護学実習, 基礎助産学, 生殖科学, 助産診断技術学 I, 老年看護学演習, 老年看護学実習, 地域看護学演習, 地域看護学実習	看護管理・倫理学, 看護力ウンセリング論, 緩和ケア論, 患者教育論, 高度医療看護論, リエゾン精神看護学, ヒューマン・セクシャリティ論, ペアレンティング論, 助産診断技術学 II, 助産経営学, 助産学実習, 看護研究, 選択実習, 症例研究,
検査技術科学専攻		生化学, 生化学実習, 分子生物学実習, 細胞生物学実習, 遺伝子検査技術学, 微生物学, 微生物学実習, 臨床検査総論, 血液学, 臨床生理学, 生体応答解析学, 情報処理工学, 医用電子工学, 医用核磁気学, 医用電子工学実習	遺伝子検査技術学実習, 医動物学・実験用動物学, 医動物学・実験用医動物学実習, 公衆衛生学実習, 検査精度管理学, 放射性同位元素検査技術学, 病理学各論, 病理組織・細胞検査学, 病理組織・細胞検査学実習, 臨床検査総論実習, 感染制御学, 血液検査学, 血液検査学実習, 臨床生理学, 臨床生理学実習, 臨床化学, 臨床化学実習, 生体応答解析学, 生体応答解析学実習, 医療情報学実習, 診療画像学概論, 画像診断機器工学, 画像情報学実習, 検査情報管理学, 検査情報管理学実習, 医用機器システム学	臨床実習, 臨床病態学, 卒業研究
理学療法学専攻	理学療法見学実習, 理学療法総論, 人体構造学, 運動機能解剖学	リハビリテーション医学, 運動学, 筋・骨格系病態学, 神経系病態学, 人体機能学, 人体機能学実習, 発達障害系病態学, 老年医学, 日常生活援助法 I, 精神医学	臨床運動機能学, 臨床運動機能学実習, 筋・骨格系理学療法学, 筋・骨格系理学療法学実習, 神経系理学療法学, 神経系理学療法学実習, 呼吸循環代謝系病態学, 呼吸理学療法学, スポーツ傷害理学療法学, 発達障害系理学療法学, 臨床評価実習 I, 臨床実習 I, 人体構造学実習, 理学療法評価学, 運動機能評価学実習, 理学療法評価学実習, 老年期理学療法学, 地域理学療法学概論, 物理療法学, 生活動作学実習, 循環代謝系理学療法学, 義肢学, 装具学, 臨床評価実習 II, 日常生活援助法 II	身体運動解析セミナー, 画像診断セミナー, 運動機能解剖セミナー, 症例検討セミナー, 理学療法特論, 臨床実習 II, 卒業研究
作業療法学専攻	臨床実習 I, 人体構造学, 運動機能解剖学	人体機能学, 人体機能学実習, 作業学, 作業分析学, 作業学演習 I, 作業療法評価学総論, 日常生活援助法 I, 臨床実習 II, 発達障害系病態学, 精神医学, 老年医学, 身体障害作業療法治療学総論, 精神障害作業療法治療学総論, 発達障害作業療法治療学総論, 人体構造学実習, 運動学, 筋・骨格系病態学, リハビリテーション医学, 神経系病態学	作業療法管理運営論, 作業学演習 II, 生活機能評価学実習, 感覚運動統合機能評価学演習, 心理社会機能評価学, 日常生活援助法 II, 臨床実習 III, 研究方法論, 身体障害作業療法治療学各論 I, 身体障害作業療法治療学各論 II, 精神障害作業療法治療学各論 I, 精神障害作業療法治療学各論 II, 高次神経障害作業療法学, 発達障害作業療法治療学各論 I, 発達障害作業療法治療学各論 II, 作業療法技術論, 高齢期作業療法学, 運動機能評価学実習	地域作業治療学, 臨床実習 IV, 心理社会機能適応学原理 / 感覚統合機能適応学原理 / 高次神経機能適応学原理, 作業療法演習, 卒業研究



## 薬学部の教育

### 創薬科学、医療薬学の研究者と 高度な職能をもつ薬剤師を育てる

薬学は疾患の治癒、健康の増進をもたらす医薬品の創成、生産、使用を目的とした総合科学です。薬学の基礎は物理学、化学、生物学である。これらの基礎科学の統合と応用により、薬学の教育・研究を発展させます。最近の医療技術の進歩と高齢化社会の問題等により、薬学に求められる社会的意義の重要性はますます増大しております。医薬品の研究開発や適正使用は人の健康や生命に関わるものです。薬学に携わる人間は単に学問的素養のみならず、高い社会性、道徳性が求められます。京都大学薬学部は4年制の総合薬学科で創薬科学、医療薬学の研究者、技術者の養成を目指してきました。平成18年度より京都大学薬学部は創薬科学研究者、技術者養成を目指す4年制の薬科学科と、高度な職能をもつ薬剤師、医療薬学研究者、技術者の養成を目指す6年制の薬学科の2学科となります。

### 1～2回生（薬科学科、薬学科共通）： 全学共通科目を中心にした履修と専門教育への準備

1回生では教養・自然系基礎科目からなる全学共通科目と基礎専門教育科目を履修します。これらの科目は幅広い学問に接して高い教養を身につけるとともに、専門科目を学ぶための基礎学力、思考力を身につけることを目的としています。全学共通科目は人文・社会系科目、自然系科目、外国語科目からなっております。さらに、専門基礎教育科目として薬学概論、薬学生物学、薬学物理化学、基礎有機化学、科学英語なども履修します。2回生では、全学共通科目と専門基礎教育科目を履修するとともに、専門教育の科目も履修します。

### 3～4回生（薬科学科）：専門科目の講義と実習

3回生では薬学の専門知識・実験技術を学ぶための専門教育科目を中心とした科目を履修します。大学院教育に結びつく高度な専門知識を学ぶ研究基盤教育科目も一部入ってきます。主として午前中は講義、午後は実習を行います。実習は全て必修科目で薬学の全ての専門分野に関する実験技術を習得します。

4回生では主として特別実習を行います。特別実習はほぼ1年にわたって行われます。特別実習は希望する研究室に配属し、教員の指導、助言を受けながら、特定の専門領域の新しいテーマの研究に取り組みます。特別実習は薬学研究の現状を知り、将来の進路を考える上でも重要なものです。

### 3～6回生（薬学科）：専門科目の講義と実習

3回生では薬学の専門知識・実験技術を学ぶための専門教育科目を中心とした科目を履修します。大学院教育に結びつく高度な専門知識を学ぶ研究基盤教育科目も一部入ってきます。主として午前中は講義、午後は実習を行います。実習は全て必修科目で薬学の全ての専門分野に関する実験技術を習得します。

4回生前期では主として午前中は講義、午後は医療薬学専門演習を行います。医療薬学専門演習は主として医療薬学分野の研究室をまわり、医療薬学分野全体の研究領域について学びます。4回生後期から特別実習が行われます。特別実習は6回生まで行われます。特別実習は希望する医療薬学の研究室に配属し、教員の指導、助言を受けながら、特定の

## 学部概要

京都大学における薬学の研究は昭和14年（1939年）に医学部薬学科として始まりました。産学の強い要請により、製薬技術者、研究者の養成を目的に、有機化学系、分析化学系を中核とした教育・研究組織として出発しました。その後の薬学に対する社会的要請の広がりに対応して、生命科学系分野、医療系分野など研究分野を加え、総合科学としての薬学の教育、研究体制が整備されました。昭和35年（1960年）に薬学部薬学科として独立し、翌年に製薬化学科が設置され、2学科となりました。平成5年（1993年）に創薬研究の一層の推進を目的とした薬品作用制御システム専攻が独立専攻として設置されました。平成9年（1997年）に大学院重点化により大学院薬学研究科が創薬科学専攻、生命薬学専攻、医療薬学専攻の3専攻体制となり、それと同時に薬学部は総合薬学科の1学科に統合されました。

現在、薬学部の学部教育は大きな変革を迎えようとしております。平成18年度から薬剤師国家試験受験資格が6年間の履修期間を要する教育制度に変更となります。従って、薬学部も従来の創薬科学研究者、技術者養成を目指す4年制の薬科学科と、高度な職能を持つ薬剤師、医療薬学研究者、技術者養成を目指す6年制の薬学科の2学科となります（設置申請中）。但し、4年制の薬科学科卒業生も大学院薬学研究科修士課程（博士前期課程）修了後、さらに、所定の医療薬学系科目や実務実習等の単位を取得すれば、個別審査の上、薬剤師国家試験受験資格が与えられることがあります。

薬学部は薬学教育、研究の大きな変革に対応するため、平成14年（2002年）に総合研究棟が新設され、平成15年（2003年）に薬学部本館の改修とともに教育棟が新設され、施設面でも大きな充実が図られてきております。また、平成15年には創薬神経科学、医薬品理論設計学の二つの寄附講座が設置され、さらに、文部科学省21世紀COEプログラム採択に伴い、生命知識システム学分野が協力講座として設置されました。

### 【薬学部が望む学生像】

京都大学薬学部は総合科学としての薬学の基礎体系を習得させ、創薬、医療薬学に関わる科学者、技術者、薬剤師を育成することを目標とします。

**薬科学科**：薬科学科の主たる使命は医薬品の創製です。自ら考え、探求し、創造する豊かな心を持つ人材が求められます。**薬学科**：薬学科の主たる使命は最適な薬物治療の実現です。医療の進歩と発展を担うため、向上心と探求心を持ち続けられる人材が求められます。

医療薬学専門領域の新しいテーマの研究に取り組みます。特別実習は医療薬学研究の現状を知り、将来の進路を考える上でも重要なものです。5回生では特別実習に加えて、医療における薬剤師の役割と職能を理解し、薬剤業務等を学ぶため、京都大学医学部附属病院薬剤部と学外の調剤薬局で4ヶ月間の実務実習を行います。



さらに詳しく知るには

- 薬学部のホームページ <http://www.pharm.kyoto-u.ac.jp/>
- 入学についてのお問い合わせ 薬学部教務掛 (tel.075-753-4514)

在学生からのメッセージ



イニシアチブを取った研究を

総合薬学科4回生  
佐味 悠一さん

自分の将来について思いを馳せる時、やはり自分にとって興味・関心があり、そして自らの能力を最大限に活かせる場所が良いと頭が浮かぶ人が多いのではないのでしょうか。ただただ『面白い事をやりたい』とだけ考えており、将来の目標が漠然としていた私は高校時代から生物が得意であった事や、薬という魅力的な言葉に惹かれた事もあったこの薬学部への進学を半ば安易に決めたわけですが、入学してからの三年間を通し、そして京都大学医学部附属病院での貴重な実習を経験して将来の目標に『如何に世の人を助けられる』仕事に就けるか、という本当に大切な項目が実感を伴って追加されたと思います。それだけ薬学部での学生生活は勉強・実習共に充実しており、それ以外の自由な時間も有効に使う事が求められる事で自立心も養われたということです。

今、私は四回生として薬品分子化学分野で研鑽を重ねる忙しくも充実した日々を過ごしており、近い未来に自分がイニシアチブを取って研究を指揮できる立場に立てる事を夢見て、同様の志を持つ友人・先輩と共に頑張っています。



創薬を目指して

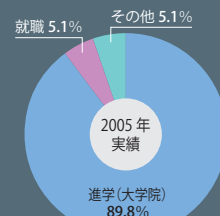
総合薬学科4回生  
島田 明彦さん

生まれつき体の弱かった私は、昔から何かとよく風邪薬や、感染症に対する抗生物質など、色々な薬のお世話になってきました。そのため、自分も様々な病気の治療に関して何か力になれることをしたい、何か医療に携われることをしたい、そう思って薬学部を選択し、入学しました。

4回生の私は、様々な生命現象を分子レベルで解明し、その中から創薬の種を探すことを目的とした、遺伝子薬学分野という研究室に所属しています。研究室では、脳障害の改善などにつながることを期待しながら、新規な神経栄養因子の働きについての研究をしています。忙しくはありますが同時に人々の幸せにつながる、とてもやりがいのある研究なので、充実した毎日を送っています。

卒業後の進路

9割以上が大学院に進学します。修士課程を修了した学生の3割前後が博士課程に進学します。大学院修了者の就職先には、企業、国立研究機関、大学等教育機関、医療機関などがあり、修士課程修了者では8割以上が製薬会社就職しています。



就職先の例(修士課程修了者)  
ファイザー、塩野義製薬、住友製薬、アステラス製薬、武田薬品工業、住友化学、田辺製薬、第一製薬、富山化学工業、エーザイ、三共、東レ、日立製作所など

薬学部で取得可能な資格

薬学部卒業生にとって最も重要な資格は薬剤師です。薬剤師とは、厚生労働大臣の免許を受けて医薬品の製造、調剤、供給に従事できる者のことであり、公衆衛生の向上および増進に寄与し、国民の健康な生活を確保することを任務とします。薬剤師の免許は、薬剤師国家試験に合格したものに与えられ、6年制の薬学科で卒業見込みの者及び卒業生が薬剤師国家試験に出願することができます。また、4年制の薬科卒業生も必要な要件を満たせば、個別審査の上、薬剤師国家試験受験資格が与えられることがあります。このほかに、教員職員免許状、衛生検査技師(薬学科)などの資格が取得できます。

卒業生からのメッセージ



自らの手で未来の新薬を!

1998年製薬化学科卒業  
アステラス製薬株式会社勤務  
戸田 彩子さん

「自らの手で未来の新薬を！」薬学部を志されている皆さんの中には、そう夢見る方も多いことでしょう。私は現在、Chemistとして創薬研究に従事しています。薬となりうる化合物の分子設計、合成が主な仕事です。化合物が「薬」となるためには、様々な面でのハードルをクリアしなければなりません。薬理学的な有効性に加えて、安全性、また体内への吸収性、製剤化に適した安定性を合わせ持つ必要があります。Chemistは様々なデータをもとに、これらを改善するための分子設計を行うのですが、そこで必要なのが薬学部時代に培った多岐にわたる基礎知識です。薬学は「総合科学」と称されますが、どの分野も非常に重要です。皆さんがこれから迎える4年間は、勉強だけでなく、色々な面でとても貴重な時間になると思います。知的好奇心の赴くまま、有意義な学生生活を送られることを応援しています。



「創造力」

1996年薬学科卒業  
塩野義製薬株式会社勤務  
山本 薫紀さん

自ら考え、自ら新しい何かを創り出すということは非常に難しいことです。これまでの中学、高校では、いろいろと教えてもらうケースが多く、ほとんど受け身の状態だったかと思います。一方、大学では教えてもらうのではなく、自分から教わりに行く必要があります。これは自由な学風を持つ京都大学では特にその傾向が強く、もちろん薬学部も例外ではありません。私が研究室に在籍していた間も、基本的なことに関してはもちろん教授や先輩方のアドバイスがもらえましたが、それ以外の部分ではまず自分で考え行動することが基本となっていました。現在、私は製薬会社で研究業務に従事していますが、この自分で考えるということの重要性を改めて実感しています。薬学部に入った皆さんには、勉学でもサークル活動でも何でもいいですので、積極的に自ら行動を起こして欲しいと思います。何か行動することで、新しい何かを得る能力。薬学部はそのような皆さんの「創造力」をきっと養ってくれるはずですよ。

## 学科紹介

### 薬科学科

医薬品の創成、生産を目的とした総合科学として薬科学の基礎と応用に関する知識と技術を学びます。4年次には特別実習が行われます。卒業生の多くはさらに広い視野にたった専門知識を深め、研究能力を養うために、大学院に進学します。

### 薬学科

医薬品の適正使用を目的とした総合科学として薬学の基礎と応用に関する知識と技術を学びます。4～6年次には特別実習、病院実習、調剤薬局実習が行われます。薬学科は高度な薬剤師の養成を目指しますが、さらに広い視野にたった専門知識を深め、研究能力を養うことを希望する学生は大学院に進学します。

## 研究室紹介(大学院の基幹分野,協力分野,寄附講座,COEプログラム協力講座,創薬・医療連携薬学コア部門)

### 創薬科学専攻

#### 薬品有機製造学：藤井信孝 教授

- 1) ゲノム / プロテオーム情報収斂型創薬研究
- 2) 7回膜貫通G-蛋白共役型受容体の有機化学・創薬化学研究
- 3) ペプチド類縁体をプローブとするケミカルバイオロジー研究
- 4) 抗癌剤、抗ウイルス剤、抗痲呆剤の分子設計・合成研究
- 5) 蛋白質およびその類縁体の化学合成・化学修飾に関する研究

#### 薬品合成化学：富岡 清 教授

- 1) 未来型触媒的不斉合成反応の設計と開拓
- 2) 立体化学制御の分子論的基礎の構築と新概念の創出
- 3) 分子の高次構造制御の有機化学
- 4) 抗腫瘍性有機化合物の設計・合成と生物有機化学
- 5) 生物活性天然物の発見と機能化学

#### 薬品分子化学：竹本佳司 教授

- 1) プロセス研究を指向した環境調和型有機合成反応の開発
- 2) 金属の特性を利用した高立体選択的な新反応の開拓
- 3) 生物活性天然有機化合物及びその類縁体の全合成研究
- 4) 機能性複素環化合物の合成とバイオプローブとしての利用
- 5) 多点分子間相互作用するホスト分子の設計と生体機能の構築

#### 薬品資源学：本多義昭 教授

- 1) 薬用植物の多様性に関する研究
- 2) 二次代謝機能発現に関する研究、特にテルペノイドの生合成に関する遺伝子の発現制御機構
- 3) 生薬ならびに薬用植物に含まれる生理活性成分の研究
- 4) 海外伝統薬物の調査研究

#### 薬品機能解析学：松崎勝巳 教授

- 1) 抗菌性ペプチドの作用機構の解明と創薬への展開
- 2) アルツハイマー病発症機構の解明と予防・治療法の開発
- 3) 膜タンパク質の構造形成原理の解明
- 4) 受容体の機能解析と創薬
- 5) NMRによる生体分子の構造解析

#### 構造生物薬学：加藤博章 教授

- 生物装置がいかに機能しているのか、その仕組みを担う原子レベルの構造をX線結晶構造解析を用いて解明するべく以下の問題に取り組む
- 1) トランスポーター、チャンネルなど膜タンパク質機能の構造要因の解明
  - 2) 膜タンパク質局在化に関わるシステムの構造生物学
  - 3) 酵素の触媒作用の構造的起源の解明

#### ゲノム創薬科学：辻本豪三 教授

- 1) ゲノム包括的解析による新規創薬標的の発見とターゲットバリデーション
- 2) ゲノムインフォマティクスによる in silico 創薬研究
- 3) 生体内オーファンG蛋白質共役型受容体のリガント探索
- 4) 遺伝子改変動物、病態動物を用いた遺伝子の個体レベルの機能解析
- 5) 患者個人の遺伝子多型情報に基づいた至適臨床薬物療法の実現

#### 製剤機能解析学：半田哲郎 教授

- 1) リポ蛋白質粒子とアポリポ蛋白質の相互作用に関する生物物理化学的研究
- 2) 脂質集合構造によるリパーゼの活性化と阻害に関する生体界面化学的研究
- 3) 脂質非ラメラ相の構造評価とその機能に関する物理化学的研究
- 4) レムナント粒子の細胞毒性とHDLによるその低減に関する研究
- 5) Naチャンネルブロッカーによるインスリンシグナリング抑制機構の解明

#### 精密有機合成：川端猛夫 教授

- 1) 動的不斉制御の方法論と不斉反応への利用
- 2) 有機触媒による反応制御
- 3) 分子のキラリティーに基づく高次構造制御
- 4) 分子認識および超分子化学に関する研究
- 5) 生物活性化合物の創出を指向した新規合成法の開発

### 生命薬科学専攻

#### 生体分子認識学：岡 昌吾 助教授

- 1) 神経系における糖鎖シグナルの役割に関する研究
- 2) 先天性免疫における動物レクチンの役割に関する研究
- 3) 糖転移酵素の構造と機能に関する研究
- 4) 小型魚類を用いた糖鎖関連遺伝子の役割に関する研究
- 5) 個体発生に重要な糖鎖の構造と機能に関する研究

#### 分子微生物学：河合明彦 教授

- 1) ウイルスの神経原性の分子機構の解明と生ワクチン開発への応用
- 2) (-)鎖RNAウイルスの改造による生ワクチンおよび発現ベクターの開発
- 3) ウイルスタンパク質の機能解析およびその応用として神経細胞導入用遺伝子治療ベクターの開発
- 4) ウイルスの複製に関わる細胞膜成分、細胞骨格系及びストレスタンパク質の役割の解明
- 5) ウイルス感染および腫瘍免疫における自然免疫やサイトカインの関与について

#### 腫瘍ウイルス薬品学：下遠野邦忠 教授

- 1) がんウイルスによる細胞の増殖制御と発がんの分子機構に関する研究
- 2) がんウイルスの蛋白質の機能と複製の分子機構に関する研究
- 3) ウイルスの持続感染機構
- 4) 細胞周期を制御するウイルス性因子の研究

#### 生体機能解析学：金子周司 教授

- 1) イオンチャンネルなどの膜輸送タンパク質を対象とする創薬、機能解析、薬効解析、安全性評価、病因論、ゲノム科学に関する研究
- 2) 痛みの物質的基盤および鎮痛薬の作用機序に関する研究
- 3) 薬物依存や薬物有害事象の分子機構に関する研究
- 4) 生命科学用語オントロジーの研究

#### 遺伝子薬学：伊藤信行 教授

- 1) 細胞増殖因子 (FGF) の脂肪組織、骨・軟骨、脳形成などにおける役割の解明
- 2) 遺伝子探索法による新規細胞増殖・分化因子遺伝子の探索と構造解析
- 3) 遺伝子機能抑制小型魚類の作成による新規遺伝子の個体レベルでの機能解析
- 4) 遺伝子欠損マウスの作成による新規遺伝子の機能解析とその分子機構の解明
- 5) 組織形成、組織修復の分子機構の解明と再生医学への応用

#### 生理活性制御学：小堤保則 教授

- 1) 細胞死誘導型免疫抑制物質の作用機構と関連遺伝子に関する研究
- 2) スフィンゴ糖脂質の持つ生理活性に関する研究
- 3) シアル酸分子種に関する研究

#### 生体情報制御学：中山和久 教授

- 1) ゴルジ体を中心としたタンパク質の細胞内輸送および局在化機構の解明
- 2) プロスタグランジンとヒスタミンの生理機能に関する研究
- 3) マスト細胞の分化と機能に関する研究
- 4) シングルセル発現プロファイル解析による神経・生殖細胞分化の研究

#### 神経機能制御学：根岸 学 教授

- 1) 神経ネットワーク形成、神経可塑性の分子メカニズムの研究
- 2) 中枢神経系におけるプロスタノイド受容体の情報伝達機構の研究
- 3) 三量体G蛋白質及び低分子量G蛋白質による神経機能調節の研究
- 4) ストレス遺伝子の発現機構

#### 生体機能化学：二木史朗 教授

- 1) 細胞機能・遺伝子を制御する生理活性蛋白質の創製
- 2) 細胞膜透過ペプチドベクターの開発とメカニズム
- 3) 亜鉛フィンガー型転写因子のDNA認識と機能解析
- 4) 細胞内ターゲティング (核・ミトコンドリアなど) の化学と分子設計
- 5) 環境応答型機能性ペプチドのデザイン

医療薬科学専攻

薬品動態制御学：橋田 充 教授

- 1) 医薬品の体内動態の分子機構の解明と動態モデルに基づく数理的解析
- 2) 治療の最適化を目的とする薬物の体内動態制御法、製剤設計法の開発
- 3) タンパク質医薬品の臓器、細胞特異的ターゲティング技術の開発
- 4) 遺伝子医薬品を対象とするドラッグデリバリーシステムの開発
- 5) 薬物の経粘膜・経皮吸収の機構解析とコンピュータ吸収予測法の開発

薬品作用解析学：赤池昭紀 教授

- 1) 中枢神経作用薬の薬理学を主要研究課題とする
- 2) 抗痲呆薬、難治性神経疾患治療および網膜変性疾患治療薬の薬理作用の解析
- 3) 神経変性疾患におけるニューロン死の機序の解析とその保護因子の探索
- 4) 胎仔血清に由来する神経保護化合物セロフェンド酸の作用機序の解析
- 5) ニューロン生存と神経再生を制御する細胞内機能分子に関する研究

病態機能解析学：佐治英郎 教授

- 1) 画像定量解析法による脳疾患、心疾患がんでの生体機能変化の状態分析とそれに基づく病態の仕組みの解明および薬物作用の動的解析に関する研究
- 2) 病態の特性に基づく標的部選択的移行、選択的活性化をおこす機能性画像診断・治療薬の創薬研究
- 3) 生理活性金属化合物の生体作用の解明と治療への応用に関する研究

病態情報薬学：高倉喜信 教授

- 1) 核酸医薬品の体内動態支配因子及び細胞取り込み機構の解明
- 2) DNAワクテン及び抗原蛋白の体内/細胞内動態最適化による免疫反応制御
- 3) 極性細胞への遺伝子導入による生理活性タンパクの方向選択的デリバリー
- 4) RNA干渉を利用した遺伝子治療法の確立
- 5) 薬物代謝酵素/トランスポーターの共同効果及びその変動要因の速度論的解析

医療薬剤学：乾 賢一 教授

- 1) 医薬品の体内動態と薬効・毒性に関する基礎と臨床
- 2) 薬物トランスポーターの分子・細胞生物学的解析と臨床応用に関する研究
- 3) 病態時の薬物動態・薬効の変動要因解析と患者個別投与設計に関する研究
- 4) 薬物相互作用の in vitro 予測・評価系の開発に関する研究
- 5) 薬物トランスポーター・代謝酵素の遺伝的多型とテーラーメイド医療

寄附講座

創薬神経科学：杉本八郎 寄附講座教授

- 1) アルツハイマー病に代表される神経変性疾患の病因解明に基づく創薬研究
- 2) 生体内物質や天然物の中から生理活性物質を探索し創薬のシードを発見
- 3) ゲノムや神経再生医療技術を駆使した創薬アプローチに関する研究
- 4) アセチルコリンエステラーゼ阻害薬の神経細胞保護作用のメカニズムの解明に基づく創薬研究

医薬品理論設計学：北浦和夫 寄附講座教授

- 1) 電子状態理論による蛋白質と医薬品候補化合物の分子間相互作用の精密解析
- 2) 統計・情報理論による医薬品候補化合物の高速・高精度親和性予測法の開発
- 3) ドラッグデザインのための計算化学的手法の開発
- 4) 計算化学的手法および SBDD による医薬品化合物の論理的な探索研究
- 5) 生体高分子の構造・機能に関する理論的研究

COE プログラム協力講座

生命知識システム学：金久 實 教授

- 1) バイオインフォマティクスに基づく創薬科学研究
- 2) 代謝パスウェイ、代謝物質、酵素反応に関する情報科学的解析
- 3) 糖鎖と糖関連遺伝子に関するゲノム科学的解析
- 4) タンパク質と低分子化合物の相互作用予測
- 5) ゲノム多型情報、遺伝子発現情報等の有効利用技術の開発

創薬・医療連携薬学コア部門

本コア部門は、寄附講座の2研究室、薬学研究科基幹分野の5研究室、医療薬剤学分野（附属病院薬剤部）により組織され、最適化薬物治療の実現を通じた社会貢献を目的とし、創薬・医療に関わる社会との連携研究を推進する。

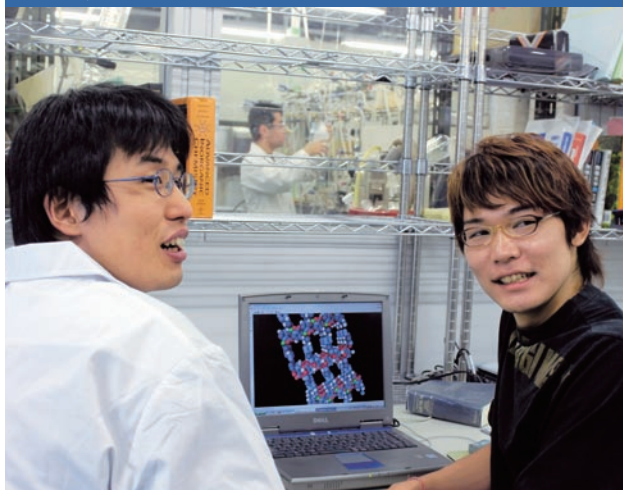
- 1) 臨床医学・産業界との連携による創薬・医療研究の推進
- 2) 先端的創薬科学研究領域の開拓
- 3) 臨床薬学研究的基盤となる研究・教育体制の構築
- 4) 臨床・産業界への多様な人材の供給
- 5) 6年制を控えた薬学教育の標準化・グローバル化の実現

全学共通科目（必修・選択必修科目）

科目	
薬学概論、薬学生物学、薬学物理化学（化学熱力学）、基礎有機化学A、基礎有機化学B、数学基礎A、数学基礎B、線形代数学A、線形代数学B、物理学基礎論A、物理学基礎論B、熱力学、物理学実験、分析化学及び環境化学実験、生物学実習3、薬用植物学、基礎情報処理1・2	

専門科目（予定）

	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生	5 回生	6 回生
化学系講義科目		有機化学1（有機合成化学）、有機化学2（生物有機化学）、天然物薬学1（天然物化学）、天然物薬学2（薬用資源学）、創薬有機化学エクササイズ	有機化学3（創薬化学）、有機化学4（精密合成化学）、天然物薬学3（生薬学）、有機化学5（生体機能化学）、医薬品化学・新薬論			
物理系講義科目		物理化学1（量子化学）、物理化学2（電気化学・界面化学）、分析学1（薬品分析学）、分析学2（放射化学）、物理化学3（構造化学）、分析学3（分光学）、創薬物理化学エクササイズ1、創薬物理化学エクササイズ2	分析学4（臨床化学）、物理化学4（生物物理化学）、物理化学5（生物構造情報学）			
生物系講義科目		生物化学1（物質生化学）、生物化学2（代謝生化学）、生物化学3（基礎遺伝子学）、衛生薬学1（健康化学）	微生物学1（細菌学）、生物化学4（応用遺伝子学）、生物化学7（生体防御学）、微生物学2（ウイルス学）、衛生薬学2（環境衛生学）、生物化学5（細胞生物学）、生物化学6（生理化学）	微生物学3（感染学）、生物化学8（腫瘍生物学）		
医療系講義科目	生理学1（解剖生理学）	生理学2（分子生理学）、生理学3（病態生理学）、薬理学1（総論・末梢薬理）、薬剤学1（溶液製剤論）	薬理学2（循環器薬理）、薬理学3（中枢神経薬理）、薬剤学2（固形製剤論）、薬剤学3（薬物動態学）、生理学4（病態ゲノム学）	医療薬剤学1、薬局方・薬事関連法規、臨床薬学総論、薬物治療学1、薬物治療学2、医療薬剤学2		
情報系講義科目		バイオサイエンス統計基礎		基礎バイオインフォマティクス、応用バイオインフォマティクス		
専門実習			薬学専門実習1、薬学専門実習2、薬学専門実習3、薬学専門実習4			
薬科学科				特別実習		
薬学科				医療薬学ワークショップ、医療薬学研究論、特別実習	医療薬学研究論、医療実務実習（事前学習を含む）、特別実習	医療薬学研究論、特別実習



## 工学部の教育

### 「自由の学風」と「学問の基礎重視」

工学部の教育の特徴は、京都大学の伝統である「自由の学風」の下で、「学問の基礎を重視する」ところにあります。「自由の学風」は、既成概念にとらわれず、物事の本質を自分の目でしっかりと科学的に見るということに基づいています。そこでは、学問に対する厳しさが要求され、それが、「学問の基礎を重視する」ことにつながります。一般的には「工学部は応用を中心とする学部である」と考えられているので、上のように「基礎重視」というと、やや異質な印象をもたれるかも知れません。しかし、京都大学工学部では、基礎となる学理をしっかりと学んでおくことが、将来の幅広い応用を可能とするための必須条件であるという信念の下に、この教育方針を貫いています。

### 第1・2学年では全学共通科目の履修に力を入れる

第1学年から第2学年にかけては、教養科目と自然科学基礎科目を主として履修します。これらの科目は、人間・環境学研究所と理学研究所を実施責任部局として京都大学の全学部ならびに研究所、研究センター等が、全学の学生が履修できるように開講しているもので、「全学共通科目」と呼ばれます。講義以外にも演習、ゼミナール、講読、実験、実習など、様々な形で行われ、これらの科目を履修することによって、専門分野を学ぶための基礎力を養うとともに、幅広い学問に接して高い教養を身につけ、人間としての視野を広げるよう工夫されています。

### 高学年ほど専門科目がふえる

京都大学工学部では、各学科によって多少の差異はありますが、第1学年においても工学部各学科によって開講される専門基礎科目を履修します。専門基礎科目は第2学年になると数が増え、特に第2学年後期以降はかなりの数の専門基礎科目を履修することになります。そして、第2あるいは第3学年以降で専門科目を学びます。

### 第4学年では特別研究（卒業研究）に取り組む

第4学年では、特別研究（卒業研究）を行います。教員の指導・助言を受けながら、各自で専門分野の新しいテーマに関する研究に取り組み、その結果を学士論文にまとめます。学生は各研究室に配属され、研究の最先端に接しながら、教員や大学院生と膝を交えて議論を重ね、創造的な研究活動を体験します。この授業科目はどの学科でも必修になっています。そして、所定の単位を取得し、学士論文を完成すれば、学士（工学）の学位を取得することができます。

### カリキュラムの特徴をつかむ

京都大学工学部では、学生が特定の専門分野の知識を修得するだけでなく、なるべく広い視点から科学・技術の発展を見通し、創造的に新しい世界を開拓していける人材を養成したいと考えています。そのために、いずれの学科でも基礎科目を重視し、伸びのある思考力と実践力を養うようにしています。また、カリキュラムは各学科の特色を十分生かすように工夫されており、更に近い専門分野のカリキュラムには共通性・相互融通性を持たせて、幅広く柔軟な学習ができるようにしています。なお、必要な場合には、他学科や他学部の科目を履修することもできます。

## 学部概要

学問の本質は真理の探究です。その中で工学は人類の生活に直接・間接に関与するテーマを扱っています。そのため、地球社会の持続的な発展や文化の創造といった問題についても責任を負う立場にあります。工学部では、このような考え方に立って教育・研究を行います。教育にあたっては、しっかりとした基礎学力、高度な専門能力、高い倫理性、ならびに豊かな個性を兼ね備えた人材育成を目指しています。

京都大学工学部の歴史は、明治30（1897）年6月、京都帝国大学が創設され、分科大学の一つとして同年9月に理工科大学が開校したことに始まります。大正3（1914）年7月、理工科大学は理科大学と工科大学に分離されました。大正8（1919）年2月、分科大学の制度が学部制に改められ、工科大学が工学部となりました。工学部は創設以来、本学の歴史とともに歩み、それぞれの時代の学問的・社会的要請に応えるように拡充整備され、今日では工学の分野のほとんどを網羅した本学最大の学部に進展しました。大学院重点化に伴う工学部の改組により、平成5年度に工業化学科、平成6年度に物理工学科、平成7年度に電気電子工学科と情報学科、そして平成8年度に地球工学科及び建築学科が誕生し、現在では6学科体制となっています。

また、平成15年10月には京都大学桂キャンパスが開校しました。桂キャンパスへは工学研究科と情報学研究科が移転することになっており、平成17年7月現在で工学研究科の電気系、化学系及び一部の建築系専攻が移転を終え、他専攻、情報学研究科についても今後順次移転することになっています。桂キャンパスでは主に大学院教育を行い、学部教育は吉田キャンパスで行いますが、4回生の授業と特別研究（卒業研究）は桂キャンパスで行うことがあります。

## 望ましい学生像

以上のような教育を受けていただくために、次のような入学者を求めています。

- ・高等学校での学習内容をよく理解して、工学部での基礎学理の教育を受けるのに十分な能力を有している人。
- ・既存概念にとらわれず、自分自身の目でしっかりと物事を確かめ、それを理解しようとする人。
- ・創造的に新しい世界を開拓しようとする意欲とバイタリティに満ちた人。

### さらに詳しく知るには

- 工学部のホームページ <http://www.kogaku.kyoto-u.ac.jp/>
- 入学についてのお問い合わせ 工学部教務掛 (tel.075-753-5039)

## 在学生からのメッセージ



### これからを生きる一人として

地球工学科4年生  
橋本 瞳さん

20世紀に生じた人口の急増と産業技術の高度化、およびそれに伴う資源の大量消費や環境汚染問題が、21世紀になり顕在化しています。これからを生きる私達は、これらを解決し、新しい取り組み方を見つけねばなりません。自然環境との、または人同士の新しい繋がりを見つける、つまり「持続可能な発展」を目指しているのが地球工学です。

私は入学当初、資源・エネルギーの開発に興味を持っていましたが、二年間様々な分野を学ぶうちに環境という側面から持続可能な社会の構築に携わりたいと思い、環境コースに進みました。4年生となり、いよいよ本格的な研究がはじまりますが、この気持ちを忘れずに環境と調和・共生した社会の創造の一端を担う技術者となれるよう頑張っていきたいと思っています。



### 音で感じる空間への興味

建築学科4年生  
土屋 はるひさん

私は音楽が好きで、高校の頃から将来は音楽関係の仕事に就きたいと漠然と考える様になりました。その上で、音や音楽そのものでなく、人間・空間・音の相互の関わりを踏まえた勉強がしたいと考えていたので、建築学科を選びました。

建築分野の専門講義は実に様々な領域に渡っており、建築を学ぶということはデザイン・構造・環境といった建物を造る上での基礎知識を身につけるだけに限らず、物事を多角的に見て判断できるような、広く、実践的な知識も必要であることを実感しました。自分の志次第で、幅広い視点で社会を見つめる力を養うことができると思います。

四年生となった現在では音響学の研究室に配属され、これから本格的に音響の勉強をしていけるのが楽しみです。社会における音環境のあり方や、音が人に与える心理的影響などについて研究し、知識を深めていきたいです。そして、その知識を社会に活ける様な仕事をしていきたいと考えています。



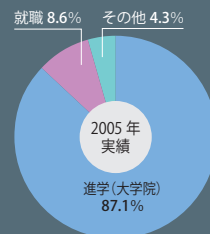
### 物理工学を愉しんでいます

物理工学科4年生  
上坂 彰朗さん

理系の科目、特に物理は難解で、このため理系離れが世間で話題になっています。しかし実際に勉強してみれば、物理学は過去何百年にもわたって体系化された学問で、理論がたいへんにきれいだ、ということが分かります。僕は京都大学に入学して1年生、2年生の科目を勉強し、改めてこのことを実感しました。また学生実験でさまざまな体験をし、一見無秩序に見える事象が、実はとても秩序を持ち、理論的に解明できることが分かりました。このような経験は非常に有意義で、僕はいま、大学生活を楽しんでいます。四年生になり研究室に配属され、ますます充実した学生生活を送れそうだと、期待しています。

## 卒業後の進路

本学部卒業生の5分の4以上(平成16年度87%)の者が大学院修士課程へ進学しています。将来、研究職に就くことを希望する者のほか、近年の科学技術の進展に伴い、企業においても、高度な研究能力を有する人材を求めているため、大学院に進学を希望する学生は年々増加しています。



## 工学部で取得可能な資格

在学中に所定の授業科目を修得することによって、測量士、測量士補、建築士、電気主任技術者、無線技術士、危険物取扱者、ボイラー取扱主任者等の学科試験が一部免除されます。(また、卒業後に一定の実務期間を経ることで受験資格を得られるものもあります。)

## 卒業生からのメッセージ



### 良い刺激に恵まれた学生時代

2003年電気電子工学科卒業  
株式会社NTTドコモIP無線ネットワーク開発部勤務  
保坂 幸治さん

私は電気電子工学科に入学し、大学院まで進学しましたが、入学当時から特別高い意識を持っていたわけではありません。しかし、様々なバックグラウンドを持つ教員や友人、留学生に刺激されて学ぶ中で電気電子工学の面白みに自覚め、意欲的な学生生活を送れました。特に卒業研究から大学院に至る研究室時代は、それなりに厳しさを伴う試練の時でもありましたが、得たものも大きかったと思います。暗い部屋で一人こつこつ研究する、といった漠然とした予想は見事に裏切られ、活発な議論こそが物事を前進させるのだと教えられました。現在は大学時代の専門を活かし、第三代携帯電話の開発に従事していますが、研究室時代に得たスタンスは今でも変わりません。才能豊かな人々との交流のチャンスこそが、京都大学の持つ大きな魅力であるといえるでしょう。



### 京都大学という場所

2002年情報学科卒業  
NTTコミュニケーションズ株式会社勤務  
沖田 正樹さん

私が京大を受けようと思った最初の動機は、実は二つ上の兄が同じ大学でなんとなく楽しそうだったからというひどく単純な理由でした。初めて見学に来た時はキャンパスの余りの汚さに愕然とし(今ではすっかり綺麗になりましたが)、入学してからは余りの自由さに唖然としました。しかし入学して改めて感じたことは、ただ単に自由というだけではなく、やりたいことを見つけ、とことん追求するには最高の場所であるということです。悩みを聞いてくれる優しくやたらと頭が切れる友人達、そして海外にインターンシップに行きたいという我儘を許してくれた研究室の先生。そんな恵まれた環境で過ごせた事こそが、今でもかけがえのない財産です。大学に入って何をしたいかは人それぞれですが、是非、在学中に自分だけの財産を見つけてください。

<b>小林 晃 助教授</b> 農業水利施設の安全性と周辺環境に与える影響
<b>田中 樹 助教授</b> 半乾燥熱帯圏における生業技術群の成立要件および人為・環境連関の解明
<b>鳥井清司 助教授</b> GIS、リモートセンシングの比較農業論への応用
<b>中嶋 洋 助教授</b> 土-車両系のテラメカニクス
<b>宇波耕一 助教授</b> 水資源の管理・運用における最適化問題と利水系における水利現象の数値モデリング
<b>中村公人 講師</b> 農地土壌中の水循環と物質循環の制御・管理

## 食料・環境経済学科

<b>加賀爪優 教授</b> 農業貿易と環境保全および地域経済発展に関する計量経済分析
<b>野田公夫 教授</b> 近代日本農業史および比較農業発展史・比較土地制度史
<b>吉田昌之 教授</b> 森林・林業・木材関連産業に関する理論的実証的研究
<b>浅見淳之 助教授</b> 途上国の農村制度と農業発展
<b>足立芳宏 助教授</b> 近代ドイツ農業・農村社会史
<b>小田滋晃 教授</b> 農業経営・情報会計論
<b>末原達郎 教授</b> 地球規模における農業・食料・地域社会の存続に関する比較農学的研究
<b>武部 隆 教授</b> 資源利用評価と環境ガバナンス
<b>新山陽子 教授</b> アグリビジネス・フードシステム分析の概念と方法
<b>柏 久 助教授</b> 農学史および農学哲学
<b>沈 金虎 講師</b> 中国の農業と食料問題
<b>辻村英之 助教授</b> アフリカの農家経済経営・農村協同組合・フードシステムの分析
<b>川村 誠 助教授</b> 森林・林業政策学
<b>秋津元輝 助教授</b> 現代農村の地域社会と環境に関する社会学的研究

## 森林科学科

<b>東 順一 教授</b> バイオマスの化学と生化学、リグノセルロースの生合成と生分解
---

<b>岩井吉彌 教授</b> 世界の林業ならびに森林資源のあり方についての研究
<b>奥村正悟 教授</b> 木材の機械加工と生産加工システム
<b>武田博清 教授</b> 森林生態系における生物群集の研究
<b>谷 誠 教授</b> 森林の洪水・渇水緩和機能。地球環境変動と陸上生態系水循環の相互作用
<b>中坪文明 教授</b> 木材をはじめとする生物材料の基礎化学と高機能化
<b>西尾嘉之 教授</b> 木材・セルロース・キチン等バイオマスの高機能複合材料化
<b>野淵 正 教授</b> 樹木の成長過程と木部特性に関する生理学的・解剖学的研究
<b>藤田 稔 教授</b> 画像解析による木材の構造的特徴の解析
<b>太田誠一 教授</b> 熱帯林の土壌生態と物質循環に関する研究
<b>松本孝芳 教授</b> 生物系高分子材料の構造と物性に関する研究
<b>水山高久 教授</b> 土砂の生産、流出とその森林等による制御
<b>森本幸裕 教授</b> 緑地環境の保全と創造に関する研究
<b>大手信人 助教授</b> 森林流域における水と物質の循環に関する研究
<b>岡田直紀 助教授</b> 温帯および熱帯樹木の成長と材形成に関する生理・生態学的研究
<b>神崎 護 助教授</b> 熱帯林の群集生態学と植生管理
<b>高野俊幸 助教授</b> 木材成分の化学的利用に関する研究
<b>高部圭司 助教授</b> 木質化細胞壁の形成メカニズム
<b>藤井義久 助教授</b> 木材の高度利用と加工
<b>松下幸司 助教授</b> 森林利用計画・木材供給計画に関する研究
<b>山内龍男 助教授</b> 製紙科学に関する研究
<b>大澤直哉 講師</b> 森林生態系における昆虫群集の研究
<b>高柳 敦 講師</b> クマハギ発生地域におけるツキノワグマの保護管理に関する研究。カモシカ・シカによる造林木食害に関する研究。狩猟制度に関する研究。
<b>仲村匡司 講師</b> 木質系材料の感性的特性、木質環境の居住性
<b>吉岡まり子 講師</b> バイオマスを用いた高性能・高機能材料の開発に関する研究
<b>坂本正弘 講師</b> 木質系バイオマスの形成に関わる生化学・分子生物学的研究
<b>里深好文 助教授</b> 土砂の生産、流出とその制御

<b>竹内典之 教授</b> フィールド科学教育研究センター 森林資源の保続的管理に関する研究
<b>安藤 信 助教授</b> フィールド科学教育研究センター 森林の更新技術に関する研究
<b>芝 正己 助教授</b> フィールド科学教育研究センター 森林資源の保続的管理・利用システムに関する研究
<b>中島 皇 講師</b> フィールド科学教育研究センター 森林の公益的機能に関する研究
<b>西村和雄 講師</b> フィールド科学教育研究センター 金蓄積植物を利用した金鉱脈の探査法、黄砂由来の日本へのリン資源の輸送に関する研究
<b>徳地直子 助教授</b> フィールド科学教育研究センター 森林生態系における物質循環に関する研究

## 食品生物科学科

<b>井上國世 教授</b> 酵素の機能発現の解明と有用生理活性物質生産への応用
<b>大東 肇 教授</b> 生物活性天然物の究明とその作用機構
<b>北畠直文 教授</b> 食品素材の加工特性に関する研究。甘味・渋味・苦味物質の構造と甘味・渋味・苦味発現機構、伝統食に関する食品栄養学的研究
<b>伏木 亨 教授</b> 食品の持つ情報と、動物消化管・口腔における情報受容機構、運動能力を増強する食品の開発、おいしさの科学
<b>村田幸作 教授</b> 細胞やタンパク質の形はどうして決まるか。細胞はどうして増えるか。DNAはどうしてできたか。遺伝子、タンパク質細胞の進化。
<b>吉川正明 教授</b> ■食品中に存在する新しい生体調節因子の探索 ■生体調節因子の作用機構の解明と生活習慣病予防食品の開発 ■生体調節機能を強化した食糧素材の遺伝子生産
<b>安達修二 教授</b> 食品製造工学、食品反応工学
<b>入江一浩 助教授</b> タンパク質機能ドメインの化学合成と構造および機能の有機化学的解析
<b>裏出令子 助教授</b> ■小胞体におけるタンパク質の品質管理機構に関する研究 ■動物細胞における脂質代謝の調節機構に関する研究
<b>河田照雄 教授</b> 肥満の発症メカニズムの解明とその応用研究、生活習慣病を防ぐ食品の開発
<b>谷 史人 助教授</b> ■自然免疫の栄養およびストレスに対する応答機構に関する研究 ■分子進化から眺めたタンパク質の構造と機能
<b>橋本 涉 助教授</b> 微生物における高分子物質の輸送と代謝に関わる分子の構造・機能相関解析
<b>木村幸敬 助教授</b> 亜臨界水を用いた環境に優しい食品加工、脂溶性食品成分の腸吸収細胞透過に関する研究

<b>大日向耕作 講師</b> 脳神経系や循環器系に作用する新しい生理活性ペプチドの探索と作用機構の解明
<b>保川 清 助教授</b> タンパク質分解酵素の酵素化学的性質の解明および改変
<b>井上和生 助教授</b> 中枢性疲労発生機構に関する研究、運動時エネルギー代謝の中枢性調節機構に関する研究



## 学科紹介

### 地球工学科

地球工学 (Global Engineering) は、文明の運営に必要な資源・エネルギーの技術体系、文明を支える基盤としてのインフラ (社会基盤施設) の技術体系、人間・自然環境の均衡を維持する技術体系の3つの部門と、それらの有機的な融合部門によって構成されています。地球工学が貢献すべき科学技術は多岐にわたりますが、「Think globally and act locally」の理念で、地球全体の合理的な開発・保全と人類の持続可能な発展を支える学問です。本地球工学科では、上記の理念のもとで、様々な領域にまたがる科学技術を総合的に理解する見識を養うとともに、より専門的な科学技術に対しては、世界最先端の知識を習得してもらい、実社会における高度な研究や実務を遂行できる能力の養成を教育研究目標としています。

### 建築学科

人間の生活環境を構成し、安全で健康にして快適な生活を発展させるよりどころとなる建築は、多様な技術を総合して行われる創造的な努力によって作りだされます。建築は人間生活のあらゆる面に深く係わるヒューマンな技術です。このような特色から、教科課程も自然科学、人文・社会科学の広い分野にまたがり、卒業後の進路も建築・構造・環境の設計及び施工に従事する建築家及び建築技術者、行政的な指導、監督にあたる建築行政担当者、各種開発事業に携わるプランナーなど実に多様です。したがって建築学科では自然科学だけでなく、人文・社会科学、さらには芸術にも深い関心をもつ学生もひとしく歓迎し、いずれもその才能を十分に伸ばせるような教育を行っています。

### 物理工学科

新時代に向けて、新しいシステム、材料、エネルギー源の開発、宇宙空間の利用など、数多くの工学的課題があります。これらに取り組む新技術を創造するためには、基礎的学問を十分に修得しておくことが必要です。物理工学科はそのための基礎的な教育・研究の場を提供します。同学科には機械システム学、材料科学、エネルギー理工学、宇宙基礎工学の4つのコースがあり、一体となって教育を行っています。また、大学院では、工学研究科の機械理工学、マイクロエンジニアリング、航空宇宙工学、原子核工学、材料工学の各専攻、エネルギー科学研究科および情報学研究科の関連専攻が、エネルギー理工学研究所、原子炉実験所、再生医科学研究所の協力のもとに、学際的広がりをもつ基礎的研究と幅広い専門教育を行なっています。

### 電気電子工学科

電気電子工学は、現代のあらゆる産業や社会生活の基盤として欠くことのできない科学技術を支えており、21世紀社会の発展のための多くの課題 (たとえば高性能で安全な情報通信ネットワーク、ナノテクノロジーによる新しい機能をもった素子や装置、正確な診断技術や人に優しい医療技術、エネルギー生成と利用の高効率化など) において重要な役割を担っています。電気電子工学科では、幅広い領域にわたる総合的な知識と視野を持つ高度な専門性に加えて、高い独創性、倫理性をもった人材の育成をめざしています。そのため、カリキュラムも基礎的な共通科目を学習した後、各自の志望に応じて選択する高度な専門科目を通して、最先端の科学技術を理解し、さらなる発展を担うための基礎を広く身につけることができるよう組まれています。

### 情報学科

現在の高度情報化社会においては、対象とするシステムはますます巨大化・複雑化し、工学の各専門分野が融合した形態をとるのが普通です。このような情勢に対処するためには、システムの機能とそこに流れる「情報」の本質を究明し、それにもとづいて効率的なデザインを考えることが大切です。情報学科では「数理的思考」によって高度なシステムの実際問題を解決し、計算機のハードウェア、システム・ソフトウェア、情報システムを設計・活用できる人材を育てることを目標として、基礎から応用までの総合的な教育研究を行っています。なお、1学年終了時に数理工学コースと計算機科学コースに分かれます。

### 工業化学科

化学は様々な物質を作り出す反応とそのプロセス、物質に機能を与える物性などを対象とする学問で、人々の豊かな生活を支えるとともに、最先端科学技術の発展に大きな貢献をしています。工業化学科では、化学に関連した幅広い分野にわたる基礎知識の養成を目的として教育を行います。第一学年では化学・物理学・数学などの自然科学基礎科目と、語学や人文社会科目を学習します。第二学年前期から工業化学科としての専門基礎科目が始まります。第二学年後期より、創成化学コース、工業基礎化学コース、化学プロセス工学コースに別れて、専門教育を受けます。第四学年には各専攻の研究室に所属して卒業研究を行い、研究者・技術者としての高度な知識を習得します。

工学部及び各学科の詳細については、「工学部紹介冊子2006」をご覧ください。また、「工学部紹介冊子2006」については、前頁の連絡先にお問い合わせください。

## 全学共通科目 (学科指定科目)

学科	科目
地球工学科	微分積分学 A, 微分積分学 B, 線形代数学 A, 線形代数学 B, 基礎物理化学 A, 基礎物理化学 B, 物理学基礎論 A, 物理学基礎論 B, 熱力学, 力学統論, 物理学実験, 基礎地球科学 IA, 基礎地球科学 IB, 基礎地球科学 IIA, 基礎地球科学 IIB, 基礎有機化学 A, 基礎有機化学 B, 分析化学及び環境化学実験, 図学 A, 図学 B, 微分積分学統論 A, 微分積分学統論 B, 線形代数学統論, 振動・波動論, 無機化学入門 A, 無機化学入門 B, 生物自然史基礎論 A, 生化学入門 101, 生化学入門 102, 地球科学序論, 環境・生物化学, 科学英語 (地球)
建築学科	線形代数学 A, 線形代数学 B, 微分積分学 A, 微分積分学 B, 物理学基礎論 A, 物理学基礎論 B, 振動・波動論, 熱力学, 力学統論, 図学 A, 図学 B, コンピュータグラフィクス実習 A 又は B, 物理学実験, 生活と数学 A, 生活と数学 B, 基礎地球科学 IIA, 基礎地球科学 IIB, 確率論基礎, 数理統計, 確率過程論, 微分積分学統論 A, 微分積分学統論 B
物理工学科	微分積分学 A, 微分積分学 B, 線形代数学 A, 線形代数学 B, 物理学基礎論 A, 物理学基礎論 B, 物理学実験, 基礎物理化学 A, 基礎物理化学 B, 図学 A, 分析化学及び環境化学実験, 微分積分学統論 A, 微分積分学統論 B, 電磁気学統論, 確率論基礎, 数理統計, 合成及び測定実験, 無機化学入門 A, 無機化学入門 B, 生命科学概論 A, 生命科学概論 B, 振動・波動論, 統計物理学, 基礎有機化学 A, 基礎有機化学 B, 力学統論
電気電子工学科	微分積分学 A, 微分積分学 B, 線形代数学 A, 線形代数学 B, 物理学基礎論 A, 力学統論, 物理学実験, 基礎有機化学 A, 基礎有機化学 B, 分析化学及び環境化学実験, 複素関数論, 線形代数学統論, 微分積分学統論 A, 微分積分学統論 B, 確率論基礎, 数理統計, 確率過程論, 数論基礎 A, 数論基礎 B, 数理論理学 A, 数理論理学 B, 熱力学, 統計物理学, 量子物理学, 解析力学, 特殊相対論, 基礎物理化学 A, 基礎物理化学 B, 無機化学入門 A, 無機化学入門 B, 合成及び測定実験, 科学英語 (電気電子)
情報学科	微分積分学 A, 微分積分学 B, 線形代数学 A, 線形代数学 B, 物理学基礎論 A, 物理学基礎論 B, 物理学実験, 微分積分学統論 A, 微分積分学統論 B, 線形代数学統論, 熱力学, 振動・波動論, 確率論基礎, 数理統計, 数理論理学 A, 数理論理学 B, 情報と社会, 科学英語 (数理)
工業化学科	基礎物理化学 A, 基礎物理化学 B, 基礎有機化学 A, 基礎有機化学 B, 分析化学及び環境化学実験, 微分積分学 A, 微分積分学 B, 線形代数学 A, 線形代数学 B, 物理学実験, 物理学基礎論 A, 物理学基礎論 B, 合成及び測定実験, 微分積分学統論 A, 微分積分学統論 B, 熱力学, 振動・波動論, 力学統論, 解析力学, 科学英語 (創成化学), 科学英語 (工業基礎化学), 科学英語 (化学工学)

専門科目

学科	1 回生～	2 回生～	3 回生～	4 回生
地球工学科	地球工学総論, 基礎情報処理演習, 基礎情報処理, 情報処理及び演習	確率統計解析及び演習, 地球工学基礎数理, 一般力学, 社会基盤デザイン, 基礎環境工学 I, 資源エネルギー論, 工業数学 B1, 構造力学 I 及び演習, 水理学及び演習, 土質力学 I 及び演習, 計画システム分析及演習, 環境衛生学, 物理探査学	測量学及び実習, 連続体の力学, 工業数学 B2, 構造力学 II 及び演習, 材料学, 波動・振動学, 水文学基礎, 水理水工学, 海岸環境工学, 土質力学 II 及び演習, 土質実験及び演習, 社会システム計画論, 基礎環境工学 II, 大気・地球環境工学, 水質学, 環境装置工学, 放射線衛生工学, 環境工学実験 1, 地質工学及び演習, 弾性学及び演習, 流体力学, 物理化学, 資源工学基礎計測, 資源工学地化学実験, 先端資源エネルギー工学, 学外実習, 空間情報学, 構造実験・解析演習, コンクリート工学, 耐震・耐風・設計論, 河川工学, 水資源工学, 水理実験, 地盤環境工学, 岩盤工学, 都市・地域計画, 公共経済学, 交通マネジメント工学, 交通政策論, 都市景観デザイン, 上水道工学, 下水道工学, 廃棄物工学, 環境工学実験 2, 資源工学のための材料学, 波動工学, 応力解析法及び演習, 熱流体工学, 分離工学, 工業計測, 資源工学材料実験	地球工学デザイン, 土木法規, 地球防災工学, 材料実験, 地殻海洋資源論, 地殻開発工学, 塑性学及び演習, 時系列解析, 工学倫理, 建築工学概論, 特別研究
建築学科	基礎情報処理, 基礎情報処理演習, 建築工学概論, 日本都市史, 世界建築史, 設計演習基礎, 造形実習	建築計画学 I, 住居計画学, 建築設計論, 設計演習 I, 設計演習 II, 建築環境工学 I, 建築環境工学 II, 建築構造力学 I, 建築構造力学 II, 建築生産 I, 建築材料, 建築都市行政, 景観デザイン論, 建築情報処理演習, 工業数学 C	都市設計学, 行動・建築デザイン論, 日本建築史, 建築設備システム, 鉄筋コンクリート構造 I, 鉄骨構造 I, 建築構造力学 III, 建築生産 II, 建築論, 都市・地域論, 都市環境工学, 建築光・音環境学, 建築温熱環境設計, 建築構造解析, 耐震構造, 鉄筋コンクリート構造 II, 鉄骨構造 II, 設計演習 III, 設計演習 IV, 建築応用数学, 建築情報システム学	建築計画学 II, 建築基礎構造, 耐風構造, 地球工学総論, 設計演習 V, 構造設計演習, 構造・材料実験, 建築安全設計, 建築環境工学実習, 建築環境工学演習, 工学倫理, 専門英語, 特別研究
物理工学科	物理学総論 A, 物理学総論 B, 基礎情報処理, 基礎情報処理演習	計測学, 計算機数学, 材料力学 I, 材料力学 2, 熱力学 I, 熱力学 2, 機械設計製作, 工業数学 F1, 工業数学 A1, 材料基礎学 I, 固体物理学, 応用電磁気学, 原子物理学, 流体力学基礎, 物質科学基礎, 材料統計物理学, 材料科学基礎 1, 材料科学基礎 2, 化学熱力学基礎, 原子核工学序論, ものづくり演習	工業数学 F2, 工業数学 A2, 工業数学 F3, 工業数学 A3, 数値解析, 材料基礎学 2, 量子物理学 1, 量子物理学 2, 連続体力学, 流体熱工学, 工業学 A, エネルギー変換工学, 振動工学, 制御工学 1, 制御工学 2, システム工学, 生産工学, 薄膜材料学, 精密加工学, 設計工学, 材料組織学, 結晶物性学, 材料物理化学, 構造物性学, 熱及び物質移動, エネルギー平衡論, 統計力学, エネルギー・材料熱化学 I, エネルギー・材料熱化学 2, 材料物理学, プラズマ物理学, 量子反応基礎論, 中性子理工学, エネルギー化学 1, エネルギー化学 2, 流体力学, 統計熱力学, 量子線計測学, 気体力学, 熱統計力学, 空気力学, 推進基礎論, 航空宇宙力学, 質点系と振動の力学, 固体力学, 量子無機材料学, 固体電子論, 材料機能学, 材料プロセス工学, 環境物理化学, 電気回路と微分方程式, 電気電子回路, 物理学演習 1, 物理学演習 2, 機械システム演習, 機械システム工学実験 1, 機械システム工学実験 2, 機械システム工学実験 3, 機械設計演習 1, 機械設計演習 2, 機械製作実習, 材料科学実験および演習 1, 材料科学実験および演習 2, エネルギー理工学設計演習・実験 1, エネルギー理工学設計演習・実験 2, 航空宇宙工学実験 1, 航空宇宙工学実験 2, インターシップ, 金属材料学, 材料量子化学, 材料電気化学, 加速器工学, 放射化学	量子物理学 2, 応用制御工学, 人工知能基礎, システム工学, 加工学, 物理学英語, 材料強度物性, 固体物性学, 信頼性工学, 品質管理, 機械要素学, 材料分析化学, 核物理基礎論, 生物物理学, 原子炉基礎演習・実験, 数理解析, 有限要素法の基礎と演習, 航空宇宙工学演義, 工学倫理, 特別研究 1, 特別研究 2
電気電子工学科	電気電子工学概論, 電気回路基礎論, 電気電子工学基礎演習, 電気電子回路, 基礎情報処理, 基礎情報処理演習	電子回路, 電気電子工学実験 A, 電気電子工学実験 B, 電気電子プログラミング及演習, 電気電子数学, 電磁気学 1, 電力回路, 電気機器 1, 論理回路, 計算機工学, 情報理論, 物性・デバイス基礎論, 半導体工学	電気電子工学実習 A, 電気電子工学実習 B, 電気電子計算工学及演習, グラフ理論, 電気回路, 電磁気学 2, デジタル回路, 電気電子計測 1, 電気電子計測 2, 自動制御工学, デジタル制御, システム最適化, 知能型システム論, 電気機器 2, パワーエレクトロニクス, 発電工学, 放電工学, 通信基礎論, 情報伝送工学, 通信ネットワーク, 電波工学 1, マイクロ波工学, 計算機ソフトウェア, 計算機システム, デジタル信号処理, 固体電子工学, 電気電子工学のための量子論, プラズマ工学, 真空電子工学 1, 電気電子材料学, 光工学 1, 生体医療工学	電波工学 2, 光通信工学, 電力系統工学, 絶縁設計工学, マンマシンシステム工学, 電気応用工学, 音響工学, 真空電子工学 2, 光電子デバイス工学, 光工学 2, 電気伝導論, 工学倫理, アルゴリズム論, 人工知能, 応用代数学, 電気法規, 電波法規, 特別研究
情報学科	計算機科学概論, 数理工学概論, アルゴリズムとデータ構造入門, 線形計画, 電気回路と微分方程式, 電気電子回路, 基礎情報処理演習	工業数学 A1, 質点系と振動の力学, 数理工学実験, 基礎数理演習, プログラミング演習, 計算機科学実験及演習 1, 計算機科学実験及演習 2, システム解析入門, 論理システム, システムと微分方程式, 解析力学, 意思決定論, 論理回路, 言語オートマトン, 計算機アーキテクチャ 1, プログラミング言語, コンパイラ, 電子回路, 情報理論, コンピュータネットワーク, グラフ理論, 数値解析	情報理論, コンピュータネットワーク, 数値解析, 工業数学 A2, 工業数学 A3, 線形制御理論, 確率と統計, 確率離散事象論, 応用代数学, 人工知能, ヒューマンインタフェース, 数値計算演習, 理工学セミナー, システム工学実験, 計算機科学実験及演習 3, 計算機科学実験及演習 4, 物理統計学, 連続体力学, 量子物理学 1, 量子物理学 2, 現代制御論, 最適化, 非平衡系の数理, 情報システム論, 計算機アーキテクチャ 2, オペレーティングシステム, パターン認識, データベース, 集積システム入門, 技術英語, 情報システム, アルゴリズム論, 画像処理論, ソフトウェア工学, マルチメディア, 計算と論理	信号とシステム, 数理解析, 非線形系の力学, 情報と職業, 通信基礎論, 工学倫理, 特別研究
工業化学科	工業化学概論 I, 工業化学概論 II, 基礎情報処理, 基礎情報処理演習	<b>【創成化学コース】</b> 有機化学 I(創成化学), 物理化学 I(創成化学), 無機化学(創成化学), 分析化学(創成化学), 高分子化学基礎 I(創成化学), 化学プロセス工学 <b>【工業基礎化学コース】</b> 物理化学 I(工業基礎化学), 無機化学 I(工業基礎化学), 分析化学 I(工業基礎化学), 有機化学 I(工業基礎化学), 化学プロセス工学, 化学数学 I(工業基礎化学), 最先端の化学入門(工業基礎化学) <b>【化学プロセス工学コース】</b> 物理化学 I(化学工学), 無機化学 I(化学工学), 基礎流体力学, 化学工学数学 I(化学工学), 化学工学計算機演習, 反応工学 I	<b>【創成化学コース】</b> 創成化学実験(創成化学), 有機化学 II(創成化学), 生体関連物質化学(創成化学), 物理化学 II(創成化学), 高分子化学基礎 II(創成化学), 統計熱力学入門(創成化学), 機器分析科学(創成化学), 環境保全概論, 有機化学 III(創成化学), 物理化学 III(創成化学), 錯体化学(創成化学), 最先端機器分析(創成化学), 高分子化学 I, 環境安全化学 <b>【工業基礎化学コース】</b> 工業基礎化学実験(工業基礎化学), 物理化学 II(工業基礎化学), 有機化学 II(工業基礎化学), 無機化学 II(工業基礎化学), 分析化学 II(工業基礎化学), グリーンケミストリー概論, 生化学 I(工業基礎化学), 高分子化学概論(工業基礎化学), 化学数学 II, 環境保全概論, 有機化学 III(工業基礎化学), 物理化学 III(工業基礎化学), 無機化学 III(工業基礎化学), 生化学 II, 生物化学工学, 有機工業化学, 高分子化学概論 II(工業基礎化学), 量子化学概論, 環境安全化学 <b>【化学プロセス工学コース】</b> 移動現象, 流体系分離工学, プロセス制御工学, 物理化学 II(化学工学), 化学工学数学 II, 計算化学工学, 化学工学実験(化学工学), 環境保全概論, 反応工学 II, 固相分離工学, 微粒子工学, プロセスシステム工学, 化学工学シミュレーション, 生物化学工学, 環境安全化学, 物理学 III(化学工学), 有機工業化学	<b>【創成化学コース】</b> 電気化学, 高分子化学 II, 化学のフロンティア(創成化学), 産業科学特論, 工学倫理, 化学実験の安全指針, 特別研究 <b>【工業基礎化学コース】</b> 化学実験の安全指針, 触媒化学, 化学統計力学(工業基礎化学), 有機分光学, 電気化学, 有機金属化学, 先端機器分析科学(工業基礎化学), 工学倫理, 特別研究 <b>【化学プロセス工学コース】</b> 化学実験の安全指針, プロセス設計, 工学倫理, 特別研究



## 農学部の教育

### いま農学部では

衣食住は人類の生活にとって必要不可欠な条件です。食物はもとより、私たちの身の回りの実に多くのものが農業に関わりを持っています。21世紀を迎えて、地球環境を守りながら、あまねく人類の健康で文化的な生活を保障するためには、農学はますます重要な使命を担っています。今日では遺伝子組換えなどのバイオテクノロジーを活用した品種改良や高度な生産技術の開発研究に力が注がれています。また、環境にやさしい農業を目指して、人工衛星からのリモートセンシングやIT技術を利用した研究も行われています。人類の持続的発展のためには地域の自然条件のみならず、経済的・社会的・文化的諸条件の総合的考察からの検討も不可欠です。今日の農学は、分子・細胞レベルから生態系・地域レベルまでを対象とした生命系の総合科学へと発展しているのです。

農学部は、基礎系4学科と総合系2学科から構成されています。学部では4年一貫教育のもとに、第1・2学年から専門科目も一部学ぶこととなりますが、第3学年から本格的に専門科目を履修し、実験、ゼミナール等が始まります。第4学年では研究分野(研究室)に分かれて課題研究(卒業研究)を行います。教員の指導、助言を受けながら大学院生とともに未知の分野の研究に取り組む最初のステップです。所定の単位を修得した学生は、学士(農学)の学位を取得して卒業することになります。さらに研究を深めようと志す学生は大学院へ進学します。

### 高度な専門的知識の修得と研究者養成

21世紀における地球規模の重要課題として、エネルギー、資源、環境、食料、生命、情報、民族および文化等がありますが、農学はそれら全てに関わっており、その果たすべき役割はますます重くなってきております。これらの課題に対処するため、農学研究科の改組を平成13年4月に行いました。これによって、大学院は教育と研究が有機的により一本化され、社会の期待に応えることのできる組織となりました。そこでは、高い研究水準を持った熱意のある教員と最新の設備が大学院学生の研究意欲を強く刺激します。院生は教員の指導は受けるものの、自由に発想し、自身で考え、近未来を目指した先端的研究や、遠い将来を見据えた着実ではあるがユニークな研究を行うことができます。現在、大学院には、韓国、中国、インドネシアをはじめ22カ国からの外国人留学生約100名が在籍しています。多くの留学生と一緒に勉強することで、国際性が身につくことにもなります。

### 生産現場に根ざした教育・研究

京都大学には農学研究科附属の農場と牧場があり、学部および大学院の教育・研究の場として利用されています。附属農場は、高槻市八丁畷の本場、同市古曽部町の花卉温室部、および農学部構内の京都農場、からなっています。農業の現状と未来に即した農学研究、特に先端的研究を農場の現場に応用するための理論構築、作物の品種改良などを目的として圃場をベースにした数多くの研究が行われています。

附属牧場は、京都市の北西約50kmの丹波町に位置し農学部からは車で約1時間半ほどの距離にあります。総面積約15ha(牧草地10ha)に、繁殖雌牛、育成子牛および肥育牛があわせて約150頭ほど飼育されています。牧場ではこれらの肉用牛を用いて、肉量および肉質についての生産能力と品種、性、栄養との関係を産肉生理学的な面から研究するとともに、得られた成果にもとづいて効率的な牛肉生産方式を開発しようとしています。

## 学部概要

わが国は食料の実に60%を輸入に依存しています。途上国では多くの人々が飢えに苦しみ死に瀕しています。また、牛のBSEや鶏のインフルエンザ問題で騒がれたように、食の安全性が問題になっています。現在、われわれ人類が健康で幸せに暮らすために、安全で質の高い食料を十分に供給することが求められています。

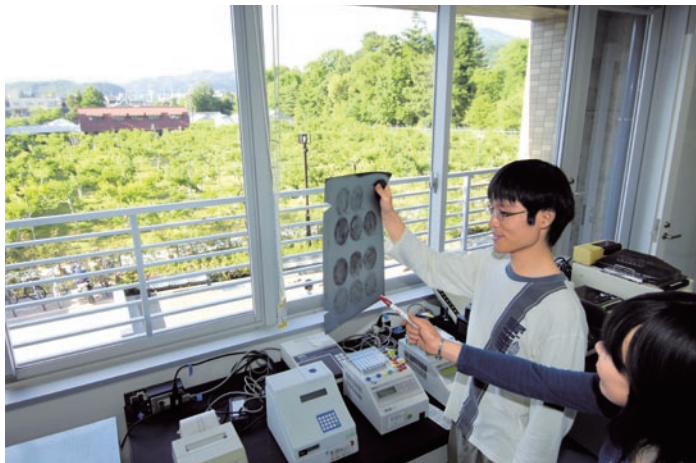
他方、この地球上では、人口増加に加えて、砂漠化や地球温暖化などの環境問題が21世紀の緊急の課題となっています。「環境の時代」と言われる21世紀では、自然と人間活動の調和が求められており、環境に負担をかけない食料生産を目指すことが必要です。農村の豊かな生態系や自然景観を維持・保全することも大切です。このような食料と環境の問題を解決して、人類が快適で平和に暮らすためになくてはならない学問が農学です。農学は、生物学のみならず、化学、物理学、社会科学などを基礎とした「生命・食料・環境」に関する総合科学です。研究対象は、分子・細胞などのマイクロレベルから圃場・生態系、さらには地域社会といったマクロレベルまで、広範囲に及んでいます。

京都大学農学部では、資源生物科学科(生物系)、応用生命科学科(化学系)、地域環境工学科(物理系)、食料・環境経済学科(社会科学系)の基礎系4学科、及び、森林科学科、食品生物科学科の総合系2学科、計6学科を設置し、食料の生産・加工から流通に至るまでの諸問題とそれを取り巻く環境の保全・管理・創造などについて幅広い教育・研究を展開しています。本学部は、それぞれの分野に共通する基礎的科目を系統的に教育するとともに、学科毎に異なる高度な専門教育を実施することを目的としています。

### 【農学部が望む学生像】

各学科が対象とする様々な課題に果敢に挑戦する意欲を持ち、それぞれの専門教育で求められる十分な学力を有する人材を求める。

農学部の学部教育の大部分は京都大学吉田キャンパス北部構内の農学部本館で行われますが、一部は、今年度本館の北隣に落成した新館、宇治キャンパス(京都府宇治市)、農学部附属の農場(大阪府高槻市)・牧場(京都府丹波町)で行われます。



さらに詳しく知るには

- 農学部のホームページ <http://www.kais.kyoto-u.ac.jp/>
- 入学についてのお問い合わせ 農学部第一教務掛 (tel.075-753-6012)

在学生からのメッセージ



環境問題の  
表層から真相へ

森林科学科 3回生  
矢野 寛子さん

環境保全の為に森林は伐採してはいけないのでしょうか？大学入学以前、私は「yes」と答えていました。しかし、今は環境保全のためにむしろうまく利用すべきであると考えています。木材は再生可能な資源の代表であり、化石燃料と異なり燃やしてもNOx, SOxが発生しないクリーンなエネルギーです。今後、人間が持続可能な活動を目指すには不可欠な存在です。大学は、科学的知見から表面的な誤った固定概念を見直すことができる場です。数多くのプロが私たちに新たな視点や知識を与えてくれます。

私は今バイオマスエネルギーに興味を持っています。バイオマスエネルギーは持続可能で有害な汚染物質を出さない点で注目を浴びていますが、まだたくさん抱えています。4回生での研究室所属でこの分野の研究に取り組むことを楽しみに、今は講義や実習で基礎作りをしています。



自分の個性を未来に

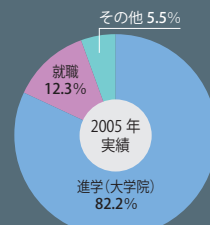
地域環境工学科 4回生  
世戸 貴大さん

農学部では「生命・食料・環境」を対象として様々な研究活動を行っています。問題へのアプローチの仕方は学科・分野によって異なります。私の所属する地域環境工学科では、生命そのものよりもその源となる水や土などの地域資源を中心とした環境に焦点を当て、「工学」・「技術学」という手法で様々な問題に取り組んでいます。

しかし、工学・技術学といっても扱うのは物理学や数学に止まりません。生物学や計画学など多様な学問領域を扱い、研究者として幅広い知識を要求されます。このため、自分にとっての必要最小限だけを学ぶのではなく、例えば自分の専門外であっても「自分の興味のある分野を積極的に学び、それをいかにして活かすか」という事を考える必要があります。それは私たちが在学生も受験生の皆さんも変わりはありません。自分の目標に向かって積極的に取り組んでいって下さい。あなたの個性が新たな発見に繋がるかもしれません

卒業後の進路

約8割が大学院に進学しますが、就職先は、公務員、試験研究機関の研究者として、また民間企業では化学・食品等の製造業、バイオテクノロジー関係の産業、あるいは商社・金融・保険・マスコミ・コンピューター等、幅広い分野に進出しています。



就職先の例  
農林水産省、特許庁、キリンビール、サントリー、みずほ銀行、UFJ銀行、京都銀行、野村證券、日本生命、資生堂、武田薬品、NTT西日本、日本テレコム、NTTコミュニケーションズ、イオン、リクルート、クボタ、積水化学など

農学部で取得可能な資格

農学部では、教育職員免許状の取得を目的とした教職課程をはじめ、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得、二級建築士試験及び木造建築士資格試験受験資格、測量士及び測量士補の資格取得の教育課程を設けているほか、専門職に必要な資格や受験資格が取得できます。

卒業生からのメッセージ



寄り道

2005年 食品生物科学科卒業  
京都大学大学院農学研究科修士課程在学中  
和田濱 裕之さん

小説を書きたい。そんな気持ちを抱いて入学したのが農学部食品生物科学科でした。私が入学した年に農学部は改組され、食品生物科学科は新生の学科でした。農学部という土臭いイメージがあったのですが、実際の研究対象はミクロからマクロまで広範囲にわたっており、興味の幅が広い私にとっては適した場所であったように思います。また、自由な雰囲気を持っており、必要以上に拘束されることなく、のびのびと学ぶことができました。大学の講義や演習で得られる専門的な知識は当然必要なものですが、専門とは全く関係のないように思える知識こそ、将来の自分にとって必要なものではないでしょうか。既存の範疇にとらわれることなく、真の学問を究めるために必要な遊びが、ここにはあると思います。いつの日か吸収した知識を小説という形で世の中に広めたいと思いつつ、研究を重ねています。



広い知識と、  
深い問題探求力を

2001年生物機能科学科応用生命科学コース卒業  
(株)森永生科学研究所  
赤羽 理江さん

私は現在、生命科学分野の研究をサポートする、新規分析検査キットを開発する仕事をしています。そこでは、現状の課題を打破し、ニーズに合った商品を迅速に完成させることが必要です。そのためには、私が大学生活を通して学んだ次の三つがとても役に立っています。一つ目は、物事を様々な方向から検証できる広い知識、二つ目は課題を追求し、目的地にたどり着くための思考法、そして最後は努力を惜しまず打ち込む姿勢です。

農学部は、生命、食料、環境という、広い分野を含んでいることが最大の魅力です。その魅力に惹かれ様々な人が集まってきました。尊敬できる先生方、仲間と活発に意見を交換し、広さと深さを併せ持った魅力的な人になられるよう応援しています。

## 学科紹介

### 資源生物科学科

資源生物科学科は陸地や海洋に生育・生息する資源生物の生産性および品質の向上を環境との調和を図りながら追求することを目標に研究・教育を行っています。また、このような資源生物を外敵や病気から守る技術を開発したり、生育・生息に好ましい環境を持続的に保つ方策を探るとともに、これまで生産性が見込めなかった劣悪な環境に適した新しい品種の創出を目指すなど、資源生物を対象にした応用研究を多面的に行っています。

資源植物グループ：作物学、育種学、蔬菜花卉園芸学、果樹園芸学、栽培システム学、植物生産管理学、植物遺伝学、植物生理学、栽培植物起原学、品質評価学、品質設計開発学

資源動物グループ：動物遺伝育種学、生殖生物学、動物栄養学、生体機構学、畜産資源学、生物資源情報学

海洋生物グループ：海洋生物環境学、海洋生物増殖学、海洋分子微生物学、海洋環境微生物学、海洋生物生産利用学、海洋生物機能学

生産環境グループ：雑草学、熱帯農業生態学、土壌学、植物病理学、昆虫生態学、昆虫生理学、微生物環境制御学、生態情報開発学

### 応用生命科学科

生物資源の生産・加工・利用・保全の諸側面に含まれる化学的・生物学的原理の探求とその応用に関する様々な分野の教育・研究に携わっています。すなわち、微生物、植物、動物など、生物の生命現象や生命機能を化学、生物学、生化学、物理学、生理学、分子生物学などを基盤として深く探求・理解する（バイオサイエンス）、一方その成果を農・医薬、食品、化成品を初めとする生活関連有用物質の高度な生産や利用に適用する（バイオテクノロジー）ための基礎教育と先端的研究を行っています。

細胞生化学、生体高分子化学、生物調節化学、化学生態学、植物栄養学、発酵生理及び醸造学、制御発酵学、生体機能化学、生物機能制御化学、エネルギー変換細胞学、応用構造生物学、分子細胞育種学（全能性制御機構学）、植物分子生物学（遺伝子特性学）

### 地域環境工学科

地域環境工学科は環境と調和した効率的な食料生産、地球環境も含めた環境・エネルギー問題の解決、環境共生型農村社会の創造をめざし、工学・技術学をツールに研究・教育を行います。水循環の制御による貴重な水資源の合理的な利用、精密農業による資源循環型社会の構築、自然と人間が共存する知的創造的農村の実現、ロボットやIT利用の未来型農業の追求、太陽エネルギー資源の開発利用など様々な研究を通して豊かな21世紀社会を構築します。

施設機能工学、水資源利用工学、水環境工学、農村計画学、農業システム工学、フィールドロボティクス、農産加工学

### 食料・環境経済学科

食料・環境経済学科では、私達の生活に最も関連の深い食料問題と環境問題の研究と教育に携わっています。この問題を国内だけでなく世界的な次元で捉え、途上国の貧困問題、人口問題、技術開発普及、農林水産物の貿易問題あるいは食品安全性、さらに農山漁村の社会経済生活について研究しています。その際、有限な地球環境資源の保全と両立する持続可能な資源循環型社会のあり方について学際的・総合的な研究・教育を行っています。

農業組織経営学、経営情報会計学、地域環境経済学、食料・環境政策学、森林・林業政策学、国際農村発展論、比較農史学、農学原論

### 森林科学科

環境の保全に配慮しながら自然資源を有効に利用するため、森林の持続的管理がキーワードになっています。森林科学科では、森林生態系の機能・構造と物質循環を基礎に、森林資源の持続的な生産技術、木材や紙をはじめセルロースや生分解性プラスチックなどさまざまな林業生産物の利用法、水や大気などの保全に果たす森林の役割、さらにこれらの社会科学的評価などをテーマとして、広く森林を取り扱う教育・研究を行っています。

森林利用学、林産加工学、生物材料設計学、生物繊維学、樹木細胞学、複合材料化学、生物材料化学、森林生化学、森林生態学、熱帯林環境学、森林・人間関係学、森林生物学、森林水文学、森林育成学、森林情報学、環境デザイン学、山地保全学、エネルギーエコシステム学、生物圏情報学

### 食品生物科学科

食品生物科学科では、食品を構成する物質の構造と機能、新しい食品機能を持つ物質や遺伝子の探索、疾病を予防する機能や栄養性・安全性などに優れた食品の創成と効率的な生産、並びに地球規模での食環境など、食料全般に関わる諸問題を微生物、植物、動物を対象に研究し、教育を行います。これにより、食料科学の学術の進展のみならず、健康の維持・増進や食料不足の改善など、多様な社会的問題の解決に寄与し、豊かな食生活の確立に貢献することを目指しています。

栄養化学、生体情報応答学、生命有機化学、農産製造学、微生物生産学、酵素化学、食品分子機能学、食品生理機能学、生物機能変換学、食環境学

## 全学共通科目（学科推薦科目）

学科	科目
資源生物科学科	数学基礎A、数学基礎B、基礎情報処理、基礎情報処理演習、物理学基礎論A、物理学基礎論B、基礎物理化学A、基礎物理化学B、基礎有機化学A、基礎有機化学B、基礎生物学A、基礎生物学B、生化学入門101、生化学入門102、生命科学概論A、生命科学概論B、バイオテクノロジー-農学の新戦略-、生物圏の科学-生命・食糧・環境-、合成及び測定実験、環境科学基礎ゼミナール
応用生命科学科	数学基礎A、数学基礎B、確率論基礎、基礎情報処理、基礎情報処理演習、物理学基礎論A、物理学基礎論B、基礎物理化学A、基礎物理化学B、無機化学入門A、無機化学入門B、バイオテクノロジー-農学の新戦略-、分析化学及び環境化学実験、合成及び測定実験、基礎生物学A、応用生命科学
地域環境工学科	数学基礎A、数学基礎B、微分積分学A、微分積分学B、数理統計、確率論基礎、基礎情報処理、基礎情報処理演習、物理学基礎論A、物理学基礎論B、物理学実験
食料・環境経済学科	数学基礎A、数学基礎B、確率論基礎、数理統計、基礎情報処理、基礎情報処理演習、環境学A、環境学B、生命科学概論A、生命科学概論B、バイオテクノロジー-農学の新戦略-、生物圏の科学-生命・食糧・環境-、応用数理A、応用数理B、人間と数学A、人間と数学B、環境科学基礎ゼミナール
森林科学科	数学基礎A、数学基礎B、基礎情報処理、基礎情報処理演習、物理学基礎論A、物理学基礎論B、基礎物理化学A、基礎物理化学B、基礎有機化学A、基礎有機化学B、生命科学概論A、生命科学概論B、環境学A、環境学B、物理学実験、分析化学及び環境化学実験、基礎生物学A、基礎生物学B
食品生物科学科	数学基礎A、数学基礎B、基礎情報処理、基礎情報処理演習、基礎物理化学A、基礎物理化学B、基礎有機化学A、基礎有機化学B、無機化学入門A、無機化学入門B、生命科学概論A、生命科学概論B、バイオテクノロジー-農学の新戦略-、分析化学及び環境化学実験、基礎生物学A、基礎生物学B、合成及び測定実験

専門科目

学科	1 年生～	2 年生～	3 年生～	4 年生
資源生物科学科	農学概論Ⅰ、農学概論Ⅱ、資源生物科学基礎Ⅰ、資源生物科学基礎Ⅱ	資源生物科学概論Ⅰ、資源生物科学概論Ⅱ、資源生物科学概論Ⅲ、資源生物科学概論Ⅳ、分子生物学、遺伝学、生態学、動物生理学、微生物学、植物生理学、応用気象学、生物統計学、資源生物科学基礎実験、土壌学Ⅰ、海洋動物学、栽培技術論と実習、畜産技術論と実習、海洋生物科学技術論と実習Ⅱ、海洋生物科学技術論と実習Ⅲ、植物調査法と実習、応用数学、生化学Ⅰ、生化学Ⅱ、細胞生物学概論、食品安全学Ⅰ	植物遺伝資源学、植物生理学Ⅱ、作物学Ⅰ、育種学Ⅰ、蔬菜園芸学、果樹園芸学Ⅰ、植物生産管理学、栽培システム学Ⅰ、品質科学、動物遺伝育種学、動物生殖学、動物栄養学、動物生体機構学、資源動物生産学、海洋環境学、海洋生物生態学、海洋微生物学Ⅰ、海洋生物資源学、海洋微生物生態学、雑草学Ⅰ、植物病理学Ⅰ、昆虫生態学Ⅰ、昆虫生理学、熱帯農業生態学、微生物生態学、生物圏情報学Ⅰ、資源生物科学専門外書講義Ⅰ、資源生物科学専門外書講義Ⅱ、資源生物科学専門外書講義Ⅲ、資源生物科学専門外書講義Ⅳ、資源生物科学実験及び実験法Ⅰ、資源生物科学実験及び実験法Ⅱ、作物学Ⅱ、育種学Ⅱ、花卉園芸学、果樹園芸学Ⅱ、家畜ゲノム科学・バイオテクノロジー、動物機能開発学、海洋生物生理学、海洋微生物学Ⅱ、魚類学、海洋生物細胞学Ⅰ、雑草学Ⅱ、昆虫生態学Ⅱ、生態制御学、遺伝学Ⅱ、品質設計開発学、品質評価学、動物栄養機能学、動物環境生理学、海洋生態学、海洋生体システム利用学、海洋植物学、植物病理学Ⅱ、植物環境ストレス学、土壌学Ⅱ、農薬科学、生物圏情報学Ⅱ、分析化学、生物有機化学Ⅱ、分子生物学Ⅰ、分子生物学Ⅱ、分子細胞生物学Ⅰ、分子細胞生物学Ⅱ、植物栄養学、食品微生物学、酵素化学	栽培システム学Ⅱ、家畜育種学、環境情報処理論、畜産技術論と実習Ⅱ、食品安全学Ⅱ、資源生物科学特別科目Ⅰ、資源生物科学特別科目Ⅱ、資源生物科学特別科目Ⅲ、資源生物科学特別科目Ⅳ、作物科学演習、園芸科学演習、耕地生態科学演習、品質科学演習、生産管理科学演習、応用動物科学演習Ⅰ、応用動物科学演習Ⅱ、海洋生物資源学演習、海洋微生物学演習、海洋生物生産学演習、資源植物科学演習、植物保護科学演習、生産生態科学演習、課題研究
応用生命科学科	農学概論Ⅰ、農学概論Ⅱ、応用生命科学入門Ⅰ、応用生命科学入門Ⅱ、応用生命科学入門Ⅲ、応用生命科学入門Ⅳ	細胞生物学概論、生化学Ⅰ、生化学Ⅱ、有機構造解析学、生理化学Ⅰ、有機反応機構論Ⅰ、有機反応機構論Ⅱ、応用微生物学Ⅰ、食品安全学Ⅰ	生物化学Ⅱ、分析化学、生物有機化学Ⅰ、生物有機化学Ⅱ、生物有機化学Ⅲ、一般生体高分子化学、生体高分子構造論、生体触媒化学、応用微生物学Ⅱ、応用微生物学Ⅲ、植物栄養学、植物生化学、分子生物学Ⅰ、分子生物学Ⅱ、分子細胞生物学Ⅰ、分子細胞生物学Ⅱ、醸造食品学概論、基礎生理学、専門外国書講義Ⅰ、専門外国書講義Ⅱ、分析化学実験、生化学実験、分子生物学実験、植物生化学実験、応用微生物学実験、有機化学実験、生物化学実験	応用微生物学Ⅳ、栄養化学、食品工学、油脂製造加工並びに食品保蔵論、食品安全学Ⅱ、応用生命科学演習Ⅰ、応用生命科学演習Ⅱ、課題研究
地域環境工学科	農学概論Ⅰ、農学概論Ⅱ、地域環境工学概論Ⅰ、地域環境工学概論Ⅱ、地域環境工学演習	応用気象学、地域環境工学基礎、応用数学、応用力学、材料力学、水理学、情報処理学及び演習Ⅰ、情報処理学及び演習Ⅱ、栽培技術論と実習	工業数学C、環境動態学、測量学、土木材料学、構造解析学、土壌物理学、農業水文学、地域整備開発施設学、灌漑排水学、農村計画学、農地整備学、水資源利用学、利水システム工学、生物機械計測学、振動学、熱力学及び伝熱工学、数理計画法、農用エネルギー・動力学、フィールドロボティクス、農産加工機械学、制御工学、機械設計、電気・電子工学、農業機械技術史、農業機械学専門外書講義、作物学Ⅰ、蔬菜園芸学、果樹園芸学Ⅰ、土壌学Ⅰ、農学原論、食料・環境政策学、資源環境経済学、食品工学、砂防学Ⅰ、森林水文学、森林生態学、土木材料・環境地盤工学実験、水理学実験、土壌物理学・水環境工学実験、測量法及び実習、施設機能工学演習、計算水理学演習、農業機械学実験Ⅰ、農業機械学実験Ⅱ、製図（CAD）演習	国土・地域計画、生物圏情報学Ⅰ、生物圏情報学Ⅱ、地域環境工学実習、灌漑排水学演習、農村整備計画演習、農業機械学演習、課題研究
食料・環境経済学科	農学概論Ⅰ、農学概論Ⅱ、食料・環境経済学概論、食料環境基礎社会・経済学	経済原論Ⅰ、経済原論Ⅱ、経済思想史、社会経済史、農林統計利用実習、農業発展論、国際農林業概論、資源生物科学基礎Ⅰ	農業組織経営学、農業経営情報会計学、資源環境経済学、食料・環境政策学、林業政策学、国際農村発展論、農業・農村史、農学原論、農企業問題特論、アグリビジネス論、農業資金会計論、資源環境分析学、農林統計学、農産物価格論、林業経済学、農村社会学、専門外国書講義Ⅰ（英語）、専門外国書講義Ⅱ、作物学Ⅰ、土壌学Ⅰ、植物栄養学、農村計画学、水資源利用学、国際森林資源論、熱帯林環境学、花卉園芸学、栄養化学、農地整備学、野生動物保全学、熱帯森林資源学、食環境学、食品安全学Ⅰ、食料・環境経済学特別講義Ⅰ、食料・環境経済学特別講義Ⅱ、食料・環境経済学特別講義Ⅳ、食料・環境経済学特別講義Ⅴ、農業組織経営学演習Ⅰ、農業経営情報会計学演習Ⅰ、資源環境経済学演習Ⅰ、食料・環境政策学演習Ⅰ、林業政策学演習Ⅰ、国際農村発展論演習Ⅰ、農業・農村史演習Ⅰ、農学原論演習Ⅰ、農業簿記経営調査実習	国土・地域計画、食品安全学Ⅱ、食料・環境経済学特別講義Ⅲ、森林ツーリズム論、農業組織経営学演習Ⅱ、農業組織経営学演習Ⅲ、農業経営情報会計学演習Ⅱ、農業経営情報会計学演習Ⅲ、資源環境経済学演習Ⅱ、資源環境経済学演習Ⅲ、食料・環境政策学演習Ⅱ、食料・環境政策学演習Ⅲ、林業政策学演習Ⅱ、林業政策学演習Ⅲ、国際農村発展論演習Ⅱ、国際農村発展論演習Ⅲ、農業・農村史演習Ⅱ、農業・農村史演習Ⅲ、農学原論演習Ⅱ、農学原論演習Ⅲ、食料・環境経済学実習、課題研究
森林科学科	農学概論Ⅰ、農学概論Ⅱ、森林基礎科学Ⅰ、森林基礎科学Ⅱ、森林基礎科学Ⅲ、森林基礎科学Ⅳ	森林科学Ⅰ、森林科学Ⅱ、森林科学Ⅲ、森林科学Ⅳ、応用気象学、森林科学実習Ⅰ、森林科学実習Ⅱ、森林科学実習Ⅲ、森林科学実習Ⅳ、研究林実習Ⅰ	国際森林資源論、森林計画学、造園学Ⅰ、造園学Ⅱ、森林利用学、樹木生理学、森林育成学、森林植物学、森林管理システム及び応用技術論、雪氷学基礎論、森林生態学、群集生態学、森林植物繁殖学、野生動物保全学、熱帯林環境学、熱帯森林資源学、樹木細胞生理学、細胞壁形成論、砂防学Ⅰ、砂防学Ⅱ、森林水文学、森林影響論、生物材料物性学、木構造学、木材加工学Ⅰ、木材加工学Ⅱ、セルロース化学、バイオマス化学、森林生化学Ⅰ、森林生化学Ⅱ、高分子合成化学、バイオマス複合材料化学、生物物理化学、パルプ・紙学、専門外国書講義Ⅰ、コンピュータ利用と森林科学、森林総合実習及び実習法、森林生物学実験及び実験法、森林物理学実験及び実験法、森林基礎化学実験及び実験法、森林利用学実習及び実習法、生態学実験及び実験法、樹木の超微形態観察及び観察法、森林水文・砂防学実験及び実験法、木材工学実験及び実験法、木材加工学実験及び実験法、バイオマス化学実験及び実験法Ⅰ、バイオマス化学実験及び実験法Ⅱ、造園学実習Ⅰ、研究林実習Ⅱ、研究林実習Ⅲ、研究林実習Ⅳ	緑地植物学、専門外国書講義Ⅱ、森林ツーリズム論、緑地計画論、森林有機化学、高分子物性学、バイオマスエネルギー、生物圏情報学Ⅰ、生物圏情報学Ⅱ、木材保存学、木質材料学、住環境学、きのこ学、森林科学特別科目Ⅰ、森林科学特別科目Ⅱ、森林科学特別科目Ⅲ、林業政策学、林業経済学、測量学、水理学、土壌学Ⅰ、土壌学Ⅱ、材料力学、構造解析学、振動学、熱力学及び伝熱工学、応用数学、森林分析化学、造園学実習Ⅱ、建築設計・製図実習、森林科学演習、生物圏情報学演習Ⅰ、生物圏情報学演習Ⅱ、課題研究
食品生物科学科	農学概論Ⅰ、農学概論Ⅱ、食品基礎生物学Ⅰ、食品基礎生物学Ⅱ、食品基礎生物学Ⅲ、食品有機化学Ⅰ	食品有機化学Ⅱ、食品物理化学Ⅰ、食品生化学Ⅰ、食品生物科学概論、食品安全学Ⅰ、食品生物科学入門及び実習Ⅰ、食品生物科学入門及び実習Ⅱ	食品有機化学Ⅲ、食品物理化学Ⅱ、食品生化学Ⅱ、食品分子生物学、食品微生物学、食品生理学、酵素化学、生命有機化学、栄養化学、食品工学、食品分子機能学、食品生理機能学、生物機能変換学、生体情報応答学、微生物生産学、食品化学、品質科学、専門外国書講義Ⅰ、食品生物科学基礎実験及び実験法、有機化学実験及び実験法、食品・栄養化学実験及び実験法、化学工学実験及び実験法、酵素化学・生化学実験及び実験法、微生物学実験及び実験法、生命科学実験及び実験法	専門外国書講義Ⅱ、油脂製造加工並びに食品保蔵論、醸造食品学概論、生体触媒化学、食品安全学Ⅱ、食品生物科学演習、課題研究

# RESEARCH ACTIVITIES

## 教員の研究テーマ紹介

ここでは、京都大学教員の研究テーマを学部ごとにご紹介します。  
進路の選択や、興味のある研究テーマを探すための参考にしてください。

### 総合人間学部

#### 足立幸男 教授

現代政治理論、公共政策学

#### 阿辻哲次 教授

漢学の歴史

#### 石原昭彦 教授

神経・筋の可塑性に関する分子生物学的研究

#### 稲垣直樹 教授

■ヴィクトル・ユゴー研究 ■近現代フランス小説とその日本での受容 ■科学技術と擬似科学の文化表象

#### 伊從 勉 教授

近現代建築都市論研究、歴史民俗世界の祭儀空間研究

#### 石田明文 教授

ドイツ近代の知の構造

#### 宇敷重広 教授

力学系の分岐理論、カオス・フラクタル、複素力学系

#### 内田賢徳 教授

古代日本語文法の研究・和歌のこぼのこぼの研究

#### 江田憲治 教授

1920 - 30年代の中国政治史・思想史

#### 大木 充 教授

外国語教授法、動機づけ、自律学習、CALL

#### 岡田温司 教授

イタリアを中心とした中世・近世美術史、芸術理論

#### 岡田敬司 教授

「かかわり」と「コミュニケーション」の人間形成作用

#### 小川 侃 教授

現象学と現代の諸思想、西洋の政治哲学の歴史

#### 愛宕 元 教授

中国中世・近世の社会経済史研究

#### 小田伸午 教授

身体運動の制御機構

#### 尾野照治 教授

ドイツ語圏を中心とするヨーロッパ中世の思想・文芸作品および法書・史書に映し出された騎士の理想像ならびに民衆の生活像

#### 加藤 真 教授

■生物の種間関係に関する生態学的研究 ■生物の多様性と生態系の保全に関する研究

#### 鎌田浩毅 教授

火山学、地質学、地球科学

#### 際本泰士 教授

プラズマ物理学。特に集団的相互作用による多粒子系の自己組織化と輸送過程の実験研究

#### 鯨岡 峻 教授

初期母子関係におけるコミュニケーションの発達

#### 金坂清則 教授

■都市の地域的存在様式に関する研究 ■地域整備に関する歴史地理学的研究 ■19世紀イギリスの女性旅行家とその活動に関する研究

#### 川島昭夫 教授

近代イギリスの文化史、社会生活史および科学の制度史

#### 木村 崇 教授

ロシアを中心とするスラブ世界の文化論的諸問題

#### 小山静子 教授

近代日本における教育とジェンダーに関する歴史的研究

#### 齋藤治之 教授

ドイツ語の歴史および印欧語比較言語学

#### 阪上雅昭 教授

ブラックホールと初期宇宙での非平衡非線形現象

#### 四日谷敏子 教授

アリストテレスとヘーゲル、ハイデッガーの哲学に基づく身体と建築の研究

#### 篠原資明 教授

間哲学と交通論という立場にもとづく芸術の研究

#### 島田真杉 教授

アメリカ現代史における国民統合の研究

#### 新宮一成 教授

精神分析および精神医学の思想と臨床実践の研究

#### 菅原和孝 教授

狩猟採集民の社会と生態、対面相互行為の構造、日常会話の人類学的分析

#### 鈴木雅之 教授

初期近代からロマン主義時代を経てヴィクトリア朝にいたるイギリス文学、視覚芸術・視覚表象文化

#### 水光雅則 教授

言語習得理論にもとづく英文法研究、外国語習得論、英語教育論

#### 杉万俊夫 教授

グループ・ダイナミクス、社会心理学

#### 高崎金久 教授

代数解析、数理論理、可積分系

#### 高橋義人 教授

■ゲート自然科学にもとづく近代科学の批判的検証 ■デモノロジーと近代ヨーロッパ ■グノーシス主義と西欧の宗教史

#### 高橋由典 教授

感情を基点とする社会学理論の研究

#### 田地野 彰 教授

教育言語学、教育文法、外国語の教授と学習、第二言語習得論

#### 田邊玲子 教授

ドイツ文学・女性学

#### 田村 類 教授

■分子のキラリティーが誘起する物質の新しい現象や性質に関する研究 ■新しい光学分割現象のメカニズムの解明とその一般化に関する研究 ■キラル機能性有機化合物の設計・合成と物性に関する研究

#### 玉田 攻 教授

■合成結晶や鉱物の結晶構造解析 ■地球深部物質の巨大結晶の合成 ■鉱物の風化や反応、吸着に関する理論的研究 ■ゼオライトやグラファイト系の環境浄化材料の合成と応用

#### 津田謹輔 教授

糖尿病の成因ならびに合併症に関する研究

#### 東郷雄二 教授

フランス語を中心とする談話機能文法と意味論

#### 富田博之 教授

平衡から離れた系の統計物理学

#### 富田恭彦 教授

■粒子仮説を基盤とした17世紀観念説の論理空間とその変貌 ■現代言語哲学・科学哲学

#### 中西輝政 教授

冷戦後の新しい国際政治秩序の形成と東アジアの地域秩序の相関

#### 長屋政勝 教授

ドイツ社会統計史および統計学史

#### 西井正弘 教授

国境を越える人の移動（難民・移民・逃亡犯罪人など）に関する国際法的規制と国際人権法、国際環境法の研究

#### 西村 稔 教授

18～19世紀ドイツ法文化史および近代日本道徳思想史

#### 西山良平 教授

平安時代の都市・王権・文化

#### 西脇常記 教授

中国古典時代の思想と文化

#### 丹羽隆昭 教授

N. ホーソーンを中心とする19世紀アメリカ文学の研究

#### 服部文昭 教授

スラヴ諸語の研究

#### 林 哲介 教授

イオン結晶、半導体における光励起電子状態の応答と緩和動力学

#### 福岡和子 教授

19世紀アメリカ小説・批評理論

#### 福井勝義 教授

民族間関係と戦い、自然の文化化、牧畜・焼畑民の社会生態

#### 船橋新太郎 教授

ワーキングメモリの神経機構に関する研究

#### カール・ベッカー 教授

宗教と生命・医療倫理・環境倫理の東西比較

#### 堀 智孝 教授

水圏環境の化学、金属酸化物複合体の構造化学、物質の地球循環を解明するための分析化学

#### 前川 覚 教授

極低温における磁性体の量子力学的現象やスピン現象の核磁気共鳴法による研究

#### 松井正文 教授

両生爬虫類の系統分類学的研究

#### 松浦 茂 教授

17・18世紀のアムール川流域史、18世紀東アジア地理学史、清初史

<span></span>
<b>松下和夫 教授</b>
公共政策としての環境政策論の研究。特に地球環境に関する法的・制度的な枠組みの検討と政府・企業・NGOなどの多様な主体の役割の分析。
<b>松田 清 教授</b>
日本洋学史、日欧文化交流史
<b>松村道一 教授</b>
運動制御の神経機構
<b>間宮陽介 教授</b>
公共的空間（コモンズ、都市空間、政治空間）に関する研究
<b>丸橋良雄 教授</b>
英国喜劇と比較演劇
<b>三谷恵子 教授</b>
■言語の構造を分析。■東ヨーロッパ地域の言語を研究する。
<b>道旗泰三 教授</b>
W.ベンヤミン等 19、20 世紀のドイツ文学・思想の研究
<b>三原弟平 教授</b>
カフカ、ベンヤミンなど 20 世紀ドイツ文学・思想
<b>三室 守 教授</b>
光合成の光化学、光物理学的過程の分光学的、分子生物学的解析、ならびに光合成生物の進化、特に色素、タンパク質、反応系に基礎を置く生理学的、分子生物学的解析。光合成生物の環境科学への応用。
<b>宮本嘉久 教授</b>
ソフトマターの構造形成、緩和現象、破壊
<b>村中重利 教授</b>
酸化物薄膜の蒸着
<b>元木泰雄 教授</b>
日本中世成立期の政治史、院政・武士・内乱について
<b>森谷敏夫 教授</b>
生体信号処理・応用生理学
<b>森本芳則 教授</b>
偏微分方程式に対する超局所解析
<b>山口良平 教授</b>
有機金属分子・錯体の構造と触媒機能の探求、ならびにその触媒機能を活用した環境調和型分子変換に関する研究。
<b>山田孝子 教授</b>
東アジア諸民族における宗教と生態に関する人類学的比較研究
<b>山田 誠 教授</b>
北方圏地域の地誌および都市地理学
<b>山梨正明 教授</b>
言語学（意味論・語用論）
<b>山本行男 教授</b>
酵素や生体関連物質の機能解明研究
<b>吉田 純 教授</b>
ドイツの社会思想・社会理論、情報ネットワーク社会の理論的・経済的研究
<b>依田義丸 教授</b>
創造行為としての演劇（特にシェイクスピアを中心とした英米演劇）
<b>エンゲルベルト ヨリッセン 教授</b>
日欧交渉史、西南ヨーロッパのルネッサンス・バロック時代、ヨーロッパの領土拡張政策に関連した問題、比較文化・比較文学、インド英文学
<b>赤松紀彦 助教授</b>
中国古典演劇
<b>浅野耕太 助教授</b>
環境経済学、応用計量経済学

<span></span>
<b>石川尚人 助教授</b>
古地磁気学・岩石磁気学的情報による地球表層部での地学現象（超大陸の形成史、古環境変遷など）の解明
<b>市岡孝朗 助教授</b>
生態学、昆虫学、熱帯雨林における群集生態学
<b>上木直昌 助教授</b>
確率解析学
<b>内本喜晴 助教授</b>
電気化学エネルギー変換
<b>大川 勇 助教授</b>
近現代ドイツ・オーストリア文学、中欧精神史、教養論
<b>大澤真幸 助教授</b>
■社会システムの構造に関する身体論的研究 ■メディア・コミュニケーションの構造に関する研究
<b>岡 真理 助教授</b>
■現代アラブ文学（特に小説） ■第三世界のフェミニズム思想
<b>奥田敏広 助教授</b>
20 世紀ドイツの長編小説-トーマス・マンを中心に-
<b>小畑史子 助教授</b>
労働災害の予防と補償を中心とする労働法、環境法、民法などの研究
<b>勝又直也 助教授</b>
■中世ヘブライ文学 ■ユダヤ学 ■地中海・中東における 3 つの一神教文明の交流史
<b>桂山康司 助教授</b>
英国宗教詩人の研究-ミルトン、ホプキンスを中心に-
<b>加藤幹郎 助教授</b>
映画学ならびに表象文化論（アイルランド亡命文学研究等）
<b>河崎 靖 助教授</b>
言語学・文献学
<b>木坂正史 助教授</b>
力学系理論、特に複素力学系
<b>齋木 潤 助教授</b>
視覚認識の認知神経科学的研究
<b>酒井 敏 助教授</b>
大気・海洋の流体としての力学
<b>櫻川貴司 助教授</b>
計算機科学
<b>佐藤義之 助教授</b>
メルロ＝ポンティ、レヴィナスを手がかりとした、現象学ならびに倫理学の研究
<b>島崎 健 助教授</b>
平安朝文学の研究
<b>杉山雅人 助教授</b>
分析化学、水圏地球化学
<b>須田千里 助教授</b>
日本近代文学の研究
<b>瀬戸口浩彰 助教授</b>
植物系統進化学・植物地理学
<b>大黒弘慈 助教授</b>
貨幣・借入を中心とする経済理論および経済思想史
<b>多賀 茂 助教授</b>
十八世紀フランスの知の構造及びフランス現代思想
<b>高谷 修 助教授</b>
18 世紀英文学及び比較文学

<span></span>
<b>田部勢津久 助教授</b>
光機能性ガラスの設計・無機材料科学、固体光物性
<b>立木秀樹 助教授</b>
プログラミング言語理論、実数計算、連続性と計算可能性の研究
<b>津江広人 助教授</b>
有機ホスト分子を用いた環境浄化材料の開発研究。及び光による環境汚染物質の分解に関する研究
<b>中森誉之 助教授</b>
言語学理論、認知科学理論を基盤とした効果的効率的な外国語指導理論の構築
<b>西垣安比古 助教授</b>
東アジアの住まいに関する建築論的研究 / 住居観の史的研究
<b>林 達也 助教授</b>
運動による糖・脂質・エネルギー代謝活性化とそのメカニズム解明
<b>ブライアン・マサル・ハヤシ 助教授</b>
アメリカ 20 世紀の移民史
<b>日置尊久 助教授</b>
データハイディング
<b>廣野由美子 助教授</b>
19 世紀イギリス小説、小説技法、物語論
<b>ロバート・ファウザー 助教授</b>
社会、文化、歴史的な観点からみた外国語教育の総合研究、第 2・第 3 言語習得論、個別言語（英語、韓国語、日本語）教育論
<b>藤田耕司 助教授</b>
生成文法理論にもとづく自然言語の統語論研究
<b>藤原直樹 助教授</b>
高圧を含む多重（極限）環境下における強相関電子系（超伝導、金属絶縁体転移、低次元量子効果）の核磁気共鳴法による研究
<b>前川玲子 助教授</b>
20 世紀のアメリカ文化研究
<b>松田英男 助教授</b>
イギリスおよびアメリカ映画論
<b>水野尚之 助教授</b>
■アメリカ 19・20 世紀の小説 ■アメリカの都市の成立と文化
<b>水野眞理 助教授</b>
■英国ルネサンス期の物語文学 ■大航海時代およびその後のヨーロッパ人による異文化の表象
<b>道坂昭廣 助教授</b>
南北朝時代から唐までの文学、特に駢文の発展と宴席における文学創作についての研究
<b>宮下英明 助教授</b>
光合成生物の多様性と多機能性、光合成の系統進化、光合成生物を利用した環境リスク低減に関する研究
<b>文学部</b>
<b>伊藤邦武 教授</b>
言語分析による認識論
<b>出口康夫 助教授</b>
統計学・シミュレーションなど現代科学の方法論を視野に入れた認識論・存在論。進化的生物学的人間観を批判的に検討する「新・人間本性論」。

<span></span>
<b>中畑正志 助教授</b>
西洋古代哲学の研究、現代英語圏哲学を視野に入れた「心の哲学」の研究
<b>川添信介 教授</b>
■西洋 13・14 世紀のアヴェロス主義の問題 ■スコラ哲学における身心問題
<b>小林道夫 教授</b>
デカルト哲学を中心とした西洋近世哲学および科学哲学上の諸問題の研究
<b>福谷 茂 助教授</b>
カントを中心とする近世哲学史
<b>藤田正勝 教授</b>
ドイツ観念論における哲学と宗教の問題
<b>水谷雅彦 助教授</b>
■現代倫理学の理論的研究 ■コミュニケーション及び情報の倫理学的研究
<b>氣多雅子 教授</b>
近代のニヒリズムの本質と思想的系譜について
<b>杉村靖彦 助教授</b>
現代フランス思想を手掛かりに、哲学と宗教がそれぞれ深刻な危機にさらされているこの時代になお可能な宗教哲学を追究する。
<b>片柳榮一 教授</b>
ギリシア的存在理解とヘブライ的存在理解の問題を、人間存在の歴史性を解明する方向で考究している。
<b>芦名定道 助教授</b>
近代キリスト教世界の形成と現代キリスト教思想の諸問題について
<b>岩城見一 教授</b>
思弁的美学から実証的美学へ
<b>中村俊春 教授</b>
17 世紀フランドル絵画史
<b>根立研介 教授</b>
日本には、きわめて写実的な肖像彫刻が数多くのごさされているが、その「写実」の意味など、肖像に関する諸問題を研究する。
<b>木田章義 教授</b>
日本語の歴史
<b>大谷雅夫 教授</b>
国文学中国文学の比較研究
<b>大槻 信 助教授</b>
古代日本語の研究
<b>川合康三 教授</b>
唐宋変革期の文学
<b>平田昌司 教授</b>
中国における言語の史的変化と社会変動・情報技術の変遷過程について
<b>木津祐子 助教授</b>
近世以降に編まれた対音資料をもとに、基礎または対象となる中国方言音系を分析する。さらにそれを通して中国語の規範意識の所在を探る。
<b>池田秀三 教授</b>
漢魏六朝の学術と思想
<b>宇佐美文理 助教授</b>
中国宋代思想史。特に存在論と藝術論についての研究
<b>徳永宗雄 教授</b>
古代インド宗教思想史・叙事詩研究
<b>横地優子 助教授</b>
インド古代から中世にかけてのヒンドゥー教の神話・信仰の変遷。特に大女神信仰の形成過程



<b>赤松明彦 教授</b>
古代インドにおける認識論・存在論・論理学・言語哲学の展開についての思想史的研究
<b>御牧克己 教授</b>
インド・チベット仏教思想研究
<b>宮崎 泉 講師</b>
後期インド仏教とそのチベットへの伝播について
<b>中務哲郎 教授</b>
古代ギリシアの説話文学
<b>高橋宏幸 教授</b>
ローマ文学におけるペルソナの研究
<b>佐藤昭裕 教授</b>
スラブ言語学、アスペクト論、テキスト文法
<b>西村雅樹 教授</b>
19世紀末から20世紀前半にかけてのオーストリアの文学ならびに文化の研究
<b>松村朋彦 助教授</b>
18・19世紀ドイツ文学・文化史
<b>宮内 弘 教授</b>
英詩（特にルネサンス期と20世紀）及び文体論研究
<b>佐々木徹 助教授</b>
イギリス小説
<b>廣田篤彦 助教授</b>
初期近代イングランドにおけるナショナルリズムの文学作品における表象について
<b>家入葉子 助教授</b>
12世紀から15世紀にかけての英語の文法構造の変化について
<b>中村紘一 教授</b>
アメリカ文学、特に19世紀アメリカ小説の研究
<b>若島 正 教授</b>
Vladimir Nabokovを中心としたアメリカ小説の研究
<b>吉田 城 教授</b>
フランス近代文学と批評
<b>田口紀子 教授</b>
フランス語学・ナラトロジー
<b>増田 眞 助教授</b>
ルソーを中心とする18世紀フランスの思想と文学
<b>永盛克也 助教授</b>
フランス17世紀演劇の劇作法と文学理論の関係
<b>齊藤泰弘 教授</b>
レオナルド・ダ・ヴィンチの思想研究
<b>天野 恵 助教授</b>
中世ヨーロッパ文学最古のジャンルのひとつである武勲詩の伝統に、古典文学の要素を盛り込んだルネサンス騎士道文学。
<b>鎌田元一 教授</b>
日本古代国家の形成過程および支配構造の解明
<b>藤井謙治 教授</b>
日本近世政治史研究
<b>勝山清次 教授</b>
これまで収取制度を中心に、日本の中世社会の特質を解明しようとしてきた。最近は権門勢家の形成に関心を持っている。
<b>高橋秀直 助教授</b>
明治維新期を中心とする近代日本の政治外交史

<b>吉川真司 助教授</b>
日本古代政治の形式と規範に関する研究、畿内の古代寺院および寺領荘園に関する研究
<b>夫馬 進 教授</b>
中国明清社会研究
<b>杉山正明 教授</b>
モンゴル時代史
<b>吉本道雅 教授</b>
中国古代史（西周～前漢）
<b>中砂明徳 助教授</b>
前近代中国人の歴史認識の研究。すぐれた歴史家の、というよりは「俗流」の歴史観の展開に興味がある。
<b>高嶋 航 助教授</b>
中国近代の社会と文化の諸相
<b>濱田正美 教授</b>
中央ユーラシア史上のイスラーム教と政治の相互関係
<b>久保一之 助教授</b>
前近代中央アジア・イラン史
<b>服部良久 教授</b>
ドイツ中世史
<b>南川高志 教授</b>
元首政期ローマ帝国の政治史的研究
<b>小山 哲 助教授</b>
16～18世紀のポーランドにおける政治文化について
<b>上原真人 教授</b>
日本における瓦生産体制の変遷について
<b>泉 拓良 教授</b>
西日本縄文文化・社会の研究及び、中東フェニキアの考古学的研究
<b>清水芳裕 助教授</b>
自然科学的分析による土器・陶器の製作技術復元
<b>吉井秀夫 助教授</b>
考古資料を通して朝鮮三国時代の地域性や地域間関係を復元し、その意味を考察する。
<b>宇阪直行 教授</b>
感覚・知覚・意識情報処理
<b>藤田和生 教授</b>
動物の知覚・認知機能に関する実験的な分析と「知性」や「心」の進化の探究
<b>櫻井芳雄 教授</b>
記憶の脳内メカニズムを神経細胞の活動から実験的に解明しようとする認知神経科学的研究
<b>板倉昭二 助教授</b>
ヒト乳児およびチンパンジー乳児における社会的認知に関する実験的研究
<b>蘆田 宏 助教授</b>
人間の視覚情報処理とその脳内機構に関する心理物理学的研究
<b>庄垣内正弘 教授</b>
チュルク諸語とりわけ古代ウイグル語の性格の解明
<b>田窪行則 教授</b>
日本語、英語、朝鮮語の統語論・語用論
<b>吉田和彦 教授</b>
インド・ヨーロッパ諸語比較言語学
<b>白井聡子 講師</b>
チベット語および中国西南部少数民族言語の調査研究
<b>松田素二 教授</b>
アフリカ都市社会の研究

<b>田中紀行 助教授</b>
文化と社会構造の関係にかんするマクロ社会学理論の研究；文化エリートの比較歴史社会学的研究
<b>落合恵美子 教授</b>
家族社会学、ジェンダー論、歴史社会学、特に近代家族論
<b>伊藤公雄 教授</b>
人口移動をはじめとする空間的相互作用の理論的・計量的検討
<b>金田章裕 教授</b>
景観の歴史的生態とその認識の研究
<b>石川義孝 教授</b>
人口移動をはじめとする空間的相互作用の理論的・計量的検討
<b>杉浦和子 教授</b>
都市の空間構造の形成や変化の過程に関するモデル化について
<b>米家泰作 助教授</b>
近世・近代日本における地理的知と環境の歴史地理学的検討
<b>内井愼七 教授</b>
科学における確率・統計的思想の浸透
<b>伊藤和行 助教授</b>
16・17世紀イタリアにおける自然哲学および科学思想の歴史的研究
<b>林 晋 教授</b>
情報化社会と情報技術の人文・社会学的分析
<b>杉本淑彦 教授</b>
フランス植民地帝国の社会史をテーマとし、文学・絵画・映画などを素材にして、フランス民衆のアラブ観・イスラーム観を研究している。
<b>紀平英作 教授</b>
20世紀アメリカ合衆国政治史と合衆国を中心とした国際政治史の研究
<b>永井 和 教授</b>
戦前日本における政軍関係の研究
<b>小野澤 透 助教授</b>
第二次世界大戦以降のアメリカ合衆国の中東地域に対する政策の展開を冷戦史の視点から分析している
<b>教育学部</b>
<b>辻本雅史 教授</b>
教育史学：日本教育史・近世思想史
<b>鈴木晶子 教授</b>
教育学：教育哲学・思想史
<b>駒込 武 助教授</b>
教育史学・植民地教育史
<b>山田洋子 教授</b>
発達教育論：生涯発達心理学・ことばとイメージ・フィールド心理学
<b>田中耕治 教授</b>
教育方法学：学力論、授業論、評価論
<b>遠藤利彦 助教授</b>
発達心理学：親子の愛着関係と子どもの社会情緒的発達／感情の進化論・文化論
<b>西岡加名恵 助教授</b>
教育方法学：カリキュラム論、教育評価論

<b>子安増生 教授</b>
発達心理学：視点理解、心の理論、創発的思考
<b>吉川左紀子 教授</b>
認知心理学：顔・表情認識とコミュニケーション
<b>楠見 孝 助教授</b>
認知心理学：比喩・類推、記憶、熟達化、意思決定
<b>齊藤 智 助教授</b>
認知心理学：記憶・作動記憶、言語産出、言語理解
<b>稲垣恭子 教授</b>
教育社会学：学校社会学・青年文化史
<b>岩井八郎 教授</b>
教育社会学：ライフコース・教育と社会移動
<b>川崎良孝 教授</b>
図書館情報学
<b>前平泰志 教授</b>
生涯教育学
<b>渡邊洋子 助教授</b>
生涯教育学
<b>佐藤卓己 助教授</b>
メディア学・広報学
<b>高見 茂 教授</b>
教育政策学：教育資源配分と公共政策
<b>杉本 均 教授</b>
比較教育学：教育と国際関係（東南アジア）
<b>金子 勉 助教授</b>
教育行政学：高等教育に関する立法過程、大学の自治
<b>矢野智司 教授</b>
教育人間学：生成の教育人間学
<b>齋藤直子 助教授</b>
教育人間学：アメリカの教育哲学
<b>河合俊雄 教授</b>
心理臨床学：心理療法の哲学的・理論的検討及びユング心理学の深化
<b>岡田康伸 教授</b>
心理臨床学：人格心理学・心理療法と箱庭療法
<b>桑原知子 助教授</b>
心理臨床学：人格心理学
<b>藤原勝紀 教授</b>
臨床実践指導学：臨床イメージ法による心理体験の研究
<b>皆藤 章 助教授</b>
臨床実践指導学：心理臨床学・心理療法と教育の接点
<b>伊藤良子 教授</b>
（臨床教育実践研究センター）臨床心理実践学：心理療法及び臨床人間形成に関する研究
<b>角野善宏 助教授</b>
（臨床教育実践センター）臨床心理実践学：心理療法のもつ治療的効果の研究
<b>法学部</b>
法学部の教員研究テーマ紹介については法学部の学部紹介（48P、49P）に記載されています。







<b>湊 長博 教授</b> 免疫細胞生物学
<b>玉木敬二 教授</b> 法医学
<b>月田承一郎 教授</b> 分子細胞情報学
<b>野田 亮 教授</b> 分子腫瘍学
<b>篠原隆司 教授</b> 分子遺伝学
<b>武田俊一 教授</b> 放射線遺伝学
<b>金子武嗣 教授</b> 高次脳形態学
<b>河野憲二 教授</b> 認知行動脳科学
<b>大森治紀 教授</b> 神経生物学
<b>成宮 周 教授</b> 神経・細胞薬理学
<b>芹川忠夫 教授</b> 実験動物学
<b>松田文彦 教授</b> 疾患ゲノム疫学解析
<b>平出 敦 教授</b> 医学教育、救急医学、蘇生学
<b>福山秀直 教授</b> 脳機能イメージング
<b>内山 卓 教授</b> 血液・腫瘍内科学
<b>中尾一和 教授</b> 内分泌・代謝内科学
<b>北 徹 教授</b> 循環器内科学
<b>千葉 勉 教授</b> 消化器内科学
<b>三嶋理晃 教授</b> 呼吸器内科学
<b>三森経世 教授</b> 臨床免疫学
<b>稲垣暢也 教授</b> 糖尿病・栄養内科学
<b>宮地良樹 教授</b> 皮膚科学
<b>中畑龍俊 教授</b> 発達小児科学
<b>平岡真寛 教授</b> 放射線腫瘍学・画像応用治療学
<b>富樫かおり 教授</b> 画像診断学・核医学
<b>一山 智 教授</b> 臨床病態検査学
<b>福田和彦 教授</b> 麻酔科学
<b>藤井信吾 教授</b> 婦人科学・産科学
<b>小川 修 教授</b> 泌尿器科学
<b>米田正始 教授</b> 心臓血管外科学

<b>和田洋巳 教授</b> 呼吸器外科学
<b>鈴木茂彦 教授</b> 形成外科学
<b>吉村長久 教授</b> 眼科学
<b>伊藤壽一 教授</b> 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
<b>中村孝志 教授</b> 整形外科学
<b>藤田 潤 教授</b> 分子病診療学
<b>坂井義治 教授</b> 腫瘍外科学
<b>高橋良輔 教授</b> 臨床神経学
<b>橋本信夫 教授</b> 脳神経外科学
<b>林 拓二 教授</b> 精神医学
<b>佐藤俊哉 教授</b> 医療統計学
<b>福原俊一 教授</b> 医療疫学
<b>今中雄一 教授</b> 医療経済学
<b>小杉真司 教授</b> 医療倫理学
<b>小泉昭夫 教授</b> 環境衛生学
<b>白川太郎 教授</b> 健康増進・行動学
<b>木原正博 教授</b> 社会疫学
<b>中原俊隆 教授</b> 健康政策・国際保健学
<b>前川 平 教授</b> 輸血医学、血液学
<b>真鍋俊明 教授</b> 診断病理学（一般）、皮膚病理学、肺病理学
<b>吉原博幸 教授</b> 病院情報システム学、医療情報交換規格
<b>乾 賢一 教授</b> 医療薬剤学、薬物動態学
<b>清水 章 教授</b> 分子生物学、遺伝子医学
<b>福島雅典 教授</b> 臨床試験管理学、薬剤疫学
<b>横出正之 教授</b> 先端医療構築学、高齢医学
<b>中嶋善明 助教授</b> 生体情報科学
<b>出沢真理 助教授</b> 機能微細形態学
<b>光家 保 助教授</b> 細胞機能制御学
<b>高橋 玲 助教授</b> 腫瘍生物学

<b>豊國伸哉 助教授</b> 病態生物医学
<b>河村伊久雄 助教授</b> 微生物感染症学
<b>古瀬幹夫 助教授</b> 分子細胞情報学
<b>北山仁志 助教授</b> 分子腫瘍学
<b>川本卓男 助教授</b> 放射線遺伝学
<b>園田英一朗 助教授</b> 放射線遺伝学
<b>加藤伸郎 助教授</b> 認知行動脳科学
<b>石井孝広 助教授</b> 神経生物学
<b>渡邊直樹 助教授</b> 神経・細胞薬理学
<b>長峯 隆 助教授</b> 臨床脳生理学
<b>橋川一雄 助教授</b> 脳機能イメージング
<b>伊藤 裕 助教授</b> 内分泌・代謝内科学
<b>松森 昭 助教授</b> 循環器内科学
<b>木村 剛 助教授</b> 循環器内科学
<b>長井苑子 助教授</b> 呼吸器内科学
<b>山田祐一郎 助教授</b> 糖尿病・栄養内科学
<b>守谷厚志 助教授</b> 皮膚科学
<b>平家俊男 助教授</b> 発達小児科学
<b>永田 靖 助教授</b> 放射線腫瘍学・画像応用治療学
<b>佐賀恒夫 助教授</b> 画像診断学・核医学
<b>飯沼由嗣 助教授</b> 臨床病態検査学
<b>嵐原康行 助教授</b> 消化器外科学
<b>高倉賢二 助教授</b> 婦人科学・産科学
<b>賀本敏行 助教授</b> 泌尿器科腫瘍学、前立腺癌、分子遺伝学
<b>池田 義 助教授</b> 心臓血管外科学、先天性心疾患の外科治療
<b>鈴木義久 助教授</b> 形成外科学
<b>喜多美穂里 助教授</b> 眼科学
<b>田中信三 助教授</b> 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
<b>川那辺圭一 助教授</b> 整形外科学
<b>村上賢一郎 助教授</b> 口腔外科学

<b>下濱 俊 助教授</b> 臨床神経学
<b>野崎和彦 助教授</b> 脳神経外科学
<b>村井俊哉 助教授</b> 精神医学
<b>大森 崇 助教授</b> 医療統計学
<b>松井茂之 助教授</b> 薬剤疫学、生物統計学
<b>石崎達郎 助教授</b> 医療経済学
<b>沼部博直 助教授</b> 医療倫理学
<b>中山健夫 助教授</b> 健康情報学
<b>木原雅子 助教授</b> 社会疫学
<b>里村一成 助教授</b> 健康政策・国際保健学
<b>荒井俊之 助教授</b> 虚血再灌流傷害の研究
<b>柴田登志也 助教授</b> 画像診断学
<b>山田圭介 助教授</b> 救急医学、脳神経外科学、再生医工学
<b>陳 和夫 助教授</b> 呼吸器内科、呼吸管理、睡眠呼吸障害
<b>長瀬啓介 助教授</b> 医療管理及び同領域での情報システム応用
<b>白神豪太郎 助教授</b> 麻酔科学
<b>桂 敏也 助教授</b> 医療薬剤学、生物薬剤学
<b>西尾彰功 助教授</b> 消化器病学、消化管内視鏡学
<b>江川裕人 助教授</b> 肝移植
<b>田中 誠 助教授</b> 地域医療学・加齢医学
<b>高田泰次 助教授</b> 肝移植
<b>高橋政代 助教授</b> 網膜への細胞移植の研究
<b>赤水尚史 助教授</b> 内分泌学、甲状腺学、神経内分泌学
<b>井戸章雄 助教授</b> 肝臓病学、消化器内科学
<b>南幸太郎 助教授</b> 分子糖尿病学、再生医学
<b>中村 肇 助教授</b> 感染・炎症・ストレスと生体防御レドックス生物学
<b>王 英正 助教授</b> 重症心不全への心筋幹細胞移植療法の確立
<b>石橋 誠 講師</b> 形態形成機構学
<b>青木正博 講師</b> 遺伝薬理学

<b>山田義博 講師</b> 病態生物医学
<b>鶴山竜昭 講師</b> 法医学
<b>藤山文乃 講師</b> 高次脳形態学
<b>庫本高志 講師</b> 実験動物学
<b>山岡章浩 講師</b> 医学教育学・学習科学・認知心理学
<b>石川隆之 講師</b> 血液・腫瘍内科学
<b>堀 利行 講師</b> 血液・腫瘍内科学
<b>門脇則光 講師</b> 血液・腫瘍内科学
<b>細田公則 講師</b> 内分泌・代謝内科学
<b>向山政志 講師</b> 腎臓病学, 高血圧, 内分泌学
<b>中川義久 講師</b> 循環器内科学
<b>久米典昭 講師</b> 循環器内科学
<b>三尾直士 講師</b> 肺癌
<b>藤井隆夫 講師</b> 臨床免疫学
<b>若月芳雄 講師</b> 加齢医学
<b>荒井秀典 講師</b> 加齢医学
<b>松吉徳久 講師</b> 皮膚科学
<b>高橋健造 講師</b> 皮膚科分子生物学, 細胞生物学
<b>依藤 亨 講師</b> 内分泌代謝
<b>足立壯一 講師</b> 発達小児科学
<b>溝脇尚志 講師</b> 放射線腫瘍学・画像応用治療学
<b>光森通英 講師</b> 放射線腫瘍学・画像応用治療学
<b>安里令人 講師</b> 画像診断学・核医療
<b>上田幹子 講師</b> 移植免疫医学
<b>猪飼伊和夫 講師</b> 消化器外科学
<b>佐藤誠二 講師</b> 消化器外科学
<b>廣田喜一 講師</b> 麻酔科学
<b>藤原 浩 講師</b> 婦人科学・産科学
<b>伊東宏晃 講師</b> 婦人科学・産科学
<b>伊藤哲之 講師</b> 泌尿器科学

<b>西山博之 講師</b> 泌尿器科学
<b>田中文啓 講師</b> 呼吸器外科学
<b>福瀬達郎 講師</b> 呼吸器外科学
<b>板東 徹 講師</b> 呼吸器外科学
<b>田邊晶代 講師</b> 眼科学
<b>辻 純 講師</b> 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学
<b>根尾昌志 講師</b> 整形外科
<b>中川泰彰 講師</b> 整形外科
<b>西田光男 講師</b> 口腔外科学
<b>坪井陽一 講師</b> 口腔外科学
<b>伊藤克彦 講師</b> 分子病診療学
<b>嶋田 裕 講師</b> 腫瘍外科学
<b>土井隆一郎 講師</b> 腫瘍外科学
<b>池田昭夫 講師</b> 臨床神経学
<b>高橋 潤 講師</b> 脳神経外科学
<b>高橋 淳 講師</b> 脳神経外科学
<b>岸本卓三 講師</b> 精神医学
<b>須賀英道 講師</b> 精神医学
<b>森田智視 講師</b> 医療疫学
<b>井上佳代子 講師</b> 環境衛生学
<b>伊藤順子 講師</b> 臨床神経生理学
<b>岡野嘉明 講師</b> 循環・呼吸病態生理学, 肺高血圧症の臨床, 心・血管超音波診断, 臨床心電図学
<b>刈谷方俊 講師</b> 婦人科腫瘍学
<b>深津敦司 講師</b> 腎臓内科
<b>中嶋安彬 講師</b> 診断病理学, 骨腫瘍
<b>細川雅也 講師</b> 糖尿病学, 臨床栄養学
<b>黒田知宏 講師</b> 医療情報学, 福祉情報学, VR
<b>瀬川 一 講師</b> 集中治療医学, 麻酔科学
<b>小山 弘 講師</b> 呼吸器内科, 臨床疫学, 一般内科

<b>増田智先 講師</b> 薬物の体内動態・毒性発現の分子機構解明
<b>保健学科</b>
<b>稲本 俊 教授</b> 腫瘍外科学・腫瘍免疫学
<b>齋藤ゆみ 教授</b> 基礎看護学(感染・生体防御看護論)
<b>菅 佐和子 教授</b> 臨床心理学
<b>日隈ふみ子 教授</b> 助産学・母性看護学
<b>宮島朝子 教授</b> 環境看護学「人間—環境系」の視点からみた療養者の生活環境と生活リズムの関係性
<b>桂 敏樹 教授</b> 地域看護学(老人保健学)
<b>江川隆子 教授</b> 成人看護学(糖尿病患者のフットケア・腎不全患者のセルフケア)
<b>櫻庭 繁 教授</b> 精神看護学, リエゾン精神看護学, 自殺, 失感情症, 病跡学
<b>我部山キヨ子 教授</b> 助産学・母性看護学・女性生涯看護学
<b>林 優子 教授</b> 成人看護学(臓器移植看護及び患者に関する研究)
<b>成木弘子 教授</b> 地域看護学(地域ケアシステム構築における市民参画に関する研究)
<b>柳吉桂子 助教授</b> 助産学・母性看護学
<b>祖父江育子 助教授</b> 小児看護学(小児期・青年期のライフスタイルと健康に関する研究)
<b>赤澤千春 助教授</b> 急性期成人看護 生体肝臓移植術を受けた成人患者の術後精神症状に関する研究, 術後精神症状の発症と生体リズムとの関係に関する研究
<b>星野明子 助教授</b> 地域看護学 地方都市における地域組織活動の効果に関する研究—F市保健推進員活動経験者が参加者の保健行動に与える影響—
<b>若村智子 助教授</b> 生体リズムからみた生活環境調整に関する研究。睡眠に関する研究
<b>岡島文恵 講師</b> 母性看護学・助産学
<b>奥津文子 講師</b> 成人・老年看護学(慢性期看護・痴呆ケア)
<b>笹田昌孝 教授</b> 血液内科学・感染症学
<b>川寄伸子 教授</b> 生化学・糖鎖生物学
<b>福田耕治 教授</b> 物理学・電波分光学・核磁気共鳴
<b>天野 殖 教授</b> 実験てんかん学, 神経病理学
<b>福田善弘 教授</b> 肝臓病学・臨床免疫学

<b>藤田正俊 教授</b> 内科学・循環器内科学
<b>月田早智子 教授</b> 細胞生物学
<b>梅村晋一郎 教授</b> 医用理工学全般とくに医用超音波工学
<b>船渡忠男 教授</b> 臨床検査医学, 腫瘍学(バイオマーカー, 抗がん剤), 遺伝子工学(遺伝子検査)
<b>後藤俊幸 助教授</b> 微生物学・感染制御学
<b>池本正生 助教授</b> 臨床生化学・臨床酵素学に関する研究
<b>大塚研一 助教授</b> 偏微分方程式論
<b>笹山 哲 助教授</b> 医療情報処理
<b>野村 巖 教授</b> 神経解剖学・機能解剖学
<b>坪山直生 教授</b> 筋・骨格系病態学
<b>笠原勝幸 助教授</b> 整形外科学・運動学
<b>バジュエル, プライアン スティーブン 助教授</b> 自律神経の反射
<b>黒木裕士 助教授</b> 遠心性収縮による運動療法がラット骨格筋に及ぼす影響に関する研究, 超音波装置を用いた軟骨の評価に関する研究
<b>市橋則明 助教授</b> 筋力トレーニングに関する筋電図学的解析及びトレーニング効果に関する研究
<b>玉木 彰 助教授</b> 運動と呼吸のリズムに関する研究, 呼吸理学療法に関する研究
<b>小西紀一 教授</b> 発達障害の作業療法・自閉症児に対する感覚統合療法の効果・コミュニケーション障害に対する作業療法
<b>山根 寛 教授</b> 精神障害のリハビリテーション, 作業活動を介したコミュニケーションとグループダイナミクス
<b>三谷 章 教授</b> 神経科学
<b>十一元三 教授</b> 精神医学, 認知神経科学, 発達障害学, 児童司法精神医学
<b>種村留美 助教授</b> 高次神経障害のリハビリテーション
<b>赤松智子 講師</b> 神経難病のリハビリテーション
<b>加藤寿宏 講師</b> 発達障害の作業療法









**伊藤和博 助教授**  
材料工学専攻・材料科学コース 薄膜材料の作製と物性

---

**邑瀨邦明 助教授**  
材料工学専攻・材料科学コース 電気化学のもしくは化学的手法による金属および化合物薄膜の作製プロセスとその機能評価

---

**奥田浩司 助教授**  
国際融合創造センター・材料科学コース 多相・複合化材料の構造解析と機能最適化デザイン

---

**黒川 修 助教授**  
国際融合創造センター・材料科学コース メソスコピック電子現象の研究

**石原慶一 教授**  
エネルギー科学研究科エネルギー社会・環境科学専攻・エネルギー応用工学サブコース エネルギー・環境材料, エネルギー・環境教育, エネルギー・環境負荷評価

**奥村英之 助教授**  
エネルギー科学研究科エネルギー社会・環境科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 環境材料, 機能性材料, 環境教育, エネルギー環境負荷評価

**萩原理加 教授**  
エネルギー科学研究科エネルギー基礎科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 無機合成化学, 物理化学, 電気化学

**伊藤澄子 助教授**  
エネルギー科学研究科 エネルギー基礎科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 統計素粒子物理学

**富井洋一 助教授**  
エネルギー科学研究科 エネルギー基礎科学専攻・エネルギー応用工学サブコース プラスマ材料合成, マイクロキャラクターゼーション

**塩路昌宏 教授**  
エネルギー科学研究科 エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 熱機関における燃焼現象の解明とその制御

**松本英治 教授**  
エネルギー科学研究科 エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 連続体中の波動伝ばと電磁場下の材料の挙動

**石山拓二 教授**  
エネルギー科学研究科 エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 内燃機関の燃焼と排気

**星出敏彦 教授**  
エネルギー科学研究科 エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース セラミックス系材料の強度と金属疲労に関する実験と数値シミュレーション, セラミック薄膜の創製とその機械的特性的評価

**今谷勝次 助教授**  
エネルギー科学研究科 エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 高温非弾性変形と材料加工プロセスの解析

**川那辺洋 助教授**  
エネルギー科学研究科 エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 乱流燃焼の光学計測および数値解析

**琵琶志朗 助教授**  
エネルギー科学研究科 エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 非線形超音波計測によるエネルギー機器の機能・健全性評価

**岩瀬正則 教授**  
エネルギー科学研究科 エネルギー応用科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 鉄鋼生産をはじめとするエネルギー多量消費型材料生産のプロセスに関する熱化学とプロセス物理化学

**鈴木亮輔 助教授**  
エネルギー科学研究科 エネルギー応用科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 金属やセラミックスの材料熱化学, 高温を使ったエネルギープロセスの新提案や, 従来法の解析

**藤原弘康 助教授**  
エネルギー科学研究科 エネルギー応用科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 鉄鋼精錬の熱力学およびエネルギー解析

**MOHAMMADI ALI 講師**  
エネルギー科学研究科 エネルギー変換科学専攻・エネルギー応用工学サブコース 水素および天然ガス機関の燃焼と排気特性

## 電気電子工学科

**荒木光彦 教授**  
複合システム論, 医療システム工学, 自動制御工学

**古谷栄光 助教授**  
制御理論の医療への応用に関する研究, モデル予測制御系, 状態予測制御系に関する研究, 最適化手法の応用に関する研究, スケジューリング問題の解法に関する研究

**島崎真昭 教授**  
超並列計算機による計算電磁界解析法とソフトウェアの研究

**松尾哲司 助教授**  
計算電磁界解析, ヒステリシス要素を含む非線形システムの研究

**上原哲太郎 助教授**  
コンパイラ, 計算機システム管理, インターネット技術, セキュリティ技術, マルチメディア放送

**小林哲生 教授**  
主体医学工, 脳機能イメージング, 生体計測, 生体信号処理, 高次脳機能の研究

**濱田昌司 講師**  
表面電荷法, 電荷重量法などによる, 高電圧環境下の複合誘電場の数値電磁界解析, 空間電荷の形成する場が, 放電進展におよぼす影響の実験的検討ならびに, 放電進展数値シミュレーション

**引原隆士 教授**  
パワーエレクトロニクス, 電力システムの安定化制御手法の検討, 磁気浮上システム, 非線形力学応用工学

**舟木 剛 助教授**  
パワーエレクトロニクス, 電力用半導体素子のモデリング, スイッチ素子による非線形現象の解析

**和田修己 教授**  
電気回路モデリング, デジタル EMC 実装工学, 電磁波工学

**久門尚史 助教授**  
非線形回路システム, 分布定数回路システム, アルゴリズムのハードウェア化

**萩原朋道 教授**  
デジタル/サンプリング制御理論, 2自由度最適制御系の理論と応用, 動的システム理論

**大澤靖治 教授**  
電力システムの安定度解析ならびに安定化制御

**垣本直人 助教授**  
電力システムの安定度解析及び制御

**松澤淳一 講師**  
群の表現と幾何学の研究

**鈴木 実 教授**  
異種電子材料の集積による新しいデバイス機能の創製, 超伝導物性工学, 複合酸化物電子応用

**芝内孝禎 助教授**  
遷移金属酸化物物性工学, 低温物理学, 超伝導工学

**石川順三 教授**  
■イオンビーム装置の開発とその応用 ■真空ナノ(マイクロ)エレクトロニクス

**後藤康仁 助教授**  
電界放出現象の解明とその応用, PVD法による薄膜形成技術開発

**橋 邦英 教授**  
■プラズマ中の原子分子過程と集団的性質の実験的研究 ■プラズマを応用した電子材料の薄膜形成と超微細加工

**木本恒暢 助教授**  
ワイドギャップ半導体の結晶成長, 物性制御とデバイス応用

**須田 淳 講師**  
ワイドギャップ半導体ヘテロエピタキシーと機能デバイスへの応用

**松重和美 教授**  
■分子ナノエレクトロニクス ■有機電子材料の構造制御と電子物性 ■ナノテクノロジー

**山田啓文 助教授**  
ナノスケール構造の光・電子物性とその応用

**川上養一 助教授**  
原子レベルで制御された低次元量子構造において発現する新しい光物性の解明と探索

**船戸 充 講師**  
光材料の育成と物性探索

**野田 進 教授**  
■光半導体・光結晶, ■超高速光エレクトロニクス, ■情報通信・ネットワーク用光デバイス

**浅野 卓 講師**  
半導体光デバイスの研究

**北野正雄 教授**  
光計測・量子光学

**杉山和彦 助教授**  
高精度レーザー制御・計測, 光シンセサイザ

**高岡義寛 教授**  
クラスターイオンビーム技術による高機能材料創製の研究

**川下将一 講師**  
クラスターイオンビーム技術による高機能バイオマテリアルの創製に関する研究

**中村敏浩 講師**  
電子材料プロセスの分光診断と反応解析

**石田謙司 講師**  
有機分子の光・電子機能, 薄膜構造解析

**佐藤理史 助教授**  
自然言語処理, 特に情報の自動編集に関する研究

**宇津呂武仁 講師**  
自然言語処理に関する研究

**松山隆司 教授**  
デジタル画像・映像の処理, 認識, 表示, 生成, 編集のためのソフトウェアおよびハードウェアの研究

**牧 淳人 助教授**  
画像処理・パターン認識

**吉田 進 教授**  
■高信頼度デジタル通信技術 ■無線情報ネットワーク

**森広芳照 教授**  
マルチメディア通信統合技術の研究

**田野 哲 助教授**  
適応信号処理, 伝送路符号化, ソフトウェア無線技術を駆使した次世代無線通信システムの研究

**高橋連郎 教授**  
マルチメディアネットワークアーキテクチャ, プロトコル, システム構成技術

**朝香卓也 助教授**  
情報ネットワークの制御・設計・管理技術

**中村行宏 教授**  
新しいプロセッサ・アーキテクチャとその方式設計技術, マルチメディア/通信融合環境

**越智裕之 助教授**  
再構成アーキテクチャ, マルチメディア機器向け VLSI 技術

**小野寺秀俊 教授**  
VLSI の設計手法と CAD 技術

**小林和淑 助教授**  
大規模集積回路のアーキテクチャと設計技術

**佐藤 亨 教授**  
地下探査, 降雨観測, 宇宙環境探査などにおけるレーダ信号処理法の研究

**乗松誠司 助教授**  
光通信, 特に光ファイバ通信に関する研究

**杉本直三 助教授**  
医用画像処理・表示・診断支援システムについて

**松田哲也 教授**  
医用画像診断法および生体物理計測法の開発

**天野 晃 助教授**  
■生体シミュレーション ■3次元画像処理 ■文書画像処理

**吉川榮和 教授**  
■ヒューマンインタフェース ■仮想現実感 ■人間と機械の相互作用のモデル化とシミュレーション

**下田 宏 助教授**  
エネルギーシステムを支える情報技術とヒューマンインタフェース技術

**近藤克己 教授**  
高温プラズマ中の多価電離イオンの挙動および電磁エネルギーの放射について

**中村祐司 助教授**  
核融合プラズマの閉じ込め及び電磁流体力学的性質に関するコンピュータ数値解析・シミュレーション

**野澤 博 教授**  
熱, 光, イオン, プラズマ等各種最先端エネルギーを応用した超 LSI のデバイス構造についての基礎的研究

**塩津正博 教授**  
■核融合炉用の大型超伝導電磁石の超流動ヘリウム冷却 ■高温超伝導体を用いたエネルギー機器の冷却安定性 ■核融合炉からの高密度熱除去

**白井康之 助教授**  
超伝導現象のエネルギー応用に関する研究

**藤田静雄 教授**  
量子機能薄膜材料の育成と物性探索, 有機エレクトロニクスの材料



<b>柴田誠一 教授</b>
物質エネルギー化学専攻・協力講座 放射性同位体の生成と利用に関する放射化学的研究
<b>年光昭夫 教授</b>
物質エネルギー化学専攻・協力講座 有機ヘテロ元素化学を利用する材料合成
<b>小澤文幸 教授</b>
物質エネルギー化学専攻・協力講座 高効率遷移金属錯体触媒の開発と機能物質合成
<b>木下知己 助教授</b>
物質エネルギー化学専攻 炭水素活性種の物理有機化学
<b>近藤輝幸 助教授</b>
物質エネルギー化学専攻 新規有機金属錯体の合成とその触媒機能の開発
<b>山本雅博 助教授</b>
物質エネルギー化学専攻 固体、固液、液液界面の物理化学
<b>安部武志 助教授</b>
物質エネルギー化学専攻 電極、電解質材料のインターカレーションケミストリー
<b>菊池隆司 助教授</b>
物質エネルギー化学専攻 エネルギー変換材料開発システムに関する研究
<b>北川敏一 助教授</b>
物質エネルギー化学専攻・協力講座 新規バイ共役系化合物の構造と反応、機能性有機ナノ構造体の構築
<b>沖 雄一 助教授</b>
物質エネルギー化学専攻・協力講座 放射性エアロゾルの生成機構と性質の解明
<b>岡崎雅明 助教授</b>
物質エネルギー化学専攻・協力講座 新規遷移金属クラスターの合成と機能発現
<b>和田健司 講師</b>
物質エネルギー化学専攻 炭素資源変換に用いる新規触媒材料の開発
<b>白川昌宏 教授</b>
分子工学専攻 生体高分子の立体構造と生体計測手法に関する研究
<b>榊 茂好 教授</b>
分子工学専攻 化学反応の理論研究、複合電子系の量子化学研究
<b>田中一義 教授</b>
分子工学専攻 分子ナノ工学、量子機能材料の設計と電子物性解析
<b>田中庸裕 教授</b>
分子工学専攻 エアロビック酸化触媒系の開発、光触媒化学、触媒構造・機能・設計
<b>今堀 博 教授</b>
分子工学専攻 人工光合成系の構築、有機太陽電池の開発
<b>川崎昌博 教授</b>
分子工学専攻 化学反応ダイナミクス、大気環境化学反応
<b>横尾俊信 教授</b>
分子工学専攻・協力講座 機能性無機材料の創製、有機-無機ハイブリッド低温溶融ガラスの構造、機能設計
<b>渡辺 宏 教授</b>
分子工学専攻・協力講座 高分子ダイナミクス、不均質物質の変形、流動とダイナミクス
<b>堀井文敬 教授</b>
分子工学専攻・協力講座 高分子の種々の状態における構造と分子運動、高度組織化分子材料の構造と機能、微生物セルロース系ナノハイブリッド材料の創製
<b>佐藤啓文 助教授</b>
分子工学専攻 溶液内分子の量子化学・統計力学と化学反応理論

<b>俣野善博 助教授</b>
分子工学専攻 高原子価ビスマス化合物の化学とヘテロ原子を含む機能性材料の化学
<b>川崎三津夫 助教授</b>
分子工学専攻 感光材料の光物理化学と表面化学
<b>高橋雅英 助教授</b>
分子工学専攻・協力講座 光機能性無機固体材料の基礎科学と応用開発
<b>井上正志 助教授</b>
分子工学専攻・協力講座 流動光学、高分子ダイナミクス、分子レオロジー
<b>梶 弘典 助教授</b>
分子工学専攻・協力講座 非晶質材料の構造と発光特性、特に有機EL、新しい個体NMR法の開発。乱れた構造をもつ高分子材料の構造およびダイナミクス
<b>佐藤 徹 助教授</b>
分子工学専攻・協力講座 物性理論化学と炭素材料の電子物性解析
<b>増田俊夫 教授</b>
高分子化学専攻 遷移金属触媒を用いた新規高分子の設計と合成、置換ポリアセチレンの合成と特性、機能性高分子
<b>澤本光男 教授</b>
高分子化学専攻 高分子精密合成、カチオン重合、ラジカル重合
<b>中條善樹 教授</b>
高分子化学専攻 新しい高分子合成反応の開拓、インテリジェント高分子の創成、高分子ナノハイブリッド材料
<b>吉崎武尚 教授</b>
高分子化学専攻 高分子溶液学、高分子ダイナミクス、高分子統計力学
<b>田中文彦 教授</b>
高分子化学専攻 高分子基礎物理化学、高分子理論物性学、高分子の会合とゲル化に関する理論・シミュレーション
<b>伊藤紳三郎 教授</b>
高分子化学専攻 高分子光物理・光化学、機能性高分子、高分子構造、高分子超薄膜
<b>長谷川博一 助教授</b>
高分子化学専攻 高分子形態学、ブロックコポリマー・ポリマーブレンド・高分子液晶の構造と物性、エレクトロクロモグラフィー
<b>松岡秀樹 助教授</b>
高分子化学専攻 高分子界面化学、両親媒性高分子の自己組織化、高分子微粒子
<b>中 建介 助教授</b>
高分子化学専攻 高分子合成、有機無機複合高分子、新規重合法の開拓
<b>三田文雄 助教授</b>
高分子化学専攻 高分子合成、アミノ酸ポリマー
<b>中村 洋 助教授</b>
高分子化学専攻 分枝高分子溶液物性
<b>堂寺知成 助教授</b>
高分子化学専攻 高分子計算物性学、自己組織化の分子シミュレーション
<b>糰谷 信三 教授</b>
高分子化学専攻・協力講座 機能性高分子材料の合成、構造ならびに物性
<b>松山奉史 教授</b>
高分子化学専攻・協力講座 粒子線による機能高分子の創成・改質、環境応答性高分子の合成と物性、有機EL素子用高分子材料の設計と合成
<b>福田 猛 教授</b>
高分子化学専攻・協力講座 リビングラジカル重合の反応速度論、高分子材料の精密設計

<b>金谷利治 教授</b>
高分子化学専攻・協力講座 高分子高次構造制御を目指した 1) 高分子結晶化過程の解明 2) 高分子ガラス転移機構の解明 3) 高分子ゲルの生成機構と階層構造
<b>岩田博夫 教授</b>
高分子化学専攻・協力講座 高分子材料の医療への応用と細胞・組織工学の研究
<b>田畑泰彦 教授</b>
高分子化学専攻・協力講座 生体材料、再生医工学、ドラッグデリバリーシステム(DDS)、幹細胞工学
<b>辻 正樹 助教授</b>
高分子化学専攻・協力講座 結晶性高分子の固体の構造とその形成過程
<b>辻井敬亘 助教授</b>
高分子化学専攻・協力講座 高分子表面設計、高分子超薄膜、高分子ブラシの合成と物性
<b>西田幸次 助教授</b>
高分子化学専攻・協力講座 高分子電解質溶液の構造、高分子の結晶化
<b>加藤功一 助教授</b>
高分子化学専攻・協力講座 生体材料、バイオエンジニアリング
<b>中辻 博 教授</b>
合成・生物化学専攻 新しい化学理論の開発、励起分子、触媒作用および生体分子の量子化学、化学における相対論の役割
<b>吉田潤一 教授</b>
合成・生物化学専攻、新しい有機合成法の開発、機能性物質および生物活性物質の合成
<b>今中忠行 教授</b>
合成・生物化学専攻 生物学、極限環境微生物学、環境バイオテクノロジー
<b>北川 進 教授</b>
合成・生物化学専攻 錯体化学、多重機能化学、ナノポーラス錯体マテリアル
<b>青山安宏 教授</b>
合成・生物化学専攻 生体認識化学、生体機能工学、応用細胞工学、ゲノム工学
<b>村上正浩 教授</b>
合成・生物化学専攻 有機金属化学および有機合成化学
<b>森 泰生 教授</b>
合成・生物化学専攻 細胞生理科学、遺伝子工学、分子神経生物学、タンパク質科学、生体分子機能測定
<b>杉野目道紀 教授</b>
合成・生物化学専攻 精密有機合成を目指した新反応開拓、新規高分子材料を指向した精密重合法開拓
<b>浜地 格 教授</b>
合成・生物化学専攻 生命分子化学、生物有機・無機化学、細胞内有機化学、超分子バイオマテリアル
<b>跡見晴幸 助教授</b>
合成・生物化学専攻 微生物を対象とした生化学・分子生物学
<b>伊藤義勝 助教授</b>
合成・生物化学専攻 有機固体化学および光化学反応
<b>江原正博 助教授</b>
合成・生物化学専攻 理論精密分光学、励起状態ダイナミクス、密度行列の直接決定法
<b>世良貴史 助教授</b>
合成・生物化学専攻 人工DNA結合タンパク質を用いた生命現象の人為的操作
<b>菅 誠治 助教授</b>
合成・生物化学専攻 新しい合成手法の開発と有機合成への応用

<b>大場正昭 助教授</b>
合成・生物化学専攻 金属錯体、錯体磁性体の誘電性・磁気光学特性、多孔性磁性体
<b>若森 実 助教授</b>
合成・生物化学専攻 神経生理学、細胞電気測定法、イオンチャンネル研究
<b>東谷 公 教授</b>
化学工学専攻 液相微粒子分散系の移動現象の基礎と応用に関する研究
<b>宮原 稔 教授</b>
化学工学専攻 界面制御工学、ナノ空間工学、ナノ秩序構造形成
<b>三浦孝一 教授</b>
化学工学専攻 反応工学、石炭転換工学、炭素材料
<b>田門 肇 教授</b>
化学工学専攻 分離工学、吸着工学、乾燥工学
<b>増田弘昭 教授</b>
化学工学専攻 微粒子工学、粉体工学、エアロソル工学
<b>大嶋正裕 教授</b>
化学工学専攻 材料プロセス工学、高分子成形加工、プロセス制御
<b>長谷部伸治 教授</b>
化学工学専攻 化学プロセスの最適合成・設計・操作、生産管理
<b>前 一廣 教授</b>
化学工学専攻 環境プロセス工学、マイクロリアクター開発、バイオマス転換工学
<b>谷垣昌敬 教授</b>
化学工学専攻・協力講座 膜分離操作、他分野との融合化学工学
<b>山本量一 助教授</b>
化学工学専攻 複雑流体・ソフトマターの流動現象に関する基礎研究、計算機シミュレーションを用いた物性研究
<b>河瀬元明 助教授</b>
化学工学専攻 反応工学、材料反応工学、反応装置
<b>向井 紳 助教授</b>
化学工学専攻 分離工学、吸着工学、材料化学工学
<b>松坂修二 助教授</b>
化学工学専攻 粉体とエアロソルの特性評価とその応用
<b>加納 学 助教授</b>
化学工学専攻 統計のプロセス・品質管理、プロセス制御、生体情報解析
<b>牧 奉輔 助教授</b>
化学工学専攻 環境プロセス工学、マイクロリアクター開発
<b>丸山敏朗 助教授</b>
化学工学専攻 輸送現象、機能性材料工学、光エネルギー変換
<b>中川浩行 講師</b>
化学工学専攻 反応工学、炭素材料工学
<b>木原伸一 講師</b>
化学工学専攻 材料プロセス工学、高分子材料科学
<b>木下正弘 助教授</b>
化学工学専攻・協力講座 生体高分子の立体構造予測、ソフトマターの理論物理化学
<b>八尾 健 教授</b>
エネルギー基礎科学専攻 結晶化学、材料電気化学、リチウム電池・燃料電池の材料開発、生命適合材料、医用セラミックスの開発、無機材料化学

**日比野光宏 助教授**  
エネルギー基礎科学専攻 無機固体化学、固体電気化学、種々の固体内におけるイオン輸送現象解明とエネルギーデバイス材料の開発

**尾形幸生 教授**  
エネルギー理工学研究所・協力講座 半導体の電気化学と表面改質および太陽光などの光エネルギー有効利用への応用

**作花哲夫 助教授**  
エネルギー理工学研究所・協力講座 物質界面層における光化学反応および分光学的研究

## 農学部

### 資源生物科学科

**今井 裕 教授**  
核移植による細胞分化・脱分化機構の解明及びミトコンドリアと個体形成との相互作用に関する研究

**内海 成 教授**  
ヒトの健康維持・増進に役立ち、加工食品の製造にも適したタンパク質を含有する作物の開発

**遠藤 隆 教授**  
コムギにおける染色体欠失系統の育成と染色体地図作製

**大西近江 教授**  
ソバ等の雑穀類の起源・分化・伝播の集団遺伝学的研究

**奥野哲郎 教授**  
植物ウイルスの増殖機構の研究

**小崎 隆 教授**  
地域・地球環境問題と土壌資源の持続的管理

**櫻谷哲夫 教授**  
熱帯の農業気象

**佐々木義之 教授**  
量的形質の統計遺伝学的・分子遺伝学的研究

**高藤晃雄 教授**  
ハダニ類および捕食性カブリダニ類の種内変異と個体群動態

**田中 克 教授**  
魚類の初期生態研究と森里海連環学研究

**谷坂隆俊 教授**  
有用遺伝子資源の開発と同定に関する育種学的研究

**中原紘之 教授**  
沿岸域生態系の保全と再生

**廣岡博之 教授**  
牛肉生産に関するシステム分析と熱帯地域への応用

**藤崎憲治 教授**  
昆虫類の生態学

**堀江 武 教授**  
作物生産過程のモデル化と予測

**矢澤 進 教授**  
蔬菜・花卉の生理・生態と発育制御

**矢野秀雄 教授**  
動物における栄養素の代謝および代謝機構に関する研究

**稲村達也 助教授**  
持続的農業システムにおける作物生産と栽培環境・技術

**今井一郎 助教授**  
有害有毒プランクトンの生理生態と防除技術の開発

**大崎直太 助教授**  
植食性昆虫の個体群生態学

**奥本 裕 助教授**  
イネの出穂期に関する遺伝子分析

**河原太八 助教授**  
コムギ等の栽培植物の起源と近縁野生種の進化に関する研究

**形部正博 助教授**  
ハダニ類の個体群構造と種間相互作用について

**左子芳彦 教授**  
海洋熱水環境に生息する超好熱菌の探索と遺伝子資源の研究開発

**田川正朋 助教授**  
魚類初期生活史の内分泌学的研究

**豊原治彦 助教授**  
海洋無脊椎動物の生理・生態機能に関する研究

**縄田栄治 助教授**  
熱帯作物の生理生態

**畑 信吾 助教授**  
マメ科植物の共生窒素固形根粒形成機構

**林 孝洋 助教授**  
画像解析による植物生態情報の解析

**平田 孝 教授**  
海洋生物生産物の品質および生活活性物質の利用に関する研究

**藤原建紀 教授**  
沿岸の海洋環境ならびに物質・生物輸送に関する研究

**二井一禎 教授**  
森林における微生物と樹木、昆虫の相互関係に関する研究

**舟川晋也 助教授**  
熱帯および半乾燥地土壌の形態と養分維持機構に関する研究

**松井 徹 助教授**  
消化管内ミネラルの化学形態とその利用率

**松村康生 教授**  
食品およびその加工素材の品質評価制御

**眞鍋 昇 助教授**  
哺乳類卵巣内で強靭な卵子のみを選抜する分子機構の解明、外因性内分泌攪乱物質のリアルタイム評価法の創出、細胞外マトリックス代謝系の解明と人為支配法開発

**三上文三 助教授**  
食品タンパク質・食品関連酵素の X線結晶構造解析及び新機能設計

**三瀬和之 助教授**  
植物ウイルスの感染・増殖機構の研究

**宮下直彦 助教授**  
イネ属植物及びシロイヌナズナとハタザオ属植物の分子集団遺伝子学研究

**山末祐二 教授**  
耕地生態系における物質循環に関する研究

**山田宜永 助教授**  
量的形質原因遺伝子の同定に関する研究

**山田雅保 助教授**  
哺乳動物胚の発生と分化

**米森敬三 教授**  
果実生長の制御要因解析と果樹の系統分類

**石田定顕 講師**  
熱帯・乾燥地帯の家畜栄養生理と飼養技術

**白岩立彦 助教授**  
イネの窒素利用効率及びダイズの生産力制限要因の解析

**田尾龍太郎 助教授**  
果樹類の形質転換及び受粉開花生理

**佐久間正幸 教授**  
昆虫の感覚と空間定位行動の生理学的研究

**笠井亮秀 助教授**  
海洋環境と生態系に関する研究

**菅原達也 助教授**  
海洋生物の機能性脂質に関する研究

**田中千尋 助教授**  
糸状菌類の生理・生態遺伝学的研究

**林由佳子 助教授**  
口腔内での味の受容メカニズムの解明とその応用

**久米新一 教授**  
動物の環境生理に関する研究

**富永 達 教授**  
雑草の生活史特性に関する生態・遺伝学的研究

**山下 洋 教授**  
フィールド科学教育センター 沿岸域における水産重要魚類の生態、特に、成育場環境と仔稚魚の成長、生き残りとの関係。

**山田利昭 教授**  
附属農場 イネ、ムギ類、ダイズ等主要な農作物についての遺伝・育種学的研究

**北川政幸 助教授**  
附属牧場 環境調和型肉用牛飼養に関する研究

**北島 宣 助教授**  
附属農場 果樹類の染色体解析と種分化に関する研究

**益田玲爾 助教授**  
フィールド科学教育センター 海産魚類の行動の発達、魚類心理学

## 応用生命科学科

**清水 昌 教授**  
微生物の新機能探索・開発と物質生産への応用

**關谷次郎 教授**  
植物のイオウの栄養生理生化学

**喜多恵子 教授**  
微生物の有用酵素に関する構造・機能相関の解析と分子進化

**相原茂夫 助教授**  
微小重力環境下でのタンパク質の結晶化と酵素反応の構造と機能に関する研究

**井上善晴 助教授**  
生物の環境ストレス応答機構に関する分子細胞生物学的研究

**植田和光 教授**  
膜タンパク質（トランスポーター、チャネル、レセプター）の分子および生理機能解析

**角谷忠昭 助教授**  
生体膜イオン輸送系の機能と生理の物理化学

**片岡道彦 助教授**  
微生物による有用物質生産に関する研究

**加納健司 教授**  
生体関連物質の電子移動

**阪井康能 助教授**  
微生物の細胞機能を利用した制御発酵学

**西田律夫 教授**  
昆虫生理活性物質の化学生態学的研究

**間藤 徹 助教授**  
高等植物における無機元素の生理作用に関する研究

**宮川 恒 教授**  
植物および菌類の二次代謝に関する化学

**三芳秀人 助教授**  
呼吸鎖電子伝達酵素阻害剤のデザイン合成と作用機構研究

**中川好秋 助教授**  
昆虫成育制御剤の構造活性相関と作用機構研究

**西岡孝明 教授**  
新しい生物機能開発を目的とした応用バイオインフォマティクス研究

**植田充美 教授**  
ゲノム情報の解析による細胞分子生物学とその応用

**木岡紀幸 助教授**  
動物細胞の運動、形態の制御に関する研究

**森 直樹 助教授**  
植物と咀嚼性昆虫における防御と適応の有機化学

## 地域環境工学科

**青山咸康 教授**  
水利構造物の設計理論と耐震性能について

**梅田幹雄 教授**  
フィールド及び昆虫ロボットと精密農業

**笈田 昭 教授**  
農作業・農業経営の最適化をめざすシステム工学的研究、マイクロ波送電による農業機械の電動化

**河地利彦 教授**  
水資源の開発・管理・保全と水環境のモデル化に関する理論と応用

**三野 徹 教授**  
陸上の水循環と灌漑排水に関する理論と応用

**赤松美紀 助教授**  
医薬・農業の化学構造と生理活性、農業と環境

**飯田訓久 助教授**  
農業におけるロボティクスおよびメカトロニクス

**牛野 正 助教授**  
住民主体による地区総合計画づくりに関する研究

**加藤宏郎 助教授**  
農産物の物性と品質計測・評価に関する研究

# 入学者選抜要項・学生募集要項の請求方法

## 入学者選抜要項の請求方法

入学者選抜に関する概要を記載した選抜要項は、7月下旬（予定）から配付します。

郵送を希望する場合は、受信者の住所・氏名・郵便番号を明記して、200円分の切手を貼付した返信用封筒（角形2号 332mm×240mm）を同封し、志望する学部の教務掛あてに、「選抜要項請求」と朱書して申し込んでください。

## 学生募集要項の請求方法

本学の学生募集要項等の請求方法には、以下の3つの方法があります。

### ①大学へ請求する方法（12月中旬から請求可能）

#### ◎学生募集要項のみ請求する場合

受信者の住所・氏名・郵便番号を明記して、240円分の切手を貼付した返信用封筒（角形2号 332mm×240mm）を同封し、志望する学部の教務掛あてに、「学生募集要項請求」と朱書して申し込んでください。

◎総合人間学部、工学部、農学部を志望する者で学生募集要項及び学部案内を請求する場合

受信者の住所・氏名・郵便番号を明記して、390円分の切手を貼付した返信用封筒（角形2号 332mm×240mm）を同封し、志望する学部の教務掛あてに、「学生募集要項・総合人間学部案内請求」、「学生募集要項・工学部案内請求」又は「学生募集要項・農学部案内請求」と朱書して申し込んでください。

### ②郵便局から請求する方法（10月から請求可能：12月中旬から送付）

郵便局や高等学校等に10月から設置されます「請求申込書」（大学願書ゆうパックカタログ）に必要事項を記入し、最寄りの郵便局に学生募集要項のみ請求する場合は送料240円と手数料70円を添えて申し込んでください。

### ③テレメールで請求する方法（9月から請求可能：12月中旬から送付）

#### ◎テレメール（電話）

次の最寄りの地区より、下記表の6桁の資料番号をダイヤルし、音声ガイダンスに

従って操作してください。

東京 (03) 3222-0102

大阪 (06) 6222-0102

IP電話（東京、大阪以外の方用）

050-2011-0102

#### ◎テレメール（インターネット）

<http://telemail.jp>

（携帯電話からもアクセスできます）

上記サイトから請求してください。

資料名	資料番号	送料
学生募集要項	584603	240円

#### QRコード

※対応する携帯電話で読み取れます。



送料は、お届けした資料に同封されている支払方法に従いお支払いください。なお、手数料として70円が必要となります。

郵便局・テレメールでの請求についての問い合わせ先：全国学校案内資料管理事務センター大阪 (06) 6231-5992

## 入学者選抜要項・学生募集要項の請求先

学 部	担 当 掛	電 話 番 号	所 在 地	URL
総合人間学部	教 務 掛	075-753-6507	〒 606-8501 京都市左京区吉田二本松町	<a href="http://www.h.kyoto-u.ac.jp/soujin/index.html">http://www.h.kyoto-u.ac.jp/soujin/index.html</a>
文 学 部	第一教務掛	075-753-2709	〒 606-8501 京都市左京区吉田本町	<a href="http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/index-j.html">http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/index-j.html</a>
教 育 学 部	教 務 掛	075-753-3010		<a href="http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/">http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/</a>
法 学 部	第一教務掛	075-753-3107		<a href="http://kyodai.jp/l-index.htm">http://kyodai.jp/l-index.htm</a>
経 済 学 部	教 務 掛	075-753-3406		<a href="http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/">http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/</a>
理 学 部	第二教務掛	075-753-3637		〒 606-8502 京都市左京区北白川追分町
医学部	医 学 科	教 務 掛	〒 606-8501 京都市左京区吉田近衛町	<a href="http://www.med.kyoto-u.ac.jp/J/">http://www.med.kyoto-u.ac.jp/J/</a>
	保 健 学 科	教 務 掛	〒 606-8507 京都市左京区聖護院川原町 53	<a href="http://www.hs.med.kyoto-u.ac.jp/">http://www.hs.med.kyoto-u.ac.jp/</a>
薬 学 部	教 務 掛	075-753-4514	〒 606-8501 京都市左京区吉田下阿達町	<a href="http://www.pharm.kyoto-u.ac.jp/index.html">http://www.pharm.kyoto-u.ac.jp/index.html</a>
工 学 部	教 務 掛	075-753-5039	〒 606-8501 京都市左京区吉田本町	<a href="http://www-s.kogaku.kyoto-u.ac.jp/">http://www-s.kogaku.kyoto-u.ac.jp/</a>
農 学 部	第一教務掛	075-753-6012	〒 606-8502 京都市左京区北白川追分町	<a href="http://www.kais.kyoto-u.ac.jp/j/modules/tinycontent0/">http://www.kais.kyoto-u.ac.jp/j/modules/tinycontent0/</a>

## 入学試験・入学後の就学に関する問い合わせ先

担 当 部 課	電 話 番 号	所 在 地	URL
学生部入試課入学試験掛	075-753-2523	〒 606-8501 京都市左京区吉田本町	<a href="http://www.kais.kyoto-u.ac.jp/">http://www.kais.kyoto-u.ac.jp/</a>

# 多様な入学制度／京都大学オープンキャンパス

京都大学では、一般選抜のほか、以下のような特別選抜を実施しています。

ています。

詳しくは、当該学部の教務掛にお問い合わせください。

## 外国学校出身者の入学について

法学部、経済学部で実施しています。

詳しくは、当該学部の教務掛にお問い合わせください。

## 第3年次編入学試験について

教育学部、法学部、経済学部、医学部保健学科（今年度から実施）、工学部（高等専門学校卒業（見込）者対象）で実施し

## 学士入学試験について

1. 大学を卒業した者及び卒業見込の者が対象の学部：文学部で実施しています。
2. 京都大学を卒業した者及び卒業見込の者が対象の学部：総合人間学部、経済学部、理学部、工学部で実施しています。

詳しくは、当該学部の教務掛にお問い合わせください。

## 京都大学オープンキャンパス

本学では、京都大学受験を志望する方に京都大学を直接知ってもらうための広報活動として、平成14（2002）年度から年に一度、夏休みを利用して2日間の日程で「京都大学オープンキャンパス」を実施しています。

このオープンキャンパスは、本学各学部の教育研究の紹介・模擬授業体験・施設見学や入試・学生生活・留学などの各種相談等を通して、本学の教員・在学生・事務職員と直接交流していただくことにより、受験生の皆さんに本学を実感していただく場となっています。

近畿を中心に全国から参加があり、平成16（2004）年度には約7,000名の受験生・保護者・学校関係者等の参加を得ました。多くの参加者から「有意義であった」と好評をいただいています。

（問い合わせ先：学生部入試課企画調査掛  
Tel.075-753-2523）

### 参考：平成17年度外国学校出身者のための選考の実施結果

学 部	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
法 学 部	20名以内	32	5	5
経済学部	10名以内	33	9	9

### 参考：平成17年度3年次編入学試験の実施結果

学 部	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
教育学部	10名	35	10	10
法 学 部	10名	134	8	7
経済学部	20名以内	65	12	12
工 学 部	10名程度	63	19	18



〔写真：上2点〕京都大学オープンキャンパスの様子

〔写真：左〕法学部の講義風景



# [資料] 入学者選抜実施状況について

平成 17 年度 入学者選抜実施状況 (単位：人)

学 部	日 程	募集人員	志願者数	第 1 段階選抜 合格者数	受験者数	合格者数	入学辞退者数	追加合格者数	入学者数
総合人間学部	前期文系	55	209	203	203	55			122
	前期理系	50	153	151	148	50			
	後 期	15	248	240	154	17			
文 学 部	前 期	190	562	562	555	193	1		224
	後 期	30	449	303	145	32			
教 育 学 部	前 期	40	150	150	144	43			64
	後 期	20	211	150	82	21			
法 学 部	前 期	300	922	922	909	304	1		328
	後 期	10	363	287	102	25			
経 済 学 部	前期一般	160	525	524	515	161	3		238
	前期論文	50	251	250	243	50			
	後 期	20	792	587	344	30			
理 学 部	前 期	280	833	811	792	280	1	1	311
	後 期	31	889	875	548	31			
医 学 部	前 期	213	605	559	549	219	12	1	247
	後 期	30	365	307	171	39			
薬 学 部	前 期	70	222	222	210	74			85
	後 期	10	151	151	98	11			
工 学 部	前 期	857	2,166	2,166	2,133	861	2		958
	後 期	98	923	828	377	99			
農 学 部	前 期	233	590	590	579	244	4		315
	後 期	67	703	703	452	75			
小 計	前 期	2,498	7,188	7,110	6,980	2,534			
	後 期	331	5,094	4,431	2,473	380			
合 計		2,829	12,282	11,541	9,453	2,914	24	2	2,892

工学部・農学部学科別内訳 (単位：人)

学 部 (学 科)	日 程	募集人員	志願者数	第 1 段階選抜 合格者数	受験者数	合格者数	入 学 辞退者数	追 加 合格者数	入学者数
工 学 部	前期	857	2,166	2,166	2,133	861	2		958
	後期	98	923	828	377	99			
地 球 工 学 科	前期	166	353	353	350	166			185
	後期	19	225	225	97	19			
建 築 学 科	前期	72	243	243	240	73			81
	後期	8	120	80	36	8			
物 理 工 学 科	前期	211	539	539	526	211	1		234
	後期	24	195	192	81	24			
電 気 電 子 工 学 科	前期	117	338	338	331	119			132
	後期	13	98	91	53	13			
情 報 学 科	前期	81	155	155	153	81			90
	後期	9	102	90	51	9			
工 業 化 学 科	前期	210	538	538	533	211	1		236
	後期	25	183	150	59	26			
農 学 部	前期	233	590	590	579	244	4		315
	後期	67	703	703	452	75			
資 源 生 物 科 学 科	前期	75				76			96
	後期	19	168	168	103	20			
応 用 生 命 科 学 科	前期	38				41			51
	後期	9	114	114	69	10			
地 域 環 境 工 学 科	前期	26				28	2		40
	後期	11	108	108	66	14			
食 料 ・ 環 境 経 済 学 科	前期	23				25	1		34
	後期	9	110	110	83	10			
森 林 科 学 科	前期	45				47			60
	後期	12	159	159	108	13			
食 品 生 物 科 学 科	前期	26				27	1		34
	後期	7	44	44	23	8			



医学部学科・専攻別内訳（単位：人）

学部 (学科・専攻)	日程	募集人員	志願者数	第1段階選抜 合格者数	受験者数	合格者数	入学 辞退者数	追 加 合格者数	入学者数
医 学 部	前 期	213	605	559	549	219	12	1	247
	後 期	30	365	307	171	39			
医 学 科	前 期	90	324	279	274	91			102
	後 期	10	162	104	64	11			
保 健 学 科	前 期	123	281	280	275	128	12	1	145
	後 期	20	203	203	107	28			
看 護 学 専 攻	前 期	63	110	110	108	67	11		70
	後 期	7	73	73	35	14			
検 査 技 術 科 学 専 攻	前 期	30	74	73	70	31			39
	後 期	7	72	72	37	8			
理 学 療 法 学 専 攻	前 期	15	56	56	56	15			18
	後 期	3	31	31	20	3			
作 業 療 法 学 専 攻	前 期	15	41	41	41	15	1	1	18
	後 期	3	27	27	15	3			

外国学校出身者のための選考の実施結果（外数）（単位：人）

学 部	募集人員	志願者数	第1次選考 合格者数	受験者数	合格者数	入学者数
法 学 部	20名以内	32	20	16	5	5
経 済 学 部	10名以内	33	21	17	9	9

※外国学校出身者のための選考については、下記の各学部教務掛にお尋ねください。  
 法学部第一教務掛 (Tel.075-753-3107) 経済学部教務掛 (Tel.075-753-3406)

平成17年度 出身高校等所在地別 志願者・入学者数（単位：人）

出身高校等所在地		志願者	入学者
北海道		193	39
東北地区	青森県	35	6
	岩手県	20	2
	宮城県	58	12
	秋田県	30	3
	山形県	22	6
	福島県	60	6
	計	225	35
関東地区	茨城県	127	24
	栃木県	47	7
	群馬県	83	19
	埼玉県	153	16
	千葉県	250	27
	東京都	811	118
	神奈川県	293	35
計	1,764	246	
中部地区	新潟県	49	8
	富山県	75	16
	石川県	92	23
	福井県	118	33
	山梨県	27	6
	長野県	155	39
	岐阜県	195	40
	静岡県	254	64
	愛知県	680	167
計	1,645	396	

出身高校等所在地		志願者	入学者
近畿地区	三重県	189	50
	滋賀県	297	80
	京都府	1,318	312
	大阪府	2,005	505
	兵庫県	1,379	388
	奈良県	956	270
	和歌山県	207	53
	計	6,351	1,658
中国地区	鳥取県	54	9
	島根県	48	19
	岡山県	215	57
	広島県	311	75
	山口県	101	26
	計	729	186
四国地区	徳島県	65	19
	香川県	189	39
	愛媛県	128	51
	高知県	58	13
計	440	122	
九州地区	福岡県	355	101
	佐賀県	70	18
	長崎県	48	13
	熊本県	95	17
	大分県	24	9
	宮崎県	37	9
	鹿児島県	122	22
	沖縄県	41	9
	計	792	198
その他（大学検定等）		143	12

# 吉田キャンパス



## 吉田キャンパスへの交通

主要鉄道駅	利用交通機関等	乗車バス停	市バス系統	市バス経路	本学までの所要時間※	下車バス停
京都駅 (JR / 近鉄)	市バス	京都駅前	206 系統	「東山通 北大路バスターミナル」行	約 35 分	「京大正門前」又は「百万遍」, 医・薬は「近衛通」
			17 系統	「河原町通 錦林車庫」行	約 35 分	「百万遍」, 理・農は「京大農学部前」, 薬は「荒神口」
河原町駅 (阪急)	市バス	四条河原町	201 系統	「祇園・百万遍」行	約 25 分	「京大正門前」又は「百万遍」, 医・薬は「近衛通」
			31 系統	「熊野・岩倉」行	約 25 分	
			17 系統	「河原町通 錦林車庫」行	約 25 分	
今出川駅 (地下鉄烏丸線)	市バス	烏丸今出川	3 系統	「百万遍 北白川仕伏町」行	約 25 分	「百万遍」, 薬は「荒神口」
			203 系統	「銀閣寺道・錦林車庫」行	約 15 分	「百万遍」, 理・農は「京大農学部前」
東山駅 (地下鉄東西線)	市バス	東山三条	201 系統	「高野 千本北大路」行	約 15 分	「京大正門前」又は「百万遍」, 医・薬は「近衛通」
			206 系統	「百万遍・千本今出川」行	約 20 分	
			31 系統	「修学院・岩倉」行	約 20 分	
出町柳駅 (京阪)	徒歩	(東へ)			約 20 分	文・教育・法・経済・工は, 当駅から徒歩約 15 分, 総人・理・農は徒歩約 20 分
	市バス	出町柳駅前	201 系統	「祇園・みぶ」行	約 10 分	「百万遍」又は「京大正門前」, 医・薬は「近衛通」
丸太町駅 (京阪)	徒歩	(東へ)	17 系統	「錦林車庫」行	約 10 分	「百万遍」, 理・農は「京大農学部前」
					約 10 分	医・薬は, 当駅から徒歩約 10 分

※本学までの所要時間はあくまでも目安であり、交通事情等により超えることがあります。

# 宇治キャンパス



## 宇治地区研究所本館

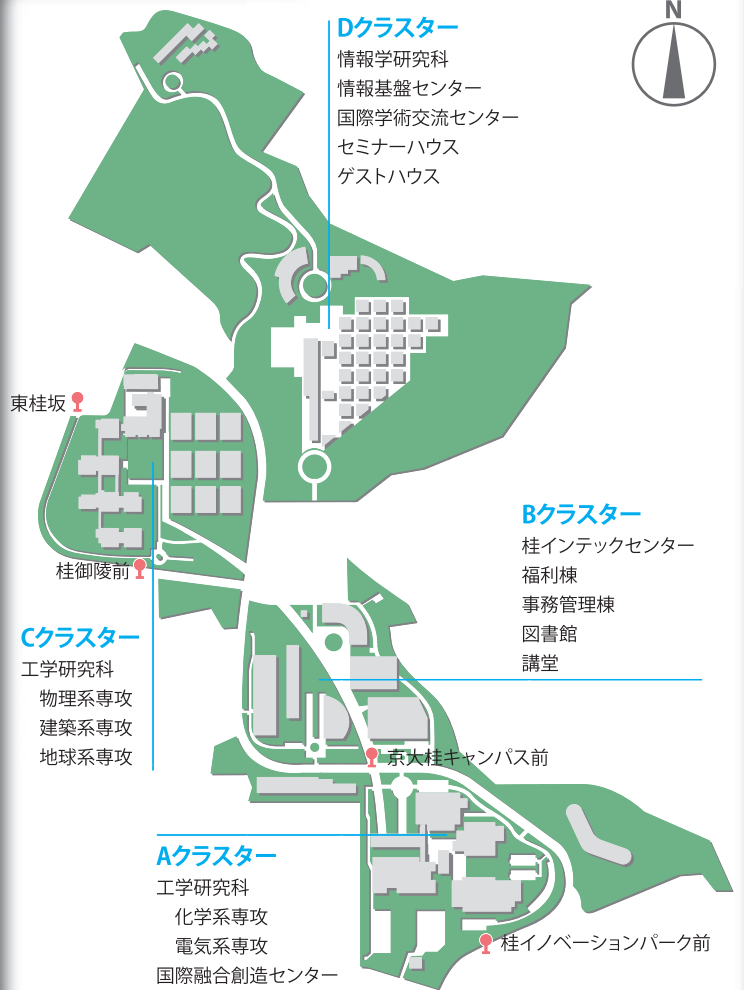
- 化学研究所
- エネルギー理工学研究所
- 生存圏研究所
- 防災研究所
- 農学部, 農学研究科

### 宇治キャンパスへの交通

主要鉄道駅	駅からのアクセス
黄檗駅 (JR/京阪)	当駅下車西へ徒歩約 10 分

# 桂キャンパス

\*一部計画中の施設を含む



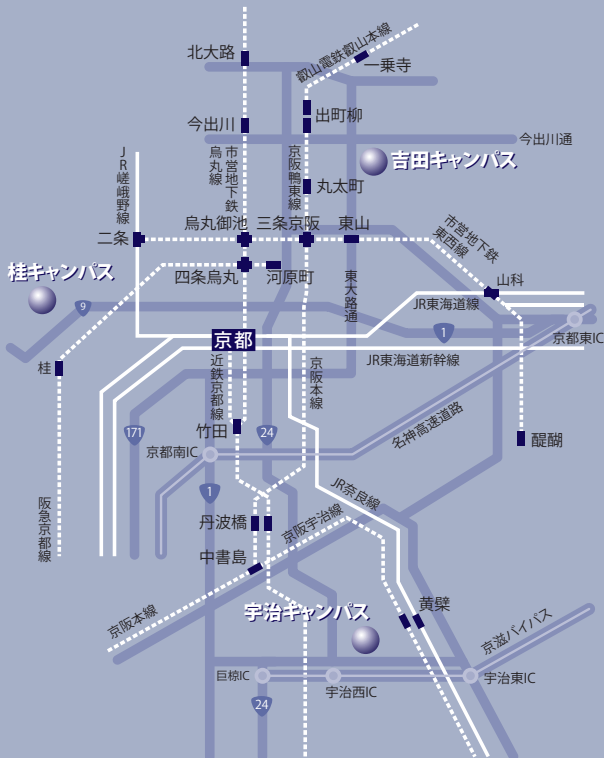
### 桂キャンパスへの交通

主要鉄道駅	乗車バス停	乗車バス系統	経路	下車バス停
桂駅 (阪急)	桂駅西口	市バス 西6系統	「桂坂中央」行	「京大桂キャンパス前」 (所要時間約 17分)
		京都交通	「桂坂中央」行	

※本学までの所要時間はあくまでも目安であり、交通事情等により超えることがあります。

# Campus Map

## 京都大学キャンパス配置図





発行 平成 17 年 7 月

京都大学 学生部入試課

〒 606-8501 京都市左京区吉田本町

TEL. 075-753-2523 (企画調査掛)

<http://www.kyoto-u.ac.jp/>